Syllabus2022

シラバス（教授要目）

北陸学院大学短期大学部

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

2022年度学事暦（短大）

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

3月18日（金）～25日（金）	前期履修登録期間（2年）
3月31日（木）～4月4日（月）	前期履修登録期間（1年）
3月31日（木）～4月6日（水）	オリエンテーション期間
4月2日（土）	入学式（午前）
4月7日（木）	前期授業開始
4月13日（水）～4月15日（金）	前期履修登録変更期間
4月23日（土）	Enjoy!ミッション

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8 金	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月20日（金）～5月21日（土）	フレッシュマン・セミナー（1年）
5月20日（金）	2年休講
6月13日（月）～17日（金）	特別伝道礼拝週間（1年）
7月29日（金）	前期授業終了
7月30日（土）～8月5日（金）	前期試験期間
8月6日（土）～9月17日（土）	夏期休業期間（補講・集中講義・学外実習）

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20 木	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月9日（金）	北陸学院創立記念日
9月2日（金）～9月9日（金）	後期履修登録期間
9月19日（月）	後期授業開始・通常講義日
9月23日（金）	通常講義日
9月28日（水）～30日（金）	後期履修登録変更期間
10月3日（月）～7日（金）	特別伝道礼拝週間（2年）

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

10月20日（木）	大学祭準備（休講）
10月21日（金）～22日（土）	大学祭（栄光祭）
11月8日（火）	金曜代替講義日
11月11日（金）～12日（土）	バイブル・セミナー（2年生）
11月11日（金）	1年休講

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

11月30日（水）	クリスマスツリー点灯式（5時限振替）
12月20日（火）	木曜代替講義日
12月22日（木）	クリスマス礼拝
12月23日（金）	全学休講予備日
12月24日（土）～1月5日（木）	冬期休業期間
1月26日（木）	後期授業終了
1月30日（月）～2月3日（金）	後期試験期間

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月14日（土）	全学休講予備日
1月21日（土）	全学休講予備日
3月3日（金）	卒業者発表
3月13日（月）	卒業感謝礼拝
3月14日（火）	卒業証書・学位記授与式

授業　補講　曜日振替
試験　全学休講予備日

食物栄養学科　科目見取表
1・2年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践															
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた命（Mission）を見出し、実現しようとする力が身につけている。	②ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。	③学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。	④口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。	⑤地域住民の健康増進や食文化の継承・発展に関わることができる。	⑥培った専門性を食育推進活動や産業の振興等に活かし、地域社会の発展に貢献できる。
1	HG100C	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習	○	○	○				○	○										○		○			○	○	○			
2	HG200C	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習	○	○	○				○	○										○		○			○	○	○			
3	HG110C	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○			
4	HG120C	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○			
5	GE100C	総合教養AⅠ	1	2	必選	講義																		○		○					○			
6	GE110C	総合教養AⅡ	1	2	必選	講義																		○		○					○			
7	GE120C	総合教養BⅠ	1	2	必選	講義			○													○		○		○					○			
8	GE130C	総合教養BⅡ	1	2	必選	講義			○													○		○		○					○			
9	GE140C	総合教養CⅠ	1	2	必選	講義																		○							○			
10	GE150C	総合教養CⅡ	1	2	必選	講義																		○							○			
11	GE160C	総合教養DⅠ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○						○		○	○	○					○	○		
12	GE170C	総合教養DⅡ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○						○		○	○	○					○	○		
13	LJ090C	◆日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○								
14	LJ110C	日本語表現法Ⅰ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○						○		
15	LJ120C	日本語表現法Ⅱ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○	○					○		○	○	○						○		
16	LE090C	◆英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○						
17	LE135C	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
18	LE140C	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
19	LE125C	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
20	LE130C	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
21	LE115C	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
22	LE120C	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
23	LE105C	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
24	LE110C	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○		
25	LE165C	アクティブ・イングリッシュA	1	1	選択	集中				○		○	○			○								○	○	○		○				○		
26	LE175C	アクティブ・イングリッシュC	1	3	選択	集中				○						○				○				○	○	○		○				○		
28-29	PE100C	生涯スポーツA	1	1	必修	実技																				○		○					○	
32-34	PE110C	生涯スポーツB	1	1	選択	実技																				○		○					○	
35	HC100C	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○											○		○					○	○		
37	HC110C	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習			○	○			○	○		○			○			○		○		○					○			
39	HC160C	情報機器演習A	1	1	必修	演習			○		○					○							○	○		○		○				○		
41	HC170C	情報機器演習B	1	1	選択	演習			○		○					○			○					○	○	○		○				○		
43	FB110C	学びの基礎	1	1	必修	演習		○			○	○	○											○		○		○				○		
44	FB120C	キャリア実践演習	1	1	必修	演習					○			○	○			○				○		○		○						○		
45	FB200C	人間の探究Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○			○	○				
46	FB210C	人間の探究Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○			○	○				
47	FB130C	栄養士への道A	1	1	必修	演習																		○		○				○	○	○	○	○
48	FB140C	栄養士への道B	1	1	必修	演習																		○		○				○	○	○	○	○
49	FB220C	栄養士への道C	2	1	必修	演習																		○		○				○	○	○	○	○
50	FB230C	栄養士への道D	2	1	必修	演習																		○		○				○	○	○	○	○
51	FB090C	◆科学の基礎	1	2	自由	講義															○					○								
52	FB095C	◆栄養士のための計算入門	1	1	自由	演習		○	○						○								○			○								
53	FH100C	公衆衛生学	1	2	必修	講義			○	○											○					○								○
54	FH200C	社会福祉概論	2	2	必修	講義		○	○	○											○					○								○
55	FP100C	人体構造学	1	2	必修	講義															○	○		○										○
56	FP200C	生理学（含運動生理学）	2	2	必修	講義		○													○			○							○			○
57	FP110C	栄養生化学	1	2	必修	講義		○													○			○										○
58	FP210C	病気のしくみ	2	2	選択	講義								○							○	○		○										○
59	FP220C	生理学実習	2	1	必修	実習		○													○			○							○			○
60	FP230C	栄養生化学実験	2	1	必修	実験						○				○					○			○		○								○
61	FP120C	食品学Ⅰ	1	2	必修	講義										○					○		○			○								○
62	FP240C	食品学Ⅱ	2	2	必修	講義										○					○		○			○								○
63	FP250C	食品衛生学	2	2	必修	講義															○							○			○			○
64	FP260C	食品学実験	2	1	必修	実験						○				○					○			○		○								○
65	FP270C	食品衛生学実験	2	1	必修	実験		○													○			○							○			○
66	FD100C	基礎栄養学	1	2	必修	講義															○					○								○
67	FD200C	応用栄養学	2	2	必修	講義		○													○					○								○
68	FD210C	臨床栄養学Ⅰ	2	2	必修	講義															○			○		○								○
69	FD220C	臨床栄養学Ⅱ	2	2	選択	講義						○									○			○		○								○
70	FD230C	応用栄養学実習	2	1	必修	実習		○	○				○											○		○								○
71	FD240C	臨床栄養学実習	2	1	必修	実習							○											○		○								○
72	FG100C	栄養指導論Ⅰ	1	2	必修	講義		○																○		○								○
73	FG200C	栄養指導論Ⅱ	1	2	必修	講義		○																○		○								○

食物栄養学科　科目見取表
1・2年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの									ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身について	②ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。	③学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。	④口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。	⑤地域住民の健康増進や食文化の継承・発展に関わることができる。	⑥培った専門性を食育推進活動や産業の振興等に活かし、地域社会の発展に貢献できる。
74	FG210C	公衆栄養学	2	2	必修	講義		○	○	○											○			○		○									○
75	FG220C	栄養指導論実習	1	1	必修	実習		○	○				○			○								○		○									○
76	FC200C	給食実務論(含計画)	2	2	必修	講義		○		○	○										○			○		○									○
77	FC100C	調理学	1	2	必修	講義															○					○									○
78	FC110C	調理学実習A	1	1	必修	実習			○				○											○		○									○
79	FC120C	調理学実習B	1	1	必修	実習			○				○										○	○		○									○
80	FC130C	調理学実習C	1	1	選択	実習			○				○											○		○									○
81	FC140C	調理学実習D	1	1	選択	実習			○				○										○	○		○									○
82	FC160C	給食管理実習Ⅰ	1	1	選択	実習			○		○		○								○			○		○									○
83	FC210C	給食管理実習Ⅱ	2	1	選択	実習			○		○		○			○					○			○		○									○
84-85	FC150C	食事計画実習	1	1	選択	実習						○	○	○		○								○							○	○			○
86	FC220C	校外実習	2	1	選択	実習			○	○			○							○				○	○	○				○	○	○			○
87	FS200C	食品の消費と流通	2	2	選択	講義															○			○											○
88	FS210C	フードコーディネート論	2	2	選択	講義			○		○					○					○			○	○	○									○
89	FS100C	フードスペシャリスト論	1	2	選択	講義															○					○									○
90-91	FS220C	官能評価・鑑別論	2	2	選択	演習		○																○		○									○
92	FT150C	日本国憲法	2	2	選択	講義				○											○					○					○				
93	FT200C	学校栄養教育論	2	2	選択	講義					○					○								○	○	○									○
94	FT111C	教育原理	2	1	選択	講義		○						○								○		○		○									○
95	FT100C	教育者論	1	2	選択	講義		○	○				○	○										○		○									○
96	FT121C	発達心理学	1	1	選択	講義			○		○	○	○	○										○		○		○							○
97	FT160C	特別支援教育	2	1	選択	講義			○		○	○	○	○										○		○		○							○
98	FT141C	道徳・特別活動論（教育課程を含む）	1	1	選択	講義		○					○	○										○		○									○
99	FT131C	教育方法論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	1	1	選択	講義		○	○				○	○										○		○	○								○
100	FT211C	教育相談（生徒指導法を含む）	2	1	選択	講義			○		○	○	○	○										○		○		○							○
101-102	FT230C	栄養教育実習指導	2	1	選択	実習		○	○				○	○		○								○	○	○									○
103	FT240C	栄養教育実習	2	1	選択	実習	○	○	○										○					○	○	○									○
104	FT250C	教職実践演習（栄養教諭）	2	2	選択	演習		○	○				○	○		○			○					○	○	○									○

コミュニティ文化学科　科目見取表
1・2年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。	③学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。	④口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。	⑤地域社会で求められる知識と実践力が身についている。	⑥専門的知識を活かし、地域社会に意欲的に関わることができる。
1	HG100C	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習	○	○	○				○	○										○		○			○	○	○			
2	HG200C	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習	○	○	○				○	○										○		○				○	○			
3	HG110C	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○			
4	HG120C	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○			
5	GE100C	総合教養AⅠ	1	2	必選	講義																		○		○					○		○	
6	GE110C	総合教養AⅡ	1	2	必選	講義																		○		○					○		○	
7	GE120C	総合教養BⅠ	1	2	必選	講義			○															○		○		○			○		○	
8	GE130C	総合教養BⅡ	1	2	必選	講義			○															○		○		○			○		○	
9	GE140C	総合教養CⅠ	1	2	必選	講義																		○							○		○	
10	GE150C	総合教養CⅡ	1	2	必選	講義																		○							○		○	
11	GE160C	総合教養DⅠ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○						○		○	○	○				○	○	○	○	
12	GE170C	総合教養DⅡ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○						○		○	○	○				○	○	○	○	
13	LJ090C	◆日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○								
14	LJ110C	日本語表現法Ⅰ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○						○	○	
15	LJ120C	日本語表現法Ⅱ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○	○					○		○	○	○						○	○	
16	LE090C	◆英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○						
17	LE135C	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
18	LE140C	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
19	LE125C	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
20	LE130C	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
21	LE115C	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
22	LE120C	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
23	LE105C	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
24	LE110C	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○				○	○	
25	LE165C	アクティブ・イングリッシュA	1	1	選択	集中				○		○	○			○								○	○	○		○				○	○	
27	LE175C	アクティブ・イングリッシュC	1	3	必選	集中				○						○				○				○	○	○		○				○		○
30-31	PE100C	生涯スポーツA	1	1	必修	実技																				○		○			○			
32-34	PE110C	生涯スポーツB	1	1	選択	実技																				○		○			○			
36	HC100C	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○											○		○					○	○	○	
38	HC110C	キャリアデザインⅡ	2	1	必選	演習			○					○								○				○				○	○			
40	HC160C	情報機器演習A	1	1	必修	演習		○			○	○	○		○								○	○		○							○	
42	HC170C	情報機器演習B	1	1	必修	演習		○			○	○	○		○	○								○	○	○						○	○	
105	CL200C	キリスト教と生活	2	2	必修	講義			○				○		○	○						○		○		○	○			○	○	○	○	
106	CL210C	キリスト教とホスピタリティ	2	2	必修	講義			○				○		○	○						○		○		○	○			○	○	○	○	
107	CL110C	健康論	1	1	必修	講義															○			○		○							○	
108	CL130C	青年の心理	1	2	必修	講義			○		○	○	○	○										○		○		○			○		○	
109	CL230C	社会心理学の基礎	2	2	選択	講義			○		○	○	○	○										○		○		○			○		○	
110	CL090C	◆数学基礎	1	1	自由	演習		○	○														○	○		○								
111	CS101C	スタートアップセミナー	1	1	必修	演習				○			○	○						○				○	○	○						○	○	
112	CS111C	基礎ゼミⅠ	1	1	必修	演習		○					○	○		○						○		○		○					○	○		
113	CS121C	基礎ゼミⅡ	1	1	必修	演習		○					○	○		○						○		○	○	○					○	○		
114	CS201C	専門ゼミⅠ	2	1	必修	演習				○	○		○	○		○						○		○		○					○	○		○
115	CS211C	専門ゼミⅡ	2	1	必修	演習				○	○		○	○		○						○		○	○	○					○	○		○
116	CC110C	キャリア開発セミナーA	1	1	必修	演習	○		○				○											○	○	○		○				○	○	
117	CC120C	キャリア開発セミナーB	1	1	選択	演習				○			○	○										○	○	○						○	○	
118	CC130C	キャリア教養講座A	1	1	必修	演習		○		○				○				○			○		○			○						○	○	
119	CC140C	キャリア教養講座B	1	1	選択	演習		○		○				○				○			○		○			○						○	○	
120	CC220C	ビジネス人間関係論	2	2	選択	講義		○													○					○				○			○	○

コミュニティ文化学科　科目見取表
1・2年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。	③学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。	④口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。	⑤地域社会で求められる知識と実践力が身についている。	⑥専門的知識を活かし、地域社会に意欲的に関わることができる。
121	CT100C	統計の基礎	1	2	選択	講義		○			○										○			○		○									○
122	CT200C	リサーチ入門	2	2	選択	講義				○		○	○	○		○				○		○		○	○	○					○		○		
123	CT220C	現代社会の基礎知識	2	2	選択	講義			○	○			○	○								○		○		○							○		
124	CT110C	文献講読の基礎	1	1	選択	演習								○		○							○	○	○	○					○	○			
125	CT210C	小論文作成法	2	1	選択	演習					○			○								○		○		○					○	○			○
126	CB100C	資格簿記A	1	1	選択	演習															○		○												○
127	CB105C	資格簿記B	1	1	選択	演習															○		○												○
128	CB200C	資格簿記C	2	1	選択	演習																	○												○
129	CB106C	資格接客サービスA	1	1	選択	演習			○										○		○		○	○	○	○						○			○
130	CB107C	資格接客サービスB	1	1	選択	演習			○										○		○		○	○	○	○						○			○
131	CB116C	資格コンピュータA	1	1	選択	演習																	○			○									○
132	CB117C	資格コンピュータB	1	1	選択	演習																	○			○									○
133	CB216C	Excelデータ分析	2	1	選択	演習																		○	○	○	○					○			○
134	CB211C	デザインソフト演習Ⅰ	2	1	選択	演習						○			○				○					○		○	○								○
135	CB212C	デザインソフト演習Ⅱ	2	1	選択	演習						○			○				○					○		○	○								○
136	CB217C	プレゼンテーション演習	2	1	選択	演習			○			○	○	○		○			○					○	○	○	○					○			○
137	CB111C	情報科学	1	2	選択	講義		○		○				○							○		○	○		○	○					○			○
138	CB121C	経営学入門	1	2	選択	講義															○		○			○						○	○		○
139	CB126C	財務諸表の読み方	1	2	選択	講義															○		○			○									○
140	CB221C	マーケティング論	2	2	選択	講義															○		○			○						○			○
141	CB222C	経営戦略	2	2	選択	講義															○		○			○						○	○		○
142	CB250C	医学一般	2	2	選択	講義			○		○				○						○														○
143	CB251C	医療管理学	2	2	選択	講義		○				○	○	○					○		○			○		○						○			○
144	CB252C	診療報酬実務	2	2	選択	講義		○	○	○		○									○		○	○		○									○
145	CE243C	観光英語	2	2	選択	講義	○	○			○								○	○		○		○	○	○		○			○	○	○	○	○
146	CE232C	接遇英語	2	1	選択	演習		○			○	○	○			○			○			○		○	○	○		○		○		○	○	○	○
147	CE141C	観光学入門	1	2	選択	講義		○			○		○	○		○					○		○	○		○					○		○	○	○
148	CE131C	ブライダルサービス論	1	2	選択	講義	○				○											○	○	○		○				○	○	○			○
149	CE231C	ホテルサービス論	2	2	選択	講義		○	○		○											○		○		○				○	○	○	○		
150	CE241C	地域と観光（概論）	2	2	選択	講義					○		○	○		○						○		○	○	○					○	○	○		○
151	CE242C	地域と観光（フィールドワーク）	2	2	選択	演習	○		○		○		○	○		○				○				○		○		○			○		○		○
152	CE251C	医療事務英語	2	1	選択	演習				○		○	○	○					○		○		○	○	○	○				○		○	○		○
153	CE101C	英語検定対策A	1	1	選択	演習					○	○	○								○		○	○		○							○		○
154	CE102C	英語検定対策B	1	1	選択	演習					○	○	○								○		○	○		○							○		○
155	CE211C	Academic Writing	2	1	選択	演習					○	○	○	○							○		○	○		○					○	○			○
156	CE212C	English Presentation	2	1	選択	演習		○		○		○	○	○		○								○	○	○						○			○
157	CE121C	異文化コミュニケーション論	1	2	選択	講義				○	○	○	○	○		○								○	○	○				○	○	○			○
158	CE244C	インバウンドツーリズム入門	2	2	選択	講義			○		○					○						○		○	○	○				○	○	○			○
159	CE122C	ワールドトピックス	1	2	選択	講義			○		○		○	○		○						○		○	○	○					○	○	○		
160	CE205C	英語特別クラスⅠ	1	1	選択	演習		○		○		○	○	○		○			○		○		○	○	○	○						○			○
161	CE206C	英語特別クラスⅡ	1	1	選択	演習					○	○	○	○		○						○	○	○	○	○					○	○			○
162	CE207C	英語特別クラスⅢ	2	1	選択	演習		○		○		○	○	○		○			○		○		○	○	○	○						○			○
163	CE208C	英語特別クラスⅣ	2	1	選択	演習																										○			○
164	CE111C	コミュニケーション・イングリッシュ	1	2	選択	演習		○				○		○		○			○					○	○							○			
165	CE112C	プラクティカル・イングリッシュ	1	2	選択	演習		○				○		○		○			○					○	○							○			
166	CE213C	ビジネス・イングリッシュA	2	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○						○	○		○
167	CE214C	ビジネス・イングリッシュB	2	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○						○	○		○
168	CE201C	英語（上級）Ⅰ	1	1	選択	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○				○	○		○
169	CE202C	英語（上級）Ⅱ	1	1	選択	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○				○	○		○
170	CE203C	英語（上級）Ⅲ	2	1	選択	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○				○	○		

コミュニティ文化学科　科目見取表
1・2年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践															
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。	③学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。	④口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。	⑤地域社会で求められる知識と実践力が身についている。	⑥専門的知識を活かし、地域社会に意欲的に関わることができる。
171	CE204C	英語（上級）Ⅳ	2	1	選択	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○				○	○	
172	CE221C	中国語入門Ⅰ	2	1	選択	演習		○		○		○	○						○			○	○	○	○	○						○	○	
173	CE222C	中国語入門Ⅱ	2	1	選択	演習		○		○		○	○						○			○	○	○	○	○						○	○	
174	CE225C	フランス語入門Ⅰ	2	1	選択	演習		○				○	○			○			○		○				○	○						○	○	
175	CE226C	フランス語入門Ⅱ	2	1	選択	演習		○				○	○			○			○		○				○	○						○	○	

コミュニティ文化学科　科目見取表
1・2年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践															
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。	③学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。	④口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。	⑤地域社会で求められる知識と実践力が身についている。	⑥専門的知識を活かし、地域社会に意欲的に関わることができる。
176	SL100U	図書館概論	1	2	選択	講義															○		○			○								○
177	SL220U	情報技術論	1	2	選択	講義		○													○					○								○
178	SP316U	知覚・認知心理学	2	2	選択	講義			○												○			○		○								○
179	SB100U	生涯学習概論	1	2	選択	講義			○			○	○	○		○				○		○		○	○	○								○
180	SB200U	図書館サービス概論	1	2	選択	講義															○			○		○								○
181	SB205U	情報サービス論	1	2	選択	講義															○		○			○								○
182	SB300U	児童サービス論	1	2	選択	講義	○	○	○	○											○			○		○								○
183	SB210U	情報資源組織論	1	2	選択	講義															○		○			○								○
184	SB305U	図書館制度・経営論	2	2	選択	講義	○	○	○	○											○			○		○								○
185	SB310U	情報サービス演習Ⅰ	2	1	選択	演習		○																○		○								○
186	SB315U	情報サービス演習Ⅱ	2	1	選択	演習		○								○								○	○	○								○
187	SB320U	情報資源組織演習Ⅰ	2	1	選択	演習																		○		○								○
188	SB325U	情報資源組織演習Ⅱ	2	1	選択	演習										○								○	○	○								○
189	SB330U	図書館情報資源概論	2	2	選択	講義															○					○								○
190	SB335U	図書・図書館史	2	2	選択	講義															○					○								○

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【食物栄養学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
上田　広美	・病院において管理栄養士として16年以上勤務 ・現在は専門学校において進路指導主任・管理栄養士として勤務	臨床栄養学実習	1	・病院での管理栄養士経験を生かし、調理現場での衛生管理手洗いの実践を実習に導入している。 ・糖尿病食の展開について実際の病院での献立作成に使えるよう現場での注意点を伝えるようにしている。 ・実習では実際の病院での一般食から形態調整・特別食への展開を導入している。	71
上農　肇	公立学校教員として31年勤務(特別支援教育教員として26年勤務) 教育委員会指導主事として7年勤務 スクールカウンセラーとして3年勤務	発達心理学	1	教育上の課題について、公立学校教員・スクールカウンセラーとしての経験や 担当した幼児期・児童期・青年期の事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。	96
		特別支援教育	1	教育上の課題について、特別支援教育教員としての経験や担当した指導事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して学生の学びを深めている。	97
		教育相談（生徒指導法を含む）	1	教育上の課題について、教育委員会指導主事・スクールカウンセラーとしての経験や 担当した相談事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。	100
楠本　史郎	・日本基督教団牧師経験42年勤務（教会担任教師として28年勤務・教務教師として14年勤務） ・幼稚園園長として30年勤務 ・金沢刑務所宗教教誨師として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	3
		キリスト教概論Ⅱ	1		4
茶谷　信一	・小学校教員として37年間勤務 （石川県教育センター指導主事5年、小学校教頭3年、小学校校長7年）	教育者論	2	・小学校担任・管理職の経験から事例を紹介し、教師としての在り方に関する課題や解決策についてディスカッションさせている。　・グループでの課題解決には、ケーススタディやブレーンストーミングの手法を導入している。	95
		道徳・特別活動論 （教育課程を含む）	1	・小学校担任・管理職の経験から、道徳教育や特別活動に関する事例を紹介し、課題や解決策についてディスカッションさせている。　・グループでの課題解決には、ケーススタディやブレーンストーミングの手法を導入している。	98
		教育方法論 （総合的な学習の時間の指導法を含む）	1	・「生きる力」の育成を目標とした各種教育方法について、小学校現場における実際の経験から事例を取り出し、「対話」させ、議論させ、授業に生かしている。 ・「課題解決型学習」を実体験させながら各自の解決策を小論文にまとめさせている。	99
		栄養教育実習指導	1	・学級担任時代や管理職時代に栄養教育実習生を受け入れてきた経験を生かし、学校での実習の在り方や授業の在り方、指導案の書き方等を指導している。 ・模擬授業としてロールプレイの手法を用いたり、グループでの課題解決には、SGEやケーススタディを導入したりしている。	101-102
		教職実践演習（栄養教諭）	2	・小学校時代の経験から、給食時間の中の様々な事例を紹介し、栄養指導や給食指導の在り方を考えさせ、課題について自分なりの答えを導き出させている。 ・グループでの課題解決には、SGEやケーススタディ、ブレーンストーミング等の手法を導入している。	104
西　正人	食品機械メーカーで16年間勤務 （機能性食品の開発、食品や機械の菌数検査等を行う）	食品衛生学実験	1	食品機械メーカーにおける勤務経験をもとに、様々な食品の一般生菌検査における実例や注意すべきポイント、クリーンベンチがない場合の無菌的操作などにおける注意点などを説明している。	65
畑山　千春	石川県内小中学校にて、学校栄養職員、栄養教諭として40年以上勤務 （石川県教育委員会指導主事として7年間勤務）	学校栄養教育論	2	教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。	93
		栄養教育実習指導	1	栄養教諭として学校現場で栄養教育実習生を指導してきた経験を活かし,学校での実習の在り方や食指導の方法について指導する。	101-102
		教職実践演習(栄養教諭)	2	栄養教諭として学校現場で食指導を行ってきた経験から、食指導の在り方を考えさせ、演習から見えてくる課題について自分なりの解決方法を導きだせるようにする。	104
前川　直樹	社会福祉施設において15年勤務 （社会福祉士）	社会福祉概論	2	社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。	54
三井　悦子	管理栄養士として石川県内保健所、病院、福祉健康センター等で38年勤務(県・市職員歴40年)	臨床栄養学Ⅰ	2	病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、各疾患の食事、嚥下等、食品・サンプル等を使用した体験学習を行っている。	68
		臨床栄養学Ⅱ	2	病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、紙カップや飲料等、媒体を用いた栄養指導・相談のペアワークを行っている。	69
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小学校、中学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について共同研究を行い、成果について公開している。	教育原理	2	教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示して理解を促したり、討議材料にしたりしている。 教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解を深めている。	94

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【コミュニティ文化学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
葦名　理恵	企業（ブライダルプロデュース会社：9年、旅行会社：15年）において勤務	キャリア開発セミナーA	1	ブライダル会社にてインターンシップ受け入れしていた経験から「受け入れ側」はどのように学生を見ているか、などの事例を紹介している。	116
		観光英語	2	着地型観光ガイドとしてインバウンド対応した経験から現場で通じる英会話表現例を紹介している	145
		接遇英語	1	ツアーコンダクターまたインバウンド対応ガイドの経験から現場での応用力の高い英語表現例などを紹介している。	146
		ブライダルサービス論	2	ウエディングプランナーの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。	148
		ホテルサービス論	2	ツアーコンダクターの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。	149
		インバウンドツーリズム入門	2	着地型観光商品の造成、営業販売、ガイドの経験から総合的に地域にとってのインバウンドツーリズムを捉える視点を取り入れている。	158
		ワールドトピックス	2	海外添乗員業務で得た日本との常識の違いなどを多様な価値観を学ぶ事例として取り入れている。	159
池村　努	企業のIT関連部門において13年勤務	プレゼンテーション演習	1	取引先との折衝などを通じて自ら体験した事例を紹介し、プレゼンテーション資料作成に反映している。	136
		情報科学	2	ハードウェア構築、ネットワーク構築などの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。	137
石原　俊彦	介護老人保健施設に15年以上勤務	医療管理学	2	医療業務での経験をもとに医療現場の現状と課題について事例紹介を行い、ディスカッションによって学びを深めている。	143
楠本　史郎	・日本基督教団牧師経験42年勤務（教会担任教師として28年勤務・教務教師として14年勤務） ・幼稚園園長として30年勤務 ・金沢刑務所宗教教誨師として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	3
		キリスト教概論Ⅱ	1		4
中村　洋子	医療機関において勤務	診療報酬実務	2	実務に沿い、具体的な診療報酬実務の注意点などについて講義し、演習形式でカルテの読解、算定、レセプト作成をさせている。	144

2022年度 SDGs169のターゲットと科目の関連性（全学共通）

教員名	科目名	ターゲット番号	科目とターゲットの関連性	掲載ページ
矢澤　励太	北陸学院セミナーⅠ	4.1 8.5	「すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い」教育を修了できるように、キリスト教NGO「チャイルド・ファンド・ジャパン」を通じて里子支援に取り組む。「働きがいのある人間らしい仕事」を通じて神からの使命を実現する、キリスト教人間観に基づくキャリア形成を鼓舞する。	1
	北陸学院セミナーⅡ			2
楠本　史郎	キリスト教概論Ⅰ	4.7	SDGs全般について。現在・将来の全世代を含む全ての人を例外なく尊重し、その生存と幸福well-beingを追求しつつ、その環境である世界をより良く保持・発展させようとする、基本的で責任的なキリスト教人間観、世界観を学ぶ。 とくに4.7「持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ…の持続可能な開発への貢献の理解の教育」を図る。	3
	キリスト教概論Ⅱ	16.3	SDGs全般について。現在・将来の全世代を含む全ての人を例外なく尊重し、その生存と幸福well-beingを追求しつつ、その環境である世界をより良く保持・発展させようとする、基本的で責任的なキリスト教人間観、世界・自然観を学ぶ。 とくに16.3「国家及び国際的なレベルでの法の支配」の根幹について、8.5「働きがいのある人間らしい仕事」について、学ぶ。	4
谷　昌代	総合教養AⅠ	3.2 4.2	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	5
		4.2	モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳幼児の姿を見てみよう。	
		3.7 11.7	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	
中島　賢介		4.2 4.5 13.1 13.3 16.1 16.2	担当する3回分は、いずれも「子どもと向き合う」をテーマに、児童文学作品を通して哲学、平和、災害に向き合うことを授業の到達目標としている。哲学の時間は目標4、平和の時間には目標16、災害の時間には目標13をそれぞれ講義の中で触れ、授業そのものがSDGsの理念によって構成されていることを伝える。	
虫明　淑子		4.2	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	
谷　昌代	総合教養AⅡ	3.2 4.2	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	6
		4.2	モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳幼児の姿を見てみよう。	
		3.7 11.7	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	
虫明　淑子		4.2	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	
富岡　和久	総合教養DⅠ	1.1～1.b 4.1～4.a 5.1 5.3 5.c 10.2	富岡担当分においては、キリスト教精神に基づいた「ホスピタリティ」を社会福祉や具体的人物の活動を通して学ぶ。 その際のキーワードとして、貧困救済、ジェンダー、平等などが取上げられており、標記のターゲット達成のための基本的考え方や知識の習得に役立つ。	11
	総合教養DⅡ			12

2022年度 SDGs169のターゲットと科目の関連性（食物栄養学科）

教員名	科目名	ターゲット番号	科目とターゲットの関連性	掲載ページ
田中　弘美	フードコーディネート論	12.8	この科目を学び、食品ロスの問題を身近にとらえ、自分ができることを考えたり、身につけた知識を情報発信したり、食の大切さや地産地消をすすめることを意識することでSDG12.8「2030年までに人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。」ことを目指す。	88
	給食実務論(含計画)	12.5	この科目を学び、給食として提供される食事がどのようなプロセスで生産されたり、どれだけのものが廃棄されているのかを知り、身近に捉えて問題解決にむけて考えることでSDGs12.5「2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。」ことを目指す。	76
	給食管理実習Ⅰ	12.5	給食として提供される食事がどのようなプロセスで生産され、どれだけのものが廃棄されているのかを実習を通して学び、今後の課題を考えることでSDGs12.5「2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。」ことを目指す。	82
	給食管理実習Ⅱ	12.5		83
中口　義次	食品衛生学	2.1	この科目を学ぶことで、食に関する危害要因について知り、食の安全安心を理解することにより、SDGs「2030 年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。」ことを目指す。	63
村井　万寿夫	教育原理	10.2	本科目では、学校とは何かについてヨーロッパと日本の場合に場合において考え、学習する意味や教育についても考える。その課程では、SDGsの観点からは、「すべての子どもを学校で教育していこうとする人間形成のシステムが近代公教育であることや、年齢・性別・障害・人種などに関わりなく、すべての子どもは自分がなるべき人間に成長する権利をもっている」ことを学ぶ。	94
矢澤　励太	人間の探究Ⅰ	2.1 12.8	「神のかたち」として創造された人間の尊厳を知り、「神の協働者」として被造世界を治め管理するために、「持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識」を喚起し、「食と栄養」に従事する立場から「飢餓を撲滅する」ためにできることを考える。	45
矢澤　励太	人間の探究Ⅱ	8.5	「神のかたち」として創造された人間の尊厳を知り、「若者や障碍者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事」が保証された、シャローム（神の平和）を映し出した社会を形成するために、使命（ミッション）に生きる人生観を身につける。	46

2022年度 SDGs169のターゲットと科目の関連性（コミュニティ文化学科）

教員名	科目名	ターゲット番号	科目とターゲットの関連性	掲載ページ
池村　努	情報科学	9.1	この科目を学び現代社会のインフラとなっているICTについて知り、持続可能な社会に必要な技術を理解することにより、SDGs9.1「すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。」ことを目指す。	137
沢田　史子	観光学入門	8.9	この科目では、観光の歴史と現代観光の仕組み・役割・影響を学び、持続可能な現代観光のあり方について考察する。	147
	地域と観光（概論）		この科目では、金沢の観光の現状と課題を知り、課題解決のため金沢市内でフィールドワークを行う。そして、持続可能な観光振興に資する地域資源を発掘し、金沢観光プランを作成する。	150
	地域と観光（フィールドワーク）			151
富岡　和久	キリスト教と生活	1.1～1.b 4.1～4.a 5.1 5.3 5.c 10.3	現代社会における生活課題の気づきと、家庭生活の経済の現状を理解と共に、環境問題と生活の関係について理解する事を目標としており、標記のターゲット達成のための生活レベルでの考え方や知識の習得に役立つ。	105
	キリスト教とホスピタリティ	1.1～1.b 4.1～4.a 5.1 5.3 5.c 10.4	本授業はキリスト教精神に基づいた「ホスピタリティ」を社会福祉や具体的人物の活動あるいは日本の文化や宗教との対比を通して学ぶ。 その際のキーワードとして、貧困救済、ジェンダー、平等、社会事業などが取上げられており、標記のターゲット達成のための基本的考え方や知識の習得に役立つ。	106

SDGs の 17 の目標と 169 のターゲット

目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【国地総:全般】

- 1.1　2030 年までに、現在 1 日　1.25 ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 1.2　2030 年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。
- 1.3　各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030 年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 1.4　2030 年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。
- 1.5　2030 年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靭性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。
- 1.a　あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。
- 1.b　貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【経安、国地総:全般】

- 2.1　2030 年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。
- 2.2　5　歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを 2025 年までに達成するなど、2030 年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。
- 2.3　2030 年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。
- 2.4　2030 年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靭　（レジリエント）な農業を実践する。
- 2.5　2020 年までに、国、地域及び国際レベルで適正に管理及び多様化された種子・植物バンクなども通じて、種子、栽培植物、飼育・家畜化された動物及びこれらの近縁野生種の遺伝的多様性を維持し、国際的合意に基づき、遺伝資源及びこれに関連する伝統的な知識へのアクセス及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を促進する。】
- 2.a　開発途上国、特に後発開発途上国における農業生産能力向上のために、国際協力の強化などを通じて、農村インフラ、農業研究・普及サービス、技術開発及び植物・家畜のジーン・バンクへの投資の拡大を図る。

- 2.b　ドーハ開発ラウンドの決議に従い、すべての形態の農産物輸出補助金及び同等の効果を持つすべての輸出措置の並行的撤廃などを通じて、世界の農産物市場における貿易制限や歪みを是正及び防止する。
- 2.c　食料価格の極端な変動に歯止めをかけるため、食料市場及びデリバティブ市場の適正な機能を確保するための措置を講じ、食料備蓄などの市場情報への適時のアクセスを容易にする。

目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

- 3.1　2030 年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生 10 万人当たり 70 人未満に削減する。
- 3.2　すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生 1,000 件中 12 件以下まで減らし、5 歳以下死亡率を少なくとも出生 1,000 件中 25 件以下まで減らすことを目指し、2030 年までに、新生児及び 5 歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。
- 3.3　2030 年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。
- 3.4　2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
- 3.5　薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。
- 3.6　2020 年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
- 3.7　2030 年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする。
- 3.8　すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。
- 3.9　2030 年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
- 3.a　すべての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する。
- 3.b　主に開発途上国に影響を及ぼす感染性及び非感染性疾患のワクチン及び医薬品の研究開発を支援する。また、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS 協定） 及び公衆の健康に関するドーハ宣言に従い、安価な必須医薬品及びワクチンへのアク セスを提供する。同宣言は公衆衛生保護及び、特にすべての人々への医薬品のアクセス提供にかかわる「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS 協定)」の柔軟性に関する規定を最大限に行使する開発途上国の権利を確約したものである。
- 3.c　開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において保健財政及び保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大させる。
- 3.d　すべての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。

目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

- 4.1　2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
- 4.2　2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。

- 4.3　2030 年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
- 4.4　2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- 4.5　2030 年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.6　2030 年までに、すべての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
- 4.7　2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
- 4.a　子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
- 4.b　2020 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
- 4.c　2030 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

目標 5.　ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

- 5.1　あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。
- 5.2　人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- 5.3　未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。
- 5.4　公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。
- 5.5　政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。
- 5.6　国際人口・開発会議（ICPD）の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。
- 5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、ならびに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。
- 5.b　女性の能力強化促進のため、ICT をはじめとする実現技術の活用を強化する。
- 5.c　ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。

SDGs の 17 の目標と 169 のターゲット

目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

- 6.1　2030 年までに、すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ衡平なアクセスを達成する。
- 6.2　2030 年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性及び女児、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。
- 6.3　2030 年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。
- 6.4　2030 年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。
- 6.5　2030 年までに、国境を越えた適切な協力を含む、あらゆるレベルでの統合水資源管理を実施する。
- 6.6　2020 年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。
- 6.a　2030 年までに、集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水処理、リサイクル・再利用技術を含む開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する。
- 6.b　水と衛生の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する。

目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

- 7.1　2030 年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。
- 7.2　2030 年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
- 7.3　2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。
- 7.a　2030 年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。
- 7.b　2030 年までに、各々の支援プログラムに沿って開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、内陸開発途上国のすべての人々に現代的で持続可能なエネルギーサービスを供給できるよう、インフラ拡大と技術向上を行う。

目標　8.　包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

- 8.1　各国の状況に応じて、一人当たり経済成長率を持続させる。特に後発開発途上国は少なくとも年率 7%の成長率を保つ。
- 8.2　高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。
- 8.3　生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。

- 8.4　2030 年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。
- 8.5　2030 年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する。
- 8.6　2020 年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
- 8.7　強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025 年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。
- 8.8　移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。
- 8.9　2030 年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。
- 8.10　国内の金融機関の能力を強化し、すべての人々の銀行取引、保険及び金融サービスへのアクセスを促進・拡大する。
- 8.a　後発開発途上国への貿易関連技術支援のための拡大統合フレームワーク（EIF）などを通じた支援を含む、開発途上国、特に後発開発途上国に対する貿易のための援助を拡大する。
- 8.b　2020 年までに、若年雇用のための世界的戦略及び国際労働機関（ILO）の仕事に関する世界協定の実施を展開・運用化する。

目標 9. 強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

- 9.1　すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靭（レジリエント）なインフラを開発する。
- 9.2　包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030 年までに各国の状況に応じて雇用及び GDP に占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。
- 9.3　特に開発途上国における小規模の製造業その他の企業の、安価な資金貸付などの金融サービスやバリューチェーン及び市場への統合へのアクセスを拡大する。
- 9.4　2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
- 9.5　2030 年までにイノベーションを促進させることや 100 万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。
- 9.a　アフリカ諸国、後発開発途上国、内陸開発途上国及び小島嶼開発途上国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を通じて、開発途上国における持続可能かつ強靭（レジリエント）なインフラ開発を促進する。
- 9.b　産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。

- 9.c　後発開発途上国において情報通信技術へのアクセスを大幅に向上させ、2020 年までに普遍的かつ安価なインターネット・アクセスを提供できるよう図る。

目標 10. 各国内及び各国間の不平等を是正する

- 10.1　2030 年までに、各国の所得下位 40%の所得成長率について、国内平均を上回る数値を漸進的に達成し、持続させる。
- 10.2　2030 年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。
- 10.3　差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、ならびに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。
- 10.4　税制、賃金、社会保障政策をはじめとする政策を導入し、平等の拡大を漸進的に達成する。
- 10.5　世界金融市場と金融機関に対する規制とモニタリングを改善し、こうした規制の実施を強化する。
- 10.6　地球規模の国際経済・金融制度の意思決定における開発途上国の参加や発言力を拡大させることにより、より効果的で信用力があり、説明責任のある正当な制度を実現する。
- 10.7　計画に基づき良く管理された移民政策の実施などを通じて、秩序のとれた、安全で規則的かつ責任ある移住や流動性を促進する。
- 10.a　世界貿易機関（WTO）協定に従い、開発途上国、特に後発開発途上国に対する特別かつ異なる待遇の原則を実施する。
- 10.b　各国の国家計画やプログラムに従って、後発開発途上国、アフリカ諸国、小島嶼開発途上国及び内陸開発途上国を始めとする、ニーズが最も大きい国々への、政府開発援助（ODA）及び海外直接投資を含む資金の流入を促進する。
- 10.c　2030 年までに、移住労働者による送金コストを 3%未満に引き下げ、コストが 5%を越える送金経路を撤廃する。

目標 11. 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

- 11.1　2030 年までに、すべての人々の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。
- 11.2　2030 年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。
- 11.3　2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
- 11.4　世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。
- 11.5　2030 年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
- 11.6　2030 年までに、大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

- 11.7　2030 年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。
- 11.a　各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。
- 11.b　2020 年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組 2015-2030 に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。
- 11.c　財政的及び技術的な支援などを通じて、後発開発途上国における現地の資材を用いた、持続可能かつ強靭（レジリエント）な建造物の整備を支援する。

目標 12.　持続可能な生産消費形態を確保する

- 12.1　開発途上国の開発状況や能力を勘案しつつ、持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組み（10YFP）を実施し、先進国主導の下、すべての国々が対策を講じる。
- 12.2　2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
- 12.3　2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。
- 12.4　2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。
- 12.5　2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
- 12.6　特に大企業や多国籍企業などの企業に対し、持続可能な取り組みを導入し、持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう奨励する。
- 12.7　国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。
- 12.8　2030 年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
- 12.a　開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。
- 12.b　雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する。
- 12.c　開発途上国の特別なニーズや状況を十分考慮し、貧困層やコミュニティを保護する形で開発に関する悪影響を最小限に留めつつ、税制改正や、有害な補助金が存在する場合はその環境への影響を考慮してその段階的廃止などを通じ、各国の状況に応じて、市場のひずみを除去することで、浪費的な消費を奨励する、化石燃料に対する非効率な補助金を合理化する。

目標 13.　気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる*【国地気候：全般】

*国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。

- 13.1　すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靭性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。
- 13.2　気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。

- 13.3　気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
- 13.a　重要な緩和行動の実施とその実施における透明性確保に関する開発途上国のニーズに対応するため、2020 年までにあらゆる供給源から年間 1,000 億ドルを共同で動員するという、UNFCCC の先進締約国によるコミットメントを実施するとともに、可能な限り速やかに資本を投入して緑の気候基金を本格始動させる。
- 13.b　後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において、女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることを含め、気候変動関連の効果的な計画策定と管理のための能力を向上するメカニズムを推進する。

目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- 14.1　2025 年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。
- 14.2　2020 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靭性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。
- 14.3　あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響を最小限化し、対処する。
- 14.4　水産資源を、実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020 年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告・無規制（IUU）漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。
- 14.5　2020 年までに、国内法及び国際法に則り、最大限入手可能な科学情報に基づいて、少なくとも沿岸域及び海域の 10 パーセントを保全する。
- 14.6　開発途上国及び後発開発途上国に対する適切かつ効果的な、特別かつ異なる待遇が、世界貿易機関（WTO）漁業補助金交渉の不可分の要素であるべきことを認識した上で、2020 年までに、過剰漁獲能力や過剰漁獲につながる漁業補助金を禁止し、違法・無報告・無規制（IUU）漁業につながる補助金を撤廃し、同様の新たな補助金の導入を抑制する[2]。
  注釈 2　現在進行中の世界貿易機関（WTO）交渉および WTO ドーハ開発アジェンダ、ならびに香港閣僚宣言のマンデートを考慮。
- 14.7　2030 年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。
- 14.a　海洋の健全性の改善と、開発途上国、特に小島嶼開発途上国および後発開発途上国の開発における海洋生物多様性の寄与向上のために、海洋技術の移転に関するユネスコ政府間海洋学委員会の基準・ガイドラインを勘案しつつ、科学的知識の増進、研究能力の向上、及び海洋技術の移転を行う。
- 14.b　小規模・沿岸零細漁業者に対し、海洋資源及び市場へのアクセスを提供する。
- 14.c　「我々の求める未来」のパラ 158 において想起されるとおり、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用のための法的枠組みを規定する海洋法に関する国際連合条約（UNCLOS）に反映されている国際法を実施することにより、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用を強化する。

目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- 15.1 2020 年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。
- 15.2 2020 年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。
- 15.3 2030 年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつ及び洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力する。
- 15.4 2030 年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。
- 15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020 年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。
- 15.6 国際合意に基づき、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を推進するとともに、遺伝資源への適切なアクセスを推進する。
- 15.7 保護の対象となっている動植物種の密猟及び違法取引を撲滅するための緊急対策を講じるとともに、違法な野生生物製品の需要と供給の両面に対処する。
- 15.8 2020 年までに、外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による陸域・海洋生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入し、さらに優先種の駆除または根絶を行う。
- 15.9 2020 年までに、生態系と生物多様性の価値を、国や地方の計画策定、開発プロセス及び貧困削減のための戦略及び会計に組み込む。
- 15.a 生物多様性と生態系の保全と持続的な利用のために、あらゆる資金源からの資金の 動員及び大幅な増額を行う。
- 15.b 保全や再植林を含む持続可能な森林経営を推進するため、あらゆるレベルのあらゆる供給源から、持続可能な森林経営のための資金の調達と開発途上国への十分なインセンティブ付与のための相当量の資源を動員する。
- 15.c 持続的な生計機会を追求するために地域コミュニティの能力向上を図る等、保護種の密猟及び違法な取引に対処するための努力に対する世界的な支援を強化する。

目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

- 16.1 あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。
- 16.2 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。
- 16.3 国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、すべての人々に司法への平等なアクセスを提供する。
- 16.4 2030 年までに、違法な資金及び武器の取引を大幅に減少させ、奪われた財産の回復及び返還を強化し、あらゆる形態の組織犯罪を根絶する。
- 16.5 あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。
- 16.6 あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。
- 16.7 あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。
- 16.8 グローバル・ガバナンス機関への開発途上国の参加を拡大・強化する。

- 16.9　2030 年までに、すべての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する。
- 16.10　国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する。
- 16.a　特に開発途上国において、暴力の防止とテロリズム・犯罪の撲滅に関するあらゆるレベルでの能力構築のため、国際協力などを通じて関連国家機関を強化する。
- 16.b　持続可能な開発のための非差別的な法規及び政策を推進し、実施する。

目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

資金

- 17.1　課税及び徴税能力の向上のため、開発途上国への国際的な支援なども通じて、国内資源の動員を強化する。
- 17.2　先進国は、開発途上国に対する ODA を GNI 比 0.7%に、後発開発途上国に対する ODA を GNI 比 0.15~0.20%にするという目標を達成するとの多くの国によるコミットメントを含む ODA に係るコミットメントを完全に実施する。ODA 供与国が、少なくとも GNI 比 0.20%の ODA を後発開発途上国に供与するという目標の設定を検討することを奨励する。
- 17.3　複数の財源から、開発途上国のための追加的資金源を動員する。
- 17.4　必要に応じた負債による資金調達、債務救済及び債務再編の促進を目的とした協調的な政策により、開発途上国の長期的な債務の持続可能性の実現を支援し、重債務貧困国（HIPC）の対外債務への対応により債務リスクを軽減する。
- 17.5　後発開発途上国のための投資促進枠組みを導入及び実施する。

技術【軍科協、国地環境、国地総:全般】

- 17.6　科学技術イノベーション（STI）及びこれらへのアクセスに関する南北協力、南南協力及び地域的・国際的な三角協力を向上させる。また、国連レベルをはじめとする既存のメカニズム間の調整改善や、全世界的な技術促進メカニズムなどを通じて、相互に合意した条件において知識共有を進める。
- 17.7　開発途上国に対し、譲許的・特恵的条件などの相互に合意した有利な条件の下で、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。
- 17.8　2017 年までに、後発開発途上国のための技術バンク及び科学技術イノベーション能力構築メカニズムを完全運用させ、情報通信技術（ICT）をはじめとする実現技術の利用を強化する。

能力構築【国協企、国協総】

- 17.9　すべての持続可能な開発目標を実施するための国家計画を支援するべく、南北協力、南南協力及び三角協力などを通じて、開発途上国における効果的かつ的をしぼった能力構築の実施に対する国際的な支援を強化する。

貿易【経国貿】

- 17.10　ドーハ・ラウンド（DDA）交渉の結果を含めた WTO の下での普遍的でルールに基づいた、差別的でない、公平な多角的貿易体制を促進する。
- 17.11　開発途上国による輸出を大幅に増加させ、特に 2020 年までに世界の輸出に占める後発開発途上国のシェアを倍増させる。
- 17.12　後発開発途上国からの輸入に対する特恵的な原産地規則が透明で簡略的かつ市場アクセスの円滑化に寄与するものとなるようにすることを含む世界貿易機関（WTO）の決定に矛盾しない形で、すべての後発開発途上国に対し、永続的な無税・無枠の市場アクセスを適時実施する。

体制面【国地総】

政策・制度的整合性

- 17.13 政策協調や政策の首尾一貫性などを通じて、世界的なマクロ経済の安定を促進する。
- 17.14 持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。
- 17.15 貧困撲滅と持続可能な開発のための政策の確立・実施にあたっては、各国の政策空間及びリーダーシップを尊重する。

マルチステークホルダー・パートナーシップ

- 17.16 すべての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

データ、モニタリング、説明責任

- 17.18 2020 年までに、後発開発途上国及び小島嶼開発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及びその他各国事情に関連する特性別の質が高く、タイムリーかつ信頼性のある非集計型データの入手可能性を向上させる。
- 17.19 2030 年までに、持続可能な開発の進捗状況を測る GDP 以外の尺度を開発する既存の取組を更に前進させ、開発途上国における統計に関する能力構築を支援する。

授業科目名	HG100C 北陸学院ｾﾐﾅｰⅠ			開講学科	短大	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	礼拝・セミナー
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
１．大学礼拝　①礼拝：毎週平均2.5回以上の出席　②献金。キリスト教行事や世界の子ども支援に用いる　③花の日：６月　花を諸施設に届ける　④特別伝道礼拝：牧師を招き１年生を対象に。１年生は必ず出席　⑤９月　学院の歴史、建学の精神に触れる　⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける　⑦クリスマス礼拝：12月　学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は必ず出席。 ２．フレッシュマン・セミナー　全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が出席。聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。学科ごとに準備。2022年度：５月20日（金）～21日（土）　講師・楠本史郎学院長・学長 ※SDGsターゲット4.1,8.5関連科目	１）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 ２）讃美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 ３）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 ４）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 ５）世界と歴史の意味に触れる。 ６）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 ７）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよびキリスト教概論Ⅰで礼拝への参加方法を学び、フレッシュマン・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝出席回数と姿勢	50	・聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝に出席し、特別な礼拝にも主体的に参加している。	課題・レポート	10	・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。分量や内容について、指示どおり適切に作成されている。
フレッシュマンセミナーへの参加	40	・事前の準備に積極的に参加している。 ・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループでの話合いなどに参加している。 ・事後のレポート等で振り返りを行っている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
１）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 ２）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。〔90分〕 出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 ３）セミナーの準備に主体的に参加する。〔60分〕 ４）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。〔30分〕	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	１）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる[ただし、少なくとも前期中は Google Classroom を通じて礼拝出席ミニレポート提出をもって出席と数える予定]。 ２）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、 『讃美歌21』日本基督教団出版局
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HG200C 北陸学院セミナーⅡ			開講学科	短大	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	礼拝・セミナー
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
1．大学礼拝　①礼拝：毎週平均2.5回以上の出席　②献金　キリスト教行事や世界の子ども支援に用いる　③花の日：6月　花を諸施設に届ける　④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に。２年生は必ず出席　⑤創立記念礼拝：９月　学院の歴史、建学の精神に触れる　⑦収穫感謝：11月　果物を各所に届ける　⑧クリスマス礼拝：12月　学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は必ず出席。 2．バイブル・セミナー　全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科２年生が出席。聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。2022年度予定：11月11日（金）～12日（土） ※SDGsターゲット4.1,8.5関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）讃美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびバイブル・セミナーへの参加
履修条件	キリスト教概論ⅠおよびⅡの単位を取得していることが望ましい。バイブル・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝出席回数と姿勢	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝に出席し、特別な礼拝にも主体的に参加している。	課題・レポート	10	セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。分量や内容について、指示どおり適切に作成されている。
バイブル・セミナーへの参加	40	・事前の準備に積極的に参加している。 ・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループでの話合いなどに参加している。 ・事後のレポート等で振り返りを行っている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。〔90分〕 出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。〔60分〕 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。〔30分〕	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる[ただし、少なくとも前期中は Google Classroom を通じて礼拝出席ミニレポート提出をもって出席と数える予定]。 2）バイブル・セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、 『讃美歌21』日本基督教団出版局
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HG110C ｷﾘｽﾄ教概論Ⅰ			開講学科	短大	必修・選択	必修
担当教員名	楠本　史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。 本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、おもにマルコによる福音書に基づいて、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書全体のメッセージのまとめで本講義を終わる。 ※SDGsターゲット4.7関連科目	北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 具体的には、聖書を学ぶことによって ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。

教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	自分を見つめる。担当者の紹介と授業予定、礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方を知る。 信じることと生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ。信じることの意味を知る。	
2	諸宗教のなかでのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ。日本と世界の宗教理解の相違を知る。新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の継続性と違いを知る。新約の構成と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する。	
3	時間論的視点から旧約と新約の違いを知る。宗派・教派による聖書の違いについて基本知識を持つ。イエスの生涯①　マルコ福音書1:9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ。キリストの両性の意味を理解する。	
4	イエスの生涯②　マルコ5:1-20から、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ。真の自己の存在を知る。イエスの生涯③　マルコ8:27-9:1から、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ。真の自己となることの意味を知る。	
5	イエスの生涯④　マルコ10:1-12から、聖書の結婚観、夫婦観、家族観を学ぶ。聖書の結婚観を知り、自己の結婚観・家族観を養う。	
6	イエスの生涯⑤　存在の意味　マルコ10:35-45から、人間の存在の意味について学ぶ。自己の生の意味を他者との関係で捉える。 イエスの生涯⑥　マルコ12:28-34から、神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何か、学ぶ。愛の構造を理解する。	
7	小テスト①およびイエスの生涯⑦　マルコ14:1-11から、受難の社会的構造を学ぶ。イエスの死の経緯と、救済史的な意味を理解する。イエスの生涯⑧　マルコ14:22-26から、最後の晩餐が示すイエスの死の贖罪の意味を知る。イエスの死の意味を知る。	
8	小テスト②および新約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。新約の中心的メッセージを理解する。	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。 ①授業内容を理解している。 ②それを自分の言葉で掴み、表現している。 ③疑問や質問など、問題意識を持っている。	新約聖書の目次を覚える小テスト	20	新約27書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。
新約等前期授業の内容について小テスト	30	新約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う。	レポート	30	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度 ②そこでの説教内容のまとめ ③それに対する自己の意見

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕 ②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める〔60分〕 ③フレッシュマンセミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕 ④日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。	毎回の応答用紙およびレポートには評価を書き込む。小試験については授業でコメントする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のノート・メモを取ること。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会　毎回授業に持参する。『讃美歌21』
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	①原則として１回90分に、45分授業2コマ分を行う。１回欠席すると2コマの欠席となるので、努めて出席すること。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 ④レポートはClassroomを用いて必ず指定された期限内に提出すること。

実務経験を活かした授業の概要

牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。

授業科目名	HG120C ｷﾘｽﾄ教概論Ⅱ			開講学科	短大	必修・選択	必修
担当教員名	楠本　史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。 キリスト教概論Ⅰで学んだ新約聖書の歴史と背景、その内容を前提として、おもに旧約聖書について学ぶ。旧約の背景となったイスラエル史は、他民族による侵略と支配を受け、民が自身の罪の現実と向かい合いながら、なお神の守りと救いを信じ、共同体を形成・維持し続けた苦難の歴史でもある。これを学ぶことにより、自己と社会を形作る基盤は何かを問う。具体的には旧約聖書の歴史と背景、および内容を学び、人間と世界の存在の意味、それに対する人間の責任と現実、契約と共同体倫理としての法の概念、歴史観と希望の概念等を課題とする。それに対する各自の主体的応答を、発表、レポート等の形で表現し、論議を深める。 ※SDGsターゲット16.3関連科目	北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人格教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 具体的には、聖書を学ぶことによって ①聖書について、キリスト教について、旧約の内容とイスラエル史について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に着ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。

教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イエスの生涯⑨　マルコ15:6-41により、イエスの十字架の死について学び、後期授業について概略を知る。イエスの十字架の意味を理解する。イエスの生涯⑩　マルコ16:1-8により、イエスの復活について知り、その意味を学ぶ。イエスの復活の意味を理解する。	
2	旧約を概論的に見て、その区分を学び、旧約全体の意味を学ぶ。旧約39書とその区分、本質を知る。イスラエル史の概略を知り、その過程で生まれた旧約の全体を知る。旧約各書とイスラエル史との関連を理解する。	
3	天地創造物語を読む。聖書の人間理解①　創世記1章の祭司資料Pから人間を「神のかたち」と捉える人間観を学ぶ。聖書の人間理解②　創世記2章のヤーウェ資料Jから、人間を土の塵と理解し、その命の根源に迫る。J資料の歴史的背景から聖書の生命観を理解する。	
4	堕罪物語　創世記3章から、神の前での罪と救いを学ぶ。聖書の罪理解と救いを知る。族長史　創世記12章以下から、アブラハム以下の物語を学び、その意味を知る。唯一神信仰の背景を理解する。	
5	十戒①　神の恵みと人間の責任　出エジプト記20章より、神の恵みへの応答として、十戒の前半５つの戒めを学ぶ。旧約における法の意味を知る。十戒②　法と社会　十戒の後半５つの戒めを学び、イスラエルの共同体形成を学ぶ。共同体形成原理を知る。	
6	イスラエル王国史を学び、ダビデ王の生涯とその功罪を知る。ダビデ王朝史を知り、聖書の歴史観を学ぶ。ダビデを通して旧約の指導者像を学ぶ。聖書における指導者の姿を理解する。	
7	旧約預言者の分類について、また代表的な使信を学ぶ。歴史的背景による旧約預言者の区分とその使信の相違を理解する。クリスマスについての概説を行う。および小テスト①	
8	小テスト②および、旧約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。キリスト教の職業観を歴史的に振り返り、それぞれの人生形成を考える。旧約の中心的メッセージを理解する。	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。	旧約聖書の目次を覚える小テスト	20	旧約39書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。
旧約等後期授業の内容について小テスト	30	旧約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う。	レポート	30	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度 ②そこでの説教内容のまとめ ③それに対する自己の意見

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕 ②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める。〔60分〕 ③日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。	毎回の応答用紙およびレポートには評価を書き込む。小試験については授業でコメントする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取ること。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会　毎回授業に持参する。『讃美歌21』
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	①原則として１回90分に、45分授業2コマ分を行うので、１回欠席すると2コマの欠席となる。努めて授業に出席する。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 ④レポートはClassroomを用いて必ず指定された期限内に提出すること。

実務経験を活かした授業の概要

牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。

授業科目名	GE100C 総合教養AⅠ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	中野　聡・中島　賢介・虫明　淑子・福江　厚啓・谷　昌代　（代表教員　中野　聡）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について５人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら３回ずつ講義を担当する。 ※SDGsターゲット3.2,4.2,4.5,11.7,13.1,13.316.1,16.2関連科目	１～３回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものなのか考えることができる。（福江） ４～６回：乳幼児期の心と身体の育ちを理解し、子どもたちを取り巻く環境や人々の課題について関心を持ち、考えることができる。（谷） ７～９回：子どもが生きる未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつことと、幼児期の教育を充実することが重要であることを理解する。（虫明） １０～１２回：子どもの頃に読んできた絵本や物語を読み直すことで、これからの社会のあり方について考えることができる。（中島） １３～１５回：小学校に英語が導入されるに至った歴史的背景と現状について通時的、共時的に理解する。特に小学校英語で大切にしている「意味あるやり取り」と、英語と日本語の言語接触によってどのような影響があるかを体験も通して理解する。（中野）

教授方法	５名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう。	福江
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。	福江
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。	福江
4	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	谷
5	乳幼児期の学び：人・モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳幼児の姿を見てみよう。	谷
6	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	谷
7	子どもを取り巻く環境の変化に伴う教育上の課題を考える。	虫明
8	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	虫明
9	「遊び」がなぜ「学び」につながるのかについて考える。	虫明
10	子どもと哲学に向き合う　児童文学の中で哲学的話題に関する作品を紹介・解説し、哲学的話題とどのように向き合うかを考える。	中島
11	子どもと平和に向き合う　児童文学の中で戦争などに関する作品を紹介・解説し、平和とどのように向き合うかを考える。	中島
12	子どもと災害に向き合う　児童文学の中で災害などに関する作品を紹介・解説し、災害とどのように向き合うかを考える。	中島
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、大切にしていることについて知ろう。	中野
14	外国語教育の歴史と海外事情：日本の英語教育の歴史、諸外国の英語教育の現状について知ろう。	中野
15	言語接触による影響：英語が子どもたちの日本語に与える影響、外来語に対する意識について考えてみよう。	中野

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]	教員ごとに応対する。

受講生に望むこと	子ども教育学科生以外は、それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にすべきことを指導している。
中島：高等学校の国語科における文学指導、北陸学院小学校における読書推進活動で得た経験を活用する。
虫明：幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。
福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもの姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。
谷：幼稚園教諭、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳幼児と保護者の周辺で起こっている出来事について実際の事例を通して紹介し、乳幼児の育ち合う姿をビデオ映像などを通して伝えている。

授業科目名	GE110C 総合教養AⅡ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	中野　聡・虫明　淑子・福江　厚啓・谷　昌代・向出　圭吾　（代表教員　中野　聡）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について５人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら３回ずつ講義を担当する。 ※SDGsターゲット3.2,4.2,11.7関連科目	１～３回：乳幼児期の心と身体の育ちを理解し、子どもたちを取り巻く環境や人々の課題について関心を持ち、考えることができる。（谷） ４～６回：幼稚園・保育園時代に誰もが体験した「遊び」の中にいろんな「学び」があることを遊びの体験を通して感じ取り、今後の幼稚園・保育園の動向についても興味・関心がもてるようになる。（向出） ７～９回：子どもが生きる未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつことと、幼児期の教育を充実することが重要であることを理解する。（虫明） １０～１２回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものなのか考えることができる。（福江） １３～１５回：小学校に英語が導入されるに至った歴史的背景と現状について通時的、共時的に理解する。特に小学校英語で大切にしている「意味あるやり取り」と、英語と日本語の言語接触によってどのような影響があるかを体験も通して理解する。（中野）

教授方法	５名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	谷
2	乳幼児期の学び：人・モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳幼児の姿を見てみよう。	谷
3	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	谷
4	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども（1）実際に遊びを体験することによって、学びの原点について考える。	向出
5	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども（2）遊びを繰り返すこと、継続することによって学びが深まる過程を考える。	向出
6	今後の幼稚園・保育園の行方：幼稚園・保育園の現状について理解するとともに、認定こども園への移行、保育教諭、幼児教育・保育の無償化等、今後の動向について考える。	向出
7	子どもを取り巻く環境の変化に伴う教育上の課題を考える。	虫明
8	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	虫明
9	「遊び」がなぜ「学び」につながるのかについて考える。	虫明
10	子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう。	福江
11	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ	福江
12	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること	福江
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、大切にしていることについて知ろう。	中野
14	外国語教育の歴史と海外事情：日本の英語教育の歴史、諸外国の英語教育の現状について知ろう。	中野
15	言語接触による影響：英語が子どもたちの日本語に与える影響、外来語に対する意識について考えてみよう。	中野

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100（20×5）	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]	教員ごとに応対する。

受講生に望むこと	子ども教育学科生以外は、それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にすべきことを指導している。
虫明：幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。
福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもの姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。
谷：幼稚園教諭、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳幼児と保護者の周辺で起こっている出来事について実際の事例を通して紹介し、乳幼児の育ち合う姿をビデオ映像などを通して伝えている。
向出：子どもの遊びは、幼稚園現場においては単なる遊びに終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも意識してもらっている。

授業科目名	GE120C 総合教養BⅠ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	加藤　仁・小林　正史・田中　純一　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会の関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。	・災害が炙り出す社会の脆弱性と構造的課題について理解する。また、災害ボランティア活動事例を通して、共助、互助の意義、ボランティアの社会的役割について理解する。（田中） ・食器などの比較を通して、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解できるようになる。（小林） ・心理学の研究知見に基づくところの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。（加藤）

教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項等について。 災害からの復旧・復興過程と諸課題：過去の自然災害から、被災→生活復旧→生活復興へと至る過程で発生する諸課題について理解する。	田中
2	災害弱者とは誰か：避難所で発生するさまざまな生活課題について理解する。	田中
3	災害と地域コミュニティ：超少子高齢社会における自助、共助・互助、公助の関係性について理解する。	田中
4	災害ボランティア：国内外の活動事例を通し、災害ボランティアの社会的役割と意義、課題について理解する。	田中
5	住み続けられる地域とは：減災概念、レジリエンス概念について理解する。	田中
6	食器の作り分け：日本の飯椀と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。	小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。	小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較を通して、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。	小林
11	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。	加藤
12	パーソナリティ心理学：ダークトライアド概念について理解する。	加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。	加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。	加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。	加藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度及び意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。
レポート課題	50	各担当者の講義終了時（5回講義1セット）にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと（30分） その日のうちに学んだことを復習すること（30分）	個々の教員の指示に従うこと

受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE130C 総合教養BⅡ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	加藤　仁・小林　正史・田中　純一　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会の関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。	・災害が炙り出す社会の脆弱性と構造的課題について理解する。また、災害ボランティア活動事例を通して、共助、互助の意義、ボランティアの社会的役割について理解する。（田中） ・食器などの比較を通して、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解できるようになる。（小林） ・心理学の研究知見に基づくところの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。（加藤）

教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項等について。 災害からの復旧・復興過程と諸課題：過去の自然災害から、被災→生活復旧→生活復興へと至る過程で発生する諸課題について理解する。	田中
2	災害弱者とは誰か：避難所で発生するさまざまな生活課題について理解する。	田中
3	災害と地域コミュニティ：超少子高齢社会における自助、共助・互助、公助の関係性について理解する。	田中
4	災害ボランティア：国内外の活動事例を通し、災害ボランティアの社会的役割と意義、課題について理解する。	田中
5	住み続けられる地域とは：減災概念、レジリエンス概念について理解する。	田中
6	食器の作り分け：日本の飯椀と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。	小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。	小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較を通して、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。	小林
11	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。	加藤
12	パーソナリティ心理学：ダークトライアド概念について理解する。	加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。	加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。	加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。	加藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度及び意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。
レポート課題	50	各担当者の講義終了時（5回講義1セット）にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと（30分） その日のうちに学んだことを復習すること（30分）	個々の教員の指示に従うこと

受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE140C 総合教養CⅠ	開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・坂井　良輔・田中　弘美・三田　陽子　(代表教員　新澤　祥恵)				

標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の３つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。	①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。

教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。	新澤
2	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点をみつける。	田中
3	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ	坂井
4	食品の一次機能について学ぶ　-タンパク質、脂質、糖質-	坂井
5	食品の一次機能について学ぶ　-味成分、香り成分、色素成分-	坂井
6	食品の三次機能について学ぶ　-機能成分-	坂井
7	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。	三田
8	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。	三田
9	献立作成の基本を学ぶ。（食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む）	田中
10	ライフステージを通して、健康な食事を考える。	田中
11	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。	三田
12	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。	三田
13	食と心理①：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について、特に発達の観点から考える。	上農
14	食と心理②：食行動の健康と病理について、特に家族関係の観点から考える。	上農
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。	田中

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出	受講態度	10	授業参加意欲

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]	毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。

受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない	教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	代替授業はミートによるオンライン授業または Classroomにより課題提示

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE150C 総合教養CⅡ	開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・俵　万里子・西　正人　（代表教員　新澤　祥恵）				

標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の３つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。	①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。

教授方法	4名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。	新澤
2	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。	新澤
3	ライフステージに応じた食育（胎児期・乳児期）：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。	俵
4	ライフステージに応じた食育（成長期）：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。	俵
5	ライフステージに応じた食育（成人期）：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。	俵
6	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。	俵
7	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。	西
8	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。	西
9	食品と薬剤3：食品中の特定成分（カフェイン、色素、食品群別）が薬効に及ぼす影響について学ぶ。	西
10	アレルギーと経口免疫寛容4：経口免疫寛容の成り立ち。アレルギーや経口免疫寛容に影響する機能性食品や腸内細菌の働きについて学ぶ。	西
11	食と心理①：食べることや食べるものによる私たちの心理面や行動面に与える影響について、特に発達の観点から考える。	上農
12	食と心理②：食行動の健康と病理について、特に家族関係の観点から考える。	上農
13	食と流通：世界の食料資源はどうなっているか理解し、日本の食料需給の問題を考える。	新澤
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える。	新澤
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する。	新澤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出	受講態度	10	授業参加意欲

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]	毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。

受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない	教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	代替授業はミートによるオンライン授業または Classroomにより課題提示

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE160C 総合教養DⅠ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡　和久・葦名　理恵　（代表教員　富岡　和久）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義でははじめにホスピタリティ産業から、サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足について理解を深めるとともに、コロナ禍における人と人とのつながり、社会で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。次にキリスト教的視点に立ち、他者支援・援助のあり方を通してホスピタリティについて学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.2関連科目	・サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いを説明できる。 ・ホスピタリティマインドを理解する。 ・基本的なコミュニケーションスキルを身につける。 ・ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 ・社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション	葦名・富岡
2	ホスピタリティについての基礎知識を確認、サービス・おもてなしとの違いを理解する。	葦名
3	ホスピタリティ産業とは？①　ブライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。	葦名
4	コミュニケーションスキル①　挨拶・自己紹介テキスト作成する。	葦名
5	コミュニケーションスキル②　外見からの第一印象を通し、身だしなみを整える必要性を理解する。	葦名
6	コミュニケーションスキル③　聞く力 スピーキングテクニックとアクティブ・リスニングを理解し、活用例を学ぶ。	葦名
7	コミュニケーションスキル④　話す力スピーキングテクニックを理解し、活用例を学ぶ 最終課題について。	葦名
8	コミュニケーションスキル最終回　自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。	葦名
9	ヒトはなぜ人を助けるのか。 　目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。	富岡
10	社会福祉とホスピタリティ 　ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。	富岡
11	茶道に見るおもてなしの原点。 　茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。	富岡
12	ヤヌシュ･コルチャックに学ぶ。 　ヤヌシュ･コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。	富岡
13	ヘレン・ケラーに学ぶ。 　ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。	富岡
14	マーティン･ルーサー･キング･ジュニアに学ぶ。 　マーティン･ルーサー･キング･ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。	富岡
15	マザー・テレサに学ぶ。 　マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。	富岡

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート・レポート	30	・振り返りシート、など提出物にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔葦名・富岡 15%〕 ・〔富岡 15%〕	授業参加態度	20	授業への積極的参加や取り組み態度を評価する。［葦名 10%］［富岡 10%］
最終課題	25	学んだ内容（コミュニケーションスキル）を活用した内容を評価する。〔葦名〕 授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡〕	ワークシート	25	授業ごとのまとめシート（ワークシート）にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔富岡〕

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【葦名】 ・日ごろから他者とのかかわり（コミュニケーション）の際に学習したスキルの活用を心掛けること［60分］ 【富岡】 ・シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。［30分］ ・授業で取り上げられた人物について調べる。［15分］ ・指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。［約70分］	課題提出物などついては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。

受講生に望むこと	・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。	教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　適時講義の中で紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE170C 総合教養DⅡ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡　和久・葦名　理恵　（代表教員　富岡　和久）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義でははじめにホスピタリティ産業から、サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足について理解を深めるとともに、コロナ禍における人と人とのつながり、社会で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。次にキリスト教的視点に立ち、他者支援・援助のあり方を通してホスピタリティについて学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.2関連科目	・サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いを説明できる。 ・ホスピタリティマインドを理解する。 ・基本的なコミュニケーションスキルを身につける。 ・ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 ・社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション	葦名・富岡
2	ホスピタリティについての基礎知識を確認、サービス・おもてなしとの違いを理解する。	葦名
3	ホスピタリティ産業とは？①　ブライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。	葦名
4	コミュニケーションスキル①　挨拶・自己紹介テキスト作成する。	葦名
5	コミュニケーションスキル②　外見からの第一印象を通し、身だしなみを整える必要性を理解する。	葦名
6	コミュニケーションスキル③　聞く力 スピーキングテクニックとアクティブ・リスニングを理解し、活用例を学ぶ。	葦名
7	コミュニケーションスキル④　話す力スピーキングテクニックを理解し、活用例を学ぶ 最終課題について。	葦名
8	コミュニケーションスキル最終回　自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。	葦名
9	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。	富岡
10	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。	富岡
11	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。	富岡
12	ヤヌシュ･コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ･コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。	富岡
13	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。	富岡
14	マーティン･ルーサー･キング･ジュニアに学ぶ。 マーティン･ルーサー･キング･ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。	富岡
15	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。	富岡

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート・レポート	30	・振り返りシート、など提出物にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔葦名・富岡 15%〕 ・〔富岡 15%〕	授業参加態度	20	授業への積極的参加や取り組み態度を評価する。［葦名 10%］［富岡 10%］
最終課題	25	学んだ内容（コミュニケーションスキル）を活用した内容を評価する。〔葦名〕	ワークシート	25	授業ごとのまとめシート（ワークシート）にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔富岡〕 授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡〕

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【葦名】 ・日ごろから他者とのかかわり（コミュニケーション）の際に学習したスキルの活用を心掛けること［60分］ 【富岡】 ・シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。［30分］ ・授業で取り上げられた人物について調べる。［15分］ ・指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。［約70分］	課題提出物などついては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。

受講生に望むこと	・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。	教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　適時講義の中で紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LJ090C 日本語基礎			開講学科	短大	必修・選択	自由
担当教員名	小松　洋一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。	①辞書に親しみ、使いこなすことができる ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ

教授方法	演習と講義。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどういうものかを理解する。「自己紹介文」を書く。	
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）	
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）	
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）	
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）	
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く）②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）	
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読）②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）	
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読）　②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して）　④到達確認テスト	
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）	
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）	
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）	
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）	
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）	
14	①文章表現の実践（小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）	
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期テスト（16 回目）	50	各回の講義内容・演習内容を理解している。	到達確認テスト（8 回目）	20	各回の講義内容・演習内容を理解している。
各回の課題提出	20	定められた書式・時間に従って提出している。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現している。	授業参加態度	10	課題に取り組み、弱点を克服している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと［40分］	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。	教科書・テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LJ110C 日本語表現法Ⅰ	開講学科	短大	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・清水　實・亀田　孝太郎・小松　洋一　（代表教員　中島　賢介）				

標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち学部の言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、大学における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。	①言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。（聞き方、話し方、読み方、書き方） ②敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 ③問題演習などを通し、大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 ④基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 ⑤総合的な日本語表現力（日本語検定２級を目指す実力）を身につけている。

教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法Ⅰ」を履修することができる。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「敬語の種類と使い分け」について理解する。/「尊敬語」「謙譲語Ⅰ」「謙譲語Ⅱ」「丁寧語」「美化語」それぞれを適切な場で、適切に使うことができるようになる。	全員
2	「注意すべき敬語」について理解する。/尊敬語・謙譲語の混同をはじめ、二重敬語・マニュアル敬語といった日常よく耳にする間違いやすい敬語について理解することができる。	全員
3	「配慮を示す言葉」について理解する。/円滑な人間関係を確立・維持するための言語行動について理解し、必要なときに、必要な場で、正しい敬語を使うことができるようになる。	全員
4	「品詞・活用の種類」について理解する。/文法を学ぶための必要な基本的知識として、品詞の種類や、述語に用いられる動詞や形容詞の活用について理解することができる。	全員
5	「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」について理解する。/「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」は、どういう点で問題があるのかについて理解し、このような誤った言葉遣いをしないためには、どうすればいいのかについて、考えることができる。	全員
6	「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」について理解する。/長い文、あるいは構造が複雑な文の、主語・述語が対応しているかどうか、文の複数の意味を持つあいまいな文になっていないかどうかなどを判断することができる。	全員
7	「接続語・指示語と文章」について理解する。/接続語や指示語が、意見の要点を定めたり、論の展開を考えるのにとても大切な役割を果たしていることに気付き、それぞれの語を正しく理解し、効果的に使うことができるようになる。	全員
8	「類義語・対義語」について理解する。/類義語や同義語の使い分けについて整理することができる。	全員
9	「動詞の自他・視点」について理解する。/物事を描写する方法は一つではないこと、どこに視点を置いて述べるかによって、伝えられる内容が変わって見えることについて、理解することができる。	全員
10	「文体、話し言葉・書き言葉」について理解する。/言語を表現する際、条件によって整える必要のある「文体」について、その使い分けのポイントを理解することができる。	全員
11	「コロケーション」について理解する。/「肩で風を切って歩く」「的を射る」等、慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。	全員
12	「部首・音訓・熟語」について理解する。/漢字に関わる事項の中で、部首や読み方(音読み・訓読み)、熟語について、理解することができる。	全員
13	「仮名遣い・送り仮名」について理解する。/現代仮名遣いと送り仮名の付け方について理解する。	全員
14	「スキルアップ!日本語力」(東京書籍)に取り組んでの気付き、発見、学びを「Ａ４」1枚にまとめることができる。	全員
15	レポートの書き方について、理解を深めることができる。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	20	①必要な準備をして参加している。 ②毎回の学習事項について予習復習をしている。 ③積極的にディスカッションに参加している。	提出課題	30	①授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 ②日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	①授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。 ②得意な分野を伸長し、苦手な分野を克服している。 ③日本語検定３級以上の実力がついている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] ②苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集（指定図書の欄参照）に取り組む。[40分] ③前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日～14日間程度]	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①毎回、必ずChromebookを持参すること。 ②主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 受講生に ③各自の学習成果を確認するため、日本語検定を受験すること。	教科書・テキスト	『基礎からわかる話す技術』森口稔・中山詢子　くろしお出版　2017年　ISBN: 978-4-87424-727-3 『スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK７　東京書籍　2018(第13刷発行)　ISBN: 978-4‐487‐80364‐4
指定図書／参考書等	日本語検定委員会　（東京書籍　2008）発行の以下のテキストより 1 冊を選んで問題を解く。 ①日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN　978-4487802906 ②日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN　978-4487802760 ③日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN　978-4487802784 ④日本語検定領域別問題集『文法』ISBN　978-4487802777 ⑤日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN　978-4487802971	その他・特記事項	①基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 ②日本語表現法Ⅱにおいてもテキストを継続して使用する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LJ120C 日本語表現法Ⅱ			開講学科	短大	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・清水　實・亀田　孝太郎　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置づけられている。受講生は、日本語表現法Ⅰで学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに実践的な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチや研究レポート発表会などの体験を通して実践的に学ぶ。	①言葉を伝えるための実践的な知識・技術を身につけている。 ②敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。 ③定型文章作成に必要な知識を理解して、適切に表現することができる。 ④人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。 ⑤資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。

教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。
履修条件	「日本語表現法Ⅰ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「日本語表現法Ⅱ」で学ぶ口頭表現（スピーチ・研究レポート発表）について	全員
2	テキスト①「人前で話す技術」　テキスト②「重要語句の確認」	全員
3	改まった内容のスピーチについて理解する。　テキスト②「重要語句の確認」	全員
4	テキスト①「人前で話す技術」　テキスト②「重要語句の確認」　スピーチ原稿作成・スピーチの練習	全員
5	改まった内容のスピーチを実践する。　テキスト②「重要語句の確認」	全員
6	テキスト①「人前で話す技術」　テキスト②「重要語句の理解」スピーチ実践の振り返り	全員
7	研究レポート発表（プレゼン）の仕方　テキスト②「重要語句の確認」	全員
8	テキスト①「プレゼンテーション」　テキスト②「重要語句の確認」	全員
9	テキスト①「プレゼンテーション」　テキスト②「重要語句の確認」　研究レポート発表の練習	全員
10	研究レポート発表会①（前半グループ）　テキスト②「重要語句の確認」	全員
11	研究レポート発表会②（後半グループ）　テキスト②「重要語句の確認」	全員
12	ディベートの技術　ディベートの論題についてディスカッションする。　テキスト②「重要語句の確認」	全員
13	ディベートの実践（前半グループ）	全員
14	ディベートの実践（後半グループ）	全員
15	授業全体のまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	①基本的姿勢ができている。（聞き方、話し方、読み方、書き方） ②毎回学習する事項について予習復習をしている。	課題レポート	50	①形式・内容の両面において学習内容がレポートに反映されている。
口頭表現発表態度	20	①学習の内容を理解して発表している。 ②ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。 ③相手の意見をしっかり聞き、積極的に発言している。	研究レポート発表会	10	①周到な準備ができている。 ②定められた時間内にまとまった内容を発表している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①日本語表現法Ⅰで課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。［夏季休業中に10日～14日間］ ②ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。［120分］ ③レポート発表は、各自が自分に最適だと思われる方法を考え準備する。	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①日本語表現法Ⅰで学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習すること。 ②毎回Chromebookを持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 ③授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。	教科書・テキスト	『基礎からわかる話す技術』森口稔・中山詢子　くろしお出版　2017年　ISBN: 978-4-87424-727-3 『スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK７　東京書籍　2018(第13刷発行)　ISBN: 978-4‐487‐80364‐4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	日本語表現法Ⅰの単位を修得していること。に保語表現法Ⅰで使用したテキストを継続して用いる。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE090C 英語基礎			開講学科	短大	必修・選択	自由
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。	・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。 ・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。 ・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。

教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。	
2	Lesson 1: This is my everyday life.一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ。	
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。	
4	Lesson 2: Do you keep a diary?一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。	
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。	
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習	
7	Lesson 5: We love our town,Sakura-Yokocho.　場所の表現　基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。	
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現　時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。	
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival?　進行形　進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。	
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞　面接試験の場面を題材に義務･可能･許可などの表現の仕方を学ぶ。	
11	Lesson 9:　What does he look like?　Wh-疑問文　wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。	
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert?　基本動詞 get, have, come,　go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う	
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞　put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。	
14	Lesson 12: Let's take a trip.英語で自分を表現するために　英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。	
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができている。②質問して分かったことがノートにメモされている。③復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。［40分］不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。［20分］ ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。	随時行う

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社　2007年　ISBN:978-4-384-33378-7 C1082
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語FⅠ」を履修できない。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE135C 英語CⅠ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー　ボッシュ						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFRのB1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Occupationsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 although/but/because/soなどの接続詞が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1 (2) OccupationsについてDear Funture Selfと題した手紙を書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
4	Unit 2 (1) At the Dinner Tableをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 can/could/mightなどの接続詞の法助動詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2 (2) At the Dinner Tableついてレストランでの会話を完成させ､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
6	Unit 3 (1)Sportsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 always/usually/seldom/rarely/neverなどの頻度の副詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3 (2)Sportsについてグラフを読み取りレポートを書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
8	Unit 4 (1) Healthをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。不定詞、動名詞が正しく使えるようになる。	
9	Unit 4 (2)　Healthについてある患者の問診票を参考に、体調不良による病欠をする旨のメールを先生にあてて書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
10	Unit 5 (1) Musicをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。both A and B/neither A nor Bなどの相関接続詞が正しく使えるようになる。	
11	Unit 5 (2) Musicについてパンフレットからの情報を読み取る。ロックスターの日常を想像して書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	外部テスト　(特記事項参照)	
13	Unit 6 (1) At the Moviesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 see/watch/hear/feelなどの知覚動詞が正しく使えるようになる。	
14	Unit 6 (2) At the Moviesについて映画館の上映案内を読み取り友人に向けて映画に誘うメッセージを書き、発表し合う。 Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
15	Review (Unit 1 - Unit 6)に取り組む Unit 1～Unit 6　これまで学んだことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末ト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』 Teruhiko Kadoyama et al. 2021.年　成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE140C 英語CⅡ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー　ボッシュ						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFRのB1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語CⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　Unit 7 (1) Technology in Daily Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。SVOOとSVO　+ Prep. + I.Oの与格交替が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7 (2) Technology in Daily Lifeについてamazing inventionsの記事を参考に架空の発明品についてライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
3	Unit 8 (1) Social Networkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that節、wh-節などの名詞節が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8 (2)　Social NetworkについてSNSサイトのコメントを参考にSNSにアップする記事を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
5	Unit 9 (1) Looking on the Bright Sideをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。be/sense/keepなどの連結動詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9 (2) Looking on the Bright Sideのついて前向きな生き方についてのアドバイスを参考に、自分独自のアドバイスを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
7	Unit 10 (1) Love Affairsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that/who/whichなどの関係代名詞が正しく使えるようになる。	
8	Unit 10 (2) Love Affairsについてデートに誘うメッセージを参考に自分のメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
9	Unit 11 (1) Storytellingをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。who/whichの関係代名詞の制限用法/非制限用法が正しく使えるようになる。	
10	Unit 11 (2) Storytellingについてある寓話を読み、その続きを完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
11	Unit 12 (1)The Power of Wordsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。happy that/kind of sb. to Vなど形容詞補部が正しく使えるようになる。	
12	外部テストによる到達度確認（特記事項参照）	
13	Unit 12 (2) The Power of Wordsについてriddlesの作り方を参考に自分でもriddleを作り、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
14	Review (Unit 7 - Unit 12)に取り組み、Unit 7～Unit 12の復習、振り返りを行う。	
15	Unit 7～Unit 12　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』 Teruhiko Kadoyama et al. 2021年　成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE125C 英語DⅠ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川　真衣						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・世界遺跡をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣等の話題に用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。 ・理解した内容についてスピーキング、ライティングができる。 ・CEFRのA2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(助業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction Unit 1　世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する	
2	Unit 2（1）古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
3	Unit 2（2）古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する	
4	Unit 3（1）姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
5	Unit 3（2）姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する	
6	Unit 4（1）グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
7	Unit 4（2）グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、 Unit 5（1）万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
9	Unit 5（2）万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する	
10	Unit 6（1）マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
11	Unit 6（2）マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
12	外部テスト(特記事項参照)	
13	Unit 7（1）カッパドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
14	Unit 7（2）カッパドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う 前期の学習の確認、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年　三修社 ISBN:9784384334784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE130C 英語DⅡ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川　真衣						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・世界遺跡をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣あるいは新聞記事等で用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。 ・理解した内容についてプレゼンテーション、ライティングができる。 ・CEFRのA2+～B1レベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語DⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
2	Unit 8（2）自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する	
3	Unit 9（1）古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。	
4	Unit 9（2）古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表す	
5	Unit 10（1）知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
6	Unit 10（2）知床について前回学んだことを基にまとめ発表する Unit 8 ～ Unit 10の振り返り	
7	Unit 11（1)アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
8	Unit 11（2）アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
9	Unit 12（1）ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
10	Unit 12（2）ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
11	Unit 13（1）サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	13（2）サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
14	Unit 11 ～ Unit 13の振り返り Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてリサーチを行いプレゼンテーションの準備をする	
15	Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてプレゼンテーションを行う 振り返り、リフレクション最終提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク･リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年　三修社 ISBN:9784384334784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE115C 英語EⅠ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	山下　のぞみ						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・異文化理解、外国語学習など大学生に身近な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFRのA2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)異文化理解をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
3	Unit 1 (2) 異文化理解について前回のリーデングの要点を確認し、テキストの内容について自分の意見をまとめ、発表する	
4	Unit 2 (1) 和食をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
5	Unit 2 (2) 和食について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する	
6	Unit 3 (1) 外国語学習をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
7	Unit 3 (2) 外国語学習について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する	
8	Unit 1～Unit 3の復習、振り返り Unit 4 (1) スポーツをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
9	Unit 4 (2) スポーツについて前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する	
10	Unit 5 (1) ファッションをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
11	Unit 5 (2) ファッションについて前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 1～Unit5の復習、振り返り	
12	外部テスト(特記事項参照)	
13	Unit 1～Unit 5で学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチをする Unit 6 (1) 生き物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
14	Unit 6 (2) 生き物について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 7 (1) 芸術について英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
15	Unit 7 (2) 芸術について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する これまで学んだことの復習、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭･静哲人･望月正道著『Ambitions Elementary』2018年　金星堂 ISBN:9784764740549
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE120C 英語EⅡ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	山下　のぞみ						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・児童就労や長寿などの社会的な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFRのA2レベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り、short speeches on summer vacation等	
2	Unit 9（1）ニンジャをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
3	Unit 9（2）ニンジャについて前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 10（1）児童就労をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
4	Unit 10（2）児童就労について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 11（1）長寿をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
5	Unit 11（2）長寿について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 9 ～ Unit 11の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする	
6	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 12（1）騒音公害をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
7	Unit 12（2）騒音公害について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 13（1）食物廃棄をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
8	Unit 13（2）食物廃棄について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 12 ～ Unit 13の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする	
9	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 14（1）ダンスクラブと法規制をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する	
10	Unit 14（2）ダンスクラブと法規制についてリーデング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認の後、意見発表の準備をする	
11	Unit 14（3）ダンスクラブと法規制について意見を発表する Unit 15（1）ドローンを例に科学技術の進歩をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	Unit 15（2）ドローンを例に科学技術の進歩についてリーデング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認し、意見発表の準備をする	
14	Unit 15（3）ドローンを例に科学技術の進歩について意見を発表する Unit 12 ～ Unit 15の復習、振り返り、その中からテーマを各自一つ選びプレゼンテーションの準備をする	
15	各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う､振り返り リフレクション最終提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク･リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭･静哲人･望月正道著『Ambitions Elementary』2018年　金星堂 ISBN:9784764740549
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE105C 英語FⅠ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村　ゆかり・茶谷　丹午　（代表教員　木村　ゆかり）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・自己紹介、住む町など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができる。 ・CEFRのA1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1（1）動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する	
3	Unit 1（2）自己紹介文の構成を理解し､自分の自己紹介文を作り発表する	
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の住む町について説明する	
5	Unit 2（2）自分の住む町について説明する文を理解し､自分の住む町についてライティングと発表を行う	
6	Unit 3（1）時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて休日の過ごし方を述べる	
7	Unit 3（2）休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う Unit 1 ～ Unit 3の振り返り	
8	Unit 4（1）英語の基本文型を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の持ち物について説明する表現を学ぶ	
9	Unit 4（2）自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う	
10	Unit 5（1）動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてある日の行動についての表現を学び、自分のある日の習慣的行動を作文する	
11	Unit 5（2）自分のある日の習慣的行動について発表を行う Unit 6（1）進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて過去と現在における自分の変化を述べる表現を学び、作文する	
12	外部テスト(特記事項参照)	
13	Unit 6（2)過去と現在における自分の変化についての発表を行う Unit 7（1）未来形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の未来の目標や夢について述べる表現を学び、作文する	
14	Unit 7（2)自分の未来の目標や夢についての発表を行う Unit 4 ～ Unit 7の振り返り	
15	Unit 1～Unit 7　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う､振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	Robert Hickling・臼倉美里著『English First Basic』2014年　金星堂　ISBN:9784764739703
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE110C 英語FⅡ			開講学科	短大	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村　ゆかり・茶谷　丹午　（代表教員　木村　ゆかり）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・今後の予定、大学についての説明など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができる。 ・CEFRのA1レベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて今後の予定を述べる表現を学ぶ	
2	Unit 8（2）今後の予定について述べる英文を理解し、自分の今後の予定について作文する発表を行う	
3	Unit 9（1）不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる	
4	Unit 9（2）他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてこれまでの経験について述べる表現を学ぶ	
6	Unit 10（2）これまでの状況や経験を説明する英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う	
7	Unit 11（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じていろいろな場面での自分の感情について述べる	
8	Unit 11（2）自分がどのような時にどのような感情をもつかについての発表を行う Unit 8～Unit 11の振り返り	
9	Unit 12（1）比較表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてスポーツや人物を比較する表現を学び、自分の2人の友人についての作文をする	
10	Unit 12（2）自分の2人の友人についての発表を行う Unit 13(1) 受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてお気に入りの映画等ついて説明する表現を学び、作文をする	
11	Unit 13（2）自分のお気に入りの映画について発表を行う Unit 14（1）分詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて絵に描かれている状況を説明する表現を学び、作文をする	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	Unit 14（2）絵に描かれている状況説明の発表を行う Unit 15（1）　関係詞の用法を確認しつつ、一年間の活動やある場所を説明する表現を学び、自分の大学についての作文をする	
14	Unit 15（2）自分の大学についての発表を行う Unit 12 ～ Unit 15の振り返り	
15	これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	（小テスト・発表・タスク･リフレクション等） ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	Robert Hickling・臼倉美里著『English First Basic』2014年　金星堂　ISBN:9784764739703
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE165C ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	短大	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills（福島県）では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)	①自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。 ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。 ④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。 ⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。 ⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。 ⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。

教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等）※参加希望者は必ず出席すること。	
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。	
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。	
4	British Hills（以下BH）(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。	
5	BH(2)Interview & Orienteering:BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。	
6	BH(3)Dance：英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。（※受講者が８名に満たない場合には別のテーマになる)	
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。	
8	BH(5)　British Wedding：イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。	
9	BH(6)　World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。	
10	BH(7) Travel in UK：英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。	
11	BH(8)Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。	
12	BH(9)Culture and Manners：挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。	
13	BH(10)Group presentation 3:　最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。	
14	BH(11)Group presentation 4:　最終プレゼンテーション　自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。	
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身につける。 ③英語運用力測定。	BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はどのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]	随時行う

受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。	教科書・テキスト	Akira Morita他.『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情によりBHでの研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE175C ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	10	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する。 ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する。
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する。	事後学習	20	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する。 ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE175C ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC			開講学科	コミ	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	10	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する。 ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する。
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する。	事後学習	20	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する。 ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100C 生涯ｽﾎﾟｰﾂA（ｺﾞﾙﾌ）			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ゴルフの競技特性を理解する。 ② ゴルフの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	
5	ショットの基本③：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。	
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール･･･スイング及びフェースの向きによって生じる 9 種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	
7	ショットの基本⑤：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに 結びつける。	
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術 を習得する。	
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	
11	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	
12	ターゲットバードゴルフ①　ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	
13	ターゲットバードゴルフ②ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	
14	ショートゲームテストとまとめ	
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主にグランドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100C 生涯ｽﾎﾟｰﾂA(ﾃﾆｽ)			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	リモート及び対面授業によるスポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	田邊
2	グリッピング、ラケットワーク	田邊
3	基本ストローク（フォア）１：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	田邊
4	基本ストローク（フォア）２：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。	田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	田邊
11	ゲーム１：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	田邊
12	ゲーム２：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	田邊
13	ゲーム３：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。	田邊
14	ゲーム４：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。	田邊
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	田邊

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。　その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することが原則です。 運動ができる服装で参加して下さい。 主に屋外テニスコートで実技を行います。外履き用の運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子など用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100C 生涯ｽﾎﾟｰﾂA（ｺﾞﾙﾌ）			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ゴルフの競技特性を理解する。 ② ゴルフの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	永山
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	永山
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	永山
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	永山
5	ショットの基本③：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。	永山
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール･･･スイング及びフェースの向きによって生じる 9 種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	永山
7	ショットの基本⑤：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに 結びつける。	永山
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術 を習得する。	永山
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	永山
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	永山
11	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	永山
12	ターゲットバードゴルフ①　ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	永山
13	ターゲットバードゴルフ②ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	永山
14	ショートゲームテストとまとめ	永山
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	永山

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主にグランドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100C 生涯ｽﾎﾟｰﾂA（ﾃﾆｽ）			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	リモート及び対面授業によるスポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	田邊
2	グリッピング、ラケットワーク	田邊
3	基本ストローク（フォア）１：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	田邊
4	基本ストローク（フォア）２：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。	田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	田邊
11	ゲーム１：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	田邊
12	ゲーム２：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	田邊
13	ゲーム３：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う	田邊
14	ゲーム４：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う	田邊
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	田邊

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業　参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
課題レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。 その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することが原則です。 運動ができる服装で参加して下さい。 主に屋外テニスコートで実技を行います。外履き用の運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子など用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE110C 生涯ｽﾎﾟｰﾂB			開講学科	短大	必修・選択	選択
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って　若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。 ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいと考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）	① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。 ② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。	
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。 （ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　タグラグビーの基礎的技術を習得する。	
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとして スポーツに親しむ礎とする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。　その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE110C 生涯ｽﾎﾟｰﾂB（集中講義：ｺﾞﾙﾌｾﾐﾅｰ）			開講学科	短大	必修・選択	選択
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本野外活動プログラムは 4 日間にわたる集中講義にて行う。 ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーフィーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関与していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー（本頁）」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照） ※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。 ※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。	① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 ② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 ③ グリップ、ポスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。 ④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。 ⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。 ⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。 ⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。

教授方法	ゴルフ実技　（大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習）
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握／用具の準備。	永山、田邊
2	【実習　1 日目　午前Ⅰ】　開講式／レッスン①：スタンスの確認（グリップ、ポスチャー、エイミング） ショートスイング　～　スリークォータースイング（ 9Ⅰ）	永山、田邊
3	【実習　1 日目　午前Ⅱ】　レッスン②：スリークォータースイング　～　ハーフスイング（ 9Ⅰ）	永山、田邊
4	【実習　1 日目　午後Ⅰ】　レッスン③：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ）	永山、田邊
5	【実習　1 日目　午後Ⅱ】　レッスン④：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰ）	永山、田邊
6	【実習　2 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑤： 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。 また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。／VTR 撮影	永山、田邊
7	【実習　2 日目　午前Ⅱ】　レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。 ／ VTR撮影	永山、田邊
8	【実習　2 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング（ゴルフ練習場）。	永山、田邊
9	【実習　2 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。	永山、田邊
10	【実習　3 日目　午前Ⅰ】レッスン⑨：VTR によるフィードバック／クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。	永山、田邊
11	【実習　3 日目　午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習／グルーピング ／打ち込み。	永山、田邊
12	【実習　3 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑪：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。	永山、田邊
13	【実習　3 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑫：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。 ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。	永山、田邊
14	【実習　4 日目　午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。	永山、田邊
15	【実習　4 日目　午後】 ラウンド実習②：本コース 9ホールのハーフラウンド体験を行う。／閉講式	各担当者

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	実習終了後のレポート評価	20	1．指定されたフォーマットに準じて記載されている。 2．本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔1回60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 ４日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。 詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。（事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE110C 生涯ｽﾎﾟｰﾂB（集中講義：ｽｷｰｾﾐﾅｰ）			開講学科	短大	必修・選択	選択
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県栂池高原スキー場にて３泊４日の合宿形式にて行う。 スキーはウインタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをねらうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの醸成なども合宿を通して学習し、“スキーヤー”としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー（本頁）」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照） ※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。 ※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。	① スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 ② スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 ③ スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。 ④ ウインタースポーツを通じた人間関係能力を養う。 ⑤ ウインタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。 ⑥ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑦ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スキー実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備（用具とその使用法の説明、パッキング）	永山、田邊
2	【実習　1 日目　午後Ⅰ】 開講式／クラス編成確認（技術レベル別に編成）	各班担当者
3	【実習　1 日目　午後Ⅱ】 クラス別レッスン①	各班担当者
4	【実習　1 日目　夜】 講義：スキー技術の変遷／スキー用具のメインテナンス	永山、田邊
5	【実習　2 日目　午前Ⅰ】　VTR 撮影／クラス別レッスン②	各班担当者
6	【実習　2 日目　午前Ⅱ】 クラス別レッスン③	各班担当者
7	【実習　2 日目　午後Ⅰ】 クラス別レッスン④	各班担当者
8	【実習　2 日目　午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑤／ VTR 撮影	各班担当者
9	【実習　2 日目　夜】　VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキーのメインテナンス	永山、田邊
10	【実習　3 日目　午前Ⅰ】　VTR 撮影／クラス再編成／クラス別レッスン⑥	各班担当者
11	【実習　3 日目　午前Ⅱ】 クラス別レッスン⑦	各班担当者
12	【実習　3 日目　午後Ⅰ】 クラス別レッスン⑧	各班担当者
13	【実習　3 日目　午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑨／ VTR 撮影	各班担当者
14	【実習　3 日目　夜】　VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキー用具のメインテナンス	永山、田邊
15	【実習　3 日目　午前】 クラス別レッスン⑩／閉講式	各班担当者

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	実習終了後のレポート評価	20	1．指定されたフォーマットに準じて記載されている。 2．本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔最低1日〕 ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 ３泊４日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。 詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。（事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC100C ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
①人の一生と働くことの関わり、そして働くことの多面的な意味について理解する。 ②自己分析を通して、自分の長所・短所・強み・弱み等を認識し、「自分が何をしたいのか」「自分がどのような仕事に向いているのか」等について理解する。 ③働き方として、企業、ＮＰＯそして公務員の特徴と役割について理解する。多面的な業界研究を通して業界・企業理解を深める。 ④日本国憲法上の規定や労働基準法等労働関係法規が働く人の権利を守っていることを理解する。	本講義の目指すところは、自分自身を振り返り、働くことの意義や職業世界の仕組みについて学ぶことを通して、自己理解を深め、職業世界や産業への関心を高め、理解を深めることである。 それにより、自らの人生をどのように構築していったらよいのかについて学ぶこととなる。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方とその目的について理解する。 キャリアデザインの基礎理解、即ちキャリアデザインの意味、その目的そしてその方法について理解する。	
2	キャリア発達の基本的な考え方である「ライフキャリア」と「ライフロール」について理解する。『ライフ・キャリアの虹』の「人生の８つの役割」を手掛かりに「どのような人生を送りたいのか」について考える。	
3	キャリアデザインの基本として「働くことの意味」について考える：『マズローの欲求の5段階説』を手掛かりに職業の持つ多面的な意味について理解する。	
4	自分を知る❶　自分を正しく知るには「自己分析」といわれる作業が必要となる。この講義では、自己分析の目的とその方法について理解する。	
5	自分を知る❷　『ライフラインチャート』及び『ジョハリの窓』から、自らの認知されている性格を確認し、更に認知されてこなかった未知の性格を探る。	
6	自分を知る❸　『キャリアアンカー』からさまざまな職業観を理解し、更に自らの職業観を探る。	
7	自分を知る❹　仕事に必要な「対人能力」、「対自己能力」、そして「対課題能力」等の『職業能力としての５つの基礎力』ついて理解する。	
8	業界・企業研究❶　企業、特に株式会社の基本的な特質と今日的な課題について理解する。	
9	業界・企業研究❷　わが国の製造業等主要産業の特徴と新たな動き、そして今日的な課題について理解する。	
10	業界・企業研究❸　NPOそして公務員の特徴と役割について理解する。特に、NPOの新たな働きと今日的な課題について理解する。	
11	業界・企業研究❹　地方公務員制度の現状と抱える課題について理解する。	
12	業界・企業研究　栄養士と管理栄養士の職務内容と今日的な意義について理解する。	
13	業界・企業研究❻　具体的な業界・企業等を対象とする個別研究の意義とその方法について理解する。	
14	働く世界について知る：・「非正規雇用」について理解する。・「フリーター」について理解する。・「若者の早期離職」について理解する。	
15	働く上で必要な法律の基礎知識について学ぶ：日本国憲法第27・28条を根拠とする労働関係法規が働く人の権利を守っていることを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについては、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。	事後の課題・レポート	80	レポートについては、課題の意図を的確に理解し、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
❶事前に提示したレジュメについて、目を通しておくこと。[30分] ❷授業終了後、テキストをもとに、新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。[60分]	授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	授業毎にレジュメを配布する。
指定図書／参考書等	指定図書：なし／参考書：❶『働くひとのためのキャリア・デザイン』　金井壽宏著　PHP新書187（PHP研究所）　2002年10月　❷『キャリアデザイン入門［Ⅰ］』大久保幸夫著　日本経済新聞出版社　ISBN 978-4-532-11096-3　❸『学生のためのキャリアデザイン入門＜第2版＞』 渡辺峻・伊藤健市編著　中央経済社　ISBN 978-4-502-08020-3 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC100C ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業のねらいは、本学において、学生生活の目的や目標を明確にし、計画的な日々を送ることができるようにすることにある。同時に、将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造について知ることを通して、意欲的な人生設計への実現に向けた実践的な選択行動がとれるようにする。	① 自分自身を知り、社会を知って、自らの夢や目標を明確化する ② その夢や目標の実現に向け、大学生活をどう過ごすかを考え、実践に繋げていく ③ 卒業後どのような生き方、働き方をしたいかを自ら主体的に考える姿勢を持つ

教授方法	講義、ペアワーク、グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　-キャリアとは何か、キャリアデザインとは何か、および授業の進め方について理解する-	
2	学生生活とキャリア －社会で働くために必要な力と 態度について考え、現在の自分の基礎力測定とその向上プランを作成する－	
3	自分を知る（1）（キャリアアンカー） －自分のこだわりを知り、そのこだわりを育てる方法を理解する-	
4	社会人としてのマナー（1）（傾聴） －傾聴とは何か、そして学生生活において傾聴スキルを身に付ける意味を理解する－	
5	社会人としてのマナー（2）（アサーション） －アサーションとは何か、そして学生生活において傾聴スキルを身に付ける意味を理解する－	
6	自分を知る（2）（一皮むけた経験） －自分が成長した経験を振り返り、どんな経験が自分を成長させるのかを知る。 今後の学生生活へのヒントを学ぶ－	
7	働くということ －働くこととは何かを学び、将来のために、今、何をすべきかの ヒントを手に入れる－	
8	就職活動を知る －今後の就職活動の流れと、その準備について理解する－	
9	業界・企業研究 －業界研究・企業研究の方法を学び、今から準備すべきことを考える－	
10	会社と仕事（1） －会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ－	
11	会社と仕事（2） －会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ－	
12	キャリアと雇用形態 －雇用形態と諸問題を理解した上で将来をプランし、学生生活ですべきことを学ぶ－	
13	学生生活を面白くする（セレンディピティ：計画された偶発性） -どんな行動が幸運につながるのかを知り、日常生活でその行動を心掛ける－	
14	学生生活のデザイン －これまでの授業を振り返り、学生生活をどのように過ごすかのプランを作成する－	
15	まとめと最終課題	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業課題	40	毎回の振り返りシート、キャリアインタビューなどの提出課題を評価する。	最終課題	50	授業の到達目標への達成度を評価する。
授業への参加態度	10	授業への取り組み状況を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること。［30分］ ②授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。［30分］	①振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する ②提出課題にはコメントをつけ返却する

受講生に望むこと	Realize Your Mission－自分のミッションを見つけ出し、またその準備のための充実した学生生活を送るために、真剣に授業に取り組んでほしい。	教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布します）
指定図書／参考書等	なし／「キャリアデザイン入門Ⅰ（基礎力編）」第2版　大久保幸夫　日経文庫　2016年　ISBN978-4-532-11352-0 「学生のためのキャリアデザイン入門＜第３版＞」渡辺峻他編著　中央経済社　2015年11月　ISBN978-4-502-17061-4	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC110C ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美・田中　康司　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目指すところは、キャリアデザインⅠの講義内容に続き、働くことの意義と職業世界の仕組みについての学びを更に深め、働くことと職業世界や産業への関心を一層高め、理解を一層深めることである。それにより、自らのキャリアをデザインしていくことの重要性をますます認識することとなる。	①わが国の労働環境を含む経済社会を時系列に体系的に学ぶことにより、わが国における労働社会の特徴を理解する。 ②「働き方改革」にみられる現在の労働政策を具に観察することにより、わが国の労働社会が大きく変貌していることを理解する。これらの学びを通して、これからの自らのキャリアデザインについて関心を高める。 ③マナー講座を通して、働くときのマナーやルールを理解する。 ④働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶことにより、労働基準法等によって、働く人たちがどのように守られているのかについて理解する。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 外的環境について学ぶ❶ ： わが国の社会や経済における組織の在り方や仕組みがどのように変化してきているのかについて理解する。特に、1950年代から1980年代までと1990年代以降の日本型雇用システムの特徴について理解する。	田中康司
2	外的環境について学ぶ❷ ： わが国が直面している最大の課題は「少子高齢化社会の到来」であることを理解する。人口減少社会への転換と世界的な構造変動に対する理解から、自律的なキャリア形成及び能力開発の必要について学ぶ。	田中康司
3	エンプロイアビリティ ： 多種多様な生き方・働き方を自主的・自覚的に選択し、自己の価値観・職業観に適応する仕事を求めて生きていくために必要な専門的な職業的能力であるエンプロイアビリティ（雇用されうる能力）について学ぶ。	田中康司
4	働き方改革❶　長時間労働の是正 ： 日本の労働状況の特徴、長時間労働がもたらすリスク、そして長時間労働に陥る5つの原因を理解し、その結果としての、時間外労働の法的上限の導入と長時間労働を是正する5つの対策について学ぶ。	田中康司
5	働き方改革❷　柔軟な働き方 ： 柔軟な働き方を可能にする労働時間制度としての「裁量労働制度」「フレックスタイム制度」「テレワーク」そして「高度プロフェッショナル制度」について理解する。	田中康司
6	働き方改革❸　同一労働同一賃金の意義と導入の目的 ： 非正規労働者の状況、同一労働同一賃金推進の対象者、同一労働同一賃金実現のための法律、正規労働者と同視される非正規労働者の均等待遇の内容そして同一労働同一賃金のメリットとデメリットについて理解する。	田中康司
7	働き方改革❹　そもそも同一労働同一賃金とは ： 同一労働同一賃金についての日本とアメリカ・EU諸国の考え方の違いについて理解する。	田中康司
8	働き方改革　　同一労働同一賃の実現 ： 同一労働同一賃金の実現を図るための「職務給制度」等の賃金制度と、「ジョブ型雇用」等の雇用制度の理解を通して、わが国の雇用システムの見直しについて考える。	田中康司
9	就職活動の進め方を学ぶ ： 履歴書・エントリーシートの役割を理解する。更に、「自己PR」の書き方を学ぶ。	田中康司
10	マナー講座❶	外部講師
11	マナー講座❷	外部講師
12	マナー講座❸	外部講師
13	マナー講座❹	外部講師
14	働く人たちを守る「労働三法」と「労働組合」 ： 「労働基準法」「労働組合法」「労働関係調整法」の三つの法律は労働者を守るための法律であり、その内労働者が労働組合を組織し団結することを保障するのが労働組合法であり、労働者が使用者と対等の立場での交渉を促進することにより、労働者の地位を向上させること等を目的としていることを理解する。	田中康司
15	現代社会のダイナミックな流れを象徴する「男女雇用機会均等法」と「労働者派法」 ： 男女雇用機会均等法は、男女共同参画社会の実現を目指していく過程で、雇用の分野で両性が平等の立場で生産活動に関与することを保障するものであり、労働者派遣法は、雇用状況が多様化してきている中で、異なった働き方の中での不合理な待遇差解消を目指していることを理解する。	田中康司

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについては、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。	事後の課題・レポート	80	レポートについては、課題の意図を的確に理解し、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に提示したテキスト・資料について、目を通しておくこと。[30分] ②授業終了後、テキスト等をもとに、関係書籍・新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。[60分]	授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	授業毎にテキスト・資料を配付する。
指定図書／参考書等	指定図書：なし／参考書等：　『キャリアデザイン入門［Ⅰ］』　大久保幸夫著　日本経済新聞出版　ISBN 978-4-532-11096-3　②『学生のためのキャリアデザイン入門＜第2版＞』　渡辺峻・伊藤健市編著　中央経済社　ISBN 978-4-502-08020-3 その他、講義時に紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC110C ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			開講学科	コミ	必修・選択	選択必修
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
卒業後の新たなスタートの準備を迎えるために、実際のキャリアについての事例を知ることにより、今後の生き方について考える（動画、記事など）。	多くの人生を知り、自分の今後の生き方について深く考え、あらためてキャリアデザインを行う。

教授方法	講義とディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション	
2	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える①（動画視聴）	
3	視聴した動画①について、小レポートを作成する①	
4	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える②（動画視聴）	外部講師
5	視聴した動画①について、小レポートを作成する②	外部講師
6	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える③（動画視聴）	
7	視聴した動画①について、小レポートを作成する③	
8	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える④（動画視聴）	
9	視聴した動画①について、小レポートを作成する④	
10	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑤（動画視聴）	
11	視聴した動画①について、小レポートを作成する⑤	
12	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑥（動画視聴）	
13	視聴した動画①について、小レポートを作成する⑥	
14	さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える⑦（動画視聴）	
15	まとめと振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	90	動画視聴後の小レポート（７回分）を評価する			
授業の参加態度	10	授業への取り組み状況。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること。［30分］ ②授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。［30分］	提出された小レポートの一部のフィードバックを授業内で実施する。

受講生に望むこと	卒業までの大切な時期に、自分のミッションについてあらためて考え、有意義な人生を送る準備をしてほしい。	教科書・テキスト	授業内で適宜提示する。
指定図書／参考書等	なし／「キャリアデザイン入門Ⅰ（基礎力編）」大久保幸夫　日経文庫　2006年3月　ISBN978-4-532-11096-3	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC160C 情報機器演習A			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
本演習の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、プレゼンテーションの各ソフトウェア、電子メールの操作方法を習得する。第２は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。	①学内の情報環境を知り、ChromeとWindowsの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④Word、Excel、PowerPointの基本操作を習得し、必要に応じたレポートの作成ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学内の情報環境を知る。ChromeOSとWindowsOSの使用法、さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信および情報倫理に関する基本的な知識を身につける。	
2	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。	
3	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、レポート作成に必要な操作方法を習得する。	
4	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしを作成する。	
5	Word作成課題：課題の文書を完成させ、提出する。課題提出①	
6	Excel基本操作・Excel関数①：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数・ランク付け関数の操作方法を習得し、相対参照と絶対参照との違いを理解する。	
7	Excel関数②：表引き関数・条件分岐関数の操作方法を習得する。	
8	Excelデータ加工①：基本的なグラフの作成方法を習得する。	
9	Excelデータ加工②：データの加工・並べ替え方法を習得する。	
10	Excelデータ活用①：ピボットテーブルの作成・編集を習得する。	
11	Excelデータ活用②：効率のよい書類の作成方法を習得する。	
12	Excel作成課題：課題のファイルを完成させ、提出する。課題提出②	
13	Word・Excel総合活用：Excelで作成した表・グラフのWordへの挿入に必要な操作方法を習得し、レポートの形式と構成を理解する。	
14	Word・Excel総合課題：課題のファイルを完成させ、提出する。課題提出③	
15	PowerPoint基本操作：スライドデザインの設定、オブジェクトの追加と操作等の基本操作を習得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題提出	50	Word、Excelで体裁の整ったファイルを作成できるか。	情報倫理	20	授業で学んだ知識を習得しているか。
電子メール	20	授業で学んだ知識を習得し、電子メールを利用できるか。	授業参加態度	10	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[60分]	提出された課題は、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本演習を通じて、パソコンを道具として使いこなし、情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』　noa出版　2017年　ISBN 978-4908434662 『2021年度版　情報倫理ハンドブック』 noa出版　2022年
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	数回Chromebookを持参する必要がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC160C 情報機器演習A			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第２は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。	①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。 ⑤Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。 ⑥Googleドキュメントで文章を作成し、Classroomにより提出することができるようになる。 ⑦Googleスプレッドシートの基本操作を知る。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	各自のChromebookを使用してGoogleドキュメントを作成し、Classroomにより提出する方法を習得する。	
2	各自のChromebookを使用したGmailの送受信方法を習得する。学内の情報環境を知る。Windowsの基礎操作とさまざまな文字の入力方法を身につける。	
3	情報倫理：インターネットを利用する際のマナーやモラルを身につける。	
4	Word①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。	
5	Excel①：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。	
6	Excel②：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。	
7	Excel③：条件分岐関数の操作方法を習得する。	
8	Excel④：表引き関数の操作方法を習得する。	
9	Excel⑤：これまで学習したExcel操作について振り返りを行い、小テストで習熟度の確認を行う。	
10	Excel⑥：基本的なグラフの作成方法を習得する。	
11	Excel⑦：データの並べ替え・抽出方法を習得する。	
12	Word②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。	
13	Word③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。	
14	総合課題：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。	
15	スプレッドシート：基本的な操作方法を学ぶ。Ecxelとの違いを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
情報倫理小テスト	10	授業で学んだ知識を習得しているか。	Excel小テスト	30	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。
総合課題	15	Excelで作成した表やグラフを挿入し、Wordで体裁を整えることができるか。	授業参加態度	45	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分] ②14回目の授業で、総合課題を課す。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取組むこと。[60分以上]	①小テスト（情報倫理）は、Google Classroomで返却する。 ②小テスト（EXCEL）は、点数を次回の授業の冒頭で連絡する。 ③課題は、コメントを付けて次回の授業の冒頭で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』　第2版　noa出版　2017年出版 ISBN:978-4908434662 『2022年度版　情報倫理ハンドブック』 noa出版 2022年出版
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	数回、Chromebookを持参する必要があります。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC170C 情報機器演習B			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
プレゼンテーション用ソフトウェア「PowerPoint」の基本的操作を習得し『食と栄養 発表会』の企画・運営と発表とを行う。併せて「Excel」上で動作するフリープログラム「HAD」の基本的操作を習得しデータの分析と結果の解釈を行うことを通して、コンピュータリテラシーと情報リテラシーを高めることを目的とする。	①「PowerPoint」の基本操作を習得する。 ②『食と栄養 発表会』を企画し、必要に応じてWebメールや「PowerPoint」「Word」「Excel」等のソフトウェアを活用して準備をすることができる。 ③プレゼンテーションでの効果的な資料について理解し、「PowerPoint」で作成した資料を使って発表することができる。 ④HADの基本操作を習得し、データの分析・結果の解釈ができる。

教授方法	演習
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	PowerPoint基本操作：グラフや図形の挿入、アニメーションの使用方法等を習得し、効果的なプレゼンテーションのためのテクニックを習得する。	
2	『食と栄養 発表会』準備①：食と栄養に関する既存のプレゼンテーション資料に目を通し、食と栄養に関するプレゼンテーション資料づくりと発表会の全体像とをイメージする。その上で必要な役割を把握し、準備作業を分担する。	
3	PowerPointプレゼンテーション資料作成①：PowerPointプレゼンテーションの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。	
4	PowerPointプレゼンテーション資料作成②：食物・栄養をテーマにしたスライドを作成するための資料を収集する。	
5	PowerPointプレゼンテーション資料作成③：食物・栄養をテーマにしたスライドを作成する。	
6	PowerPointプレゼンテーション資料作成④：食物・栄養をテーマにしたスライドを作成する。	
7	PowerPointプレゼンテーションリハーサル：発表会を想定してリハーサルをすることにより、PowerPointの操作と時間配分を確認するとともに、わかりやすい発表のための工夫を考える。	
8	『食と栄養 発表会』準備②：準備作業の点検を行い、発表会当日の運営・役割分担を確認する。発表資料を完成させる。	
9	『食と栄養 発表会』：役割を分担して発表会を進行し、自分の作成した「食と栄養」についてのプレゼンテーションを行う。	
10	『食と栄養 発表会』全体評価・PowerPointプレゼンテーション相互評価：発表会の運営の反省を行う。他の受講者の発表から良い例を学ぶとともに自分の作品の改善点を整理する。	
11	統計処理①：質的データ(順序尺度)間の関連性をノンパラメトリックな推測統計の手法(ウィルコクソンの符号付き順位検定)を用いて分析し、結果の解釈を行う。	
12	統計処理②：質的データ(名義尺度)間の関連性をクロス集計とノンパラメトリックな推測統計の手法(カイ二乗検定)を用いて分析し、結果の解釈を行う。	
13	統計処理③：量的データ(比率尺度)間の関連性をパラメトリックな推測統計の手法(ｔ検定)を用いて分析し、結果の解釈を行う。	
14	統計処理④：量的データ(間隔尺度・比率尺度)間の関連性を相関分析と回帰分析とを用いて分析し、結果の解釈を行う。	
15	課題演習：課題データの分析を行い、結果の解釈、考察をレポートにまとめ提出する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確であること。作成したスライドが分かりやすく効果的であること。目線や話し方に注意し、聞き手に伝わる発表ができること	統計処理	40	目的に沿った方法を用いて、適切にデータ分析ができること。結果の解釈が正しく行えること
授業参加態度	20	課題への積極的取り組み、グループ活動への能動的参加と役割の遂行			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業で学んだ知識・技能が定着するよう復習すること[60分]	課題レポートはコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	この授業での主な内容はプレゼンテーションと統計処理という栄養士、栄養教諭にとって基本的かつ重要なスキルである。授業時間外での復習をしっかり行ない、コンピュータリテラシー・情報リテラシーを高めてほしい。	教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』　noa出版　2017
指定図書／参考書等	なし／『30時間でマスタープレゼンテーション＋PowerPoint2013』　実教出版　2014　ISBN978-407-33267-4	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC170C 情報機器演習B			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。代表的なアプリケーションであるPowerPointの基本的操作を習得し、プレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。また、近年データ入力やアンケートの多くがフォームで実施されている。Googleフォームの基本的操作を習得し、データ収集・管理する力を養うことを目指す。	①Excelで複合グラフが作成できる。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、PowerPointで資料を作成して発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤Googleフォームの基本操作を習得する。 ⑥Googleスライドの基本操作を知る。

教授方法	演習
履修条件	「情報機器演A」の履修済が望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Ａで学んだ関数の振り返りを行う。	
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。	
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。	
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。	
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。	
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。	
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。	
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。	
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
12	Googleスライド：基本的な操作方法を学ぶ。PowerPointとの違いを知る。	
13	Googleフォーム①：簡単なアンケートを作成し、基本操作を習得する。	
14	Googleフォーム②：オリジナルアンケートを作成する。	
15	Googleフォーム③：アンケート結果をまとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。	プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
アンケート作成とまとめ	20	フォームでアンケートを作成できるか。その結果をわかりやすくまとめることができるか。	授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①6回目に発表用のスライドを作成する。8回目の授業までに完成させること。[45分] ②7回目に発表用の原稿を作成する。9回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。[45分] ③8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、10回目の授業の前までに提出する。[30分] ④9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、充分な練習をする。[60分以上]	提出物（プレゼン発表含む）はGoogleClassroomでコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配布する）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	情報機器演習Aで使用した教科書『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』noa出版を一部使用する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB110C 学びの基礎			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	上農　肇・坂井　良輔・茶谷　信一・西　正人　（代表教員　上農　肇）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
短期大学部食物栄養学科へ入学直後の初年次教育に位置づく科目である。科目選択と資格取得との関係、大学での授業の聴き方と心構え、ノートのとり方やレポートの書き方、卒業後のライフプランを踏まえた２年間の大学生活プラン設計等について演習を通して学ぶ。	①大学での授業に臨む準備やノートテイクの要領等を理解し、入学当初から講義や大学生活に円滑に移行できる。 ②レポート作成の基本的な手法を理解するとともに、学んだことを生かして作法に則ったレポートが実際に書ける。 ③計画的な学生生活を送り、卒業後の社会生活へ円滑に移行できるよう、在学中と将来の各自のライフプランを作成し、目標に向けて努力することを意識できる。

教授方法	講義と演習を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーションと仲間づくり　　初年次教育としての授業のねらいや進め方の説明、人間関係づくりのグループ活動を学ぶ。	上農
2	大学で学ぶということ　　アクティブ・ラーニングに必要なスタディ・スキルの概要を知り、大学での学び方を理解する。	坂井
3	学生生活と食物栄養学科での学び　　入学した現時点での、将来のなりたい自分のカレッジライフ・プランを、見える化する。	坂井
4	大学でのノートのとり方　　講義中のノート・テイキングは、どうすればよいか、複数のミニ模擬講義をとおして理解する。	坂井
5	文献類の読解①　　食物栄養学科で必要となるリーディングの基本スキル、特に二度読み方式とキーセンテンス方式のマーキングとを演習を通して理解する。	上農
6	大学図書館の活用①　　大学図書館での情報収集や利用に求められる、基本事項やルールを理解する。	上農
7	文献類の読解②　　食物栄養学科で必要となる要約作成のポイントを把握し、その要領について演習を通して理解する。	上農
8	レポート作成の基本　　レポートと作文の違い、レポートの基本的な構成及び作成手順等について理解し、レポート作成の基盤の一つであるリーディングと要約スキルの定着を図る。	上農
9	文献類の読解③　　専門性の高い資料や文献を読み、課題や演習をとおして正しく内容を理解しているかを確認する。	西
10	文献類の読解④　　専門性の高い資料や文献を読み、課題や演習をとおして正しく内容を理解しているかを確認する。	西
11	文献類の読解⑤　　生化学や科学の基礎などの科目に関連する専門性の高い文献を読み、演習をとおして正しく内容を理解しているかを確認する自学教材による学習。	西
12	大学図書館の活用②　　レポート作成の必須事項である情報の効率的な収集、文献リストの作成等を理解する。	上農
13	栄養士としての計算技能の育成①　　食品に含まれる各種栄養素の比率や適正な摂取量等を求める等、栄養士としての業務に必要な計算技能の基礎を養う（四則計算）。	茶谷
14	栄養士としての計算技能の育成②　　食品に含まれる各種栄養素の比率や適正な摂取量等を求める等、栄養士としての業務に必要な計算技能の基礎を養う（割合）。	茶谷
15	栄養士としての計算技能の育成③　　食品に含まれる各種栄養素の比率や適正な摂取量等を求める等、栄養士としての業務に必要な計算技能の基礎を養う（比例）。	茶谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
プリント作成と提出状況	40	授業中に演習する各種プリントの期限までの提出と量的・質的な内容	レポートの提出とその成果	40	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び演習への参加状況	20	演習への能動的な参加（発言・応答）とグループ活動等における積極的な役割分担			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
全15 回の授業期間中に、テキスト全体の通読を終えることが望ましい。また、食料・食材・栄養等に関する新聞やテレビの報道には、特別の関心を持ち、意識して目を通すようにすること。	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	プリントを中心とする演習を通して学ぶことが多いため、提出を求められたプリント類は必ず期限までに提出のこと。同時に、授業やグループ協議では自分の意見を述べることや質問できることを歓迎する。	教科書・テキスト	『知へのステップ（第５版）～大学生からのスタディ・スキルズ～』　学習技術研究会　くろしお出版　2015 ISBN978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし／『レポート・論文作成法』　井下千以子編　慶大出版会　2013 ISBN 978-4-7664-2013-5 『大学生学びのハンドブック』　世界思想社編集部編　世界思想社　2012　ISBN 978-4-7907-1540-5	その他・特記事項	普段からジャンルを問わず、様々な分野の書籍に親しむよう心がけることが望ましい。特に新聞や食物関係の雑誌を読むことを薦める。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB120C ｷｬﾘｱ実践演習			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
①主たるテーマとして『女性の社会進出』を取り上げる。「育児休業制度」や「クオーター制」といった促進要因を取り上げ、現状と問題点を理解すると共に、必要とされる施策としての「ワーク・ライフ・バランス」や実現が求められる「男女共同参画社会」について理解する。 ②国内の政治・経済・社会等の各分野にわたって、しっかりと取り組んでいかなければならない、「情報化社会への対応」「若者の政治参画」「貧困への対応」そして「少子化対策」等の課題に焦点を当て、新聞記事等を教材として活用しながら、背景説明を通してディスカッションを行う。これらを通して、諸課題への関心を高め、自らの考えや意見を身に付ける。	①本講座の目指すところは、自らのキャリアを築いていく過程で取り組んでいかなければならない男女共同参画社会実現に向けたさまざまな課題について、共に考察することを通して、自らの考えや意見を持つことである。 ②社会人としてさまざまな状況下で求められる的確な「判断」の基礎となる幅広い教養を身に付けることである。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 新聞を読もう ： 自らのキャリアをデザインしていく上で、信頼性の高い新聞からの情報や知識が必要となる。ここでは、新聞を身近な存在とする目的から記事の構成や読み方を学ぶ。 講義テーマ❶ ：「情報化社会」の現状と若者に及ぼす影響そして「情報を読む力」の涵養について学ぶ。	
2	講義テーマ❷ ：「若者と選挙」というテーマで、わが国の選挙制度とその課題（「議員定数の不均衡＝一票の格差」の問題）そして若者の投票行動の特徴と政治参加促進に向けた取り組みについて学ぶ。	
3	女性の社会進出について考える❶　女性の社会進出の現状と問題点について考える ： 女性の社会進出を阻んでいる一つの要因としての「性別役割分業」の歴史的社会的意味について学ぶ。	
4	女性の社会進出について考える❷　女性の社会進出の現状と問題点について考える ： 共働き世帯の増加に伴う働き方や子育てへの支援について学ぶ。	
5	女性の社会進出について考える❸　女性の社会進出促進要因としての「育児休業制度」について理解する。	
6	女性の社会進出について考える❹　男性の家事・育児との関わりについて理解する。	
7	女性の社会進出について考える　　もう一つの女性の社会進出促進要因としての「クオータ制」について考える ： 政治分野における男女共同参画の現状について学ぶ。	
8	女性の社会進出について考える❻　　もう一つの女性の社会進出促進要因としての「クオータ制」について考える ： 経済分野における男女共同参画の現状について、女性活躍推進法の意義と働きを通して学ぶ。	
9	女性の社会進出について考える❼　アイスランド・ノルウェー・フィンランド・スウェーデン・フランス・アメリカ・イギリスにおける女性の社会進出状況について理解する。	
10	女性の社会進出について考える❽　「逆差別」というクォータ制が持っているもう一つの顔と男女平等実現という本来の顔を比較衡量し、真の「機会の平等」とは何かを学ぶ。	
11	相対的貧困について考える　：　相対的貧困が高いということは黄色信号の状況なのだということであり、わが国の経済が21世紀において更に発展し、社会が安定的に成長していくためには、相対的貧困には十分な関心を払わなければならないことを理解する。	
12	ひとり親世帯について考える　：　相対的貧困の原因の一つとして「ひとり親世帯の増加」が挙げられている、ここではシングルマザー（母子家庭）に焦点をあて、その現状と対策について理解する。	
13	少子化問題について考える❶　：　急速に進行しつつある少子化は、やがて生産人口の減少と高齢者人口の増加により人口構成の歪みをもたらし、経済、社会に甚大な影響を与え、国や社会の活力の低下を来すことが憂慮される、従って、出生率の上昇へ向けてあらゆる努力を傾けなければならない、ここでは「未婚率の引き下げ」に焦点を絞ってこの問題を考える。	
14	少子化問題について考える❷ ： この問題を人口学的メカニズムと社会経済的文化的背景から考える。	
15	社会人の「学び」について考える ： 社会人の「学び」を充実させることによって、自らのキャリアに多様な選択肢をもたらすこととなり、更に社会活動を深化させる原動力となることを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。	事後の課題・レポート	80	レポートについては課題の意図を的確に理解し、授業内容を理解した上で、論理的に表現しているかという点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
❶事前に提示したテキスト・資料について、目を通しておくこと。[30分] ❷授業終了後、テキストをもとに、関係書籍・新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。[60分] ❸「日経新聞」等の全国紙を読むこと。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[30分]	授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	授業毎にテキスト・資料を配付する。
指定図書／参考書等	指定図書：なし 参考書等：❶『学生のためのキャリアデザイン入門＜第2版＞』 渡辺峻・伊藤健市編著　中央経済社　ISBN 978-4-502-08020-3 ❷『女性のいない民主主義』岩波新書1794　前田健太郎著 ㈱岩波書店2019年９月　ISBN 978-4-00-431794-4 他に講義時に紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB200C 人間の探究Ⅰ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論ⅠおよびⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸問題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。 ※SDGsターゲット2.1,12.8関連科目	①北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。Google Classroom 設定クラス参加手続。 ・「キリスト教入門学」とは：内容・意味・目的	
2	・「建学の精神」と北陸学院の歩み：学院の形成にあたり重要な役割を果たした先達たちと出会う。 ・「本当の友とは」（ヨハネ15:11-17）：主イエスが私たちの本当の友となってくださることを発見する。	
3	・「主の祈り」（ルカ11:1-13）「主の祈り」を理解し、祈り始める。 ・「赦し」（マタイ18:21-35）：神の御前で赦しを必要とする存在として自己を見つめ直す。	
4	・小テスト①：「主の祈り」 ・「献金」（マルコ12:41-44）：献金の心構えについて理解し実践する。花の日献金準備。	
5	・「聖書」という書物（テモテ二3:14-17）：聖書の成り立ちやジャンルを学ぶ。 ・「環境と飢餓」（申命記24:19-22）：世界の環境・飢餓問題について聖書から語りかけられるメッセージに聴く。	
6	・「十戒」：神が授けられた自由の道しるべとしての十戒を知る。 ・「労働と余暇」（ローマ12:1-8）：働くことにはどんな意味があるのかを問い、使命探求型人生を発見する。	
7	・小テスト②：「十戒」 ・「人格的交わりとしての性」（エフェソ5:21-33）：真に相手を人格として受け止め、尊敬をもって互いに接することができるようになる。	
8	・学期末授業評価アンケート ・期末試験準備説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「主の祈り」②「十戒」）行う小テストで評価。
礼拝出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、メッセージ内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る記述試験により評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	①本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとじていくこと。 ②聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ④本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考図書　『神学のよろこび―はじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0 『聖書は何を語るか』、大島力、日本キリスト教団出版局、1998年。ISBN: 978-481840316　その他、授業で紹介していく。	その他・特記事項	・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・指定された日にはノートパソコンを持参。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB210C 人間の探究Ⅱ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論ⅠおよびⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸問題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。 ※SDGsターゲット8.5関連科目	①北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を会衆と共に暗唱できるようになり、前期と合わせて三要文を身に着けて、豊かな礼拝体験を持てるようになる。 ③聖書のストーリー、歴史を生きた信仰者とのつながりの中で自分の人生を理解し、聖書の「大いなる物語」の一部として自分もこの人生を生きていることが理解できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：本コースの概要説明。Google Classroom 設定クラス参加手続。 ・「キリスト教人間学」とは：内容・意味・目的	
2	天地創造と堕罪の物語ー人間の栄光と悲惨を知り、神によって霊を吹き込まれ生きるようになった特別な存在としての自己を発見する。	
3	・アブラハムの信仰物語ー人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる視点を発見する。 ・小テスト①：使徒信条	
4	預言者の召命ー自分の賜物をもって神から示された使命に生きる人生観を発見する。収穫感謝献金準備。	
5	聖書の人間観ー「魂」・「霊」・「肉」の諸次元について理解し、神に「祈る」ことを発見する。	
6	「運命ではなく摂理」（創世記45:1-8）：運命論ではなく、神の摂理に導かれた人生観を発見する。 ・小テスト②：キリスト教史	
7	・クリスマス礼拝賛美練習・献金準備 ・パウロの人間観ー罪を赦され「新しく造りかえられた存在」としてのアイデンティティーを発見する。	
8	・学期末授業評価アンケート ・期末試験準備説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
意欲・態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「使徒信条」②「キリスト教史」）行う小テストで評価。
礼拝出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、メッセージ内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る記述試験により評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	①本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとじていくこと。 ②聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ④本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	金子晴勇『キリスト教人間学入門』（教文館、2016年）。 アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版（キリスト新聞社、2017年）。その他、適宜授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・指定された日にノートパソコンを持参。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB130C 栄養士への道A	開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・坂井　良輔・茶谷　信一・田中　弘美・俵　万里子・西　正人・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）				
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養士としての学びをはじめるにあたり、まず、基本的な学びへの姿勢、学びの方法を修得する。また、環境、運動、食文化、食育など様々な視点から、特に体験学習なども通して現代の食環境での課題を探究し、それに対処できる能力を修得しながら栄養士という職業への理解を深める。	①栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解している。 ②栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解している。 ③栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。

教授方法	講義、演習、実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	自分の『強み』を知る：PROGテストの解説を通して今の自分のリテラシーとコンピテンシーを知り、将来を見据えながら2年間でさらに伸ばすきっかけを持つ。	全員
2	食事と健康・栄養士の役割①：災害など非常時の食事の留意点や調理法を講義と実習を通して学習し、栄養士の役割について考える。	全員
3	栄養士を取り巻く諸問題①：廃棄物の問題について特別講義を通して考える。	全員
4	栄養士に必要な基礎知識：特別講義を通して労働法について学習し、就職活動等に役立てる。	全員
5	食事と健康・栄養士の役割②：『3･1･2弁当箱法』について学習し、バランスの良い食事とその指導方法を考える。	全員
6	食事と健康・栄養士の役割③：『3･1･2弁当箱法』を体験し、バランスの良い食事とその指導方法への理解を深める。	全員
7	食事と健康・栄養士の役割④：朝食の役割や現代人の朝食摂取の現状などを学習し、朝食の大切さについて考える。	全員
8	栄養士の歴史：栄養素発見の話をもとに、栄養士の歴史と役割について理解を深める。	全員
9	栄養士を取り巻く諸問題②：食品ロスとその削減について考える。	全員
10	栄養士を取り巻く諸問題③-1：『エコ』の概念やエコチェックについて学習する。	全員
11	栄養士を取り巻く諸問題③-2：エコチェックの実践を通して、食と環境への興味関心を高める。	全員
12	栄養士業務のための演習①-1：地場産の食材や料理への活かし方を考え、地産地消について理解を深める。	全員
13	栄養士業務のための演習①-2：レシピコンテストの応募を通して、さらに理解を深める。	全員
14	栄養士業務のための演習②-1：地場産の食材について知り、料理への活かし方を考えることを通して、地産地消について理解を深める。	全員
15	栄養士業務のための演習②-2：地場産の食材を使ったレシピを考案することでさらに理解を深める。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	50	①授業へ積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各取組毎に内容をまとめる。[30分]※必要なことはその都度指示をする	レポートは返却しないこともある。

受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。 与えられた課題には、積極的に取組み、問題点を見いだすよう努力する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	代替授業日はGoogle Classroomから課題を配信、またはGoogle Meetによるオンライン授業を行う。対面授業の際に課題を配布する場合もある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB140C 栄養士への道B	開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・坂井　良輔・茶谷　信一・田中　弘美・俵　万里子・西　正人・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）				

標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会において栄養士に求められている役割を理解するため、地域社会との連携もふまえて、体験的に学びを深める。また、地域で働くための必要なスキルも修得する。特に栄養士として社会での活動のための基本的な知識を会得する。さらに、今の食の課題を取り上げながら、１年次の基礎と専門の学びを確かなものとしたい。	①栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解する。 ②栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解できる。 ③栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。 ④栄養士として働くために、社会人としての基本的役割を理解できる。

教授方法	講義、演習、実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康と栄養士の役割①：健康を幅広い視点から捉え、栄養士の役割について考える。	全員
2	健康と栄養士の役割②：健康を幅広い視点から捉え、栄養士の役割について考える。	全員
3	健康と栄養士の役割③：健康を幅広い視点から捉え、栄養士の役割について考える。	全員
4	健康と栄養士の役割④：健康を幅広い視点から捉え、栄養士の役割について考える。	全員
5	健康と栄養士の役割⑤：健康を幅広い視点から捉え、栄養士の役割について考える。（禁煙講習会）	外部講師
6	食育活動①-1：学内での食育の運営と参加を通して食育を実践的に学ぶ。	全員
7	食育活動①-2：学内での食育の運営と参加を通して食育を実践的に学ぶ。	全員
8	食育活動①-3：レシピ検討及びレシピ集作成を通して食育を実践的に学ぶ。	全員
9	食育活動②：ぎょしょくについての特別講義を通して、食育の可能性について考える。	外部講師
10	食育活動③-1：地域での食育活動の運営と参加を通して、食育を実践的に学び、食を通して地域に貢献することについて考える。	全員
11	食育活動③-2：地域での食育活動の運営と参加を通して、食育を実践的に学び、食を通して地域に貢献することについて考える。	全員
12	食育活動③-3：地域での食育活動の運営と参加を通して、食育を実践的に学び、食を通して地域に貢献することについて考える。	全員
13	食育活動③-4：地域での食育活動の運営と参加を通して、食育を実践的に学び、食を通して地域に貢献することについて考える。	全員
14	1年次のまとめ①：総合テスト	全員
15	1年次のまとめ②：総合テストの自己採点と解説	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	50	①授業へ積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各取組内容をまとめる。[30分]※必要なことはその都度指示をする	レポートは返却しないこともある。

受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB220C 栄養士への道C	開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・坂井　良輔・茶谷　信一・田中　弘美・俵　万里子・西　正人・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）				
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
調理は、日常生活では実習が先になるが、合理的に美味しく調理しようとすれば、科学的な理論を理解することが調理技術の効果的な習得に繋がる。特に将来栄養士として食の指導に携わる場合、技術のみならず理論を熟知することが必要となる。調理の過程は、食事計画→食材調達→調理操作→供食であり、これにより食品を料理（食物）とすることになり、栄養素の摂取を具現化するこ とができる。この授業では、①調理の概念②美味論③調理操作論④各食品の調理特性⑤調理器具について理解をすることができる。	①調理の概念と食生活における位置づけ、栄養士の学びでの位置づけを把握する。 ②おいしいとはどういうことかを科学的に理解する。 ③調理の課程とその中の調理操作の特徴を理解し、適切な調理操作を選択できるようにする。 ④調理に必要な機器や設備を理解する。 ⑤食品毎の調理性を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理学の意義、食事計画論、調理文化論：この授業への導入として調理学で何を学ぶかを把握する。さらに、食事計画の概念、調理の文化的視点を理解する。	
2	調理操作論－非加熱操作：「洗浄」「浸漬」「攪拌・混合」など、各非加熱操作の目的や特徴・留意点など理解する。	
3	調理操作論－加熱操作Ⅰ（湿熱加熱）：「茹でる」「煮る」「蒸す」など、湿熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
4	調理操作論－加熱操作Ⅱ（乾熱加熱）：「揚げる」「焼く」炒める」など、乾熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
5	食べ物のおいしさⅠ（化学的要因）：おいしさについて、味覚で感ずる味を中心に、その種類や感じ方を理解する。	
6	食べ物のおいしさⅡ（物理的要因）：おいしさについてテクスチャーや温度との関係などを理解する。	
7	食品の調理性（砂糖、でんぷん　ゲル化剤）：砂糖が様々な食品の調理に及ぼす影響や、でんぷんの糊化や老化のの過程や意義を理解する。	
8	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。	
9	食品の調理性（穀類　芋類、豆類）：小麦粉、じゃがいも、 さつまいもなどの芋類と大豆や小豆などを調理する際の特徴を理解する。	
10	食品の調理性（野菜類、果実類）調理におけるたんぱく質の変性：野菜の調理とあくの除去、果実の調理の特徴を理解する。動物性食 品の調理性を学ぶにあたりたんぱく質の変性を理解する。：	
11	食品の調理性（獣鳥肉類・魚介類）：牛肉、豚肉、鶏肉などの調理と魚介類の調理の特徴と差異を理解する。	
12	食品の調理性（卵類・乳類）：卵と牛乳の調理性を理解する。	
13	食品の調理性（油脂類・ゲル化材料）：調理に関連する油の特徴とゲル化材料の差異を理解する。	
14	調理の設備、器具、エネルギー：調理場、台所における貯蔵設備、加熱器、熱源、その他の調理器具などの特徴を学ぶ。	
15	食事設計、共食、食事環境：食事設計の意義と日本・西洋・中華料理の食卓構成などに理解を深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率	課題レポート	20	課題への取り組み方とまとめ方
授業態度	10	授業への参加意欲			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、調理学の学びを把握する。 ②毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。 ③授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。 ④日常生活の中で、調理に関心を持つ。 [毎回30分]	レポートは返却する。

受講生に望むこと	調理学実習との関連で理解をして欲しい。さらに、食品学や栄養学とも関連させて学びを深めて欲しい。	教科書・テキスト	『新版　調理学』吉田惠子・綾部園子編著　理工図書 ISBN：978-4-8446-0894-3 『栄養士実力認定試験過去問題集2022年版』全国栄養士養成施設協会編　建帛社
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	代替授業はミートによるオンライン授業または Classroomにより課題を提示

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB230C 栄養士への道D	開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・坂井　良輔・茶谷　信一・田中　弘美・俵　万里子・西　正人・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）				
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
卒業に向けて、これまでに学んだ栄養士としての専門知識を確認し、より専門的な技能と様々な課題に対処できる能力を修得する。	①栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 ②栄養士の社会的な役割を理解できる。 ③栄養士業務に必要な知識を総合的に理解している。

教授方法	講義、演習、実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養士の専門知識①②：食品学総論、公衆衛生学について理解を深める。	坂井、俵
2	栄養士の専門知識③④：基礎栄養学、公衆栄養学について理解を深める。	新澤、三田
3	栄養士の専門知識⑤⑥：栄養指導論、調理学について理解を深める。	三田、新澤
4	栄養士の専門知識⑦⑧：応用栄養学、食品衛生学について理解を深める。	俵、坂井
5	栄養士の専門知識⑨⑩：給食管理、臨床栄養学について理解を深める。	田中、外部講師
6	栄養士の専門知識⑪⑫：食品学各論、社会福祉概論について理解を深める。	坂井、俵
7	栄養士業務実践のための演習①：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（ガイダンス）	全員
8	栄養士業務実践のための演習②：校外実習の報告を通して、栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（スライド、ポスター作製）	全員
9	栄養士業務実践のための演習③：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（スライド、ポスター作製）	全員
10	栄養士業務実践のための演習④：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（スライド、ポスター作製）	全員
11	栄養士業務実践のための演習⑤：栄養士業務について総合的に理解を深め、栄養士として社会に貢献することについて考える。（発表準備から発表へ）	全員
12	栄養士業務の実際①：先輩栄養士の講義より、栄養士業務の実際について理解を深める。	全員
13	栄養士業務の実際②：先輩栄養士の講義より、栄養士業務の実際について理解を深める。	全員
14	栄養士業務のための実習①：食育活動を通して実践力を身につける。	全員
15	栄養士業務のための実習②：食育活動を通して実践力を身につける。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	50	①授業に積極的に関わる ②授業に向けて十分準備する	課題提出	50	①量的・質的に適切である ②提出期日までの提出

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]	レポートは返却しないこともある。

受講生に望むこと	自身の生活習慣・食習慣を意識する。	教科書・テキスト	担当者が配布する資料
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB090C 科学の基礎			開講学科	食栄	必修・選択	自由
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
高等学校において理科系科目の理解度の差を鑑み、栄養士養成課程専門科目群履修に必要と思われる基礎的知識(化学・生物) の再確認を行う。	1年生が専門科目を受講するにあたり、高等学校で履修した理科、特に化学や生物の分野において必要な知識を習得する。

教授方法	テキストに基づき講義を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生体化学の基礎知識１：高等学校で学んだ化学の知識の確認と有機化学の基本的な考え方を学ぶ	
2	生体化学の基礎知識２：生体を構成する分子の構造と化学的性質を関連づけて理解する	
3	生体化学の基礎知識３：原子団・官能基の構造による化学的性質、酸化と還元、その他の反応を理解し生体内での反応と関連付けて学習する。	
4	細胞の構造と機能１：人体の成り立ちと生体の基本単位である細胞の特徴について理解する	
5	細胞の構造と機能２：細胞膜の構造と特徴、その働き、細胞まくにおける物質輸送について理解する	
6	細胞の構造と機能３：細胞小器官の特徴とそれぞれの器官の働きについて理解する	
7	生体における代謝の基礎と酵素１：代謝とはなにか。生体における高エネルギー化合物、三大栄養素の代謝の概要について理解する	
8	生体における代謝の基礎と酵素２：代謝を進める酵素の働きや特徴を理解する	
9	生体における代謝の基礎と酵素３：酵素反応における補因子の働きと補因子となる物質の種類と特徴を理解する	
10	糖質の構造と機能１：糖質の化学構造と特徴を理解する。生体における糖質の働きについて学習する。単糖の構造と機能、糖質の化学的性質などをその構造と関連付けて理解する	
11	糖質の構造と機能２：糖質の誘導体、生体に存在する糖質とその特徴、多糖類の構造と機能などについて理解する	
12	脂質の構造と機能1：脂質の定義、脂質の分類とそれぞれの特徴、脂質の化学的特性、脂質の生体における主要な役割などについて学習する	
13	脂質の構造と機能2：脂肪酸の構造と化学的性質を関連付けて学習する	
14	タンパク質の構造と機能1：タンパク質の構造とそれらを構成するアミノ酸の構造と分類、アミノ酸の性質と生体における主要な役割について学習する	
15	タンパク質の構造と機能2：ペプチド結合の構造とタンパク質の高次構造とその特徴、生体に存在するタンパク質とそれらの働きや分類について学習する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	授業内容の理解度を評価する。	演習課題	30	演習課題の達成度と提出状況によって評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
高校時に履修した理科系科目の教科書を再度通読し、問題意識をもって講義に臨んでもらいたい。この科目を学びながら、学んだあとにも他科目でも、用語、項目、概念は再出するのでそのつど、復習してもらいたい。［30分］	特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。

受講生に望むこと	なるべく平易、簡便な方法での講義を目指すので、苦手意識を克服してもらいたい。	教科書・テキスト	『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2] 生化学』第14版第3刷　畠山鎮次 医学書院 2021年 ISBN978-4-260-03556-9 (栄養生化学で使用するテキストを使用します)
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	演習課題はGoogle classroomを使って配信する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FB095C 栄養士のための計算入門			開講学科	食栄	必修・選択	自由
担当教員名	茶谷　信一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
栄養士業務に必要な計算の基礎を身につける。 四則計算から、溶液づくりのための知識までを履修する。	計算についての基本的な考え方を理解し、四則計算や割合に関する問題が解けるようになる。専門科目に出てくる数学的な考え方に対応できる力をつける。

教授方法	演習プリントへの取り組みと解説、個別指導。
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスルールとオリエンテーション　　科目の概要や到達目標、学習方法や評価について理解する	
2	整数の計算の考え方を理解しできるようになる	
3	分数の計算と考え方を理解しできるようになる	
4	小数の計算と考え方を理解しできるようになる	
5	割合と比の考え方を理解し計算ができるようになる	
6	連立一次方程式の考え方を理解し計算ができるようになる	
7	前半５回の復習をする	
8	整数の計算の上級問題ができるようになる	
9	分数の計算の上級問題ができるようになる	
10	小数の上級問題ができるようになる	
11	割合と比の上級問題ができるようになる	
12	溶液についての基本的な考え方を理解し計算ができるようになる	
13	後半５回の復習をする	
14	グラフと表についての基本的な考え方を理解する	
15	まとめとふりかえりをする	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
達成度確認試験	40	履修項目全体の理解度を見る	課題への取り組み状況	40	到達度には個人差があるが、どれだけ向上したか、意欲的に取り組んだかを見る
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
自学自習・復習を自主的に行うこと［30分］	提出された課題等は、原則としてコメントを付したり添削をしたりした上で評価を行い、次時の授業で返却する

受講生に望むこと	各回での基本的な考え方の理解につとめ、計算問題にしっかり取り組むこと	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FH100C 公衆衛生学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	木村　敏行						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格				

授業の概要	授業の到達目標
公衆衛生とは、地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命を延長し、身体的並びに精神的能力を増進するための技術であり科学であると定義されている。公衆衛生活動は、主に衛生行政のなかで行われ、その課題は社会状況とともに変化し、健康増進、疾病予防に加え、重症化予防さらには社会復帰へと広がりをみせており、栄養士になるための基本的な知識を習得することを目的としている。	本科目では、社会、環境、健康との関係を理解するとともに、現代の医療、保健、福祉及び社会保障などについて知識を習得する。また、地域社会における疾病予防や国民の健康維持向上の現状並びに今後の対策について理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会と健康 授業概要の説明：公衆衛生及び健康の概念、疾病予防と健康管理、公衆衛生の歴史から現代の公衆衛生を知る	木村敏行
2	環境と健康　その１ 生態系、地球規模の環境破壊、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化、化学物質による汚染について学ぶ	木村敏行
3	環境と健康　その２ 環境汚染と健康影響、四大公害病、環境衛生、上水道と下水道について学ぶ	木村敏行
4	健康、疾病、行動にかかわる統計 保険統計、人口静態統計、人口動態統計、生命表、疾病統計、死因統計と死因分類、世界の人口について学ぶ	木村敏行
5	疫学と情報・コミュニケーション 疫学の概念、疫学指標、疫学の方法、リスク分析、情報収取、個人情報の保護、情報の守秘義務について学ぶ	木村敏行
6	生活習慣の現状と対策 生活習慣病、ライフスタイル、食生活と栄養、身体活動、喫煙と飲酒、健康日本21について学ぶ	木村敏行
7	主要生活習慣病の疫学と予防対策 生活習慣病、悪性新生物、循環器疾患、骨粗鬆症、予防、その他の疾患について学ぶ	木村敏行
8	感染症と精神疾患 感染症法、予防接種法、検疫法、主要感染症の疫学、世界の感染症、精神障害、精神保健対策、メンタルヘルス、自殺・不慮の事故、虐待、暴力について学ぶ	木村敏行
9	保健・医療・福祉　その１ 社会保障の概念、保健・医療・福祉における行政、日本の医療制度、医療保険制度、医療提供制度について学ぶ	木村敏行
10	保健・医療・福祉　その２ 社会福祉、障害者福祉、地域保健活動について学ぶ	木村敏行
11	地域保健と母子保健 地域保健活動、地域保健法、健康危機管理、母子保健、母子保健法、母子健康手帳、乳幼児健康診断、新生児マススクリーニング、健やか親子21、少子化対策、児童虐待防止について学ぶ	木村敏行
12	成人保健と高齢者保健・介護 生活習慣病の発症予防と重症化対策、特定健康検査・特定保健指導、高齢者保健・介護、介護保健法について学ぶ	木村敏行
13	産業保健 労働と健康、労働安全衛生法、労働安全衛生対策、労働衛生行政、職業と健康障害、労働災害について学ぶ	木村敏行
14	学校保健 学校保健の概要、学校保健統計、学校保健安全法、学校給食、学校感染症について学ぶ	木村敏行
15	国際保健 地球規模の健康問題、国際協力、世界保健機関（WHO）について学ぶ	木村敏行

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	80	試験範囲、評価基準は後日示す。記述式	授業参加状況	20	受講態度、提出課題を参考にする。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義内容に関する課題提出により復習を行うとともに知識の定着をはかる。［60分程度］	講義の冒頭にてコメント

受講生に望むこと	講義中の飲食は禁止。特別な理由がある場合は要相談。栄養士に相応しい態度。	教科書・テキスト	社会・環境と健康　公衆衛生学　２０２２年版　医歯薬出版株式会社 ISBN: 978-4-263-70817-1　(2,860円) 衛生化学・環境健康学・公衆衛生学講義ブック　第６版 （1,400円を予定）
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	この授業は、栄養士の免許を取得するための必須科目であり、ほとんどの医療職および健康に関する学部の学生が学んでいます。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FH200C 社会福祉概論			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、わが国の社会福祉の理論や歴史的経緯、制度や実施体制等の現状について、広く学びます。高齢者や障害者、児童家庭福祉等の各対象分野別の内容を中心に、新たな制度改正の経過や動向も取り入れながら学習をすすめ、社会福祉全般の実践の場を整理し、栄養士の社会福祉分野における役割や実務を理解することをめざします。	①社会福祉の理論や歴史、現状を理解する。 ②社会福祉の援助と視点を理解する。 ③社会福祉分野における栄養士の役割を理解できるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業のすすめ方、社会福祉を学ぶ意義と目的：社会福祉を学ぶ意義と目的を考える。	
2	社会福祉の意味と対象：社会福祉の歴史や定義、理念と対象となる人たちについて学ぶ。	
3	社会保障制度の概要Ⅰ：社会保障制度の全体像を学ぶ。	
4	社会保障制度の概要Ⅱ：社会保険制度について学ぶ。	
5	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原理・原則、生活保護の実際について学ぶ。	
6	高齢者の福祉Ⅰ：高齢者を取り巻く状況について学ぶ。	
7	高齢者の福祉Ⅱ：介護保険制度の概要について学ぶ。	
8	児童と家庭の福祉：少子化の進行と家庭環境の変化、児童家庭福祉の動向について学ぶ。	
9	障害者の福祉Ⅰ：障害者福祉の理念、障害者の状況について学ぶ。	
10	障害者の福祉Ⅱ：障害者総合支援法の概要について学ぶ。	
11	地域福祉：今日の生活問題や地域福祉の内容、担い手等について学ぶ。	
12	社会福祉基礎構造改革と権利擁護：成年後見制度や利用者保護のしくみについて学ぶ。	
13	社会福祉援助の方法：社会福祉の援助と方法、視点について学ぶ。	
14	社会福祉の機関と専門職：社会福祉の実施機関や施設、専門職について学ぶ。	
15	社会福祉分野における栄養士：社会福祉分野で働く栄養士の立場と役割を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	講義内容の理解を筆記試験で評価します。	授業参加状況	20	意見や質問を行い積極的に授業に参加しているか等、受講態度を評価します。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストを読み、各回の内容の予習、復習に努めてください。[60分]	課題ではありませんが、講義後に提出された意見や質問には、次回の授業でコメントを行います。

受講生に望むこと	社会福祉をより身近なものとしてとらえ、栄養士の業務や他の科目で学んだ内容と関連づけながら、関心をもって授業に臨んでください。	教科書・テキスト	「六訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 岩松珠美・三谷嘉明 編 株式会社 みらい ISBN　9784860155056
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	FP100C 人体構造学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	井関　尚一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養学の目的は、食生活を通じて人の健康を維持・増進していくことである。生活習慣病を始めとして、食生活と深く関係のある病気は多い。健康や病気のことを理解するには、まず人体のしくみを理解する必要がある。 この授業では、人体を構成する細胞、組織、器官の基本的構造を学び、健康および病的状態における人体機能の理解を助けることを目的とする。	①人体を構成する細胞の構造と機能を説明することができる。 ②人体を構成する組織の構造と機能を説明することができる。 ③人体を構成する器官と器官系の構造と機能を説明することができる。

教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	細胞の構造：　細胞膜、細胞小器官、細胞骨格、核の構造と機能を説明できる。	
2	組織と器官の構造：　上皮、支持、筋、神経の４大組織および10大器官系の構造と機能を説明できる。	
3	骨格系の構造：　骨組織の構造と機能、骨形成のしくみ、全身の骨格系の構造と機能を説明できる。	
4	筋系の構造：　筋組織の構造と機能、筋収縮のしくみ、全身の筋系の構造と機能を説明できる。	
5	循環系（1）心臓と血管の構造:　心臓および全身の血管系の構造と機能を説明できる。	
6	循環系（2）リンパ系と血液の構造：　血液、リンパ系、造血系の構造と機能を説明できる。	
7	消化器系（1）消化管の構造：　口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能を説明できる。	
8	消化器系（2）消化腺の構造：　肝臓、胆道系、膵臓（外分泌部と内分泌部）の構造と機能を説明できる。	
9	呼吸器系の構造：　鼻腔、喉頭、気管と気管支、肺の構造と機能を説明できる。	
10	泌尿器系の構造：　腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造と機能を説明できる。	
11	生殖器系（男性生殖器と女性生殖器）の構造：　精巣、精路、卵巣、子宮の構造と機能を説明できる。	
12	内分泌系の構造：　下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎の構造と機能を説明できる。	
13	神経系（1）中枢神経の構造：　神経組織の構造と機能、脊髄と脳の構造と機能を説明できる。	
14	神経系（2）末梢神経の構造：　脊髄神経系、脳神経系、自律神経系の構造と機能を説明できる。	
15	感覚器系（皮膚、眼、耳）の構造：　皮膚、眼、耳の構造と機能を説明できる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	課題について主体性をもって学習し、正確に記述する。	定期試験	70	講義内容についてどれだけ理解しているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前に教科書を読んで予習すること［各回90分］。 その日に習った授業範囲のプリントを家で読んで復習し、わからないところは教科書や参考書で調べること［各回90分］。 試験前にはプリントの内容を繰り返し繰り返し音読すること。	レポートは必要に応じてコメントをつけて返却する。再試験においては試験時に理解していなかった部分を自己分析させることにより、学生と教員双方の今後に活かす。

受講生に望むこと	授業中は講義に目と耳で集中し、プリントは復習に用いること。私語を慎むこと。	教科書・テキスト	『栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能』第3版　志村二三夫・岡　純・山田和彦編 羊土社　ISBN978-4-7581-1362-5　C3047
指定図書／参考書等	なし／図書館にある解剖生理学関係の参考書	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP200C 生理学（含運動生理学）			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
健康な生活を生涯にわたって続けるには、生活に適切な運動を取り入れ、栄養状態の改善を図るなどの生活習慣の確立が重要である。また、スポーツ栄養、健康維持増進、高齢者や病人の介抱や日常生活を助ける専門家は運動を含めた栄養生理を学ぶ必要があることから、本科目では運動生理や栄養生理について学習する。	運動、トレーニングと生理的適応に関するメカニズムを理解する。また、食事と継続的な食生活が人体に及ぼす影響についてそのメカニズムを理解する。これらの理解をとおして様々な個人に対する適切な運動や食生活を処方するための考え方を習得する。

教授方法	講義と演習課題などによる学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	消化器別の消化・吸収における働きと栄養素別の消化吸収機構を理解する。運動と消化・吸収に及ぼす影響について理解する①。	
2	消化器別の消化・吸収における働きと栄養素別の消化吸収機構を理解する。運動と消化・吸収に及ぼす影響について理解する②。	
3	呼吸器系、循環器系の機能とそれらの調節機構について理解する①。	
4	呼吸器系、循環器系の機能とそれらの調節機構について理解する②。	
5	運動時の呼吸・循環機能と運動時の酸素摂取の問題について理解することにより、エネルギー代謝における問題、健康の保持増進のための運動処方の考え方について学ぶ。	
6	泌尿器系と排泄：泌尿器系の臓器と組織の構造と働き。泌尿器系が生体内部環境の恒常性を保つ働きについて理解する①。	
7	泌尿器系と排泄：泌尿器系の臓器と組織の構造と働き。泌尿器系が生体内部環境の恒常性を保つ働きについて理解する②。	
8	内分泌系1 ホルモンの受容体と作用機序について理解する。ヒトにおける内分泌器官や組織の働きと調節機構について理解する。	
9	内分泌系2 外部環境の変化や運動などにおける内分泌系の生体調節作用について理解する。	
10	神経系 自律神経系の働きや運動器系と神経の関係を分子レベルで理解する。	
11	運動（身体的トレーニング）による身体各組織・器官の生理的効果について理解する。	
12	筋肉の収縮機構とエネルギー代謝について分子レベルで理解する。	
13	健康や体力の維持・増進において栄養や運動が及ぼす影響や関連性とそのしくみについて学ぶ。 運動と各栄養素との関連や働きなどを理解する。	
14	免疫とその働き①：免疫とその働き、免疫の種類とその特徴などにについて学習する。免疫に関わる細胞、生理活性物質それぞれの働きについて学習する。	
15	免疫とその働き②：獲得免疫に関わる細胞と生理活性物質、獲得免疫の成立過程とその特徴などについて学習する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	授業内容の理解度を評価する。	演習課題	40	授業内容の理解度と実践力を演習課題によって評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストや配布されたプリントで、疑問や理解できないことは質問または、専門書で調べておく。[40分]	課題レポート提出後に解答、考え方について解説する。

受講生に望むこと	人体構造学や栄養生化学で学んだことも必要に応じて復習しながら取り組むこと。	教科書・テキスト	『栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能』第3版 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 羊土社 ISBN978－4－7581－1362－5 C3047 系統看護学講座 専門基礎分野『人体の構造と機能[2] 生化学』第14版第3刷 畠山鎮次著 医学書院 ISBN978-4-260-03556-9 （1年次の「人体構造学」と「栄養生化学」のテキストを使用します。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP110C 栄養生化学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
ヒトのからだを作っている基本単位である細胞について学習する。その上で、食物やヒトのからだを作っている糖質・脂質・たんぱく質・核酸などの分子がどのような形をして、どのような性質や働きがあるかについて学ぶ。次に、食物に含まれる成分がどのようにして体に入り、利用されるかについての概要について学ぶ。さらに、ヒトのからだをつくっている分子が常に壊されたり、また作られていること（物質の代謝）を分子レベルでの変化として詳細に学習する。また、生体を維持するために必要なエネルギーを栄養素からどのようにして獲得しているかの仕組み（エネルギー代謝）について学ぶ。これらの代謝がどのように調節されているのかや代謝の異常と疾病の関連についても学習する。	①細胞の構造と機能について理解する。 ②食物または生体関連物質の構造と 機能・性質について理解する。 ③糖質・脂質・たんぱく質・核酸の代謝につ いて理解する。 ④代謝の相互関係と調節の仕組みを理解する。 ⑤代謝の異常 と疾病との関連について理解する。栄養素の生体内における利用と適正な食物摂取について生化学的に理解する。また、栄養素の生理作用、様々な疾患の発症原因を考える上で必要な知識や考え方を習得する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生化学を学ぶ基礎知識：生化学ではどんなことを学習するのか、また他の科目との関連性などを理解する。化学の視点から生命を解析し、生体を構成する物質の構造・代謝・機能、を分子レベルでとらえ、健康維持や疾患の発症メカニズムの理解へつながることを理解する。	
2	酵素：酵素の反応速度論、酵素の阻害剤、アロステリック効果などについて学習する。	
3	糖質の代謝①：インスリンによる代謝への影響について学習する。また、グルコースの分解に関わる代謝経路についてそれらの意義、働きや機能などについて学習する。	
4	糖質の代謝②：糖新生、グリコーゲン代謝について学習する。各代謝の働きや意義、それらの代謝の調節について学習する。	
5	アミノ酸の代謝①：生体におけるタンパク質の分解の2系統について学習する。アミノ基転移反応を中心としてアミノ酸の代謝の特徴や生体における意義などについて学習する。	
6	アミノ酸の代謝②：アミノ酸から生成される生理活性物質とそれらの働きについて学習する。アミノ酸の代謝から生成される生体物質やそれらの特徴と意義について学習する。	
7	脂質の代謝①：中性脂肪の代謝(トリアシルグリセロールの分解、β酸化)について学習する。ケトン体の生成と生体における働きや健康に及ぼす影響などについて学習する。	
8	脂質の代謝②：脂質の代謝(脂肪酸合成、トリアシルグリセロール合成)について学習する。脂肪酸から生成される生理活性物質とその働きについて学習する。	
9	三大栄養素の代謝の関連性①：アミノ酸炭素骨格の分解と利用について学習する。アセチルCoAを介した糖質・脂質・アミノ酸異化における代謝の関連について学習する。糖質や脂質の同化における他の代謝との関連について学習する。合成と分解の代謝が同時に活性化されないことを理解する。	
10	三大栄養素の代謝の関連性②：アミノ酸炭素骨格の分解と利用について学習する。アセチルCoAを介した糖質・脂質・アミノ酸異化における代謝の関連について学習する。糖質や脂質の同化における他の代謝との関連について学習する。合成と分解の代謝が同時に活性化されないことを理解する。	
11	代謝の基礎と酵素反応による調節：最大反応速度とミカエリス定数、代謝の調節、酵素反応の阻害、アロステリック効果と代謝調節などについて学習する。	
12	遺伝子と核酸①：遺伝子とはなにか、染色体の構造について学習する。拡散の構造と機能について核酸の構成成分、DNAとRNAの構造と働きについて理解する。	
13	遺伝子と核酸②：タンパク質合成における転写について、転写の開始とRNA鎖の伸長、RNA鎖のプロセシングなどについて学習する。	
14	遺伝子と核酸③：翻訳の概要(成熟mRNA、アミノ酸の活性化とtRNAリボソームの構造などについて学習する)、翻訳のメカニズム(翻訳の開始、ポリペプチド鎖の伸長、翻訳終結などについて学習する)	
15	細胞内のシグナル伝達と受容体：水溶性リガンドと脂溶性リガンド、細胞膜受容体と細胞内受容体、Gタンパク質とセカンドメッセンジャーなどについて学習する。細胞内シグナル伝達の機序について学習する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題	40	演習課題によって学習した内容の理解度を評価する。	定期試験	60	授業内容の理解度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の前、そして講義の後などに教科書を読み、分からないこと・理解できないことを見つけ、自らの課題をみつけて授業にのぞむ。［30分］ 学習課題は、テキストや他の科目でも関連があると思われるものも参考にして取り組む。［30分］	課題提出締め切りの次回講義に解説を行う。

受講生に望むこと	些細な疑問でも放置せずに調べるか質問し解決しておく。質問は他の学生の理解を深めることにつながるので積極的な質問をのぞむ。	教科書・テキスト	『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2]生化学 第14版第3刷』 畠山鎮次 医学書院 2021年 ISBN：978-4-260-03556-9
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP210C 病気のしくみ			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	井関　尚一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
病気の原因（病因）、病気による生体の形態的・機能的変化（病態）について理解し、さらに病気の症状、診断、予防や治療について学ぶ。広範な医学知識、専門用語を要領よく的確に身につけることが必要である。特に食事や生活習慣と病気の関連に注目し、栄養指導を通じて社会における疾病予防、健康増進に貢献するための基本的知識を習得する。	①主な病気について病因、病態、症状、診断、予防や治療を理解する。 ②食事や生活習慣と病気の関係を理解する。 ③病気の予防・治療に必要な指導の基本を理解する。

教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義。最終日にはグループディスカッションを行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	病気とは何か：病因と病態、症状、診断、予防と治療について学ぶ。	
2	栄養・代謝系疾患Ⅰ：糖尿病、脂質異常症を中心に学ぶ。	
3	栄養・代謝系疾患Ⅱ：肥満、メタボリックシンドロームを中心に学ぶ。	
4	内分泌系疾患：内分泌系疾患について学ぶ。	
5	消化管疾患：口腔から肛門までの消化管の疾患について学ぶ。	
6	肝・胆・膵疾患：消化器の付属腺である肝臓、胆道系、膵臓の疾患について学ぶ。	
7	循環器系疾患：心臓病、動脈硬化、高血圧について学ぶ。	
8	腎・尿路系疾患：腎臓および尿路の疾患について学ぶ。	
9	神経・精神系疾患：神経・精神系疾患について学ぶ。	
10	呼吸器系疾患：呼吸器系疾患について学ぶ。	
11	血液・造血器系疾患：血液・造血系の疾患について学ぶ。	
12	生殖器系疾患：男性生殖器系、女性生殖器系および乳腺の疾患について学ぶ。	
13	運動器系疾患、皮膚系疾患：運動器（骨格系と筋系）および皮膚系の疾患について学ぶ。	
14	免疫アレルギー系疾患、感染症：免疫アレルギー系疾患および感染症について学ぶ。	
15	まとめ：課題についてグループディスカッションを行い、各自がレポートを提出する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	課題に対して主体性をもって取り組み、自分の考えでまとめる。	期末テスト	60	講義内容についてどれだけ理解しているかを判断する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習においてはテキストをしっかりと読んでくる［各回90分］。 講義の後は、テキストに加え、講義プリントをよく読み、理解する［各回90分］。	レポートは必要に応じてコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	病気のしくみは学習範囲が広く、授業ではカバーできない部分も多い。よって、テキストや配付資料に基づいた講義の予習復習はもとより、日頃から健康問題に関心を持ち、新聞等のマスメディアの記事にも積極的に目を通すことを望みます。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド「臨床医学　疾病の成り立ち」第3版　田中 明、藤岡 由夫(編集) 羊土社 ISBN978-4-7581-1367-0 C3047
指定図書／参考書等	なし／「人体の構造と機能および疾病の成り立ち　疾病の成因・病態・診断・治療」第2版　竹中優(編著)　医歯薬出版　ISBN-9784263705865 「人体の構造と機能および疾病の成り立ちIII 疾病の成り立ち」田中清(編集) 中山書店　ISBN-9784521742861	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP220C 生理学実習			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
食物栄養科学を学ぶものにとって、食物という供給物質について学ぶことはもとより、供給される側の人体の基本的な構造と機能を理解することも大切である。ヒトが食物を摂取することは、消化、吸収、排泄の一連の過程と関連しており、栄養となることは、すべての器官、組織、細胞の構造や機能の健常な成 長及び維持に役立っている。すでに学んだこれらの構造と機能について、実習 を通して理解を深めることをねらいとしている。実習では、骨標本、人体模型、組織標本などを観察しながら構造や機能的特徴などを学修する。	①人体の構造を巨視的（系統的）及び微視的（顕微鏡的）に説明できる。 ②人体の臓器や組織、細胞における特徴的な構造とその機能を関連づけて理解する。人体の構造と機能について体系的に理解する。

教授方法	講義と実習、視聴覚教材を用いる場合もある。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、人体の成り立ちと構造と機能を関連付け、体系的に学んでいくことを理解する。	
2	人体の組織とその特徴：ヒトの臓器はどのような組織がみられるか、またそれらの組織の特徴や働きなどについて学習する。	
3	消化器系①：消化管と付属器官にはどんなものがあるか、また消化管における組織の基本構造や組織それぞれの働きについて学習する。	
4	消化器系②：咀嚼、嚥下、消化と吸収におけるメカニズムとそれぞれの器官と働きについて学習する。	
5	循環系①：心臓の構造と組織の特徴と働きとその調節について学習する。	
6	循環系②：血管系の構造と組織の特徴と働き、血圧の調節について学習する。	
7	呼吸器系①：呼吸器系の構造と組織の特徴と働きについて学習する。	
8	呼吸器系②：肺機能検査の内容と意義について学習する。呼吸運動のメカニズムと調節について学習する。生体における酸素と二酸化炭素の運搬のメカニズムについて学習する。	
9	泌尿器系①：腎臓や腎臓の組織の構造と特徴や働きについて学習する。腎臓における血液の濾過、再吸収と分泌を経て尿が生成されるまでのシステムを学習する。腎臓と細胞外液の調節機構について学習する。	
10	泌尿器系②：組織標本の観察（腎臓）：腎臓の構造と働きを理解する。腎小体の組織的な特徴と働きを理解する。また、尿生成の仕組みや尿生成以外の腎臓の働きを理解する。	
11	内分泌系①：ホルモン分泌の調節について学習する。内分泌器官の構造とホルモンの機能について学習する。	
12	内分泌系②：内分泌系の器官、組織、細胞の構造や働きについて理解する。また、内分泌の調節機構、自律神経との関連性などについて理解し、説明できるようになる。	
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題	40	実習内容の理解度と実践力を評価する。	定期試験	60	授業内容の理解度と実践力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習内容と関連性のある「人体構造学」や「生化学」の項目についてあらかじめ読んでおく。[30分]	課題や演習問題については授業で解説を行う。

受講生に望むこと	課題に取り組む過程で生じた疑問などは実習中に調べる、質問などし、解決しておく。	教科書・テキスト	「栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能」第3版 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 羊土社 ISBN978-4-7581-1362-5 C3047 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 第14版 第3刷 畠山鎮次著 医学書院 ISBN978-4-260-03556-9（1年次の「人体構造学」と「栄養生化学」のテキストを使用します）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP230C 栄養生化学実験			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	坂井　良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
タンパク質・糖質・脂質・ビタミン・無機質などの栄養素を実験試料としてそれぞれの定性・半定量実験について学ぶ。栄養素を分解する消化酵素を使った実験も行う。それらの実験を通して各栄養素の構造や性質、体内での働きへの理解を一層深める。実験に慣れるために身近なもの、現象を対象にした平易なものからスタートし、未知試料を同定させるなどのクイズ形式のまとめ実験などを組み込み、学生が興味・関心を失わないように工夫する。	①実験器具の名称を覚える。 ②実験機器の使用法を覚える。 ③各栄養素の化学変化 に興味を持つ。 ④実習書の書かれてあることを具体的な操作へと具現化できる様にする。 ⑤段取り、手順をたてられる様にする ⑥安全に実験を行うことを身につける。

教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期日内にレポートを提出するものとする。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験に際しての注意 実験を行う際の最低限の基礎知識を身につける。	
2	pH による野菜色素の呈色変化 自然界にある様々な化学物質が色素として使えることを知る。	
3	タンパク質の性質 － 等電点、加熱変性 － タンパク質の基本性質を知る。	
4	タンパク質の性質　-凝固・沈殿-　タンパク質の基本性質を知る。	
5	タンパク質、アミノ酸の呈色反応 タンパク質、アミノ酸の基本性質を知る。	
6	糖の定性 糖の基本性質を知る。	
7	まとめⅠ —タンパク質、糖の未知試料の同定実験— 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。	
8	脂質、脂溶性ビタミンの定性 脂質、脂溶性ビタミンの基本性質を知る。	
9	まとめⅡ -脂質、脂溶性ビタミンの同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。	
10	水溶性ビタミン、無機質の定性 水溶性ビタミン、無機質の基本性質を知る。	
11	まとめⅢ　-水溶性ビタミン、無機質の同定実験-　未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。	
12	酵素・アミラーゼによるデンプン分解反応 代表的な消化酵素の働きを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。	取り組む姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
レポート提出状況	15	提出状況・枚数を点数化し加点する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1年次に履修した栄養生化学、栄養学の知識を再確認することを実習と平行して行うこと。［30分］ 実習書をよく読んで、文章で書かれたことを、操作に変換する訓練をする。［30分］また期末試験のためにレポート整理、データ整理などを怠りなく行う習慣をつける。［30分］	毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。

受講生に望むこと	はじめて化学実験を行う人は、化学実験の楽しさを知って欲しい。栄養素の化 学的性質を知ることで、栄養学の理解を深めてもらいたい。	教科書・テキスト	なし（適宜資料を配布する）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと 密を避けるために、実施者グループと見学者グループに隔週で分ける。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP120C 食品学Ⅰ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	坂井　良輔						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
高等学校で学んだ化学・生物・理科の基礎知識の上にたち、それらの様々な事柄が日々の生命活動、食生活をはじめとする社会生活の中でどのように係わっているかを確かめてみる。食品の栄養素や化学成分が人体にどのように働き、係わっているかを知る。それを通して食品学を身近な学問、役に立つ知識と認識してほしい。また担当教員が係わり、成果として特許共同出願に至った産学 官共同研究を紹介し、実験や研究の面白さなどを伝えたい。	食品・栄養・健康を食品学の知識を通して理解を深める。また食品の摂り方は生活習慣病などの疾病にも深く関係しており、生涯にわたって自分の健康についても、注意し続ける姿勢を身につける。また、数年後に取り組むと思われる就職活動のために、食品産業・業界に関係する企業等の活動や業務内容について提供された情報を活用できるようになる。

教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品とは あらためて、フードマイレージ、食糧受給率、地産地消、等の観点から食品について考える。	
2	食品の分類・食品成分表 同じ食品が様々な観点、視点から分類されていることを知ることを目標とする、また食品成分表記載の成分測定法を詳しく説明する。	
3	水 生命活動の基本である水が食品とどのような関わりをもつか学ぶ。	
4	タンパク質 様々のタンパク質の構造と分類と働きについて理解する。	
5	炭水化物 様々の炭水化物の構造と分類と働きについて理解する。	
6	脂質 様々の脂質の構造と分類と働きについて理解する。	
7	ビタミン 様々のビタミンの構造と分類と働きについて理解する。	
8	無機質 様々の無機質の構造と分類と働きについて理解する。	
9	色素成分 様々の色素成分の構造と分類と働きについて理解する。	
10	呈味成分 様々の呈味成分の構造と分類と働きについて理解する。	
11	香気成分 様々の香気成分の構造と分類と働きについて理解する。	
12	食品の物性と官能評価　食品の物性の測り方、装置、それから何がわかるのか、また官能検査とはどんな検査なのかを学ぶ。	
13	食品成分間反応　食品中の各成分同士が酵素、加工、等により化学反応を起こし、新たな成分が合成される不思議さを学ぶ。	
14	食品の機能性 栄養成分　嗜好成分以外の第三の成分の構造と働きについて学ぶことを目標とする。食品物性と官能検査 物性の測定法に、官能検査の原理について理解する。	
15	バイオテクノロジーと食の安全・安心 石川県で生まれたクローン牛を中心に、バイオテクノロジー技術と問題点を探る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身についているか確認する。	取り組む姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
この講義の開始前に高校で履修した化学、生物、理科に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。［30分］	特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。

受講生に望むこと	口頭で述べる、板書する、教科書に書かれてある、それぞれの内容を上手くまとめ、関連させ、体系的に理解する力を身につける。さらにそのような学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。	教科書・テキスト	『食べ物と健康、食品と衛生 NEXT食品学総論　第3版』 講談社サイエンティフィク 辻　英明／海老原　清／渡邊浩幸／竹内弘幸・編 ISBN978-4-06-155386-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	対面講義、遠隔講義で行うかは大学の時間割に準ずる。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP240C 食品学Ⅱ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
食品の分類や各食品の特性を学習、理解することを目的とする。具体的には、植物性食品、動物性食品、その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料等）の分類や特性について学習する。	各食品別の化学特性や栄養学的特徴を理解できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の分類・食品成分表	
2	植物性食品（穀類）	
3	植物性食品（いも類）	
4	植物性食品（豆、種実類）	
5	植物性食品（野菜類）	
6	植物性食品（果実類）	
7	植物性食品（キノコ類、藻類）	
8	動物性食品（肉類）	
9	動物性食品（魚介類）	
10	動物性食品（乳類）	
11	動物性食品（卵類）	
12	その他の食品（油脂類、甘味料）	
13	その他の食品（調味料、香辛料、嗜好飲料）	
14	グループワーク及びディスカッション	
15	グループワーク及びディスカッション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	レポート課題に関して、適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする。	期末試験	70	選択問題と論述問題、両方を出題する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
シラバスに示した講義予定内容について教科書に目を通し、理解を深めた上で講義に参加すること。また、予習時に疑問点が出てきた場合には、講義時に質問等を行い解決すること。予習は、少なくとも30分程度行うことが望ましい。	①毎回、課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。 ②講義の初めに、提出されたレポート内容に対してコメントを行い、前回の講義内容の振り返りを行う。 ③質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。

受講生に望むこと	各食品別の化学特性や栄養学的特徴を理解し、様々な食品を目的に応じて調理・加工するための基礎的知識を身につけてほしい。	教科書・テキスト	瀬口正晴・八田 一 編　『食品学各論（第3版）』 出版年月日：2016/04/29 出版社：化学同人 ISBN：9784759816419
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP250C 食品衛生学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	中口　義次						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
本教科では、食の安全安心を確立するために必要な食品と微生物の基礎を理解し、さらに食品の変質、各種の食中毒、食品汚染物質及び食品添加物について理解を深める。そして、食品衛生管理に必要なHACCP、一般的衛生管理プログラム、食品の規格基準及び各種の微生物検査について理解を深めることで、食品衛生を総合的に理解できることを目標とする。 ※SDGsターゲット2.1関連科目	・食の安全安心の目的を理解する。 ・食品衛生と微生物についてその重要性を理解する。 ・各種の食中毒について理解を深める。 ・食品汚染物質、残留物質及び食品添加物について理解する。 ・HACCPや一般的衛生管理などの食品衛生管理の重要性を理解する。 ・食品安全行政及び食品安全関連法規を理解する。

教授方法	授業は教科書、プリント、パワーポイント、板書などを使った講義形式によって行う。
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の安全性：食品衛生と微生物：食品の安全性の確保、食品衛生の目的、微生物の種類や分類を理解する	
2	食中毒Ⅰ：食中毒の分類と発生、細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する	
3	食中毒Ⅱ：細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する	
4	食中毒Ⅲ：ウィルス、寄生虫、自然毒による食中毒を理解する	
5	食中毒Ⅳ：寄生虫の種類、生態、食中毒の感染経路、予防法を理解する	
6	食品と感染症：経口感染症と病原体、人獣共通感染症、プリオン感染症を理解する	
7	食品の変質と変質の防止：食品成分の変化　腐敗、鮮度の判定　油脂の変敗を理解する。変質の原理　変質の制御法を理解する	
8	食品汚染物質・残存物質：カビ毒、農薬、ＰＣＢ、ダイオキシンについて理解する	
9	食品添加物：食品添加物の種類、性質、役割、安全性の評価、使用基準を理解する	
10	食品の包装：機能、種類、性質、衛生性、安全性を理解する	
11	食品衛生管理Ⅰ：コーデックス、ＨＡＣＣＰシステム、一般的衛生管理プログラムを理解する	
12	食品衛生管理Ⅱ：ＨＡＣＣＰシステム、衛生検査、微生物検査を理解する	
13	食品の表示と規格：表示法の概略、規格基準、成分規格を理解する	
14	食品安全行政：食品安全行政の対象と範囲について理解する。	
15	食品安全関連法規：食品安全基本法、食品表示法、調理師法、製菓衛生師法などを理解する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	筆記テストにより、学習したことが身についているか確認する。	取り組む姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
この講義の開始前に高校で履修した理科（化学、生物）に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。［30分］	特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。

受講生に望むこと	食品衛生に関する基礎的な事項を理解し、さらにその内容が私たちの日々の生活にどのように関連しているかを考える。そして、本講義における学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。	教科書・テキスト	『食べ物と健康Ⅲ 食品衛生学-食の安全と衛生管理』岸本満　　編集 中山書店　ISBN978-4-521-74290-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP260C 食品学実験			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	坂井　良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで学んだ各食品に含まれる栄養素と食品成分とを定量する。そして食品成分表に載っている値もしくは食品に表示されている値と比較検討考察して、食品と栄養素への認識を新たにする。食品学Ⅰと食品学Ⅱで学んだことを実際に確認してみる。	栄養生化学実験で学んだことを踏まえ、①使用器具の名前と使い方を覚える②試薬の性質と扱い方を注意する③どんな栄養素がどのような食品に含有されるのかを知る。

教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期日内にレポートを提出するものとする。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	化学実験の基礎知識説明　中和滴定による酸力価とアルカリ力価検定 今後の実験に使う基本となる酸、アルカリ試薬を調整し、力価計算が出来るようになる。	
2	中和滴定による酸力価検定　食酢中の酢酸の定量① 中和滴定により、さらに実験技法を高める。	
3	酢酸の定量②　塩分の定量 身近な食品の化学成分も定量出来ることを知り、実験技法のさらなる上積みをする。	
4	水酸化ナトリウム再滴定　総窒素の定量・水分の定量 濃度が高い酸、アルカリ試薬の取り扱いの技法を習得する、蒸留装置を組める。	
5	菓子類と栄養　パン、ケーキ、クッキー類に使われているバター、マーガリンのケン化価、 ヨウ素価による油脂の化学特数の測定 環流装置を組めるようになる。	
6	ソモギー変法による清涼飲料水　機能性飲料水中の還元糖の定量 短時間に多くの操作を行える力をつける。	
7	牛乳、乳飲料　機能性飲料中のカルシウムの定量 キレート滴定の原理を理解し、微妙な色の変化を識別出来る様になる。	
8	ホウレン草中の鉄の定量①　シュウ酸の定量① 灰化操作、化学成分の抽出を習得する。	
9	ホウレン草中の鉄の定量②　光度計の原理と使い方を習得する。	
10	食品の酵素的褐変、非酵素的褐変を再現し、その仕組みと防止する条件を探る。	
11	菓子類と栄養　菓子類に使われるいるイチゴ、柑橘類にビタミン C が本当に多いのか？数種類をものを対象に測定し、比較する。	
12	ワインのアルコールの定量　ワインを対象として選び、記載濃度と測定結果を比較し、考察する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。	取り組む姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
レポート提出状況	15	提出状況・枚数を点数化する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
この実験で扱う食品の多くは、日常の食生活や実習で使用するものである。日々、それらを食品学実験から得た知識の上にたって、扱い、活用する習慣をつける。[30分]	毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。

受講生に望むこと	目に見えない化学成分で栄養素の含有を実感してもらいたい。成分表が栄養素の化学成分測定・定量から成り立っていることを再認識してもらいたい。	教科書・テキスト	なし（適宜資料を配布する）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと 密を避けるために、実施者グループと見学者グループに隔週で分ける。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FP270C 食品衛生学実験			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
食品の安全性を担保することは食品を扱う者にとって人の命に関わる最も重視すべき事柄であるといえる。食の安全を保証する手段として、試験・検査を行い、適切な判断を下して正確な情報を提供することが栄養士の業務において要求されるといえる。実習では市販の食品を試料として実験を展開する。その内容は微生物やその代謝産物に関する項目、食品添加物、水質基準、食品の物理化学的性質と保存性との関連などをテーマとして扱い、食品衛生に関する基礎的な知識の獲得さらに、実験的手法を通して食品衛生の理解や実践能力を養う。	①食品の試験や検査には「食品衛生検査指針」や「衛生試験法・注解」に収載されている公定法や最適法が用いられている。これらの基本的な原理や方法の概要の理解さらに、食品衛生に関する「試験・検査」および「判定」の目的と意義を理解する。 ②実験では大きく分けて微生物学的実験と理化学的実験を行うが、両実験をとおしてサンプルの扱い方や器具、試薬、操作方法の基礎を習得する。 ③ 実験後のレポート作成を通して、データ整理や統計処理など実験・研究において必要な報告書作成の基本を習得する。 ④本実験を通じて食品衛生学の基本的な知識の確認を行う。

教授方法	講義と実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	理化学実験における注意事項、実験器具と操作方法、実験結果の統計処理など実験データなどの数値の扱い方などを学習する。	
2	水分活性の測定：水分活性の測定原理と実験操作、実験データから食品の保存性などの判定について学習する。	
3	水質検査の意義や測定原理について学習する。水道法の水質基準、各項目が示す水質の指標について学習する。水質検査の測定における操作データの扱い方などを習得する。	
4	生食野菜の一般生菌数の測定をとおして、食品の衛生指標としての一般生菌数データがもつ意義や評価方法なっどを学習する。また、一般生菌数測定の実験操作を習得する①。	
5	生食野菜の一般生菌数の測定をとおして、食品の衛生指標としての一般生菌数データがもつ意義や評価方法なっどを学習する。また、一般生菌数測定の実験操作を習得する②。	
6	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物の代謝によって生じる揮発性塩基窒素化合物をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する①。	
7	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物の代謝によって生じる揮発性塩基窒素化合物をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する②。	
8	市販の食品から漂白剤として使用されている二酸化硫黄を抽出し、定量する。実験をとおして蒸留法による抽出操作を習得し、二酸化硫黄の化学的性質や漂白剤としての作用、健康への影響について学習する。	
9	着色料の分析①：市販の食品から酸性タール色素を羊毛染色法により抽出し、ペーパークロマトグラフィー法により色素の推定を行う。実験をとおして、酸性タール色素の化学的性質や羊毛染色法による色素抽出の操作、ペーパークロマトグラフィーの原理について学習する。	
10	着色料の分析②：市販の食品から抽出した色素の同定を分光光度計による吸収スペクトルの極大波長の測定により行う。実験をとおして分光光度計による測定を習得する。また、酸性タール色素の化学的性質や添加物として利用されている着色料の健康への影響などについて調べ、使用における注意点や課題などを考察する。	
11	保存料の測定①：市販の加工食品からソルビン酸またはソルビン酸Kを水蒸気蒸留によって留出・精製する。水蒸気蒸留の原理や水蒸気蒸留装置の組み方や実験操作などを習得する。	
12	保存料の測定②：水蒸気蒸留によって精製したソルビン酸をチオバルビツール酸と反応させ比色定量する。ソルビン酸の理化学的性質や比色計を使った測定法などを習得する。また、ソルビン酸と他の食品添加物や食品成分との反応生成物についても学習する。	
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の理解度を評価する。	実験レポート	50	実験の原理や実験の対象となる物質の化学的性質、食品衛生に関する専門的な知識の理解度を総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
レポート作成時に食品衛生学で学んだことや食品衛生学のテキストなども参考にすることでより食品衛生に関する理解が深まる。[40分]	対面授業時に分析の原理や目的とする物質の化学的性質などを解説します。

受講生に望むこと	わかりにくいところや疑問が生じた場合などは専門書などで調べるか、質問してください。	教科書・テキスト	『食品衛生学実験』　杉山章 岸本満 和泉秀彦 編　みらい　2020年　ISBN 978-4-86015-396-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

食品機械メーカーにおける勤務経験をもとに、様々な食品の一般生菌検査における実例や注意すべきポイント、クリーンベンチがない場合の無菌的操作などにおける注意点などを説明している。

授業科目名	FD100C 基礎栄養学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト・社会福祉主事任用資格				

授業の概要	授業の到達目標
栄養とは生物が外界から必要物質を取り入れて生命活動を営むことである。人間が健康な生活を営むためには、適切な食物摂取が必要であり、取り入れたものを消費するための生活活動など広い視点からの取組が求められる。この授業では、これらを考える上での基礎となる栄養素について、その種類と機能、消化・吸収、代謝などを取り上げ、人体と栄養素の関わりについて理解を深める。	①栄養とは何か、その意義を理解する。 ②栄養と遺伝素因との関連を理解する。 ③健康の保持・増進、疾病予防・治療における各栄養素の役割を理解する。 ④人間の摂食行動から消化・吸収、代謝と栄養素の流れを理解する。 ⑤エネルギー代謝、各栄養素の代謝とその意義を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養の概念：栄養、栄養素、健康と食生活、各年齢ステージの栄養、栄養学の歴史などを理解する。	
2	食物の摂取と栄養素の補給：人間の食物摂取行動とその調節の仕組みを理解する。	
3	消化吸収と体内動態：栄養素の消化吸収など摂取後の体内動態の仕組みを理解する。	
4	糖質の栄養Ⅰ：糖質の種類と代謝の仕組みを理解する。	
5	糖質の栄養Ⅱ：糖質代謝と他の栄養素との関連を理解する。	
6	脂質の栄養Ⅰ：脂質の構造と代謝の仕組みを理解する。	
7	脂質の栄養Ⅱ：脂質の体内動態と他の栄養素との関連を理解する。	
8	たんぱく質の栄養Ⅰ：たんぱく質の構造とたんぱく質の代謝を理解する。	
9	たんぱく質の栄養Ⅱ：たんぱく質の栄養価や他の栄養素との関連を理解する。	
10	ビタミンの栄養：脂溶性ビタミンと健康との関連を理解する。	
11	ビタミンの栄養：水溶性ビタミンと健康との関連を理解する。	
12	無機質の栄養：無機質の意義、各無機質の特徴、過不足による健康障害の理解する。	
13	無機質の栄養：無機質の機能、代謝などを理解する。	
14	水・電解質等の代謝と食物繊維：水の役割、水・電解質・アルコールの代謝と食物繊維を理解する	
15	エネルギー代謝：エネルギーの概念、エネルギー代謝とそれに及ぼす要因などを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率	課題レポート	20	課題の主旨を理解し､適切にまとめられているか
授業態度	10	授業への参加意欲			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、基礎栄養学の学びを把握する。 ②毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。 ③授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。 ［毎回30分］	レポートは返却する。

受講生に望むこと	①他の学科目とも関連させながら勉強して欲しい ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと	教科書・テキスト	『イラスト　基礎栄養学　第3版』田村明他　東京教学社　ISBN：978-4-8082-6066-8 『現代人のための健康づくり』石川県大学健康教育研究会　北國新聞社　ISBN：978-4-8330-1972-9
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FD200C 応用栄養学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
応用栄養学では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。まず、栄養管理の基本的な手技の習得を目指す。次に、日本人の食事摂取基準（2020年版）の考え方を理解し、ライフステージの変化に伴う生理的特徴や栄養状態に対応した栄養管理の考え方や方法を学習する。さらに、運動時及び特殊環境における栄養管理の習得を目指すこととする。	①身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケアマネジメント）の考え方を理解する。 ②日本人の食事摂取基準（2020年版）の考え方を理解する。 ③各ライフステージにおける生理的な変化や栄養状態の特徴、それらに対する栄養管理のあり方を理解する。 ④運動時や特殊環境下での代謝変化やその際の栄養摂取方法を理解する。

教授方法	講義。教科書、パワーポイント、プリントを用いて行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養ケアマネジメント：①栄養ケアマネジメントの定義やプロセス②栄養スクリーニング③栄養ケア計画の実施・モニタリング・評価、について理解する。	
2	日本人の食事摂取基準（2020年版）：食事摂取基準の①目的と策定の基本方針、活用のための理論と方法②各指標の定義、について理解する。	
3	日本人の食事摂取基準（2020年版）：エネルギーおよび各栄養素の算定根拠について理解する。	
4	妊娠期：妊娠期の生理的特徴を理解する。	
5	妊娠期：妊娠期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する	
6	授乳期：授乳期の生理的特徴を理解する。	
7	授乳期：授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。	
8	新生児・乳児期：新生児・乳児期の生理的特徴を知り、その未熟性を理解する。	
9	新生児・乳児期：新生児・乳児期の栄養ケアマネジメントと栄養補給方法を理解する。	
10	成長期：成長期の生理的特徴を理解する。	
11	成長期：成長期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。	
12	成人期：①成人期の生理的特徴②成人期に特徴的な食生活と生活習慣病との関連③生活習慣病予防のための栄養ケアマネジメント、について理解する。	
13	高齢期：①高齢期の生理的特徴②高齢期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメント、について理解する。	
14	運動・スポーツと栄養：①運動時の生理的特徴とエネルギー代謝②運動と栄養ケアマネジメント、について理解する。	
15	環境と栄養：ストレスおよび特殊環境条件下における生理的特徴と栄養ケアマネジメントについて理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	80	講義内容についてどれだけ理解しているか	授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] 事後学習：教科書・配布プリントを参照し、授業で扱った内容の理解を深める。[30分]	毎回、前回の授業内容について質問をし、理解できているか確認を行う。

受講生に望むこと	応用栄養学は栄養士の実践活動の根幹をなすものです。将来、様々な状況に対応できる応用力のある栄養士となれるよう、栄養管理の基礎を意欲的に学んでください。	教科書・テキスト	『Visual　栄養学テキスト　応用栄養学』 小切間美保・桒原晶子編著、中山書店、2020年 ISBN 978-4-521-74291-5
指定図書／参考書等	なし/日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FD210C 臨床栄養学Ⅰ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	三井　悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。 実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。	①傷病者の病態と栄養との関係を理解する。 ②適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 ③食品と医薬品の相互作用を知り実践に役立てることができる。 ④食物から人体が構成されていることの認識を深めることができ、家族や自己の健康のための栄養管理が実践できるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	病院での管理栄養士、栄養士の業務、また最近の新しい話題について紹介する。：臨床栄養とはどんなものなのかイメージできるようになる。　食事摂取基準について：栄養管理の基本となる食事摂取基準の意味、使用方法を習得する。	
2	人体の構成、代謝、消化と吸収について：主に人体の構成、ホメオスタシスについて理解する。	
3	食品の栄養素と機能について：食品の機能を理解し特定保健用食品と特別用途食品、食品と薬との相互作用を理解する。	
4	栄養補給法について：経口栄養法　　経管、経静脈栄養法について理解する。	
5	医療施設、介護福祉施設の栄養ケアについて：栄養管理システム、栄養ケア、マネジメント、クリニカルパス、リスクマネジメントの意味を理解する。	
6	栄養アセスメントと栄養量の算出について：栄養スクリーニング、栄養パラメータ、検査値について理解する。	
7	チーム医療について：病院のチーム医療、緩和、褥瘡、摂食、嚥下リハビリテーション、地域連携について、またクリティカルケア、ＩＣＵの意味を理解する。	
8	栄養記録について：ＰＯＳ、ＰＯＭＲ、ＳＯＡＰの意味を理解する。	
9	栄養障害：低栄養（褥瘡を有する）、及びブレーデンスケールについて：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
10	代謝疾患（肥満症、メタボリックシンドローム）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
11	代謝疾患（糖尿病、妊娠糖尿病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
12	代謝疾患（脂質異常症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
13	代謝疾患（高尿酸血症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
14	消化器疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
15	消化器疾患（胃・十二指腸潰瘍、胆石症・胆嚢炎）：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。 範囲、形式、評価基準は後日掲示する。	毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用いてテーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。
授業参加状況態度	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] ②レポートを記載する際には、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]	①レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②評価やコメントに対しての質疑にはその都度対応する。

受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。	教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理　第3版』渡邉早苗他編（医歯薬出版株式会社） ISBN:978-4-263-70575-9 『日本人の食事摂取基準　2020年版』（第一出版） ISBN:978-4-8041-1408-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、各疾患の食事、嚥下等、食品・サンプル等を使用した体験学習を行っている。

授業科目名	FD220C 臨床栄養学Ⅱ			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	三井　悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。 実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。	①適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 ②病態別の食事内容について理解し使用可能食品や不可食品、特別用途食品、形態などを知りその使用を習得する。 ③病院では特に多職種との連携が必要であり、また栄養指導においても優れた感性、コミュニケーション能力が要求される。その技法を習得する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	消化器疾患（膵炎、肝炎）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
2	消化器疾患（肝硬変、脂肪肝）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
3	循環器疾患（高血圧症、妊娠高血圧症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
4	循環器疾患（心疾患、動脈硬化症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
5	腎疾患（急性腎炎・急性腎不全・慢性腎臓病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
6	腎疾患（糖尿病性腎症、透析）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
7	腎疾患（ネフローゼ症候群、小児腎疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
8	内分泌疾患（甲状腺機能亢進症）、感覚器・神経疾患（脳梗塞）・クリティカルケア（外傷・熱傷）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
9	血液疾患（貧血）、筋骨格疾患（骨粗鬆症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
10	癌（胃癌）、術前・術後（短腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
11	嚥下機能障害（嚥下障害）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
12	乳幼児・小児疾患（先天性代謝異常症、食物アレルギー）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。	
13	外来患者（個人）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解する。	
14	外来患者（集団）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解する。	
15	ＱＯＬの向上について：ターミナルケアとホスピス、在宅医療、障害者への取り組みと栄養士の関わりを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末課題	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。 課題の範囲、形式、評価基準は後日掲示する。	毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用い、テーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。
授業参加状況態度	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] ②レポートを記載する際は、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]	①レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②評価やコメントに対しての質疑にはその都度対応する。

受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。	教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理　第3版』渡邉早苗他編（医歯薬出版株式会社） ISBN：978-4-263-70575-9 『日本人の食事摂取基準　2020年版』（第一出版） ISBN:978-4-8041-1408-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、紙カップや飲料等、媒体を用いた栄養指導・相談のペアワークを行っている。

授業科目名	FD230C 応用栄養学実習			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「応用栄養学」で学んだ知識を基に、各ライフステージの身体的、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理について、講義、献立作成、調理実習を通して理解し、実践的な技術、知識を身につける。実習は特に配慮が必要な乳幼児期、高齢期を中心に行う。	①各ライフステージにおける特性と問題点を理解する。 ②各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。 ③対象者の身体状況、食生活状況を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。

教授方法	講義、調理実習、献立演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習：調乳・冷凍母乳・離乳食；生後5,6ヵ月頃（無菌操作法による調乳法を習得する。冷凍母乳の方法を理解する。離乳食を調理し、進め方の目安を理解する。）	
2	実習：離乳食；生後7,8ヵ月頃（生後7,8ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）	
3	実習：離乳食；生後9～11ヵ月頃（生後9～11ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）	
4	実習：保育所給食3歳未満児（3歳未満児の昼食と間食を調理する。3歳以上児との給食形態の違いや調理法、分量などを理解する。）	
5	実習：保育所給食3歳以上児（3歳以上児の昼食と間食を調理するとともに、その献立材料から各班自由に離乳食を展開してみる。）	
6	実習：幼児の間食（幼児期の間食の必要性と与え方を学び、子どもの心と体を育む間食を考える。）	
7	実習：幼児の弁当（弁当の特徴や調理上の留意点を学ぶ。調理法、詰め方は各班で工夫する。）	
8	実習：食物アレルギー対応食（幼児期の食物アレルギー対応食の特徴や調理上の留意点などを調理実習を通して理解する。）	
9	演習：幼児食の献立作成（グループごとに幼児食の献立を作成する。）	
10	実習：高齢者の食事（高齢者の身体面、精神面の変化を理解し、健康な高齢者を対象としたメニューを実習する。）	
11	実習：高齢者の食事（高齢者の食生活に変化と潤いを与える行事食について理解する。）	
12	実習：作成献立の実習・評価（班ごとに作成献立の調理を行い、試食と評価を行う。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習のレポート	80	指定の用紙を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。	授業参加状況	20	受講態度、調理実習中の取り組み。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①応用栄養学で学んだ知識を生かせるよう復習しておく。[30分] ②作成献立による実習は事前に試作を行う。[90分] ③レポートをまとめ、1週間以内に提出する。[60分]	レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①実習の目的と内容を十分理解して授業に臨んで下さい。 ②提出物は期限までに必ず提出すること。 ③返却されたレポートは保管すること。	教科書・テキスト	プリント配布
指定図書／参考書等	なし/日本人の食事摂取基準　2020年版（第一出版）	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FD240C 臨床栄養学実習			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	上田　広美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
臨床栄養学は医学・栄養学の進歩に伴う食事療養の在り方を常に考慮していかなければならない。臨床栄養学の講義で学んだ基礎知識を踏まえ、疾病の改善に欠くことのできない栄養ケアの実際について学ぶ。調理実習や献立演習を通して、個々の患者のニーズに合わせるとともに、病態や栄養状態に基づいて適正な栄養管理ができるよう学びを深める。疾患別の栄養ケアの先に、栄養ケアの概念及び基礎（栄養補給法や基礎実習）を学ぶ。	①栄養ケアの概要を理解する。 ②栄養補給法について、種類や適応を理解する。 ③疾患別の栄養ケアについて、各疾患の概要を理解する。 ④「糖尿病治療のための食品交換表」を理解し、患者に指導ができるようになる。 ⑤調理実習では、まず基礎実習をしっかりと身につける。さらに各疾患の特徴を十分に理解したうえで、そのニーズに合わせた実習を行い、試食により味や舌触りを体験する。 ⑥グループワークにより、摂食・嚥下障害の実際を理解する。

教授方法	講義、調理実習（プリントを配布する）、献立演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	講義：栄養ケアの概要・栄養ケアの基礎（栄養ケアの概要を理解する。栄養補給法の種類を学び、その長所・短所、適応と禁忌、合併症などを理解する。）、調理実習に入る前の病院における衛生管理について。	
2	講義：一般治療食①　実習：栄養ケアの基礎実習Ⅰ－流動食－（流動食の種類、適応を理解する。具体的に流動食を実習し試食することにより、流動食しか食べることのできない状況を理解する。）	
3	講義：一般治療食②　実習：栄養ケアの基礎実習Ⅱ－五分粥食－（軟食の種類を理解し、五分菜食を実習する。五分粥に合わせた副菜を考える。）	
4	講義：一般治療食③　実習：栄養ケアの基礎実習Ⅲ－全粥食－（流動食、三分粥食、五分粥食、七分粥食、全粥食と段階を経て常食になることを理解する。）	
5	講義：疾患別の栄養ケアⅠ－高齢者の栄養管理、口腔障害、摂食・嚥下障害－（口腔障害、摂食・嚥下障害の概要及び機能評価と栄養ケアを関連付けて理解する。食事摂取量の低下の原因と改善の必要性を理解する。）グループワーク	
6	実習：疾患別の栄養ケア－介護食（段階別）－（ステップ１から３の段階別に調理実習を行うことにより、摂食・嚥下機能に合った傾向からの食事の形態を体験し、調理する技能を身につける。）	
7	講義：疾患別の栄養ケアⅡ－内分泌・代謝疾患－（肥満症、糖尿病、高尿酸血症、甲状腺機能低下症・亢進症、先天性代謝異常症について各疾患の概要を理解する。）症例検討（グループワーク）	
8	演習：献立演習－糖尿病食－（フードモデルを使って「糖尿病食事療法のための食品交換表」の使い方を理解し、１日分の献立を立てる。）	
9	実習：疾患別の栄養ケア－低エネルギー食－（肥満症や糖尿病などエネルギーのコントロールが必要な疾患において、エネルギーを低くおさえる工夫を考える。）	
10	講義：疾患別の栄養ケアⅢ－肝・胆・膵臓疾患、骨・関節疾患　実習：疾患別の栄養ケア－骨粗鬆症の予防－（カルシウムを多く含む食材を用いて調理実習を行い、普段の食事の中にどのように取り入れるかを考える。）	
11	講義：疾患別の栄養ケアⅣ－腎臓・尿路疾患、循環器疾患　実習：疾患別の栄養ケア－腎臓病食	
12	講義：疾患別の栄養ケアⅤ－胃・腸疾患、鉄欠乏性貧血　実習：疾患別の栄養ケア－鉄欠乏性貧血食	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習レポート評価	60	指定の様式を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。調理実習のポイント、感想、盛付図、振り返りなどを記載する。	糖尿病の献立演習	20	糖尿病の栄養ケアについて講義及び実習で学んだことを生かし、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて１日分の献立を立てる。
授業参加状況	20	受講態度、調理実習中の取り組み。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①初回授業において「臨床栄養学実習予定表」を配布するので、テキストにより予習して授業に臨む。[30分] ②定期試験を行わず、レポートにより評価するので、レポートを記載する際は、テキスト以外に図書館にある参考書などを参考に自分の覚書でなく、提出することを意識して作成しましょう。[60分] ③献立演習は、２週間後までの課題とするので時間をかけてしっかり取り組むこと。[120分]	①レポートは3週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 ②献立演習は4週間以内に添削をして返却する。狙いの理解がみられるまで再提出と添削・返却を繰り返す。 ③評価やコメント等に関しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	①疾患ごとの病態や食事療法の方法を理解し、個々のニーズに合わせた栄養ケアをしっかりと学んでください。 ②実習はまず出席し、グループの仲間と計画的・能率的に行うことが大切です。積極的に取り組んでください。 ③提出物は必ず期限を守ってください。 ④返却されたレポートは保管してください。	教科書・テキスト	「トレーニーガイド　栄養食事療法の実習　第13版」 本田佳子編　　医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-70792-0) 「糖尿病食事療法のための食品交換表　第７版」 日本糖尿病学会編　文光堂　2013年 (ISBN:978-4-8306-6046-7)
指定図書／参考書等	なし／「第８版 腎臓病食品交換表 治療食の基準」黒川清監修 中尾俊之他編　　医歯薬出版 2008年 （ISBN:978-4-263-70557-5） 新しい臨床栄養学 改定第6版　後藤昌義ほか著（南江堂）2014年 （ISBN:978-4-524-26591-6） 日本人の食事摂取基準　2020年版（第一出版）2020年 （ISBN:978-4-8041-1408-8）	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

・病院での管理栄養士経験を生かし、調理現場での衛生管理手洗いの実践を実習に導入している。
・糖尿病食の展開について実際の病院での献立作成に使えるよう現場での注意点を伝えるようにしている。
・実習では実際の病院での一般食から形態調整・特別食への展開を導入している。

授業科目名	FG100C 栄養指導論Ⅰ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	三田　陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
健康の維持増進、健康寿命の延伸及びQOL向上のためには、適切な栄養状態を保ち、健全な食生活を実践することが大切である。本授業では、望ましい食生活の実現に向けた行動変容の支援をするための基本的な知識を学ぶ。まず、栄養指導の歴史や関係法規などを学習し、さらに行動科学を中心とした代表的な理論やモデル、概念とその必要性を理解し、それらを用い、マネジメントサイクルに沿って栄養指導を展開する技術を、栄養カウンセリング技法も含めて学ぶ。	①栄養指導の目的と意義を説明できる。 ②国民の栄養や食事の現状と課題を説明できる。 ③栄養指導に必要な基礎知識を習得している。 ④栄養マネジメントの手順や方法を説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養指導の概念（栄養指導の意義と目的及び栄養指導における栄養士･管理栄養士の役割を理解する。）	
2	栄養指導の沿革①（栄養指導の歴史について理解する。）	
3	栄養指導の沿革②（栄養指導や栄養政策の変遷について理解する。時代に合わせた栄養士・管理栄養士のはたらきと今後の展望について理解する。）	
4	栄養指導と関係法規（栄養士法と栄養士制度を理解する。栄養指導に関係する法律を理解する。）	
5	食生活・栄養に関する諸調査①（食事調査の方法と種類、活用場面に応じた適切な方法の選択について理解する。）	
6	食生活・栄養に関する諸調査②（国民健康・栄養調査の目的、方法、法的根拠について理解する。日本の健康・栄養に関する動向と現状、課題を理解する。）	
7	栄養指導・教育（相談）の方法と技術①（栄養教育プログラムの流れを理解する。）	
8	栄養指導・教育（相談）の方法と技術②（栄養教育プログラムにおける目標設定及び評価の方法とあり方を理解する。）	
9	栄養指導の実際①（栄養指導に応用される行動科学の理論やモデルを理解する。）	
10	栄養指導の実際②（栄養カウンセリングの専門用語、技法を理解する。）	
11	栄養指導の実際③（指導方法の種類と選択について理解する。教材・媒体の種類と活用方法について理解する。）	
12	栄養指導に必要な基礎事項①（「日本人の食事摂取基準」の概念と活用を理解する。）	
13	栄養指導に必要な基礎事項②（日本食品標準成分上、食品群、食生活指針、食事バランスガイドについて理解する。）	
14	栄養指導と情報の収集・処理①（情報を評価・識別することの必要性を理解する。）	
15	栄養指導と情報の収集・処理②（情報収集の方法を理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	60	栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識を習得できているか。	授業ノート	30	授業内容を理解し適切にまとめているか。
授業参加姿勢	10	テキスト等必要なものを準備し、マナーを守り、積極的に参加しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。[30分]	提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。

受講生に望むこと	学んだことを活用しながら、ぜひ自分の生活時間、食生活の自己管理に挑戦してみて下さい。	教科書・テキスト	エスカベーシック「栄養指導論」第二版　古畑　公・田中　弘之 編著　同文書院　2018 年　ISBN 978-4-8103-1460-1 2022年度版「管理栄養士栄養士必携」公益社団法人　日本栄養士会編　第一出版　2022年 ISBN：9784804114460
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FG200C 栄養指導論Ⅱ			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	三田　陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
健康の維持増進、健康寿命の延伸及びQOL向上のためには、適切な栄養状態を保ち、健全な食生活を実践することが大切である。本授業では、多様な場においてマネジメントサイクルに基づいた栄養指導を展開するために、栄養指導論Ⅰで学習した内容を踏まえつつ、対象者のライフステージや生理的・身体的特徴及びライフスタイル別の食生活の特徴について学び、栄養指導を実践するための知識・技術を習得する。また諸外国の栄養問題についても学習し、持続可能な開発目標と食と健康との関わりについて考える。	①ライフステージ別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。 ②特定給食施設別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。 ③諸外国の栄養問題と、持続可能な開発目標と食と健康との関わりについて考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ライフステージ別栄養指導①-1　妊娠期、授乳期（妊娠期、授乳期の特徴を理解する。）	
2	ライフステージ別栄養指導①-2　妊娠期、授乳期（妊娠期、授乳期の栄養指導の方法やあり方を理解する。）	
3	ライフステージ別栄養指導②-1　乳児期、幼児期（乳児期、幼児期の特徴を理解する。）	
4	ライフステージ別栄養指導②-2　乳児期、幼児期（乳児期、幼児期の栄養指導の方法やあり方を理解する。）	
5	ライフステージ別栄養指導③-1　学童期、思春期（学童期、思春期の特徴を理解する。）	
6	ライフステージ別栄養指導③-2　学童期、思春期（学童期、思春期の栄養指導の方法やあり方を理解する。）	
7	ライフステージ別栄養指導④-1　成人期（成人期の特徴を理解する。）	
8	ライフステージ別栄養指導④-2　成人期（成人期の栄養指導の方法やあり方を理解する。）	
9	ライフステージ別栄養指導⑤-1　高齢期（高齢期の特徴について理解する。）	
10	ライフステージ別栄養指導⑤-2　高齢期（高齢期の栄養指導の方法やあり方を理解する。）	
11	ライフスタイル別栄養指導（単独生活者、運動実践者などの食生活の特徴と栄養指導の方法を理解する。）	
12	給食における栄養指導①-1　病院（病院給食の目的に対応した栄養指導の特性を理解する。）	
13	給食における栄養指導①-2　学校（学校給食の目的に対応した栄養指導の特性を理解する。）	
14	給食における栄養指導①-3　福祉施設、事業所など（福祉施設、事業所給食などの目的に対応した栄養指導の特性を理解する。）	
15	諸外国の栄養状況（諸外国の栄養問題、持続可能な開発目標について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	60	ライフステージ別、特定給食施設別の栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識が習得できているか。	授業ノート	30	授業内容を理解し適切にまとめているか。
授業参加姿勢	10	テキスト等必要なものを準備し、マナーを守り、積極的に参加しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分] 復習：教科書、配布資料、ノートを確認しながら理解を深める。[30分]	提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。

受講生に望むこと	学んだことを活用しながら、ぜひ自分の生活時間、食生活の自己管理に挑戦してみて下さい。	教科書・テキスト	エスカベーシック「栄養指導論」第二版　古畑　公、田中　弘之　編著　同文書院　2018年　ISBN 978-4-8103-1460-1 2022年度版「管理栄養士栄養士必携」公益社団法人　日本栄養士会編　第一出版　2022年
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FG210C 公衆栄養学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	長井　直子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
地域等の健康・栄養問題とそれらを取り巻く諸問題に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。集団の健康増進・栄養改善に必要な公衆栄養プログラムを展開するために、公衆栄養マネジメントの概念、プログラム計画策定・実施の手法、栄養疫学・栄養アセスメントの手法、プログラム評価のための指標・情報収集の方法を学ぶ。また、わが国の健康・栄養政策、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題等も学習する。	①地域等の健康・栄養問題に関心が持てるようになる。 ②公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する手法を理解する。 ③わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状、課題、政策について理解する。 ④栄養関係法規を理解する。

教授方法	講義
履修条件	公衆栄養学と関連の深い『公衆衛生学』を受講していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	公衆栄養の概念と活動の基本（公衆栄養活動の意義・目的・歴史）	
2	公衆栄養の政策と関連法規（地域保健法・健康増進法・食育基本法・高齢者医療確保法・食品表示法）	
3	食育推進基本計画と食育白書（第４次食育推進基本計画・食育白書・自治体計画）	
4	公衆栄養マネジメント・アセスメント（自治体における活動の進め方・プリシード・プロシードモデルの概念・アセスメント・地域診断）	
5	公衆栄養プログラム計画・評価と健康日本21（住民参加・政策との調整・評価の種類とフィードバック）	
6	国民健康・栄養調査（目的・沿革・体系・調査のフロー・調査の方法・結果の概要）	
7	栄養政策に関連する指針・ツールと特定健診・特定保健指導（食生活指針・食事バランスガイド・健康な食事・身体活動指針）	
8	健康・栄養問題の現状と課題Ⅰ（国民の健康状態・食生活の変化）	
9	健康・栄養問題の現状と課題Ⅱ（高齢社会の健康及び栄養問題）	
10	食環境の整備と食料需給（健康サポート店・スマートミール・食料需給と食品ロス）	
11	食事摂取基準の概要と活用Ⅰ（日本人の食事摂取基準2020年版の概要）	
12	食事摂取基準の概要と活用Ⅱ（日本人の食事摂取基準2020年版の演習）	
13	栄養疫学の概要（各種指標・疫学研究事例）	
14	栄養疫学における食事摂取量の測定（食事摂取量の調査法・評価）	
15	諸外国の健康・栄養問題と栄養政策（国際連合・世界保健機関・国連食糧農業機関・世界栄養会議）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	40	レポートを正確に作成、提出期限を厳守する	定期試験	30	講義内容の理解度を判定する
授業参加意欲	30	授業受講態度・学習への取り組み姿勢			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書予習をして授業に臨む。［30分］ ②課題レポート作成に取組む。［30分］ ③健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する情報を収集する習慣を身につける。［30分］	課題レポートは、解答例を添えて随時返却する。

受講生に望むこと	・配付資料や課題レポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT『公衆栄養学概論　第２版』友竹浩之・郡　俊之編　講談社　2021年１月20日 第2刷発行　ISBN978-4-06-518098-3
指定図書／参考書等	なし／『国民健康・栄養の現状』国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所監修　第一出版	その他・特記事項	各授業で参考資料の配付あり。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FG220C 栄養指導論実習			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	三田　陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
健康の維持増進、健康寿命の延伸及びQOL向上のためには、適切な栄養状態を保ち、健全な食生活を実践することが大切であり、栄養士は人々の望ましい食生活を支援する専門職である。本授業では、栄養士が行う栄養指導の意義や目的を理解した上で、多様な場において、行動変容に関する理論等を統合しマネジメントサイクルに沿った栄養指導を実践するための方法を演習や実習を通して学ぶ。	①自分の食物摂取状況、生活時間状況、身体状況を適切に記録できる。 ②アセスメント結果をもとに、栄養指導計画立案、実施、評価の一連の流れを理解し実践につなげることができる。 ③対象者の特性を考慮しながら、栄養指導の内容を効果的に伝え対象者の理解を深める媒体を検討、作成できる。

教授方法	演習、実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　栄養指導論実習の意義を理解する。 基礎演習①栄養価計算（栄養士業務に必要な栄養価計算の方法を復習し、確実に習得する。）	
2	アセスメント（実態の把握）①　食物摂取状況・生活時間状況・身体状況を調査する。	
3	基礎演習②　食品群と加重平均成分表、食品構成（食品群、加重平均成分表及び食品構成について復習する。）	
4	基礎演習③食事摂取基準（「日本人の食事摂取基準」を活用した食事評価について復習する。）	
5	アセスメント（実態の把握）②　身体計測に基づく判定・評価、自覚症状による判定・評価をする。 アセスメント（実態の把握）③　食事調査の栄養価計算をし、食事摂取基準、食品群を用いて評価する。	
6	アセスメント（実態の把握）④　食事調査の結果を、栄養比率や食事バランスガイド等を用いて評価する。	
7	アセスメント（実態の把握）⑤　生活時間調査を整理し、結果から消費エネルギー及び身体活動レベルを算出する。	
8	栄養指導の演習①　アセスメント結果より栄養指導計画案を検討する。	
9	栄養指導の演習②　栄養指導計画に沿って栄養指導を実施する。	
10	栄養指導の演習③　実施した栄養指導を評価する。	
11	栄養指導の媒体①　栄養教育･栄養指導に用いる媒体について理解する。	
12	栄養指導の媒体②　対象者の特性に合わせた媒体の作成･検討（手描きによる媒体）	
13	栄養指導の媒体③　対象者の特性に合わせた媒体の評価（手描きによる媒体）	
14	栄養指導の媒体④　対象者の特性に合わせた媒体の作成･検討（パソコンソフトを用いた媒体）	
15	栄養指導の媒体⑤　対象者の特性に合わせた媒体の評価（パソコンソフトを用いた媒体）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	80	ねらいを理解し適切にまとめているか。	授業参加姿勢	20	必要なものを準備し、マナーを守り、積極的に参加しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次回までに調べる必要のあることを調べる、授業時間内に仕上がらなかった課題を完成させるなど、次の段階に進むために必要な学習を確実に行って下さい。[30分]	提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。

受講生に望むこと	学んだことを活用しながら、ぜひ自分の生活時間、食生活の自己管理に挑戦してみて下さい。	教科書・テキスト	改訂「栄養教育・指導実習 」関口紀子　編著　建帛社　2020年 ISBN 978-4767906799 「日本食品成分表2021 八訂」　医歯薬出版編　医歯薬出版 ISBN　978-4-263-70819-4 2022年度版　「管理栄養士栄養士必携」日本栄養士会　編　第一出版　2022年
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC200C 給食実務論(含計画)			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
給食とは、特定の人に対し継続的に提供される食事であり、単なる栄養補給のための食事提供ではなく、実際に食べる量・味・盛り付けなども栄養教育の媒体となり栄養管理の一環として大切である。特定給食施設での食事は、主に対象者の健康の保持増進を目的としていることを理解した上で、病院、学校、事業所、福祉施設等の各特定給食施設における給食の計画、実施、評価までの一連の業務内容を学習し、対象者の栄養改善に寄与できる適切な栄養管理を行うための知識を習得する。また関係法令や行政指導等を学び、栄養士・管理栄養士の役割を理解する。 ※SDGsターゲット12.5関連科目	①特定給食施設における給食の目的や栄養士の役割について説明できる。 ②関連法規について説明できる。 ③大量調理施設衛生管理マニュアルを理解し、作業工程や作業動線を考えられるようになる。 ④調理従事者の衛生管理や衛生事故の予防と対策が説明できる。 ⑤給食施設ごとの給食の目標や特徴、栄養管理の方法を説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	給食の定義を理解し、給食の意義や歴史と現状を知り、特定給食施設における給食の位置づけについて学ぶ。	
2	栄養・食事管理の目的を理解し、給与栄養目標量の設定、献立計画及び評価について学ぶ。	
3	栄養・食事管理の目的を理解し、給食と栄養教育・栄養指導について学ぶ。	
4	給食の安全・衛生管理について、HACCPに基づく衛生管理手法と大量調理施設衛生管理マニュアルを通して理解を深める。	
5	事故・災害対策への対応や食物アレルギー対応について学ぶ。	
6	給食の調理管理として、食材管理について学ぶ。	
7	給食の調理管理として、調理作業管理について学ぶ。	
8	給食の調理管理として、新調理システムについて学ぶ。	
9	給食の施設・設備管理として、給食施設内のいろいろな設備について学ぶ。	
10	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、学校給食、病院給食について学ぶ。	
11	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、保育所給食、高齢者福祉施設給食について理解する。	
12	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、事業所給食、その他の給食について理解する。給食の業務委託と配食サービスについて学ぶ。	
13	給食の組織と機能におけるPDCAサイクルの理解と連携及び人事・労務管理を学ぶ。	
14	給食の情報処理管理として事務管理の実際について学ぶ。	
15	給食の会計・原価管理の目的を知り、原価構成や財務諸表について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	60	試験形式で、栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。	課題	30	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
授業参加意欲	10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習してください。［30分］ ②関連科目とリンクさせ、主体的に学ぶことが大切です。とくに、課題の取り組みでは、図書館を利用して知識を定着させる努力をしてください。［60分］	授業に関する質問には随時応じます。

受講生に望むこと	校外実習ならびに栄養士免許取得に向けて、基本的なことはしっかり理解できるように努力してください。	教科書・テキスト	『改訂 給食の運営ー栄養管理・経営管理ー』逸見幾代、平林眞弓編著　長田早苗他共著　建帛社　ISBN978-4-7679-0663-8 『給食経営管理用語辞典 第3版』日本給食経営管理学会監修 第一出版　ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会　2021年度版　第一出版　ISBN:978-4-8041-1409-5
指定図書／参考書等	なし／『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著　講談社ISBN978-4-0651-4066-6 日本人の食事摂取基準［2021年版 ］　第一出版　ISBN978-4-8041-1408-8 食事療養のための食品交換表　第 7 版　日本糖尿病学会編　ISBN978-4-8306-6046-7	その他・特記事項	代替授業はGoogle Classroomから課題を配信またはGoogle Meetによるオンライン授業を行います。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC100C 調理学			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
調理は、日常生活では実習が先になるが、合理的に美味しく調理しようとすれば、科学的な理論を理解することが調理技術の効果的な習得に繋がる。特に将来栄養士として食の指導に携わる場合、技術のみならず理論を熟知することが必要となる。調理の過程は、食事計画→食材調達→調理操作→供食であり、これにより食品を料理（食物）とすることになり、栄養素の摂取を具現化することができる。この授業では、①調理の概念②美味論③調理操作論④各食品の調理特性⑤調理器具について理解をすることができる。	①調理の概念と食生活における位置づけ、栄養士の学びでの位置づけを把握する。 ②おいしいとはどういうことかを科学的に理解する。 ③調理の課程とその中の調理操作の特徴を理解し、適切な調理操作を選択できるようにする。 ④調理に必要な機器や設備を理解する。 ⑤食品毎の調理性を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理学の意義、食事計画論、調理文化論：この授業への導入として調理学で何を学ぶかを把握する。さらに、食事計画の概念、調理の文化的視点を理解する。	
2	調理操作論－非加熱操作：「洗浄」「浸漬」「攪拌・混合」など、各非加熱操作の目的や特徴・留意点など理解する。	
3	調理操作論－加熱操作Ⅰ（湿熱加熱）：「茹でる」「煮る」「蒸す」など、湿熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
4	調理操作論－加熱操作Ⅱ（乾熱加熱）：「揚げる」「焼く」炒める」など、乾熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
5	食べ物のおいしさⅠ（化学的要因）：おいしさについて、味覚で感ずる味を中心に、その種類や感じ方を理解する。	
6	食べ物のおいしさⅡ（物理的要因）：おいしさについてテクスチャーや温度との関係などを理解する。	
7	食品の調理性（砂糖、でんぷん　ゲル化剤）：砂糖が様々な食品の調理に及ぼす影響や、でんぷんの糊化や老化のの過程や意義を理解する。	
8	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。	
9	食品の調理性（穀類　芋類、豆類）：小麦粉、じゃがいも、 さつまいもなどの芋類と大豆や小豆などを調理する際の特徴を理解する。	
10	食品の調理性（野菜類、果実類）調理におけるたんぱく質の変性：野菜の調理とあくの除去、果実の調理の特徴を理解する。動物性食 品の調理性を学ぶにあたりたんぱく質の変性を理解する。：	
11	食品の調理性（獣鳥肉類・魚介類）：牛肉、豚肉、鶏肉などの調理と魚介類の調理の特徴と差異を理解する。	
12	食品の調理性（卵類・乳類）：卵と牛乳の調理性を理解する。	
13	食品の調理性（油脂類・ゲル化材料）：調理に関連する油の特徴とゲル化材料の差異を理解する。	
14	調理の設備、器具、エネルギー：調理場、台所における貯蔵設備、加熱器、熱源、その他の調理器具などの特徴を学ぶ。	
15	食事設計、共食、食事環境：食事設計の意義と日本・西洋・中華料理の食卓構成などに理解を深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率	課題レポート	20	課題への取り組み方とまとめ方
授業態度	10	授業への参加意欲			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、調理学の学びを把握する。 ②毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。 ③授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。 ④日常生活の中で、調理に関心を持つ。 ［毎回30分］	レポートは返却する。

受講生に望むこと	調理学実習との関連で理解をして欲しい。さらに、食品学や栄養学とも関連させて学びを深めて欲しい。	教科書・テキスト	『新版調理学』綾部園子編集　理工図書 ISBN：978－4－8446－0894－3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC110C 調理学実習A	開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・中村　喜代美 （代表教員　新澤　祥恵）				
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
調理は献立立案からはじまり、適切な食品を選び、それに調理操作を行って、美味しい食べ物に仕上げ、盛りつけし、喫食することまでが対象となる。この授業では、基礎的な調理技術（煮る、焼く、揚げるなどの加熱操作や計量、混合・攪拌などの非加熱操作）の理解と習得を目標に、日本調理様式より、出汁・炊飯等よりはじめ、代表的な料理を取り上げて実習を進める。また、基礎的な調理学実験（卵の加熱、ゲル化素材の調理、小麦粉の調理、揚げ物の仕組み等）も組み入れ、理論と実際に起きる現象を確かなものとしたい。	①基礎的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②基本的な切り方などは、一定の水準に達すること（適切な速度で正しい包丁の使い方が出来る）。 ③日常的に利用する食材の扱い方を習得する。 ④基礎的な保存食品の調理技術を習得する。 ④理論と実技を関連させて理解し、実践できる。

教授方法	講義の後、グループに分かれて実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	日本調理の概要：日本料理の特徴、歴史等を理解する。 調理実習を始めるにあたり調理の基本操作を学ぶ。	新澤
2	炊飯、清汁（混合だし）、浸し：炊飯とその理論、出汁のとり方、緑黄色野菜の茹で方を学ぶ。	新澤
3	味付け飯、酢の物（二杯酢）、煮物、味噌汁：かやくご飯の副材料の使い方、 酢の物の合わせ酢の比率、煮物の調味比率の計算、味噌汁の調理を学ぶ。	中村
4	味付け飯、煮物、漬物、米粉の調理：味付け飯の調味比率と留意点、煮物の留意点、漬け物の原理、米粉調理のうち、もち米粉の調理を学ぶ。	中村
5	煮魚、酢の物（三杯酢）、米粉の調理他：煮魚の方法（煮汁の調味割合など）、三杯酢の調味、うるち米粉の調理を学ぶ。	新澤
6	煮魚、酢の物（酢味噌和え）、潮汁：魚の調理（三枚おろし）、 魚の酢締めの方法と理論、魚介類の旨味について理解する。	新澤
7	揚げ物調理、漬け物：天ぷらなどの調理をとおして、 揚げ物の理論を理解し、調理方法を学ぶ。	中村
8	蒸しもの調理、寄せもの（寒天）：赤飯、茶碗蒸しの調理をとおして、蒸し物の原理と材料による差異を理解する。また、ゲル化材料としての寒天の調理法を理解する。	中村
9	焼き物調理、寄せもの（寒天）、めん類,、保存食の調理：魚の姿焼きと鍋焼きにより、焼き物料理の特 徴と直接焼き、間接焼きの差異を学ぶ。また、寒天の凝固温度の理解と、麺類の扱い方を学ぶ。保存食として梅干しの調理法を学ぶ。（1）	中村
10	すし、寄せもの（でんぷん）：すし飯の調理を学び、でんぷんの糊化調理を理解する。	新澤
11	調理学実験 ：鶏卵の熱凝固を理解する。寒天の凝固に及ぼす要因を理解する。揚げ物における油の吸収率の計算方法や、ルーの特徴を理解する。小麦粉の膨化を理解する。	新澤
12	エコクッキング、保存食の調理：環境に負担をかけない調理法について考えるきっかけとする。保存食としての梅干しの調理法を学ぶ。（2）	中村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況	実技試験	20	基本的な切り方テスト等の試験結果
課題レポート	30	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。 ②常に計量する習慣をつける。（料理に使う材料の重量を把握できるようにする。） ③授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。 ④実習内容をまとめる。[毎回30分]	レポートは返却する。

受講生に望むこと	①授業前にテキストを読んでくる。 ②失敗を恐れず授業内容に取り組む。 ③自分自身の体調管理を行う。 ④日常的に調理に携わる。	教科書・テキスト	日本調理テキスト
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC120C 調理学実習B			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、西洋料理、中国料理の中から代表的な料理を取り上げ、日本調理様式と比較しながら、各料理の特性や調理法、食材の扱い方などを学ぶ。また、切砕などの基本的な操作技術が会得できるよう、その技術の理論やコツの習得を目指す。実習は、デモンストレーション、調理、評価、試食、後片付けという流れで行う。	①基礎的な調理技術を習得する。 ②衛生面、安全面を考慮し、食材を適切に扱うことができる。 ③西洋調理様式、中国調理様式の特徴を理解する。 ④グループ実習でコミュニケーション能力や積極性を身につける。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	野菜の切り方、マヨネーズ、フレーズマルキーズ（基本切り、卵黄の乳化性、生クリームの泡立ての要点について学ぶ。）	
2	鮭のベシャメルソースがけ、マセドアンサラダ、ヨーグルトゼリー（魚の蒸し物、ルーとソースの作り方、ゼラチンの性質について学ぶ。）	
3	トマトソース、スコッチエッグ、イカのマリネ（基本のソース、揚げ物の要点、イカの扱い方について学ぶ。）	
4	ブラウンソース、ハンバーグ、コーンポタージュ、サラダ（基本のソース、挽肉の調理、ポタージュの要点について学ぶ。）	
5	エビフライ、ミネストロンスープ、ババロア（エビの扱い方、フライの材料と役割、トマトの調理について学ぶ。）	
6	コンソメスープ、鯖のパピヨット、オムレツ（魚の三枚おろし、コンソメ、オムレツの要点について学ぶ。）	
7	ポークソテーハワイアン、マカロニグラタン、ヨーグルトサラダ（ルーを用いた調理について学ぶ。）	
8	拌菜、炒菜、溜菜、点心（中国料理の炒め物、あんかけ料理について学ぶ。）	
9	炒菜、溜菜、桧菜、点心（中国料理の薄くず煮料理について学ぶ。）	
10	炒菜、焼菜、点心（中国料理の煮しめ料理について学ぶ。）	
11	煎菜、炸菜、炒菜（中国料理の油焼き料理について学ぶ。）	
12	実習：湯菜、拌菜、点心（中国料理の和え物、スープ、点心について学ぶ。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況と実習記録	60	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況	実技試験	40	加熱調理（炒飯）の試験結果

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習前にテキスト・動画により予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] ②実習記録をまとめ、1週間以内に提出する。[30分]	①実習記録は学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①テキスト・動画をもとに内容を十分理解して実習に臨む。 ②失敗を恐れず、積極的に実習に取り組む。 ③家庭でできるだけ調理を行う。	教科書・テキスト	西洋料理テキスト 中国料理テキスト
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC130C 調理学実習C			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	新澤　祥恵・中村　喜代美 （代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、日本調理様式の料理を中心とし基礎的調理より応用的、食文化的視点により展開し、郷土食、行事食、供応食などを中心に、実習を進めていく。郷土食では、石川県の食材や代表的な郷土料理を、行事食としてはおせち料理や祭礼料理を、供応食では会席料理の献立形式にそって実習をすすめ、これらへの関心・理解を深めたい。また、漬物などの加工的調理も実習する。さらに、美味しさに関する実験により、理論的な理解に繋げる。	①基礎的なものに加え、応用的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②多様な調理器具の使い方を会得する。 ③日常的に利用する食材に加え、特殊食材の扱い方を習得する。 ④日本料理の献立形式を理解する。 ⑤郷土料理を知り、その調理法を習得する。 ⑥日本の食文化を理解する。 ⑦理論と実技を関連させて理解し、実践できる。

教授方法	講義の後、グループに分かれて実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理学実験：味の評価方法を理解する（官能検査により）。	新澤
2	味付け飯、煮物他：栗、蓮根など季節の食材の調理を理解する。	中村
3	味付け飯、田楽他：季節の食材の利用と合理的な調理方法を学ぶ。	中村
4	地場農産物を理解し、その調理法を工夫する。	中村
5	郷土料理 1：祭礼の献立を学ぶ。押しずし、えびすなど 当地の郷土料理の理解をする。	新澤
6	郷土料理 2：郷土食の内、特に、じぶ煮や鯛のから蒸しなどの供応食の調理を学ぶ。	新澤
7	刺身、粕汁、和菓子：さしみの基本を学ぶ。小麦粉の 膨化の調理を学ぶ。	中村
8	雑炊、刺身他：雑炊の調理を学び、鯛の様々な調理を学ぶ。	中村
9	会席献立 1：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。	中村
10	会席献立 2：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。	新澤
11	正月料理：おせち料理の意義を理解し、その調理法を知る。	新澤
12	鍋料理：鍋料理（寄せ鍋）の特徴と調理法を学ぶ。	新澤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	40	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況	実技試験	20	加熱調理（だし巻き卵）の試験結果
課題レポートまたは筆記試験	40	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。 ②常に計量する習慣をつける。（料理に使う材料の重量を把握できるようにする） ③授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。 ④実習内容をまとめる。[毎回30分]	レポートは返却する。

受講生に望むこと	①授業前にテキストを読んでくる。 ②失敗を恐れず授業内容に取り組む。 ③自分自身の体調管理を行う。 ④日常的に調理に携わる。	教科書・テキスト	日本調理テキスト
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC140C 調理学実習D			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	俵　万里子・中村　喜代美 （代表教員　俵　万里子）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、西洋調理・中国調理様式の料理を中心とし、基礎的調理より行事食・供応食などへ応用的に展開する。行事食ではクリスマス料理などを、また、欧風の供応形式として正餐コースを取り上げる。中国調理では大菜と点心の特徴を学ぶ。さらに魚介類の取扱など多少難易度の高い調理操作なども会得できるよう実習を進める。	①基本的な調理技術をもとに、より実践的な技術を習得する。 ②行事食、供応食などの調理に必要な知識と技術を習得する。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラムチャウダー、ポークピカタ、オレンジドロップクッキー（貝の調理、豚肉の調理、ピカタの要点について学ぶ。）	俵
2	エビピラフ、ロールキャベツ、シェフサラダ（ピラフ、ロールキャベツの調理の要点について学ぶ。）	俵
3	ミートソース、フリッター、コンビネーションサラダ（日本の天ぷらとの違いを理解する。）	中村
4	豚肉のロベール、アップルパイ、ポーチドエッグサラダ（パイ生地の膨化について学ぶ。）	中村
5	ビーフシチュー、クリームコロッケ、りんごのクレープ（牛肉の部位と調理について学ぶ。）	中村
6	鯵のムニエル、ビーフカレー、ワルドルフサラダ（鯵の三枚おろし、カレーのルーについて学ぶ。）	俵
7	ボルシチ、カニのコキール、スクランブルエッグ（ロシア料理を作り、体験する。）	中村
8	溜菜、拷菜、拌菜、点心（中国料理の直火焼き料理について学ぶ。）	中村
9	若鶏のクリーム煮、ピーマンの肉詰め、シュークリーム（シューの膨化について学ぶ。）	俵
10	デコレーションケーキ（スポンジケーキの膨化について学ぶ。各自デコレーションを工夫する。）	中村
11	正餐コース前半（正餐のテーブルセットとマナーについて学ぶ。）	俵
12	正餐コース後半（ステーキの焼成の要点について学ぶ。）	俵

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況と実習記録	60	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況	実技試験	40	魚の調理（3枚おろし含む）の試験結果

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習前にテキスト、調理動画により予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] ②実習記録をまとめ、1週間以内に提出する。[30分]	レポートは学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①実習前にテキスト、動画を確認し、内容を理解して実習に臨む。 ②段取りよく調理ができるように、作業手順を工夫する。 ③実習で行った料理を家庭でも作り、技術の向上を目指す。	教科書・テキスト	西洋料理テキスト 中国料理テキスト
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC160C 給食管理実習Ⅰ			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識の習得を目的とする。特定給食施設について理解し、その栄養管理の基本となる給与栄養目標量、食品構成および献立計画等について演習する。また、学内実習室において、栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食施設の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことをねらいとし、大量調理の実習を行う。講義で学んだ知識をもとに、給食対象者に満足してもらえる食事を提供することを学ぶ。講義・演習以外はクラスをグループに分けて実習を行う。 ※SDGsターゲット12.5関連科目	①特定給食施設について説明できる。 ②食事摂取基準をもとに給与栄養目標量を設定することができる。 ③食品構成をもとに献立を考えることができる。 ④大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理が理解できる。 ⑤実習においてコミュニケーションの必要性を理解し、行動できる。 ⑥献立管理ソフトを使って献立作成ができる。

教授方法	講義・演習と実習
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習オリエンテーションを行う。大量調理における献立計画の基本、献立表の記載方法、栄養計算ソフト（エクセル栄養君）の操作を学ぶ。	
2	大量調理における切り方の練習、機器の取り扱いについて学ぶ。	
3	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
4	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
5	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
6	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
7	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。1回目の実習の振り返りをする。献立作成の演習をする。	
8	作業管理、衛生管理（大量調理施設衛生管理マニュアル、HACCP)、諸帳票類（栄養出納表ほか）について再確認する。	
9	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
10	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
11	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
12	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
13	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。2回目の実習の振り返りをする。	
14	厨房機器（スチームコンベクションの使い方）及び新調理システム、嗜好調査、残量調査について学ぶ。	
15	課題の献立作成の整理。全体の振り返りと発表。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	50	試験形式で、栄養士として必要な知識が理解できているか評価する。	献立作成演習・実習	20	献立作成における栄養評価、実習時における挨拶、身なり、ルールを守るなど基本的な態度を評価する。
課題	20	学んだ内容が実習報告書やレポートに丁寧に記載されているかを評価する。	授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①食材の出回り時期や価格について日頃から関心を持ってください。 ②食材を使用する際には、はかりで測ることを心掛け、目安量を把握できるように努力してください。［30分］ ③大量調理では、食材を早くていねいに切ることが求められるので、包丁をうまく使えるように練習してください。［60分］ ④実習前の準備や持ち物の確認をしてください。 ⑤実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。時間を確保して丁寧に記載してください。［60分］	実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却します。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。 授業に関する質問には随時応じます。

受講生に望むこと	授業中（実習も含む）の私語は慎んでください。 調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。 実習時は、持ち物を確認して忘れ物をせずに出席してください。 食事や睡眠を意識して体調管理を心がけてください。	教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著（株）みらい　ISBN978-4-86015-3434 『給食経営管理用語辞典（第3版）』日本給食経営管理学会監修　第一出版　ISBN978-4-8041-1339-5 『管理栄養士・栄養士必携　2021年度版』日本栄養士会第一出版　ISBN978-4-8041-1409-5
指定図書／参考書等	なし／日本人の食事摂取基準[2021年版]　　第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献	その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC210C 給食管理実習Ⅱ			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
給食管理実習Ⅰで学んだ知識をもとに計画（plan）、実施（do）、検討（check）、 修正のための実行（action）の PDCA サイクルを活用し、給食対象者に適切で、 豊かな食事を提供できるように、自主的に実習する。給食の運営管理の理論を実践し、給食施設の栄養士業務の計画、実施、評価を体得し、給食施設を管理するための技能と栄養士の役割について学習することを目的とする。講義・演習以外は、クラスをグループに分け業務を分担して実習を行う。 ※SDGsターゲット12.5関連科目	①給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識が理解できる。 ②栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解し、実践することができる。

教授方法	講義・演習と実習
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理作業計画：栄養管理（実施献立表と給与栄養目標量の評価・嗜好調査及び残食調査のまとめ）を理解する。	
2	調理作業計画：食材管理（食材日計表による材料費の評価・食材在庫管理）を理解する。	
3	目標:食数管理（発注作業など）、栄養指導媒体作成を行う。	
4	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
5	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
6	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
7	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
8	目標:評価、振り返り、栄養指導媒体作成を行う。	
9	目標:食数管理（発注作業など）、調理作業計画、HACCP に基づく衛生管理チェックを理解する。	
10	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
11	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
12	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
13	計画に基づく大量調理実習（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
14	目標:評価、振り返り。	
15	目標:グループ発表と相互評価を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	50	試験形式で、栄養士として必要な知識が理解できているかを評価する。	献立作成演習・実習	20	①献立作成と栄養評価の確認。 ②実習時における積極的な姿勢。 ③挨拶、身なりなどの基本的な態度。 ④実習後のレポートの指定期日までの提出。
課題	20	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。	授業への参加態度	10	①授業に積極的にかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①栄養比率を理解して対象者に合わせた献立作成ができるようにしてください。［30分］ ②媒体作成等は、授業時間のほか授業外の学習時間を利用して丁寧に仕上げてください。［60分］ ③実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。校外実習においても重要なため丁寧に見やすく書いてください。［30分］ ④実習前の準備や持ち物の確認をしてください。	実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。 授業に関する質問には随時応じます。

受講生に望むこと	①グループ作業が多いため役割分担するので、常に協力して行う姿勢で取り組んでください。 ②実習中の私語は慎んでください。 ③調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。 ④食事や睡眠を意識して体調管理をしてください。 ⑤実習時は、持ち物を確認して出席してください。	教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著　（株）みらい ISBN978-4-86015-343-4 『改訂 給食の運営ー栄養管理・経営管理ー』逸見幾代、平林眞弓編著　長田早苗他共著　建帛社　ISBN978-4-7679-0663-8 『給食経営管理用語辞典』第3版 日本給食経営管理学会監修　第一出版 ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携　2021年度版』日本栄養士会　第一出版 ISBN978-4-8041-1428-6
指定図書／参考書等	なし／『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著　講談社 ISBN978-4-065-14066-6　日本人の食事摂取基準[2021年版]　第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献	その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC150C 食事計画実習			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養士業務の基本となる食事計画の基礎的実践力を養うことを目標とする。この授業は、養成課程入学初期の学科目として授業を進める。まず、献立作成のために、食事摂取基準や食品成分表の基本の理解からはじめ、必要栄養量の設定や栄養価計算の基本技術の会得を目指し、さらに日常食の評価などにより食事計画の基礎を学ぶ。特に成人期の日常食を中心に、献立作成から調理へ実習を進めてその評価を行い、これをもとにライフステージを拡大しての食事計画へ進めたい。	①食事計画の意義と手順を理解できる。 ②食品成分表を用いて栄養価計算ができる。 ③必要栄養量を算出できる。 ④献立作成に必要とする調理に必要な食品やその使用目安量を把握できる。 ⑤日常食の評価ができる。 ⑥１日分から連続した数日分の献立を食品構成に基づいて作成できる。

教授方法	演習（献立作成等）　実習（調理）　講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食事計画実習の内容と意義：食事計画の意義とその手順を学修する。併せて、計算機の操作法も習得する。（食事計画の意義と手順を理解する。栄養価計算のための計算機の効率的な操作法を習得している。）	全員
2	食品成分表と使い方①：食品成分表について学修し、その活用方法を理解する。（食品成分表とその活用方法を理解する。食品成分表を利用して食品の栄養価を計算できる。）	全員
3	食品成分表と使い方②：モデル献立の栄養価計算をすることにより、食品成分表の使い方を会得する。（食品成分表を利用して献立の栄養価を計算できる。）	全員
4	食品の目安量：食品の目安量や常用量を会得し、献立作成に必要な食品の数量化を学ぶ。（代表的な食品の目安量や常用量を覚え、今後さらに増やしていくことのきっかけを持つ。）	全員
5	これまでの復習と食事の評価準備（基本的な栄養価計算の方法を身につけている。食事評価のための記録法を理解する。）	全員
6	食事の評価①：自身の食事内容を記録する。（2日分の食事を留意点に従って記録している。）	全員
7	食事の評価②：食事記録をもとに、栄養量を算出する技術を学ぶ。（自身の食事記録を栄養量算出のために整理できる。）	全員
8	自身の食事記録の栄養価計算をする。（これまでに学んだ栄養価計算の方法により自身の食事の栄養価計算ができる。）	全員
9	食事の評価③：『日本人の食事摂取基準』より、年齢、性別、身体活動量などをふまえて個人に必要な栄養量の算定方法を学ぶ。（『日本人の食事摂取基準』について理解し、自分の年齢、性別、身体活動量に合った指標を調べることができる。）	全員
10	食事の評価④：食品群別摂取量の指標と、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（自身の食事を食品群別摂取量から評価できる。）	全員
11	食事の評価⑤：栄養比率を求め、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（栄養比率とその求め方を理解する。自身の食事の栄養比率について評価できる。）	全員
12	献立作成の基本と献立構成①：献立の形式、バランスのとれた献立に必要なこと、作成の手順など、献立作成に必要な基本的技術を学ぶ。（献立作成に必要な基本的技術を理解している。）	全員
13	献立作成の基本と食品構成②：主食、主菜、副菜とそろった和洋中の献立を１食分×16回考える。（連続した献立を作成する際の要点を踏まえながら考えることができる。）	全員
14	献立作成の基本と食品構成③：献立作成のヒントとなる料理を挙げる。（資料等を参考にしながら多くの料理を知る。）	全員
15	献立作成の基本と食品構成④：食品構成について学び、一日分の献立作成の準備をする。（給与栄養目標量から食品構成を用いて献立作成をする、その一連の流れについて理解する。）	全員
16	基本献立の作成①：一日分の献立を作成する。（食品構成に基づき、一日分の献立を作成できる。）	全員
17	基本献立の作成②：一日分の献立の栄養価計算をする。（これまでに学んだ栄養価計算の方法により、一日分の献立の栄養価計算ができる。）	全員
18	調理実習献立の作成①：調理実習用に献立を選び、栄養価計算と評価をする。（調理実習を前提に献立を選ぶことができる。栄養価計算し、評価と調整ができる。）	全員
19	調理実習献立の作成②：食品の購入計画を立てる技術を学ぶ。（購入量計算により購入量を求めることができる。発注票を作成できる。）	全員
20	調理実習献立の作成③：献立より料理のレシピを作成し、作業工程を考える。（レシピを作成できる。制限時間や使用する器具・熱源の数に合わせて作業工程を検討できる。）	全員
21	作成献立の調理：献立、レシピに沿って調理を行い、試食などにより、評価する。（作成したレシピや作業工程に合わせて調理できる。試食により味のバランス等の評価ができる。）	全員
22	献立作成から調理実習の反省とまとめを行い、その結果を発表し、意見交換する。（スライドにまとめ、それを用いながら発表できる。クラスのメンバーの発表を聞いて意見交換しながらさらに振り返り、今後に活かすきっかけを持つ。）	全員
23		
24		
25		
26		
27		
28		

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29		
30		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各テーマにおける課題やレポート	90	授業内容の目的に応じて適切に作成されているか ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出	受講態度	10	必要なものを準備し、クラスルールやマナーを守って積極的に参加しているか

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の演習課題を整理し、着実に仕上げる。［毎回30分］	演習課題は確認後返却する。返却後も授業で参照する場合があるため、ファイルに綴り毎回持参すること。

受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明をよく聞き、わからないことがあれば積極的に質問する。 ③家庭での調理や食事の際、使用される食品やそこからできる料理に興味関心を持つ。 ④様々な場面で提供される食事の内容に興味関心を持つ。	**教科書・テキスト**	『日本食品成分表2022 八訂 』医歯薬出版 編　医歯薬出版株式会社 ISBN 978-4-263-70819-4 『調理のためのベーシックデータ』第6版　松本仲子監修　女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-0325-9
指定図書／参考書等	なし／「管理栄養士・栄養士必携」日本栄養士会　第一出版 「日本調理」実習テキスト「西洋調理」実習テキスト「中華調理」実習テキスト 「調理と理論」山崎清子他著　同文書院	**その他・特記事項**	代替授業日はGoogle Classroomより課題を配信、またはGoogle Meetによるオンライン授業を行う。対面授業日に課題を配布する場合もある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FC220C 校外実習			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中　弘美・三田　陽子　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
医療施設・福祉施設・学校などの特定給食施設における、給食業務を行うための給食サービス提供に関し、栄養士として必要な知識及び技能を習得することが目的である。特定給食施設の実際を通して、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術・概要について理解し、給食の実務等を習得することをねらいとする。	①栄養士免許取得のために必要な専門科目の授業・実習で学んだ知識技術を実習先で確認できる。 ②実際の現場で学んだ貴重な体験から課題を見つけ、今後の学習に結びつけることができる。

教授方法	講義及び実習
履修条件	「1年次に開講された栄養士免許取得のために必要な科目」の単位を履修済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習前の指導：実習に向けての心得について確認する。	田中
2	実習先：施設別給食施設の概要と特徴を理解する。	担当栄養士
3	実習先：施設別給与栄養目標量の算出について理解する。	担当栄養士
4	実習先：オーダーリングシステムを理解する。	担当栄養士
5	実習先：給食の食数管理を理解する。	担当栄養士
6	実習先：食材料管理を理解する。	担当栄養士
7	実習先：大量調理について理解する。	担当栄養士
8	実習先：機械、機具の取り扱いについて理解する。	担当栄養士
9	実習先：衛生管理について理解する。	担当栄養士
10	実習先：給食関係諸報告書等の作成について理解する。	担当栄養士
11	実習先：対象者に対する栄養教育及び栄養指導について理解する。	担当栄養士
12	実習先：対象者の嗜好、喫食状況を調査・集計する。	担当栄養士
13	実習先：対象者の栄養アセスメント・ケアプランを理解する。	担当栄養士
14	反省とまとめ	全員
15	実習報告会	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	担当栄養士による評価となる。	報告会の準備・発表	20	報告会の準備を積極的に行ったか、実習における反省を活かし、今後の課題を見つけ、社会に貢献しようとしているか。
事前レポート及び準備	10	取り組み姿勢（事前訪問も含む）。	報告書の提出	10	実習後の整理がきちんとできているか（実習先へのお礼状を含む）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1年次に履修済みの栄養士免許取得に必要な科目の復習を十分行ってください。［120分］ 図書館などを利用して疑問点を解決できるように努力してください。［60分］	課題及びレポートについては、内容に不備がある場合は添削後再提出、返却を繰り返します。 校外実習に関する質問には随時応じます。

受講生に望むこと	・実習生としての立場を忘れず積極的に取り組んでください。 ・事前訪問で指示されたことはきちんと守ってください。 ・包丁がうまく使えるように努力してください。	教科書・テキスト	『臨地・校外実習のてびき』木戸詔子・福井富穂編　ISBN978-4-7598-1195-7 『改訂 給食の運営ー栄養管理・経営管理ー』逸見幾代、平林眞弓編著　長田早苗他共著　建帛社　ISBN978-4-7679-0611-9 『給食経営管理用語辞典』日本経営管理学会　第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会　第一出版 ISBN978-4-8041-1409-5
指定図書／参考書等	『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著　講談社 ISBN978-4-06-14066-6 ／日本人の食事摂取基準［2021年版］　第一出版　ISBN978-4-8041-1408-8 食事療養のための食品交換表　第 7 版　日本糖尿病学会編 ISBN978-4-8306-6046-7	その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等に問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。 実習先の栄養士による評価が「不可」の場合は、単位認定されません。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FS200C 食品の消費と流通			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
食は人間の生命維持に不可欠であり、食料の安定供給は、我々の日常生活においては重要な課題である。今日、様々な技術の進歩により、食料の生産から消費者に至るまでの流通過程は拡大し、一方で､社会環境、生活環境の変化に伴い、消費者の食生活は大きく変容している。現在の我が国における食品の流通構造を理解し、そこからもたらされる様々な課題を考える。	①今日の食市場を理解する。 ②食品の生産から消費者に至る流通過程を理解する。 ③外食・中食産業を理解する。 ④フードマーケッティングの考え方を理解する。 ⑤食料消費に関わる問題を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食市場の変化１：現代の食生活を支える食市場の概況を理解する。	
2	食市場の変化２：食品消費の変化と食生活の多様化を検証する。	
3	卸売流通の役割とそのシステム、さらに中央卸売市場の仕組みを理解する。	
4	様々な小売り流通の形態を理解する。	
5	外食・中食産業のマーチャンダイジングを理解する。	
6	商品の分類における食品の位置づけを理解する。	
7	個々の主要食品（米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類、食肉）の流通を理解する。	
8	個々の主要食品（鶏卵、乳・乳製品、大豆加工品、漬け物、佃煮）の流通を理解する。	
9	個々の主要食品（食用油脂、調味料、菓子、茶・コーヒー、清涼飲料水、酒類）の流通を理解する。	
10	フードビジネスとフードマーケッティングを理解する。	
11	食料消費における環境問題を理解する。	
12	食品流通の安全確保の仕組みを理解する。	
13	食料消費を取り巻く課題を理解する。	
14	食と農・水産業の課題を考える。	
15	これからの食品の消費の在り方を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	記述式として記載内容の適切度を評価する	授業参加	30	毎授業への取組姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①テキストにより、事前に学習内容の把握をする ②授業内容をまとめる [各30分]	毎回の小テストは次の授業で返却・解答

受講生に望むこと	①資格試験科目の授業として、テキストの内容を確実に理解し、修得すること ②様々な統計資料などに関心を持つこと	教科書・テキスト	『三訂食品の流通と消費』日本フードスペシャリスト協会　建帛社　ISDN：978-4-7679-0687-4　C3077
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	代替授業はミートによるオンラインまたはClassroomにより課題を提示

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FS210C ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ論			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
現代の「食」の営みの環境は流動的に変化しており、それに対応するためにもフードビジネスの担い手となるフードスペシャリストが期待される。フードコーディネート論では、食文化、調理文化、礼儀作法を始め、食に関連したコー ディネートの基本知識を学び、消費者の視点に立った快適な食全般を提供できることをねらいとする。 ※SDGsターゲット12.8関連科目	①授業を通して、食に関するコーディネートに必要な知識の習得と実践力を身につけることができるようになる。 ②食生活の諸問題を広い視野に立って考え、問題解決に向けて活動できるようになる。

教授方法	テキスト及び配布資料による講義。DVD 視聴もある。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	五感によってとらえられる生理的なおいしさ、その他、おいしさに及ぼす影響、おいしさの本質を理解し、ホスピタリティやアメニティについて学び、フードコーディネートの基本理念であるもてなしの心について理解する。	
2	食事とは何かを概観したうえで、日本人の食生活の歴史的な成り立ちを学ぶことを通して、人類の食事は単に生命維持のためばかりではなく、文化的社会的に大きな役割を担うものであることを理解する。	
3	世界の国々の食事の特徴や進行しつつある食のフュージョン（融合）やスローフード運動などのついて考え、日本人の食事がどのように変化しながら現代に至ったかを理解する。	
4	日本料理、中国料理、西洋料理について、各料理様式の基本的な食器・食具などのテーブルウェアと食卓のコーディネート（テーブルコーディネート）を理解する。	
5	食卓のコーディネートでは、6W3H にふさわしい食事・料理形式に適した食卓のスタイルを構成することを理解する。また、食器・食具の配置（テーブルセッティング）については、国によってそれぞれの決まりごとがあるので、それらの基本知識を身につける。	
6	食卓におけるホスピタリティの精神の重要性及びサービスとマナーについての基本理念と学び、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。	
7	第 6 回に引き続き、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。	
8	ディナーとブッフェ形式およびワインについてやパーティの種類とパーティプランニングの基本事項を理解する。	
9	献立と献立を構成する料理内容の企画立案であるメニュープランニングの目的を学び、各国の料理様式の基本構成を理解する。	
10	各国の料理様式の基本構成を理解する。	
11	食空間のコーディネートの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素ぞれに対応したコーディネートを理解する。	
12	食空間のコーディネートの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素ぞれに対応したコーディネートを理解する。	
13	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本についての概要を理解したうえで、フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、コンセプトの作成について理解する。	
14	フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の作成、損益分岐点売上高の算出などを事例を通して理解する。	
15	実践現場における食企画の基本的な流れと企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	①授業に積極的にかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。	課題	70	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[15分] ②フードサービスが身近に感じられるデパートなどの食品売場を題材にしてレポート課題に取り組むときは、自分の目で見たり聞いたり調べたりしてください。[30分] ③図書館を利用し、教養を身につけ視野を広げる努力をしてください。[60分]	授業に関する確認問題を行い、次回に返却します。 質問には随時応じます。

受講生に望むこと	①毎日の生活に活かすことのできる内容ですから、自分の生活に取り入れてください。 ②興味を持ったことを図書館を利用して積極的に調べるなど、知識を広げていく努力をしてください。	教科書・テキスト	『三訂　フードコーディネート論』（社）日本フードスペシャリスト協会編　建帛社　2012年　ISBN978-4-7679-0440-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FS100C ﾌｰﾄﾞｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ論			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
フードスペシャリストの意義とその概要、さらにその活用について理解する。また、他の科目で殆ど扱われていない項目でもフードスペシャリストとして備えるべき知識として学習する。食文化とその変遷、食品産業、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護制度などについて社会的、歴史的な背景も含めて幅広く理解を深め、さらに学んだ知識を実践する能力を養う。	フードスペシャリストが学ぶべき専門科目の概要についての理解とフードスペシャリストが身につけるべき知識・知見や考え方を習得することを目標とする。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フードスペシャリストの概念、業務、活躍分野などについて理解し、フードスペシャリスト資格を活かした仕事に対する自覚と責任を理解する。	
2	フードスペシャリストの養成と資格に関する制度を理解する。健全な食産業への貢献を実践するための知識や考え方を習得する。	
3	フードスペシャリストが食育を実践するために必要な知識や考え方を習得する。	
4	健康と快適な食生活、食育、健全な食産業ならびに地球環境改善に貢献するためにフードスペシャリストが果たす役割について学習する。	
5	人類の食物史、食品加工・保存技術に関するこれまでの歴史を理解する。	
6	フードスペシャリストとして、グローバル化の現代にも対応できるように世界の食事情について、世界各地の食作法、宗教による食にまつわる禁忌、よく食べられる食材や重要な食糧について学習する。	
7	日本人の食生活の変遷や「新しい食」の起源を理解する。また、気候や風土によって食文化が大きく異なることや、伝統食、伝統野菜、独特の調味料など、それらの特色を学習する。	
8	戦後から現在における食生活の変化や現在の日本における食生活の特徴や消費生活、食糧自給、環境と食とのかかわりなどを理解し、現代や将来の日本に適した食生活について考察する。	
9	外食産業、食品流通、食品製造業などの食品に関わる産業の社会的役割を理解する。	
10	食品の品質規格や表示に関わる制度、JAS（日本農林規格）規格、表示などについて理解する。	
11	食品衛生法による規格とそれに基づく表示について理解する。健康増進法の制度や規格・表示について理解する。またCodex規格について、日本における食品の規格や表示制度などとの関連を中心に理解する。	
12	食品の安全について、食品添加物の安全基準、表示、添加物に使用される物質の特徴について理解する。消費者保護制度につして理解する。	
13	食品情報の管理、食情報の有効利用について考える。また、食情報の氾濫による危険性や適正な扱い、情報を扱う場合の課題などについて学習する。	
14	フードスペシャリスト資格認定試験に関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の内容理解を確実にする①。	
15	フードスペシャリスト資格認定試験に関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の内容理解を確実にする②。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容の理解度を評価する。	演習課題	30	授業で扱った内容についての理解度と実践力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業後はテキストを読み、内容の確認と理解を深める。（30分） 授業と関連する認定試験の過去問を行うことでより理解が確実となる。食文化や食に関する問題や事件に関する新聞記事や食産業の業界紙、雑誌などに触れることも授業内容の理解を深め、実践力を養うことに役立つ。（30分）	授業中に適宜解説などを行う。

受講生に望むこと	本科目の理解が他の科目の理解の助けになることがある。またその逆もある。他の科目において関連性のある内容については他の科目のテキストや授業内容と併せて学ぶことにより知識の習得が確実となる。	教科書・テキスト	「四訂 フードスペシャリスト論[第3版]」公社日本フードスペシャリスト協会 編　建帛社 2016年 ISBN978-4-7679-0573-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FS220C 官能評価・鑑別論			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	三田　陽子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				

授業の概要	授業の到達目標
食品評価の方法には理化学的測定（化学的・物理的）によるものと官能評価がある。現代の食環境は多種多様な食品が流通しており、食品を適切に評価するための知識や技能も多岐にわたっている。本授業では、食の専門家として適切な食品選択が出来るように、食品の評価の中でも官能評価、化学的評価、物理的評価を学ぶ。さらに各食品ごとの鑑別法について理解を深める。	①官能評価の特徴と方法について理解している。 ②食品そのものを評価するための基準や指標がわかる。 ③食生活の様々な場面で、適切な評価の方法をあてはめて考えることができる。 ④消費者の食品選択において適切な助言をするための知識を習得している。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の品質とは：食品の特性と品質について理解する。	
2	官能評価とは：官能評価の意義と問題点について理解する。	
3	官能評価の実施法：官能評価を実施する際の、パネル構成、試験の管理、手法の選択などを理解する。	
4	官能評価の手法（演習）①：2 点比較法を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。	
5	官能評価の手法（演習）②：3 点比較法を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。	
6	官能評価の手法（演習）③-1：評点法を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。	
7	官能評価の手法（演習）③-2：実験結果から平均値と標準偏差を求め、評点法の解析方法について理解を深める。	
8	官能評価の手法（演習）③-3：分散分析を行い、評点法の解析方法について理解を深める。	
9	化学的評価①：食品の品質としての水分と色を学び、食品成分と品質との関係について理解する。	
10	化学的評価②：食品の糖度及び酸度や魚の鮮度、油脂の変敗度を学び、食品の品質を化学的に評価する方法を理解する。また、近年登場した新しい評価法を学ぶ。	
11	物理的評価①：食品の物理的な状態について理解する。	
12	物理的評価②：食品のレオロジー、テクスチャーについて理解する。	
13	まとめ①：官能評価を総合的に理解する。	
14	まとめ②：化学的評価、物理的評価を総合的に理解する。	
15	個別食品の鑑別法①（米）：米の品質評価について理解する。	
16	個別食品の鑑別法②（麦）：麦類の品質評価について理解する。	
17	個別食品の鑑別法③（トウモロコシ、雑穀、イモ類）：トウモロコシ、雑穀、イモ類の品質評価について理解する。	
18	個別食品の鑑別法④（豆類、種実類）：豆類、種実類の品質評価について理解する。	
19	個別食品の鑑別法⑤（野菜類、キノコ類）：野菜類、キノコ類の品質評価について理解する。	
20	個別食品の鑑別法⑥（果実類、海藻類）：果実類、海藻類の品質評価について理解する。	
21	個別食品の鑑別法⑦（魚介類）：魚介類の品質評価について理解する。	
22	個別食品の鑑別法⑧（肉類、卵とその加工品）：肉類、卵とその加工品の品質評価について理解する。	
23	個別食品の鑑別法⑨（乳と乳製品）：乳と乳製品の品質評価について理解する。	
24	個別食品の鑑別法⑩（油脂類、菓子類）：油脂類、菓子類の品質評価について理解する。	
25	個別食品の鑑別法⑪（酒類、茶類）：酒類、茶類の品質評価について理解する。	
26	個別食品の鑑別法⑫（コーヒー･ココア、清涼飲料）：コーヒー･ココア、清涼飲料の品質評価について理解する。	
27	個別食品の鑑別法⑬（醸造食品、調味料、香辛料）：醸造食品、調味料、香辛料の品質評価について理解する。	
28	個別食品の鑑別法⑬（その他食品）：インスタント食品、機能性食品などの品質評価を理解する。	

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	まとめ③-1個別食品の鑑別について総合的に理解する。	
30	まとめ③-2個別食品の鑑別について総合的に理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	60	官能評価、化学的評価、物理的評価、食品の鑑別についての理解度	実験レポート	30	実験の内容を理解しまとめているか
授業参加状況	10	必要なものを準備し、クラスルールやマナーを守り、積極的に参加しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習：教科書を読み、重要語句を整理する。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。[30分]	提出されたレポートや課題は確認が終わり次第返却する。課題によっては返却しないものもある。

受講生に望むこと	日常生活の中で、食品の品質に関心を持ち、授業で学んだことを応用することに挑戦して下さい。	**教科書・テキスト**	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編　建帛社　2018年　ISBN：978-4-7679-0506-8
指定図書／参考書等	なし／なし	**その他・特記事項**	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FT150C 日本国憲法			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	土屋　仁美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのかについて、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習します。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につけることを目的とします。	①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。

教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）	
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。）	
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）	
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。）	
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）	
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）	
7	すぐそばにある差別：法の下の平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下の平等について理解する。）	
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考える。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）	
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）	
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）	
12	表現の自由がなくなったら？：表現の自由の重要性について考える。（第11回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
13	規制緩和の表と裏：職業選択の自由について学びます。（経済的自由に対する規制目的と審査基準について理解する。）	
14	どうする？　子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）	
15	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	25	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。	小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8、12回)。
期末テスト	70	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。［20分］ 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。［30分］	小テストの解説は次回の講義時に行います。

受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。 授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。	教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿――憲法の世界へ』、第6版、棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著、有斐閣、2019年、ISBN 978-4-641-28147-9
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	状況の変化及び受講生の学修状況により、講義内容及び成績評価方法を変更する場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FT200C 学校栄養教育論			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	田中　弘美・畑山　千春　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
栄養士と教員の資格を併せもつ栄養教諭の役割と職務について学ぶ。栄養教諭が食に関する授業を行うにあたって必要な理論や知識を学ぶ。それには、学校給食の歴史・変遷や給食を「生きた教材」とするために日本の食文化の理解も必要である。加えて、児童・生徒の発達や健康状態の把握と実態に合わせた効果的な授業の工夫が必要であり、学校組織としての取り組みを考える全体計画、また家庭や地域との連携・調整も必要であることを学ぶ。	①栄養教諭制度および食育基本法など関連法規を学び、栄養教諭の役割が理解できる。 ②栄養教諭の職務内容である「学校給食の管理」と「食に関する指導」が理解できる。 ③「学校給食の管理」では、栄養管理、衛生管理、物品管理が理解できる。 ④「食に関する指導」では各教科や道徳・特別活動、総合的な学習の時間、給食の時間と食に関する指導内容との関わりが理解できる。 ⑤食に関する全体計画作成とその展開を学び、「生きた教材」としての給食の意義が理解できる。

教授方法	講義及び演習
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養教諭誕生の背景と意義（食に係わる法令、諸制度、国民栄養の現状について）を理解する。	田中
2	児童・生徒の食に関する指導の現状と課題を学ぶ。	田中
3	日本と世界の食文化とその歴史（学校給食の歴史と意義を含む）を学ぶ。	田中
4	学校組織と栄養教諭について理解する。	畑山
5	食に関する指導の全体計画について理解する。	畑山
6	給食の時間における食に関する指導について学び、理解する。	畑山
7	教科における食に関する指導について学び、理解する。	畑山
8	教科における食に関する指導について学び、理解する。	畑山
9	教科における食に関する指導について学び、理解する。	畑山
10	学校・家庭あるいは学校・地域が連携した食に関する指導（アレルギー、肥満傾向等の個別指導の在り方を含む）について学び、理解する。	畑山
11	食に関する指導とその方法　演習①食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）	全員
12	食に関する指導とその方法　演習②食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）	全員
13	食に関する指導とその方法　演習③食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）	全員
14	食に関する指導とその方法　演習④食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使用教材の検討を行う）	全員
15	食に関する指導とその方法　演習⑤食に関する指導案の発表と相互評価と全体のまとめを行う。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	30	設問を理解した解答がされているかを評価する。	演習	30	発表の内容と相互評価への参加態度を評価する。
課題	20	①質的量的に適切であるかを評価する。 ②指定期日までの提出について評価する。	授業参加意欲	20	指導案作成・教材作成への意欲を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[20分] ②集中講義の開講前に指定図書のレポートを提出してください。[120分] ③指導案作成、教材作成は授業時間も確保しますが、授業外の学習時間をしっかり確保してください。[120分]	指導案作成や教材作成のサポートをします。 授業に関する質問には随時応じます。

受講生に望むこと	1年次に履修した「教育者論」、「教育方法論」を復習し、教育実習生として授業を行うことを自覚した授業参加姿勢を望みます。	教科書・テキスト	「四訂栄養教諭論　理論と実際」」金田雅代編著　建帛社　ISBN978-4-7679-2116-7、「小学校学習指導要領」文部科学省編　東京書籍　ISBN978-4-4910-3460-7、「中学校学習指導要領」　文部科学省編　東京書籍　ISBN978-4-8278-1579-5
指定図書／参考書等	「学校見聞録　学びの共同体の実践」　佐藤学　小学館　ISBN978-4-0983-3994-7／「食に関する指導の手引」文部科学省／「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～」　文部科学省	その他・特記事項	集中講義（8月中）

実務経験を活かした授業の概要

教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。

授業科目名	FT111C 教育原理			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
授業の前半では、学校の登場について知るとともに、学校とは何かについてヨーロッパと日本の場合に場合において考える。後半では、学習する意味について知るとともに、学校教育制度と教育評価について理解し，よりよい教育について考える。SDGsの観点からは、すべての子どもを学校で教育していこうとする人間形成のシステムが近代公教育であることや、年齢・性別・障害・人種などに関わりなく、すべての子どもは自分がなるべき人間に成長する権利をもっていることを学ぶ。【10.2】 ※SDGsターゲット10.2関連科目	①学校とは何かについて理解している。 ②学習する意味を理解している。 ③学校教育制度と教育評価について理解している。 ④よりよい教育について考えることができる。 ⑤「子どもの権利条約」について知る。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭二種免許状取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育の基本的概念①：学校の登場（学校がなぜ生まれ、どのように発展し、近代学校が準備されたかについて知る。）	
2	教育の基本的概念②：学校とは何か（１）（なぜ、すべての子供が学校に通うことになったのか考える。）	
3	教育の基本的概念③：学校とは何か（２）日本の近代化と学校教育（日本においては、学校はどのように成立してきたのか考える。）	
4	よりよく学び，教えるために：学習することの意味（学ぶ喜びを味わうような学習活動を創り上げるためにはどのような工夫が必要なのかを知る。）	
5	教育評価とは何か：学校教育制度と教育評価（教育の現場にふさわしい教育評価の在り方とはどのようなものか知る）	
6	教師の仕事：教師とは何か（教師はどのように養成されるのか、教師の力量をつくり上げていくためにはどのように努力していけばよいのか知る。）	
7	教育への権利と「子どもの権利条約」：よりよい教育を求めて（子どもの権利がどのように自覚されてきたかについて知る。）	
8	授業のふり返りとまとめ：期末レポート作成（テーマと観点をもとにレポートを作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	30	第１回～７回の授業の内容をもとに自分なりの視点で考えをまとめている。	課題解決	50	教育原理に関する課題を解決している。
授業態度	20	対面授業に積極的に臨んでいる。（計2回分）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②授業で配付するワークシートの問いに答えたりミニッツコメントにコメントする。［30分］ ③教育の基本概念、歴史、思想など、教育に関しインターネット検索して調べる。［30分以上］	①毎授業時のミニッツコメントに対してコメントして返却する。 ②課題解決内容について授業時に解説する。 ③第8回の授業で期末レポートを作成して提出する。

受講生に望むこと	自分で時間をつくってテキストを読んでください。	教科書・テキスト	『やさしい教育原理』（第３版），田嶋一・中野新之祐・福田須寿美子・狩野浩二著，有斐閣アルマ，2016年第３版発行，ISBN978-4-641-22081-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	課題はClassroomに投稿して提出してください。

実務経験を活かした授業の概要

教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示して理解を促したり、討議材料にしたりしている。
教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解を深めている。

授業科目名	FT100C 教育者論			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　信一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
教職に関わる基礎基本の知識技術を幅広く理解して、以後の各論への学習意欲を高めるとともに、教職に対する自己の適性を判断する材料を得る。具体的には、学校現場における様々な事例を用いて課題を提示し、児童生徒に対する見方や保護者とのかかわり、学校全体の指導体制の在り方等を考え、議論し、各学生が自分なりの意見をもち表出できるようにする。	教職の意義、教員の役割・職務内容、学校組織の在り方、公教育制度、地域連携と学校安全など、教育上必須の基本事項を題材とし、それぞれの課題に対する自分なりの考えをきちんと持つことができる。そのためには、課題を共有し、資料を収集し、根拠を明らかにし、他者の意見等も取り入れ、最終的には解決への自分なりの道筋を立てて小論文を作成できるようにする。

教授方法	講義、グループワーク、レポート作成等
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学校教育の目的と目標　教育法規に基づく学校教育の各校種の目的および目標を理解する	
2	教職の意義と特性　教職（栄養教諭）の意義や栄養教諭になるまでのプロセスを理解する	
3	教員に求められる役割と課題　教員に求められる役割の概要と直面する課題を理解する	
4	教員に求められる資質能力と大学での学び　採用後の職務遂行上、必要な資質等を理解する	
5	教員としての職務の全体像　校務分掌上の職務の全容と、各人が分担する分掌を理解する	
6	研修の必要性と教員研修制度　研修の意義や重要性等を、法規定を通して理解する	
7	教員の義務と身分保障　服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する	
8	チーム学校の組織と指導体制　共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する	
9	公教育の理念と学習指導要領　公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する	
10	教育制度関係法規の理解　教育諸法規の記載を通して、わが国の教育制度を理解する	
11	教育委員会制度の理解　教育制度を支える教育委員会のしくみを、法的側面から理解する	
12	わが国の教育制度と課題　現行教育制度が抱える課題を知り、その改善方策を理解する	
13	地域連携と特色ある学校づくり　地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する	
14	学校の危機管理と安全教育　安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する	
15	保護者との連携　各家庭での支援と協力体制が学校教育を支える基盤であることを具体例から理解する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	50	自分の考えを発言したり課題に向けてきちんと取り組んだりして、授業に積極的に関わっている	小レポート	50	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] ②提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]	提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した 上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する

受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が多くなるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基に、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にする。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／中学校学習指導要領（文部科学省）、小学校学習指導要領（文部科学省）	その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会をもつことが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

・小学校担任・管理職の経験から事例を紹介し、教師としての在り方に関する課題や解決策についてディスカッションさせている。　・
グループでの課題解決には、ケーススタディやブレーンストーミングの手法を導入している。

授業科目名	FT121C 発達心理学			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
人間の発達に関する理論や発達段階におけるさまざまな発達的特徴、学習を支える理論やメカニズムについて例を挙げて解説する。小学校への授業見学を行ない、児童期の特徴を実践的に学習する。	①幼児、児童及び生徒の心身の発達について理解する。 ②学習を支える理論について理解する。 ③人間の発達や学習について基礎的用語を使って説明することができる。

教授方法	講義を中心とするが、エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。近隣の小学校の見学を予定している。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	発達の理論と知覚の発達：乳児から青年までの発達課題を概観するとともに、乳幼児の知覚の発達について理解する。	
2	身体・感情の発達：運動能力と身体発達のメカニズム、乳幼児の感情表出とその特徴，感情の成り立ちについて理解する。	
3	認知機能の発達：ピアジェによる思考の発達段階における特徴を概観し、児童の観察から視点取得能力について実践的理解を深める。	
4	愛着と友人関係の発達：親子関係を愛着と養育態度からとらえるとともに、児童期から青年期にかけての友人関係の変化について理解する。	
5	知能と言語能力の発達：知能の捉え方と知能の測定について理解する。また、コミュニケーションの発達過程について理解する。	
6	動機づけと人格の発達：動機づけの理論について学習する。また、性格の類型論とエリクソンの漸成発達に示された自我の発達について理解する。	
7	性役割と性行動・道徳性と向社会的行動の発達：子どもの性役割とその取り込みについて理解する。また、コールバーグの認知発達段階論から道徳性の発達をとらえるとともに向社会性の育成について考える。	
8	発達のつまずき：発達障害についてその特徴を概観し、障害を持つ児童生徒の支援のあり方について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの積極的参加度と取り組み方を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
新聞やTVなどの報道に日々触れること。［20分/日］ 授業中取り上げたキーワードについてのまとめと整理［40分］	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	栄養教諭２種免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心と学習意欲をしっかり持って参加してもらいたい。	教科書・テキスト	『図で読む心理学「発達」改訂版』川島一夫　福村出版　2012　ISBN 978-4-571-23041-7
指定図書／参考書等	なし／授業中に随時紹介する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

教育上の課題について、公立学校教員・スクールカウンセラーとしての経験や 担当した幼児期・児童期・青年期の事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。

授業科目名	FT160C 特別支援教育			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
特別な支援を必要とする幼児･児童・生徒の学習上・生活上の困難さや個々のニーズに対する支援方法について例を挙げて解説する。	①特別な支援を必要とする幼児･児童・生徒についての学習上・生活上の困難さを理解する。 ②特別な支援を必要とする幼児･児童・生徒のニーズに対する支援を進める上で必要となる知識・技能を習得する。

教授方法	講義を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	インクルーシブ教育システムをめぐる国内の動向と課題について理解する。	
2	発達障害、特に限局性学習障害と注意欠陥・多動性障害のある幼児・児童・生徒に対する支援について理解する。	
3	発達障害、特に自閉スペクトラム症のある幼児･児童・生徒に対する支援について理解する。	
4	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱のある幼児･児童・生徒に対する支援について理解する。	
5	特別支援教育の現行制度、特に就学の仕組み・通級による指導について理解する。	
6	個別の指導計画と個別の教育支援計画の考え方と運用について理解する。	
7	障害のある幼児・児童・生徒の保護者・関係機関との連携について理解する。	
8	障害のある幼児・児童・生徒の保護者・関係機関との連携について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの参加態度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で取り上げられたキーワードについてのまとめと整理［60分］	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	栄養教諭2種に免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心や学習意欲をしっかり持って参加してほしい。	教科書・テキスト	なし(レジュメを配布する)
指定図書／参考書等	なし／『はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために』 柏植雅義他　2010　有斐閣　ISBN978-4-641-22038-6 『特別支援教育総論 インクルーシ大路書房　ISBN978-4-7628-2949-9	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

教育上の課題について、特別支援教育教員としての経験や 担当した指導事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。

授業科目名	FT141C 道徳･特別活動論(教育課程を含む)			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　信一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
教育者論での総論的学習に続く、各論の学習開始に位置づく科目の一つである。教育課程編成の意義やねらいの学習に続いて、教育課程の必須の内容である道徳及び特別活動について、特に栄養教諭による食育との関わりにおいて、その内容を学習する。道徳の内容では食育の指導目標の一つである感謝の心、社会性の育成につながる指導を、また、特別活動にあっては、学習指導要領上で給食が位置づけられている学級活動に重点を置いて学ぶ。	教育課程編成の意義を理解し、栄養教諭が行う食育と道徳・特別活動との関わりが理解できるようになる。

教授方法	講義、グループワーク、レポート作成
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育課程編成のねらいと意義　　オリエンテーションに続いて、教育課程の構成や内容等を、指導要領の規定をとおして学ぶ。	
2	特別活動の位置づけ　　特別活動の学習指導要領及び教育課程上の位置づけと、何を目的とする活動であるかを理解する。	
3	特別活動の種類と目標　　特別活動がいくつかの種類で構成され、それらがどのような目標の下に展開されるかを理解する。	
4	特別活動の教育的意義と食育との関わり　　特別活動がもつ教育的意義を学ぶとともに、食育とどのように関わるかを理解する。	
5	学級活動（ホームルーム活動）の内容と特性　　毎週実施される学級活動の内容や他の特別活動との違い（特性）を理解する。	
6	道徳教育はなぜ必要か　　なぜ道徳を教科にする必要があるのか、その目的は何かを考え理解する。	
7	道徳教育の歴史と現状　　道徳教育が日本の学校教育においてどのように行われてきたのか、その歴史経緯を学び、道徳教育の目的や方法の変遷を理解する。	
8	学習指導要領と教材の検討　　現行学習指導要領が定める道徳教育の目標と、それを基にして開発された教材の特徴について理解を深める。	
9	道徳教育方法論の検討　　道徳教育の方法も様々に開発が進んでいる。複数の道徳教育方法論を学ぶことで、現代社会における道徳教育の在り方について検討する。	
10	クラブ活動、児童（生徒）会活動の内容と特性　　クラブ及び児童(生徒)会活動の内容と特性を、校種別に対比して理解する。	
11	学校行事の内容と特性　　必要に応じて実施される学校行事の内容や他の特別活動との違い（特性）を理解する。	
12	学級活動「食育」模擬授業①　　5分間給食指導の意義を知り、模擬授業の計画を立てる。	
13	学級活動「食育」模擬授業②　　5分間給食指導模擬授業の準備と練習を行う。	
14	学級活動「食育」模擬授業③　　5分間給食指導模擬授業を行い、食に関する授業への実践的な理解を深める。	
15	まとめ　目標「教育課程編成の意義を理解し、栄養教諭が行う食育と道徳・特別活動との関わりが理解できる」について、達成度合いを確認する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポートおよび演習成果	60	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、模擬授業等の演習における成果	小レポート	20	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的参加、グループ活動への積極性、予習状況			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] ②提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]	提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した 上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。

受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が多くなるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にする。	教科書・テキスト	随時、資料を提供する。
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領(平成２９年告示)解説　特別活動編』文部科学省　　東洋館出版社　ISBN 978-4-491-03469-0C3037 『小学校学習指導要領(平成２９年告示)解説　特別の教科　道徳編』文部科学省　　廣済堂あかつき　ISBN 978-4-908255-35-9C3037	その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する

実務経験を活かした授業の概要

小学校担任・管理職の経験から、道徳教育や特別活動に関する事例を紹介し、課題や解決策についてディスカッションさせている。　グループでの課題解決には、ケーススタディやブレーンストーミングの手法を導入している。

授業科目名	FT131C 教育方法論（総合的な学習の時間の指導法を含む）			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　信一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、実際の授業 展開に必要な教育方法・技術を学ぶ科目である。具体的には、授業づくりの基礎理論、総合的な学習の時間、学力をめぐる現状と課題などを学ぶ。また、レポート作成、グループワーク等を併用して、学んだ内容を実際の授業や指導に活かせるよう知識・技術の定着を図る。	①児童・生徒の積極的な学びを引出す基本的な指導法を理解する。 ②総合的な学習の時間についてその概要を知る。 ③学力をめぐる教育の現状と今日的課題を適切に把握する。

教授方法	講義、グループワーク、レポート作成
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　到達目標、評価方法、レポート提出の方法等を知り、前期の教職科目における学びを後期で深める。	
2	教育方法の基礎理論と実践について理解する	
3	学習指導の原理と形態　　問題解決学習と系統学習、一斉学習とグループ学習等を対比しながら、それらの特性を理解する	
4	授業デザイン①　　カリキュラムをデザインする基礎知識について理解する	
5	授業デザイン②　　カリキュラムをデザインし指導法を高めるためのＰＤＣＡサイクル法を知る	
6	総合的な学習における学習方法を体験する①　課題解決学習について理解する。講義	
7	総合的な学習における学習方法を体験する②　課題解決学習について理解する。演習	
8	総合的な学習における学習方法を体験する③　アクティブ・ラーニングによる対話型学習について理解する。講義	
9	総合的な学習における学習方法を体験する④　アクティブ・ラーニングによる対話型学習について理解する。演習	
10	話法や板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。①講義	
11	話法や板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。②演習	
12	集団を動かす指導法について、基本的な技能を身に付ける。①講義	
13	集団を動かす指導法について、基本的な技能を身に付ける。②演習	
14	学力の現状と課題　　児童・生徒に身に付けさせたい学力と、実現に向けての課題を理解する。	
15	教育方法について、これまでに修得した内容を整理し、成果と課題をまとめる	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポートおよび演習成果	50	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、グループ協議等における成果	小レポート	30	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋予習状況			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] ②提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]	提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した 上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。

受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が多くなるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にする。	教科書・テキスト	必要に応じて資料提供
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　総則編』　文部科学省 ISBN978-4-491-03461-4C3037　『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　総合的な学習の時間編』　文部科学省 ISBN978-4-491-03468-3C3037	その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。

実務経験を活かした授業の概要

・「生きる力」の育成を目標とした各種教育方法について、小学校現場における実際の経験から事例を取り出し、「対話」させ、議論させ、授業に生かしている。
・「課題解決型学習」を実体験させながら各自の解決策を小論文にまとめさせている。”

授業科目名	FT211C 教育相談（生徒指導法を含む）			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
生徒指導・教育相談の基本概念、児童生徒の理解と援助、生徒指導の実践理解について例を挙げて解説する。	①生徒指導、教育相談の意義や原理を理解する。 ②生徒指導、教育相談を進める上で必要となる知識・技能習得する。

教授方法	講義を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生徒指導・教育相談の意義と役割，両者の違いについて理解する。	
2	児童期・青年期の心理と児童生徒理解の方法について理解する。	
3	学校における生徒指導体制と教職員の協働のあり方につて理解する。	
4	児童生徒の自己肯定感を高める生徒指導のあり方について理解する。	
5	カウンセリングの基礎知識と基本的態度，具体的方法を理解する。	
6	教育相談の進め方と校内支援体制の整備について理解する。	
7	個別の課題（いじめ・不登校・虐待・非行・ネット・性に関する問題等）への対応を理解する。	
8	保護者や関係機関との連携と生徒指導に関する法制度について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各授業回の振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業参加態度	10	エクササイズやワーク、ディスカッション等への参加態度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で取り上げられたキーワードについてのまとめと整理［60分］	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	栄養教諭2種に免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心や学習意欲をしっかり持って参加してほしい。	教科書・テキスト	『生徒指導提要』文部科学省　教育図書　2010 ISBN978-4-87730-274-0
指定図書／参考書等	授業中随時紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

教育上の課題について、教育委員会指導主事・スクールカウンセラーとしての経験や 担当した相談事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して 学生の学びを深めている。

授業科目名	FT230C 栄養教育実習指導			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　信一・田中　弘美・畑山　千春　（代表教員　茶谷　信一）						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、栄養教育実習の円滑な実施ならびに実習成果の確実な定着のために学ぶ科目である。事前学習では実習に臨むに際しての準備や心構え、学校の実務、学習指導案づくり等を学ぶほか、模擬授業により実際の指導を演習する。事後学習では研究授業の振返り等による課題の明確化を行うとともに、実習報告書の作成・発表などを通して、必要な実践的指導力を確実に定着させる。	①教育実習の意義や目的、心構えなどを理解する。 ②学習指導案作成、教材・ 教具の作成など、実習に必須の基本的な知識・技術を習得する。 ③教職に対する自己の適性を再認識し、教職への意識を一層高める。

教授方法	講義、演習、グループワーク、レポート作成
履修条件	科目「栄養教育実習」の並行履修

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、採用と配置　　科目の概要、科目の到達目標、学習方法、評価方法等について理解するとともに、栄養教諭の採用状況や採用の方法等を理解する。	全員
2	教育実習の目的・意義　　教育実習の目的や意義を深く理解し、必要な準備に積極的に取り組む。	田中・茶谷
3	教育実習の形態　　校種別、教科別の教育実習の一般的な形態及び栄養教育実習特有の形態について理解する。	田中・茶谷
4	教育実習の事前準備　　教育実習の開始までに必要な準備と事前打合せ、実習校の概要の調べ方等について理解する。	田中・茶谷
5	教育実習のあらまし　　校種別・教科別の教育実習及び栄養教育実習の期間や内容等について、それらの概要を理解する。	田中・茶谷
6	研究授業と整理会の進め方　　教育実習における研究授業の位置づけや進め方について学ぶとともに、その重要性を理解する。	全員
7	学習指導案の基本　　一時間の授業で使用する学習指導案の構成（形式）や記載内容について、必要な事項を確認する。	全員
8	授業研究　　現役の栄養教諭による授業DVDの視聴を通して、研究授業準備の重要性を理解する。	全員
9	栄養教育実習の実務　　栄養教諭としての教育実習の実務を中心に、その具体的な内容を理解する。	全員
10	食に関する指導の実際①　　授業や給食時間中の食育指導で用いる学習指導案づくりの実務を学ぶ。	全員
11	食に関する指導の実際②　　給食時間中における食に関する指導案づくりや、アナウンスによる指導の基本を学ぶ。	全員
12	食に関する指導の実際③　　授業や給食指導で用いる教材・教具の作り方や使い方の基本を学ぶ。	全員
13	先輩の実習に学ぶ①　　現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。	全員
14	先輩の実習に学ぶ②　　現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。	全員
15	給食指導学習指導案づくり①　　給食指導における学習指導案を作成する。講義	全員
16	給食指導学習指導案づくり②　　給食指導における学習指導案を作成する。演習	全員
17	給食指導模擬授業①　　模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。講義	全員
18	給食指導模擬授業②　　模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。演習	全員
19	学習指導案づくり①　　学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教官の指導を受けて検討を進める。	全員
20	学習指導案づくり②　　学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。	全員
21	学習指導案づくり③　　学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。	全員
22	模擬授業①　　作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。	全員
23	模擬授業②　　作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。	全員
24	模擬授業③　　作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。	全員
25	模擬授業④　　作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。	全員
26	実習成果の振返り①　　教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。	全員
27	実習成果の振返り②　　教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。	全員
28	教育実習報告会準備①　　成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。	田中・茶谷

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	教育実習報告会準備②　　準備した資料に基づいてリハーサル発表を行い、全員が各自の分担を最終確認する。	田中・茶谷
30	教育実習報告会　　資料を提供し実習成果を発表し合う。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート及び演習成果	40	課題レポートの期限までの提出と質的・量的な内容、模擬授業での成果と指導案の完成度	実習成果としての報告や発表	40	実習成果としての報告書、研究授業、成果発表の取組状況や発表技能
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋実習準備			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題レポートや模擬授業のための準備等は、期限を守ること。[90分]	提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する

受講生に望むこと	栄養教育実習で最も重要なのは研究授業に対する周到な準備・実施と事後の振り返りである。このため、時間を惜しまず万全の準備を整えて真摯な態度で模擬授業等に臨むことが大切である。	**教科書・テキスト**	特に指定せず、適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／教育実習の常識～事例にもとづく必須６６項～　教育実習を考える会編　蒼丘出版　2008　ISBN　978-4-915442-11-7 栄養教諭養成における実習の手引(第二版) 市場ほか　東山書房　2011　ISBN 978-4-8278-1444-6 『栄養教諭養成のための栄養教育実習ﾏﾆｭｱﾙ』赤松利恵 他著　現代図書　2009 ISBN　978-4-86299-015-0	**その他・特記事項**	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。

実務経験を活かした授業の概要

茶谷：学級担任時代や管理職時代に栄養教育実習生を受け入れてきた経験を生かし、学校での実習の在り方や授業の在り方、指導案の書き方等を指導している。
　　模擬授業としてロールプレイの手法を用いたり、グループでの課題解決には、ＳＧＥやケーススタディを導入したりしている。
畑山：栄養教諭として学校現場で栄養教育実習生を指導してきた経験を活かし,学校での実習の在り方や食指導の方法について指導する。

授業科目名	FT240C 栄養教育実習			開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　信一・田中　弘美　（代表教員　茶谷　信一）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、大学で学んだ知識・ 技術を実地に応用し、体験を通して確実に習得するための科目である。このため、学校現場での児童・生徒への食に関する指導の基本、校務分掌、給食指導など栄養教諭に求められる様々な知識・技術を、実習を通して深化・総合化する。なお、実習は小学校（中学校）における１週間の校外実習（栄養士資格取得）と１週間の栄養教育実習から成る。	①大学で学んだ知識・技術を学校現場で実際に応用できる。 ②実習校での教育活動及び給食管理実務で基本的な知識・技術を定着させる。 ③児童・生徒との直接の触れ合いを通して、教職への意識を一層高める。

教授方法	栄養教育実習（研究授業、給食指導、授業参観など）、給食管理実習
履修条件	科目「栄養教育実習指導」の並行履修

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習オリエンテーション及び実習校の学校経営　　服務等の諸注意並びに実習校の管理・運営方針等について説明を受ける。	全員
2	学校の概要と校務分掌　　児童生徒の現状や校務分掌組織等の説明を受け、実習に関わる連絡等が必要な部署を確認する。	全員
3	教育活動の参観・補助①　　学級活動や給食の時間（配膳指導や後片付け指導）等での、食に関する指導の参観、補助を行う。	全員
4	教育活動の参観・補助②　　朝の会や終わりの会、担任の授業、特別活動、清掃、他学年の授業などの参観、補助を行う。	全員
5	給食管理作業の参観・補助　　厨房における調理作業の確認・補助と、各教室への配送までの経路を参観・補助する。	全員
6	学習指導案づくり①　　教育実習校での研究授業テーマの決定と、必要な準備や手順について担任・栄養教諭から指導を受ける。	全員
7	学習指導案づくり②　　研究授業用指導案の作成を進め、疑問点を相談するなどして担任・栄養教諭から必要な指導を受ける。	全員
8	教材・教具等の作成①　　学習指導案に基く板書計画、教材プリント等について、担当教諭に原案を示して必要な指導を受ける。	全員
9	学習指導案づくり③　　研究授業指導原案を完成させて提出するとともに、関係者に回覧し必要な指導を受ける。	全員
10	学習指導案づくり④　　指摘を受けた箇所を改善して学習指導案を完成させ、校長等への配付を兼ねて当日の参観を依頼する。	全員
11	教材・教具等の作成②　　当日の授業をイメージして、教材・教具を完成させ、必要数を期限までに確実に準備する。	全員
12	研究授業の準備　　準備した学習指導案および教材・教具、教室等の最終確認と、本番をイメージしてのリハーサルを行う。	全員
13	研究授業の実施　　学習指導案に基づいて、参観者を前にして児童・生徒を対象とした45(50)分間の授業を実践する。	全員
14	研究授業反省会　　授業終了後、関係者に授業所感を発表するとともに、改善点等の指導を受けて指導力の一層の向上を図る。	全員
15	実習記録簿等の整理　　研究授業準備等の実習記録、日々の学びや所感等の記録を行い、毎日放課後に担当者の指導を受ける。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	70	実習校で誠実に勤務し、かつ研究授業をはじめとする実習プログラムに積極的に取組んで実習成果を得るとともに、学校教職員と望ましい人間関係を保つ。	実習記録簿	15	実習記録簿の各項目及びまとめ報告に正確かつ十分な記載があり、指定期日までに提出する。
実習校での研究授業	15	研究授業における成果、研究授業のために作成した学習指導案			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①期間中における翌日の実習ための事前準備［60～120分］ ②実習中及び実習後の提出課題の作成［30分］	実習校における研究授業を担当教官が参観するとともに、大学へ戻ってからのクラス報告発表では、課題の整理や指導講評を行う。

受講生に望むこと	誠実な態度で、時間に余裕をもって教育実習に臨むことが重要である。特に研究授業に必要な学習指導案の作成や教材・教具の準備に関しては万全を期す必要がある。また、児童・生徒や実習校の教員に関わる問題については、自分勝手な判断をしないで、必ず教職員の誰かに速やかに連絡・相談して、指示を受けて対処することが必須である。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／食に関する指導の手引き（文部科学省）　健学社　2019　ISBN 978-4-7797-0496-3	その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	FT250C 教職実践演習（栄養教諭）	開講学科	食栄	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　信一・畑山　千春　（代表教員　茶谷　信一）				
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、２年間の教職課程学習のまとめとして、実際の教育現場で役立つ知識・技術を、総合的かつ実践的に身につけるために学ぶ科目である。このため、具体的な課題に基づくグループディスカッション、模擬授業、プレゼンテーション等の演習等により、栄養教諭の職務に必要な様々な指導力の定着を図る。	①学校組織の一員として、指導に必要な基本的な知識・技術を身につける。 ②食育にかかる学習指導案と教材の作成、それらを使った指導ができるようになる。

教授方法	演習（グループディスカッション、模擬授業等）、レポート作成等
履修条件	１年次からの全教職科目の履修

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　科目の到達目標、評価方法、授業方法等を理解する	全員
2	栄養教諭の意義・役割、職務内容　　学校における栄養教諭の実務や役割の重要性等について具体的に理解する。	畑山
3	食に関する指導の意義と内容　　学校における食育推進の今日的意義とその内容、課題について理解する。	畑山
4	食に関する指導の実際①　　給食指導(準備、食事、後片付け）の実際的な方法を学ぶ。	畑山
5	食に関する指導の実際②　　栄養指導の実際的な方法を学ぶ。	畑山
6	食に関する指導の実際③　　ロールプレイング等を通して、児童・生徒や保護者に対する個別対応の指導力を育成する。	畑山
7	学級経営のヒント①　　学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。	茶谷
8	学級経営のヒント②　　学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める	茶谷
9	特別支援教育　　特別な配慮を要する児童への支援について学び、栄養教諭としての関わり方を考える。	茶谷
10	優れた授業から学ぶ①　　優れた模擬授業を教材で視聴後、学習指導案と対比しながら指導法を学ぶ。	畑山
11	優れた授業から学ぶ②　　優れた研究授業を学習指導案に基づいて教材で視聴し、指導の工夫や気づきを通して指導力を養う。	畑山
12	給食指導案と評価表の作成①　　対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。	茶谷
13	給食指導案と評価表の作成②　　対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。	茶谷
14	給食指導模擬授業　　最も自信が持てるテーマによる5分間の模擬指導を行い、意見交換を通じて指導力の一層の向上を図る。	茶谷
15	まとめと振り返り　　子供たちを取り巻く現代の食環境について考察し、食にかかわる社会人としての義務と役割について考える。また、学校における栄養教諭の役割と意義について確認する。	茶谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習成果	40	模擬授業や場面指導など、様々な演習における成果	レポート	40	課題レポートの提出状況（期限、量、質）
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋演習準備			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題レポートや模擬指導準備等は、期限を守ること。[90分]	原則として、提出をうけた課題は、コメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。また、演習や発表等を行った場合は、その場で指導講評を行う。

受講生に望むこと	授業では演習に対する積極性や粘り強さ、事前準備の良否等を重視する。このため、これまでに学んだ知識・技術を意図的に演習の中に取込むことが大切である。また、これまでの学びや調べたことを基にして、自分流の方法を工夫することによって、知識や技術、指導力の一層の深化・総合化を図る。	教科書・テキスト	なし(必要に応じて資料を準備する)
指定図書／参考書等	なし／『教育実践の理論と方法』長瀬善雄編　教育出版　2017 ISBN 978-4-316-80450-7	その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。

実務経験を活かした授業の概要

茶谷：小学校時代の経験から、給食時間の中の様々な事例を紹介し、栄養指導や給食指導の在り方を考えさせ、課題について自分なりの答えを導き出させている。
　　グループでの課題解決には、ＳＧＥやケーススタディ、ブレーンストーミング等の手法を導入している。
畑山：栄養教諭として学校現場で食指導を行ってきた経験から、食指導の在り方を考えさせ、演習から見えてくる課題について自分なりの解決方法を導きだせるようにする。

授業科目名	CL200C ｷﾘｽﾄ教と生活			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教的視点から日常生活における生活環境の課題とあり方について学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.3関連科目	生活の意義について理解している。現代社会における生活課題に気づいている。家庭生活の経済の現状を理解している。環境問題と生活の関係について理解している。

教授方法	講義と一部演習形式で行う。また、一部教室外活動を取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生活とは何かについて科学的に考える。 目標：生活の定義、生活の意義について理解できている。	
2	家族と家庭と福祉について考える。 目標：家族と家庭の意義と関係について福祉の視点から理解できている。	
3	家庭における現代的課題について家庭や家族を取りまく現状から考える。 目標：現代社会における家庭の抱えている課題について理解している。	
4	自分流のライフスタイルについて考える。 目標：ライフステージと生活課題について理解し、自分のライフスタイルのあり方について述べることができる。	
5	家庭経営と個人の生活について考える。 目標：家庭経営のあり方と現在における個人の生活への影響を理解できている。	
6	環境破壊の根本的原因について考える。 目標：環境問題についてその原因や解決に向けても意見を述べられる。	
7	自然保護とライフスタイルについて考える。 目標：自然はなぜ守るべきものなのかについて、自然の利用の目的や自然保護がもたらす利益から自分の意見を述べられる。	
8	イエスの時代の生活と私たちの生活について考える。 目標：私たちの生活に根ざすキリスト教的生活観について、比較し述べることができる。	
9	『１２の贈り物』から人生に必要なものについて考える。 目標：私たちに与えられた豊かな人生を送るために必要なものを述べられる。	
10	『人生の四季 発達と熟成』から人生のあり様について考える。 目標：ライフステージの各時期を充実したものにするために必要な事について述べられる。	
11	ビジネスとしてのブライダルについて考える。 目標：ブライダル産業における“結婚式”の位置づけについて理解している。 結婚式における装飾準備を体験する（ブートニア作成）	
12	ビジネスとしてのブライダルについて考える。（教室外授業） 目標：チャペルウエディングの施設を訪問を通して、ブライダル産業の実際について理解している。	
13	教会における結婚式について考える。 目標：キリスト教的観点から“結婚式”の意味を理解している。	
14	教会における結婚式について考える。（模擬体験授業） 目標：キリスト教的観点からの“結婚式”について、体験を通して理解を深めている。	
15	講義の最終振り返り 目標：キリスト教的価値観から私たちの生活にのあり方について総合的に意見を述べられる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題作成	50	授業中に作成した課題で、講義の理解状況を測る。	授業外学習レポート	40	授業外学習での学びの深さ等についてレポートの完成度を通じて見る。
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。[合計20時間] ブライダル産業の現状について事前に調べる。[5時間] キリスト教の教会における“結婚式”について模擬結婚式を通して学んだ事や疑問に思ったことについて調べる。[5時間]	ミニテストは翌週に返却する。 授業学習レポートも講義終了後に返却する。

受講生に望むこと	何気なく過ごす、日常生活における、「普通」や「当たり前」がいかに重要で難しいことかを意識して考えてください。	教科書・テキスト	なし／『聖書 聖書協会共同訳』日本聖書協会 2019年
指定図書／参考書等	なし／・シャーリー・コスタンゾ 著、黒井健 訳『12の贈り物』ポプラ社 2003年 ISBN-13 ： 978-4591079294 ・ポール･トゥルニエ 著、三浦安子 訳『人生の四季　発展と成熟 』日本キリスト教出版社 2007年 978-4818406452	その他・特記事項	第12回及び第14回は　教室外活動

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CL210C ｷﾘｽﾄ教とﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
商業ベースでは「おもてなし」として、顧客満足度を上げるキーワードとしてホスピタリティが使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。これらの違いを学ぶと共に、日常生活或いは福祉にまで視点の配意を広げ、現代社会における、ホスピタリティのあり方について学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.4関連科目	ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション ホスピタリティとサービスの違いについて理解している。	
2	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。	
3	社会福祉とホスピタリティ 目標：ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。	
4	宗教とホスピタリティ 目標：種々の宗教におけるホスピタリティについてその違いを理解している。	
5	海外のキリスト教社会福祉から考える。 目標：救済法は他者援助なのかについて自分の意見を述べられる。	
6	海外のキリスト教社会福祉から考える。 目標：本当に他者のことを考えているのは誰なのか自分の意見を述べられる。	
7	日本のキリスト教社会福祉から考える。 目標：歴史から見る日本の福祉のながれについて理解している。	
8	茶道に見るおもてなしの原点。 目標：茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。	
9	ヤヌシュ･コルチャックに学ぶ。 目標：ヤヌシュ･コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。	
10	ヘレン・ケラーに学ぶ。 目標：ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。	
11	マーティン･ルーサー･キング･ジュニアに学ぶ。 目標：マーティン･ルーサー･キング･ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。	
12	マザー・テレサに学ぶ。 目標：マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。	
13	賀川豊彦に学ぶ。 目標：賀川豊彦の活動から他者への思いやりについて理解している。	
14	渋沢栄一に学ぶ。 目標：渋沢栄一の活動から社会貢献活動について理解している。	
15	映画にみるホスピタリティ 目標：映画を通して、種々のホスピタリティの事例を理解すると共に説明できる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシート	60	授業中に作成したワークシートで講義の理解状況を測る。	レポート	30	主張の明確さ等で完成度を見る。
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。［合計18時間］ 授業で取り上げられた人物について調べる。［4時間］ 授業で取り上げられた映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。［8時間］	レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。

受講生に望むこと	ビジネスとしてではなく、生活を送る上でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	指定図書/参考図書等は授業の進行に合せて随時提示する	その他・特記事項	・取り上げた人物については講義回前に調べておくこと。 ・映画に関しては、各自が講義回前に視聴しておくこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CL110C 健康論			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。	① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。 健康的な生活：健康の三大要素である「運動」「栄養」「休養」について理解し、健康的な生活について考える。	
2	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。	
3	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。	
4	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。	
5	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」	
6	健康を脅かすもの⑤：「生活習慣病」の理解を深めるとともに、「代表的な死因」との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」	
7	運動習慣と疾病の関係：「生活習慣病」と「代表的な死因」との関係の理解を深めるとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。	
8	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	・受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させている。	学期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。［30分］ ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。［30分］ なお、事前・事後学習内容の詳細は授業内で説明する。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。	教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。
指定図書／参考書等	参考書：「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著　北國新聞社　2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CL130C 青年の心理			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
青年心理学は青年期の心理や行動を研究対象とする発達心理学の一領域であり、この領域の知見によって青年が自分自身の心理や行動を振り返り、より良く生きるきっかけをつかむことができる。この授業では、生涯発達の途上にある青年期の心理と行動について例を挙げて解説する。	①青年期の心理と行動について理解する。 ②青年の心理や行動を青年期心理学の知見で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を青年心理学の知見を用いて振り返ることができる。

教授方法	講義を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	青年期とは：青年期の成立過程と時代的変化を理解する。	
2	前青年期とは：青年期の入口としての前青年期の心理や行動を理解する。	
3	青年期の発達課題：アイデンティティとセルフエスティームについて知り、青年期の発達課題を理解する。	
4	青年期の認知の発達：情報処理能力の獲得と思考の発達について知り、青年期の認知発達を理解する。	
5	青年期と家族：親からの分離個体化にかかわる心理や行動について知り、青年と家族のありようを理解する。	
6	青年期と学校・地域：青年が学校で学び、地域にかかわることの実際について知り、青年と学校・地域との関係性を理解する。	
7	青年期と友人：グループの発達的変化といじめにかかわる心理や行動を理解する。	
8	青年期の身体の発達とジェンダー・アイデンティティ：二次性徴の発現による性的成熟に伴う心理や行動と社会・文化的な性（ジェンダー）について理解する。	
9	青年の恋愛と結婚：恋愛と結婚にかかわる心理や行動を理解する。	
10	青年期の臨床①精神疾患：青年期発症の精神疾患のある青年の心理や行動を理解する。	
11	青年期の臨床②非行：非行の実態を知り、非行にかかわる青年の心理や行動を理解する。	
12	青年期の臨床③発達障害：発達障害のある青年の心理や行動を理解する。	
13	青年期の臨床④引きこもり・ゲーム依存：引きこもり・ゲーム依存の実態を知り、その状態にある青年の心理や行動を理解する。	
14	青年期への支援とリソース：青年への支援サービスについて理解する。	
15	青年の就職と労働：青年期のキャリア発達にかかわる心理や行動を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの参加態度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で取り上げられたキーワードについてのまとめと整理［60分］	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	授業内容と日常の生活との接点を見出し、自分自身の心理と行動のありようとその意味について興味や関心を拡げて欲しい。提出を求めるレポートは期限を守ること。	教科書・テキスト	『授業で使える青年心理学ワークブック』安立奈歩他 北樹出版　2013　ISBN978-7793-0368-5
指定図書／参考書等	なし／『やさしい青年心理学』　白井利明　都築学　森陽子　有斐閣 2012　ISBN978-4-641-12481-3 『よくわかる青年心理学第2版』　白井利明編　ミネルヴァ書房　2015 ISBN978-4-623-07249-1	その他・特記事項	

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CL230C 社会心理学の基礎			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
我々の様々な考え方や行動の多くは社会心理学の広い知見からとらえることができる。この授業では、社会心理学研究の４レベル、自己・対人・集団(組織)・社会(文化)の各レベルでの心理と行動について例を挙げて解説する。	①自己・対人・集団(組織)・社会(文化)の各レベルでの心理と行動について理解する。 ②個人の心理や行動を社会心理学の用語で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を社会心理学の知見を用いて振り返ることができる。

教授方法	講義を中心に、一部エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会心理学とは：社会心理学研究の４レベル・研究方法・理論的な背景について理解する。	
2	社会(文化)レベルでの心理・行動：消費行動やメディアにかかわる心理や行動について理解する。	
3	集団(組織)レベルでの心理・行動①：集団(組織)への所属にかかわる心理や行動について理解する。	
4	集団(組織)レベルでの心理・行動②：集団(組織)内での意思決定にかかわる心理や行動について理解する。	
5	集団(組織)レベルでの心理・行動③：集団(組織)内での人間関係にかかわる心理や行動について理解する。	
6	集団(組織)レベルでの心理・行動④：集団間関係、特に集団同士の葛藤にかかわる心理や行動について理解する。	
7	対人レベルでの心理・行動①：公正さにかかわる心理や行動について理解する。	
8	対人レベルでの心理・行動②：援助行動にかかわる心理や行動について理解する。	
9	対人レベルでの心理・行動③：攻撃行動にかかわる心理や行動について理解する。	
10	対人レベルでの心理・行動④：親密化や友情、恋愛にかかわる心理や行動について理解する。	
11	対人レベルでの心理・行動⑤：受容と排斥とにかかわる心理や行動について理解する。	
12	自己レベルでの心理・行動①：社会的認知にかかわる心理や行動について理解する。	
13	自己レベルでの心理・行動②：感情や情動、気分にかかわる心理や行動について理解する。	
14	自己レベルでの心理・行動③：態度や説得にかかわる心理や行動について理解する。	
15	自己レベルでの心理・行動④：自己認識や自尊感情にかかわる心理や行動について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの参加態度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で取り上げられたキーワードについてのまとめと整理［60分］	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	授業内容と日常の生活との接点を見出し、自分自身と社会の関わりについて、興味や関心を拡げて欲しい。提出を求めるレポートは期限を守ること。	教科書・テキスト	『眠れなくなるほど面白い 図解社会心理学』亀田達也　日本文芸社　2020　ISBN978-4-537-21714-8
指定図書／参考書等	なし／『図説社会心理学入門』　齊藤勇編著　誠信書房　2011　ISBN978-4-414-30179-3 『基礎から学ぶ社会心理学』　脇本竜太郎編著　サイエンス社　2014　ISBN978-7819-1337-7 『史上最強図解 よくわかる社会心理学』　ナツメ社　2013　ISBN978-4-8163-5429-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CL090C 数学基礎			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	松原　敏治						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
専門科目の中には数学的な考え方が要求されるものがいくつかあり、その習得が必要である。また、数学的な見方や考え方を身につけておくことは社会生活を送る上でも有用である。 このため、主として数学Ⅰ・Aまでの題材の中で専門科目の講義や社会生活を送る上で必要な事項を取り上げ、理解を深める。	専門科目の講義に出てくる数学的な考え方、SPIや就職試験などに出てくる各種問題に対応できる力がつく。

教授方法	授業前半の解説をもとに、後半は問題プリントに取り組む。
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　：学習の仕方についての説明。あわせて、計算力調査も行う。	
2	計算の基礎①　：整数の加減の仕組みについて問題を解きながら学ぶ。	
3	計算の基礎②　：整数の乗除の仕組みについて問題を解きながら学ぶ。	
4	計算の基礎③　：小数の加減の仕組みについて問題を解きながら学ぶ。	
5	計算の基礎④　：小数の乗除の仕組みについて問題を解きながら学ぶ。	
6	一次方程式　：基本的な考え方について問題を解きながら学ぶ。	
7	集計表とグラフの見方　：実例をもとにして問題を解きながら学ぶ。	
8	第2回から第7回についてのまとめと単元テスト	
9	割合と比①　：割合とは何かや割合の表し方について問題を解きながら学ぶ。	
10	割合と比②　：割合のグラフについて問題を解きながら学ぶ。	
11	割合と比③　：割増と割引について問題を解きながら学ぶ。	
12	割合と比④　：構成比と濃度について問題を解きながら学ぶ。	
13	空間図形の表面積と体積　：実例をもとにして問題を解きながら学ぶ。	
14	割合と空間図形の内容についての問題演習	
15	第9回から第14回についてのまとめと単元テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単元テスト	40	単元ごとの履修項目の理解度をみる。基本的には7割の正解が望まれる。	課題への取り組み状況	40	課題に対してどれだけ意欲的に取り組んだかをみる。提出物をきちんと提出しているか。
積極性	20	授業に対して意欲的に取り組んでいるかをみる。授業態度は良好か。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業開始前に、前回の講義内容を復習して講義に臨む。 事後学習として、学習プリントの復習を最低30分は行う。さらに、該当の内容の問題を自分が過去に使った数学の教科書あるいは数学検定問題集から探して解いてみることを勧める。	問題プリントの解答は次の回に配布する。問題内容や解答について疑問点がある場合は積極的に質問すること。

受講生に望むこと	各回における数学的な考え方の理解に努めること。提出物の期限をよく確認し、守ること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／参考図書：『受かる！数学検定3級』日本数学検定協会（監修）学研教育出版　2012年　ISBN978-4-05-303591-2	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CS101C ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ ｾﾐﾅｰ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学における学びは学問を通して、社会人として教養と自立した活動を行うための知識や技術を身につけることを目的としている。 本授業ではその為の基礎として読む力、書く力、数量的な概念及び伝える力を身に付けるために、様々なグループワークの手法、ライティング、リーディング、プレゼンテーションの各技術の基礎を修得する。	グループワークにおける自己の役割を理解している。 プレゼンテーションの技法が身についている。 大学での学びの姿勢が身についている。

教授方法	講義形式で基本的知識を学ぶと共に、グループワークおよびプレゼンテーションの実践をとおしてスキルを向上する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の全体の流れを理解する。また、ルーブリックを用いて達成目標を理解する。	
2	グループワーク＜基礎１：ブレーンストーミングの理論＞ グループワークの全体像をつかむと共に、メンバーの役割について理解する。	
3	グループワーク＜基礎２：ブレーンストーミング結果を基に発表用のツールを作成＞ 様々なグループワーク事例の特徴を理解し、場面に応じて使い分ける基礎を築く。	
4	グループワーク＜応用１：課題の抽出と解決策の検討＞ 実践形式で、グループワークを体験し、メンバーの役割の中から自分の位置を見つけ出す。	
5	グループワーク＜応用２：解決策の具体的立案と提示資料の作成＞ グループワークにおける自分のグループ内でのスキルを向上させる。	
6	グループワーク＜まとめ：全体に対するグループの提案と共有化＞ 2回目から5回目を踏まえ、グループワークについて個人とグループで振り返ると共に、知識を共有する。	
7	プレゼンテーションの基本＜他己紹介を用いた学び＞ プレゼンテーションの基本について理解する。	
8	プレゼンテーションの準備作業＜練習１：図書案内作成準備＞ プレゼンテーションツールの作り方についての解説、テーマの決定及び資料の収集をする。	
9	プレゼンテーションの準備作業＜練習２：ポスターとシナリオ作成。発表＞ プレゼンテーションツールの作り方についての解説、資料の収集および資料の整理。	
10	プレゼンテーションツールの作成＜応用１：「同窓会」案内及び当日プログラムの構想作業＞ 収集資料に基づき、全体の流れを構成すると共に、ツールを作成する。	
11	プレゼンテーションツールの作成＜応用２：案内用往復はがきの作成と当日シナリオの完成＞ 引き続きツールを作成すると共に、全体を俯瞰し修正を行う。	
12	プレゼンテーションの練習＜グループ内でのシナリオの共有化とグループとしてシナリオ作成＞ 作成したツールを用いて実際に発表を行うと共に、相互に評価し合う事により、修正を図る。	
13	総合演習＜１：キャラクターの設定と訴求点の検討＞ 課題基づく資料の収集、全体の流れを構成すると共に、ツールを作成できるようになる。	
14	総合演習＜２：キャラクターと訴求点の確立＞ 引き続きツールを作成すると共に、全体を俯瞰し修正できるようになる。	
15	総合発表＜ポスターセッションの実施＞ 個々人が他者の発表内容を分析し、自分の発表に反映できるようになる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ活動	60	グループ活動に積極的に参加しているかをルーブリックを使用して評価する	最終プレゼンテーション	40	基準に沿ったプレゼンテーションが出来ているかをルーブリックを使用して評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回の終わりに次回に向けての課題を出すので必ず事前学習をしてくること。 学習時間は合計30時間分を、その都度の進行状況によって指示する。	原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	様々なグループワークの手法を紹介するので、自分に合ったものを探すと共に、自分の役割を見いだしてください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	グループワークの一部はノートパソコン等を使用して行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CS111C 基礎ｾﾞﾐⅠ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子・富岡　和久・葦名　理恵　（代表教員　沢田　史子）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
短期大学生としての基本的な学びの姿勢、知的探究の方法を少人数グループで習得する。まず、大学の講義受講に必要な、ノートテイキングの手法を確認する。そしてレポート作成に必要な「読む・書く」のリテラシーと図書館の利用やインターネットの情報収集について、求められる水準を満たすよう基本を強化する。同時に他教科との関連を知ることによって、一つの教科の学びで得られた知識を他の教科で応用し、アレンジすることにより、学びを積み上げ、深めることが出来るようになる。	①短期大学の学びを行う上で必要となるノートテイキング・リーディング・アカデミックライティングの基本的スキルを身につける。 ②図書館の利用方法を身につける。 ③グループディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる。 ④与えられた課題について、指定された文字数や書式などに従いレポートが作成できる。 ⑤与えられた課題について、自分の意見をまとめ発表ができる。

教授方法	全体で集合する場合と、グループ単位に分かれて演習を行う場合がある。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「基礎ゼミⅠ」の用い方と使用するテキストとの関連について説明する。	全員
2	スタディスキル：年間・週間スケジュールを作成し、自らスケジュールを立てる際のノウハウを学ぶ。（テキスト第1章）	全員
3	ノートテイキングのスキル：学生として必要なノートの取り方について学ぶ。（テキスト第2章）	全員
4	図書館利用オリエンテーション：図書の様々な検索方法について学ぶ。	全員
5	リーディングのスキル：文章を読む場合に気をつけるポイントについて学ぶ。（テキスト第3章）	全員
6	グループワークの事前学習とグループディスカッションの練習：「フレッシュマンセミナー」に向けてディスカッションを行う場合の注意点などを学ぶ。	全員
7	フレッシュマンセミナーの振り返り：「フレッシュマンセミナー」で考えた内容を元に意見交換を行い、学びの内容を深める。	全員
8	より深いリーディングのために①：テキストを読んで、要約する技法を学ぶ。（テキスト第4章）	全員
9	より深いリーディングのために②：テキストを読んで、感じたこと・考えをまとめる。（テキスト第4章）	全員
10	アカデミックライティングの基本：文章構成を意識したレポート作成の方法について学ぶ。（テキスト第8章）	全員
11	効果的なアカデミックライティング：わかりやすい文章と視覚的にわかりやすい表現方法について学ぶ。（テキスト第9章）	全員
12	調査活動：「基礎ゼミⅠ」で学んだ内容を活かすためのレポート作成に向け、テーマを選び調査活動を行う。	全員
13	レポート作成①：期限を決め、調査した結果を基にレポートを作成する。	全員
14	レポート作成②：ゼミ担当教員のチェックを受けながらレポートを作成する。	全員
15	レポート提出とゼミ内発表会：レポートを提出し、ゼミ内で発表する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	ワークシートの内容や授業中の発言など積極的参加を重要視する。	レポート	40	学んだ内容を反映した結果となっているかを重視する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予め『知へのステップ』該当箇所を読み、予定されている内容を把握しておく。[30分] ②事後は行った内容について、テキスト・ノート・配布資料を読み復習する。[20分] ③指示されたレポート作成を期日までに行う。[60分]	①授業中に実施したワークシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 ②期末レポートは、夏休み前までに採点およびコメントを付けて返却する。

受講生に望むこと	高校までと異なる「大学ならではの学び」のための基礎を身に付けて欲しい。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著　くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CS121C 基礎ｾﾞﾐⅡ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子・富岡　和久・葦名　理恵　（代表教員　沢田　史子）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「基礎ゼミⅠ」で確立した学ぶ姿勢の発展として研究を行う。自分の興味のあるテーマを設定し、調査活動を行いレポートを作成する。後半の発表では、ゼミ単位で研究を共有し、多様性を知り自分の視野を広げることができる。最後に全体発表会を行うが、これらの活動は、課題やテーマを見つけ、情報収集し発表して他からアドバイスを受け改善して次の研究に繋げるものであり、2年次の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」で行われる研究の土台となる。	①興味のあるテーマを設定し、レポート作成に必要な文献などの情報を集めることができる。 ②設定したテーマについて、アカデミックライティングのルールに沿ったレポートが作成できる。 ③設定したテーマについて、パワーポイントを用いてプレゼンテーションができる。

教授方法	全体で集合する場合と、グループ単位に分かれて演習を行う場合がある。
履修条件	「基礎ゼミⅠ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「基礎ゼミⅡ」の用い方と後期スケジュールについて説明する。	全員
2	夏休み活動報告：インターンシップや海外研修など夏休みの活動を発表する。	全員
3	ゼミのプランニング：研究対象を決め、調査・レポート作成の計画を立てる。	全員
4	調査活動①：レポート作成のため、図書館やインターネットなどを用いて情報収集を行う。	全員
5	調査活動②：レポートのアウトラインを考え、情報を整理する。	全員
6	調査活動③：最終的な構成を考え、参考文献リストを添えて提出する。	全員
7	レポート作成①：構成に基づき、レポートを作成する。適宜ゼミ教員から指導を受ける。	全員
8	レポート作成②：評価ポイントに従い、レポートをチェックする。適宜ゼミ教員から指導を受ける。	全員
9	レポート作成③：ゼミ教員から指導を受け、レポートを修正する。	全員
10	表現する・伝える：プレゼンテーションを行う際に注意すべき点を学ぶ。（テキスト11章）	全員
11	わかりやすいプレゼンテーションのために：プレゼンテーションで正確に伝える上で重要となる視覚資料の用い方について学ぶ。（テキスト12章）	全員
12	プレゼンテーション準備①：ゼミ内発表に向けスライド作成を行う。	全員
13	プレゼンテーション準備②：ゼミ内発表に向けリハーサルを行う。	全員
14	ゼミ内プレゼンテーション：全体プレゼンテーションに向けゼミ内発表を行い、ゼミ毎に代表を選出する。	全員
15	プレゼンテーション大会：ゼミ代表者による「基礎ゼミⅡ」調査結果の発表を行う。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	ゼミ実施時の積極的参加を重要視する。	レポート	40	学んだ内容を反映した結果となっているかを重視する。
プレゼンテーション	20	プレゼンテーション（レポート発表の内容・スライド・発表態度）について評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①参考文献として選んだ書籍を読む。[120分以上] ②指示されたレポート作成を期日までに行う。[90分] ③ゼミ内プレゼンテーションの練習を行う。[60分]	①授業中に実施したワークシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 ②期末レポートは、春休み前までに採点およびコメントを付けて返却する。

受講生に望むこと	「専門ゼミ」につながる「主体的学び」を学習する機会として、自らが選んだテーマに対して、積極的に取組んでほしい。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著　くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CS201C 専門ｾﾞﾐⅠ			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子・池村　努・富岡　和久・葦名　理恵・木村　ゆかり・茶谷　丹午　（代表教員　沢田　史子）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
各ゼミで示されるゼミプランにしたがい、ゼミ担当教員の専門分野と関連させながら、各自の問題関心に沿った内容について、共同あるいはグループで学習を進める。専門分野に関する文献を多く読み、理解に努める。その後、ゼミ担当教員の指導のもとに、各自が研究テーマの設定に向けて文献・資料検索、データ収集などを行う。 前期の研究テーマ設定に基づき、後期の「専門ゼミⅡ」に繋げ、自分の研究テーマをより深めていく。	①基礎ゼミで身につけた学習および研究方法を土台として、選択したゼミ担当教員のもとで問題関心を具体化する。 ②グループディスカッションにより課題・問題を共有し、考え方の多様性を知る。 ③グループによる協働学習から研究テーマの設定を導く。 ④必要な作業実施に向けた計画（段取り・調整）を行う。

教授方法	演習
履修条件	「基礎ゼミⅡ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「専門ゼミ」概要説明	全員
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）①	全員
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）②	全員
4	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）③	全員
5	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）④	全員
6	研究テーマ検討	全員
7	研究テーマ（仮）提出	全員
8	研究スケジュール及び方法立案	全員
9	資料収集、調査実施、データ確認①	全員
10	資料収集、調査実施、データ確認②	全員
11	資料収集、調査実施、データ確認③	全員
12	レポート作成およびチェック①	全員
13	レポート作成およびチェック②	全員
14	レポート作成およびチェック③	全員
15	ゼミ内発表	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	グループワークやディスカッションへの積極的な参加 調査・研究に対する意欲。	レポート	40	調査・研究結果・中間発表をまとめるに当たり、文献調査を確実に行い、内容を精査しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前事後の学修は合計で30時間分をゼミ教員の指導に従い行う。	原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	積極的に参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CS211C 専門ｾﾞﾐⅡ	開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子・池村　努・富岡　和久・葦名　理恵・木村　ゆかり・茶谷　丹午　（代表教員　沢田　史子）				

標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
各自、テーマの掘り下げ、方向付け、文献や資料の収集をしながら、自分で設定したテーマについてゼミ担当教員の指導を受けながら研究を進める。ゼミ担当教員の指導のもとで研究発表についてゼミ生相互の検討や意見交換などを行う。 最後に学科全体でゼミ発表会を行う。	①「専門ゼミⅠ」で決めた研究方法に基づいて、専門分野で設定したテーマに沿ってレポート等をまとめる。 ②最終レポートを提出し、学科全体の発表会で発表する。 ③卒業後に取り組むであろう様々な課題に対する探求姿勢が身につく。

教授方法	演習
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「専門ゼミⅡ」スケジュール確認	全員
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）①	全員
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）②	全員
4	本テーマ確定	全員
5	資料収集、調査実施、データ確認①	全員
6	資料収集、調査実施、データ確認②	全員
7	資料収集、調査実施、データ確認③	全員
8	資料収集、調査実施、データ確認④	全員
9	レポート作成①	全員
10	レポート作成②	全員
11	レポート作成③	全員
12	レポート作成④	全員
13	レポートを指導教員に提出	全員
14	レポート指導・修正	全員
15	グループ別発表（リハーサル）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	調査・研究時の積極的参加を重要視する。また、最終プレゼンテーションも含める。	レポート	60	調査・研究結果をまとめるに当たり、文献調査を確実に行い、内容を精査して提出すること。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前事後の学修は合計で30時間分をゼミ教員の指導に従い行う。	原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	積極的に参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CC110C ｷｬﾘｱ開発ｾﾐﾅｰA			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
ビジネスマナーや立ち振る舞いを含めた社会人基礎力を身につける。マナーの意義と必要性を理解し、自分が周囲に与える印象を考える。同時に他者との相互理解を深めクラスとしてチームを形成する意識を醸成する。言葉や態度の意味を理解し心を込めた自然な行動となって醸し出される教養を身につける。	・社会人として必要な基本的ビジネスマナーを身につける。 ・日常、またビジネスシーンに必要なコミュニケーションスキルの基礎を理解し、行動できる。 ・基本的な敬語の使い方を身につける。

教授方法	講義、演習、グループワークなど
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方。評価方法、第1章：ビジネスマナー・ビジネスマナーはなぜ必要なのかを知る。インターンシップ説明	
2	第5章：言葉遣い・正しい敬語を使いこなす	
3	自己紹介①+インターンシップフェスについて	
4	オンライン自己紹介＠google Meet	
5	第一印象の作り方・マナーとしての身だしなみと挨拶を整える理由を知る+リクナビについて	
6	第2-3章：電話のマナー・かけ方、受け方、タイミングを知る	
7	第4章：メールのマナー・SNSチャットとの使い方の違いを知る　その１	
8	第4章：メールのマナー・SNSチャットとの使い方の違いを知る　その2	
9	第8章：来客応対の基礎を理解する	
10	インターンシップに向けての面接練習（オンライン面接）+就活Naviについて	
11	第7章：訪問の仕方：名刺交換と紹介のマナーを知る	
12	ビジネスパーティ（ニューノーマル様式）でのマナー学習①　東急ホテル	
13	ビジネスパーティ（ニューノーマル様式）でのマナー学習②　東急ホテル	
14	ビジネスパーティでのマナーの振り返りと最終課題説明	
15	自己紹介②動画撮影	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	演習態度、授業への積極性や貢献度を評価する。	振り返りシート	30	授業内容の理解度を評価する。
課題提出	40	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
特に言葉遣いにおいて敬語の種類、使い方を理解し、書く、話すに支障がなくなるよう毎回復習をすること（30分）	原則、課題レポートなどは提出の翌週に返却する 演習におけるフィードバックは授業中に行う。

受講生に望むこと	マナーやコミュニケーションスキルは授業のみで習得できるものではないため、学習したことを日ごろから活用するように望む。	教科書・テキスト	「未来をひらくビジネスマナー」第4版 長江由美子著　株式会社大学教育出版 2018年 ISBN978-4-86429-535-2
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

ブライダル会社にてインターンシップ受け入れしていた経験から「受け入れ側」はどのように学生を見ているか、などの事例を紹介している。

授業科目名	CC120C ｷｬﾘｱ開発ｾﾐﾅｰB			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「キャリア開発セミナーA」で学んだビジネスマナーの基礎と教養を基に、就職活動を意識したリハーサルとして就職活動の流れを体験的に学ぶ。 面接や履歴書等の作成に必要な表現力やコミュニケーション能力を高める一方で、実際の就職活動を目前に企業研究をする事により、実社会で就職し活動する自分を想定する。 情報収集と同時に求人の実際と自分の能力を客観的に分析し、企業とのマッチング力を高める。	①自信を持って就職活動を始める準備ができるようになる。 ②就職活動の障害を排除する方法を知る。 ③適切な就職活動のための正しい情報収集法を知り実行できる。

教授方法	講義及びグループワーク形式で演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 目標：キャリア開発セミナーAを振り返ると共に、科目の必要性と全体の流れを把握する。	富岡
2	就職活動の進め方 目標：2024年3月の就職環境・就職活動のスケジュールと今後の準備の大切さを理解している。	外部講師・富岡
3	いままでの自分を振り返る 目標：自分の強みを文章として書き出すことができるようになる。	富岡
4	履歴書・エントリーシート 目標：履歴書・エントリーシートの書き方のコツを知り、自己PR・志望動機において効果的に企業に伝わる書き方を理解する。	外部講師・富岡
5	価値観カードを用いた自分発見 目標：自分の価値観を理解すると共に、なりたい自分をイメージできる。	富岡
6	自己分析 目標：自己分析の目的及び基本的な方法を学び、実際にワークを通して自己理解を深める。	外部講師・富岡
7	社会構造と関連性について 目標：自分が興味のある業界を見つける。社会が求める人になるための、自分なりの指針を述べられる。	富岡
8	業界企業職種研究の基礎 目標：企業同士や業界全体とを比較し、企業ごとの特徴をつかむ研究方法を学ぶ。	外部講師・富岡
9	就職活動の流れの再確認 目標：自分の就職活動の流れについて具体的に計画を立てることができる。	富岡
10	自己PR作成 目標：仕事力キーワードから自分の持ち味・強みを探す。自己PRを書けるようになる。	外部講師・富岡
11	面接準備 目標：採用選考における面接とはどのようなものか、企業が見ているポイントを知る。 ワークを通して面接を体験し、自主練習や実践に活かす。	外部講師・富岡
12	キャリアガイダンス（12回・13回合併） 目標：企業の人事担当者による講話と就職内定者の報告をとおして就職活動の実際を知る。 さらに就職内定者とのグループ交流をとおして、就職活動に実際について知識を深める。	外部特別講師・学生支援係
13	キャリアガイダンス（12回・13回合併） 目標：企業の人事担当者による講話と就職内定者の報告をとおして就職活動の実際を知る。 さらに就職内定者とのグループ交流をとおして、就職活動に実際について知識を深める。	外部特別講師・学生支援係
14	オンラインインターンシップについて 目標：オンラインインターンシップの概要を理解して就活準備の選択肢の1つとして検討できるようになる。	外部講師・富岡
15	就活直前準備講座 目標：2023卒就職活動スケジュールを理解する。就職活動本番に備えて準備を進められる。	外部講師・富岡

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義への取り組み	50	リクルートファンションの遂行 グループワークの準備・チームワーク	総合評価	50	ワークシート等の完成度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：各テーマの予習を十分行う。［各回前、合計30時間］ 事後学習：講義の振り返りと疑問点などの抽出及び疑問点の解決のための取り組みを行う。［各回後、合計20時間］	ワークシートで当該回の気づきと課題を抽出 その内容に基づいて次回以降の授業に反映する

受講生に望むこと	この科目は就職活動に隣接した指導を受けるとともに、自身が実践を想定して活動する。 授業時間中は積極的にワークに参加する。 能動的要素が強い科目であるので欠席をしないように気を付ける。	教科書・テキスト	『「なりたい自分」を目指す シューカツワークBook』noa出版 著　2013年 『就活ナビ』（本学作成・配布）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	企業のリクルート担当者と富岡のオムニバス形式。 適宜、資料を配付する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CC130C ｷｬﾘｱ教養講座A			開講学科	コミ	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努・松原　敏治　（代表教員　池村　努）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キャリア形成の段階や、専門的な職業人として求められる専門的知識と、技術を獲得する上で必要となる教養を身につけ、社会人として求められる基礎的な能力を養成する。 具体的には、政治経済、現代社会における課題などをトピックス別に解説するとともに、学生自身が新聞記事等から読み取り、まとめ、発表する。 また、一般常識問題を読み解き、文章理解、判断推理等の基礎を身につける。	時事・政治・経済分野において、「今起こっていること」や、「社会人として知っておくべきこと」を理解する。 もう一度数学に取組むことにより、社会人として必要な基礎的数学力を身につける。 時事・政治・経済分野、文章読解、数学を通じ、就職活動で求められる一般常識問題やSPI試験への対策の足がかりとする。 HGドリルに取り組むことで、一般常識問題の基礎力を身につける。

教授方法	一般常識、数学を週替わりで学習する。テキストとプリントを用いて問題を解き、解説を加える。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：科目ガイダンスと進路調査を行う。なぜ「キャリア教養講座」を学ぶのか。どのようにして学ぶのかについて説明し、動機付けをする。 一般常識　「国語（漢字）」、メールコミュニケーション	池村
2	数学①　1次式のしくみ①：実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。	松原
3	数学②　1次式のしくみ②：実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。	松原
4	一般常識②「国語（漢字）」同音異義語など、覚えておくべき語句について学ぶ	池村
5	一般常識③石川消費生活支援センターの講演「かしこい消費者塾」を聞き、「消費者トラブル」に備える。	池村
6	数学③　速さの問題：基本的な問題から取り組む。	松原
7	数学④　集合算：実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。数学①～③のまとめを行う。	松原
8	一般常識④「国語（漢字）」振り返り、メール文章の練習。	池村
9	一般常識⑤「石川労働局セミナー」働くことにまつわる権利を知り、自分自身を守る知識を得る。	池村
10	数学⑤　数え方の問題：場合の数をもれなく数える様々な種類の問題に取り組む。	松原
11	数学⑥　新傾向問題：就職試験やSPIに出題が予想される新傾向の問題に取り組む。数学④～⑥のまとめを行う。	松原
12	一般常識⑥「社会」日本史、世界史について学ぶ。	池村
13	一般常識⑦「社会」日本史、世界史について学ぶ。	池村
14	一般常識⑧「数学」の一般常識問題について扱う。	池村
15	一般常識⑨前期に取り組んだ一般常識問題の振り返りを行なう。	池村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験による	50	教授内容を理解していること。	授業への積極的取り組み	20	課題に対し、積極的に取り組んでいること。提出された課題についても評価する。
小テスト	20	学んだ内容について振り返りを行なう。	ＨＧドリル	10	ＨＧドリル（スタンダード）の達成度を指標に判断する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
指定された箇所について目を通し、理解できていなかったところを質問できるようにする。[30分] 出題された問題について、解けたものも含めた全ての問題について、復習を行う。[30分] ＨＧドリルについて、指定された期日までに指定された単元を終えること。	授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。また、授業時間外には代表教員が取りまとめ、対応する。

受講生に望むこと	社会人に必要な一般常識を学ぶに当たり、苦手意識を持たずに取組んで欲しい。	教科書・テキスト	『最新最強の一般常識クリア問題集'23年版』成美堂出版編集部(2021)ISBN978-4-415-23307-9（国語・時事・一般常識） 『情報倫理ハンドブック2022年度版』noa出版（情報機器演習で使用）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	適宜頭脳パズル等を用いる。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CC140C ｷｬﾘｱ教養講座B			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努・松原　敏治　（代表教員　池村　努）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キャリア形成の段階や、専門的な職業人として求められる専門的知識と、技術を獲得する上で必要となる教養を身につけ、社会人として求められる基礎的な能力を養成する。 具体的には、政治経済、現代社会における課題などをトピックス別に解説するとともに、学生自身が新聞記事等から読み取り、まとめ、発表する。 また、一般常識問題を読み解き、文章理解、判断推理等の基礎を身につける。	時事・政治・経済分野に於いて、「今起こっていること」や、「社会人として知っておくべきこと」を理解する。もう一度数学に取組むことにより、社会人として必要な基礎的数学力を身につける。 時事・政治・経済分野、文章読解、数学を通じ、就職活動で求められるWebテストや SPI2 試験、履歴書作成への対策の足がかりとする。

教授方法	一般常識、数学を週替わりで学習する。テキストとプリントを用いて問題を解き、解説を加える。後半には企業交流、模擬面接会を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	一般常識⑩　SPI3模擬試験。	池村
2	一般常識⑪「和歌・俳句、文学史」、新聞要約。	池村
3	数学⑦　割合と比①　割合とは何かや、構成比と濃度について問題を解きながら学ぶ。	松原
4	数学⑧　割合と比②　割増しと割引や割合の計算について、問題を解きながら学ぶ。	松原
5	一般常識⑫「文化」基礎知識としての文化について学ぶ。	池村
6	一般常識⑬　SPI模擬試験解説と自己分析	池村
7	数学⑨　確率の基礎　基本的な問題から取り組む。	松原
8	数学⑩　平面図形の基礎　角度を求める問題や三平方の定理を用いる問題などに取り組む。数学⑦～⑩のまとめを行なう。	松原
9	企業交流会：近隣企業による交流会を行う。	池村・学生支援係
10	模擬面接会：県内企業採用担当者による模擬面接を行う。	池村・学生支援係
11	数学⑪　命題と推論　あることがらが成り立ったとき、さらにどんなことがいえるか学ぶ。	松原
12	数学⑫　2次・3次の計算と指数法則　実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。数学⑪～⑫のまとめを行なう。	池村
13	一般常識⑭「憲法、法律」知っておくべき法律問題について学ぶ。メールコミュニケーション	池村
14	一般常識⑮「社会保障、経済」身近なトピックである社会保障と経済について学ぶ。メールコミュニケーションを行なう。	池村
15	一般常識⑯後期に取り組んだ一般常識問題の振り返りを行なう。	池村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題提出	30	毎回の課題提出と、正解率から判断する。	授業への積極的取り組み	20	課題に対し、積極的に取り組んでいること。
小テスト	40	学んだ内容について振り返りを行なう。	ＨＧドリル	10	ＨＧドリルの達成状況を指標に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
前回使用されたプリントに目を通し、理解できていなかったところを質問できるようにする。［45分］ 出題された問題について、解けたものも含めた全ての問題について、復習を行う。［30分］ ＨＧドリルについて、定められた単元を行なうこと。［40分］	授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。また、授業時間外には代表教員が取りまとめ、対応する。

受講生に望むこと	就職試験や編入学を見据えて、積極的に取り組んでほしい。	教科書・テキスト	『最新最強の適性検査クリア問題集'23年版』成美堂出版編集部(2021)ISBN978-4-415-23307-9（国語・時事・一般常識） 『情報倫理ハンドブック2022年度版』noa出版（情報機器演習で使用）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	適宜頭脳パズルや、一般常識問題等を用いる。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CC220C ﾋﾞｼﾞﾈｽ人間関係論			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
上司や取引先、同僚や部下など、ビジネスは多くの人と関わることでなりたっている。本授業では、職場をはじめとするビジネスの現場における人間関係論を学び、よりよい人との関わり方を考える。	①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。

教授方法	講義による。適宜ビデオ教材を用いる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション－ビジネス社会での人間関係とは－	
2	上司の心理　：上司のタイプとその上司との良い人間関係の作り方について考える	
3	部下の心理　：部下のタイプとその上司との良い人間関係の作り方について考える	
4	同僚の心理　：同僚のタイプとその同僚との良い人間関係の作り方について考える	
5	上司・部下・同僚の心理（まとめ）：動画を見て社内人間関係の心理を考える	
6	ビジネスとＥＱ（１）：人間関係におけるＥＱの重要性とその概要を学ぶ	
7	ビジネスとＥＱ（２）：人間関係におけるＥＱの鍛え方を考える（１）	
8	ビジネスとＥＱ（３）：人間関係におけるＥＱの鍛え方を考える（２）	
9	リーダーシップ（１）：リーダーシップのさまざまな考え方について学ぶ	
10	リーダーシップ（２）：職場でのリーダーシップについて考える	
11	フォロアーシップ　：リーダーを補佐するフォロアーの役割について理解する	
12	リーダーシップとフォロアーシップまとめ（動画視聴）	
13	モチベーション　：仕事についてのモチベーションについて考える	
14	職場のストレスとメンタルヘルス：　職場でのストレスと、メンタルヘルス対策について理解する	
15	まとめと理解度確認	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
理解度確認	90	授業内容の理解度に基づいて評価する。	授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと［30分］ ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語や内容を深く理解する［60分］	毎回授業開始時に、前回のフィードバックを行なう。

受講生に望むこと	日々の学校生活やサークル活動、アルバイト等を通じ、人間関係論について考えることを期待する。	教科書・テキスト	なし（資料を配布する）
指定図書／参考書等	なし／『職場の心理学』齊藤勇　西東社　2015年　ISBN978-4-7916-2032-6	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CT100C 統計の基礎			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
アンケート調査や実験などの測定データを整理し、そのデータの持っている傾向や性質の把握および、予測などを行う方法を統計的手法という。今日、このような手法は自然科学や社会科学、人文科学の分野を問わず、広く浸透し活用されている。履修者にとっては、卒業レポート作成時や仕事において、必要となる場面が多くあるだろう。本講義では、統計学の基本概念を理解し、統計的手法を利用する能力を養うことを目的とする。難しい数学を使わずできるだけ平易に解説し、確実に習得できるよう問題演習を行う。さらに、実際に卒業レポートなどで使えるようにEXCELでの演習も行う。	①統計の基礎概念を理解する。 ②基本統計量を理解し、EXCELを用いて導出できる。 ③相関関係を理解し、EXCELを用いて回帰分析ができる。 ④検定の考え方を理解し、EXCELを用いて t 検定ができる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	統計の基礎概念：母集団と標本、基本統計量、データ尺度について理解する。	
2	基本統計量①：平均、中央値、最頻値、分散を導出する。	
3	基本統計量②：標準偏差、不偏分散、変動係数を導出する。データの標準化を行う。	
4	基本統計量③：EXCELを用いて、基本統計量の導出を行う。	
5	度数分布とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムを作成する。	
6	相関：相関関係を理解し、相関係数を導出する。	
7	単回帰分析：回帰直線と決定係数について理解する。EXCELを用いて回帰分析を行う。	
8	課題演習①：実データをダウンロードし、EXCELを用いた回帰分析を行う。	
9	時系列データ分析①：移動平均法と自己回帰分析について理解する。	
10	時系列データ分析②：EXCELを用いた移動平均の導出と自己回帰分析を行う。	
11	正規分布：正規分布、標準正規分布、正規分布表の使い方について理解する。	
12	検定①：帰無仮説と対立仮説、有意水準など検定の考え方を理解する。	
13	検定②：母平均の差の検定（対応のないt検定）を理解する。	
14	検定③：母平均の差の検定（対応のあるt検定）を理解する。	
15	課題演習②：EXCELを用いてt検定を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢。	演習課題	30	課題への取り組み姿勢。正しい分析ができているか。
期末テスト	50	講義内容を理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に、各回のテキストの当該箇所に目を通しておくこと。［15分］ ②期末テストに備えて、毎回授業で習ったことを復習すること。［30分］	提出した課題は、コメントをつけて次回の冒頭で返却する。

受講生に望むこと	授業内容の理解を深めるため、問題演習に真面目に取り組むこと。	教科書・テキスト	『基礎から学ぶ統計解析 －EXCEL2010対応－』　沢田史子、杉森公一、大数多可志 著　共立出版　2011年 ISBN 978-4-320-01974-4
指定図書／参考書等	なし／『ゼロからの統計学－使えるシーンが見える－』　竹田茂生、藤木清著　くろしお出版　2010年　ISBN 978-4-87424-471-5	その他・特記事項	ノート・電卓（√計算できるもの）を準備してください。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CT200C ﾘｻｰﾁ入門			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
研究レポートやビジネスプレゼンに説得力を持たせるための調査スキルを身に付けることを目的とする。調査の基本概念（調査方法の種類と特徴）、質問紙調査の基礎（調査票作成とサンプリングの方法）と実施方法、インタビュー調査の流れとポイントについて学び、インタビュー調査を実施する。	定性および定量型の調査･集計･分析の基本的な知識やスキルを修得する。 観察調査､インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ､調査の基礎を演習形式で身につける。

教授方法	演習形式を交えた講義
履修条件	「統計の基礎」を履修していることが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	科学的方法を学ぶ(第1章) 目標：科学する方法､記述と説明、合意と信用について理解する。	
2	データの種類と尺度(第2章) 目標：データの種類､変数･仮説一尺度及び尺度別アンケート質問について理解する。	
3	調査の基本概念(第3章) 目標：調査の種類と特徴及び最適な調査方法はどれかなどを理解する。	
4	観察調査（１）観察調査の基礎と調査研究計画書の作成(第4章) 目標：観察調査の種類､ミステリーショッパー(店舗観察調査)の流れを理解する。	
5	観察調査（２）観察シート作成(第5章) 目標：観察シート作成のポイントを理解する。 グループのメンバーが観察シートを持ち寄り、調査に使用する1つの観察シートを完成する。	
6	観察調査（３）実地調査活動 目標：ミステリーショッパーの手法に基づき調査ができるようになる。（教室外活動）	
7	観察調査（４）調査結果の整理と報告(第6章) 目標：観察調査の結果の分析ができる。	
8	観察調査（５）発表準備一発表(第6章) 目標：効果的な発表が出来るようになる。	
9	インタビュー調査(第7章) 目標：インタビュー調査の流れとポイントを理解する。	
10	質問紙調査（１）概要①＝質問紙調査の理解と調査研究計画書の作成(第8章) 目標：質問紙調査の流れ､調査企画書の作成､サンプリング､ワーディングを理解する。	
11	質問紙調査（２）質問紙作成(第9章) 目標：質問紙作成の手順を理解し、質問紙を作成できる。	
12	質問紙調査（３）実地調査活動 目標：質問紙調査を用いて、調査を実施できる。（教室外活動）	
13	質問紙調査（４）データ入力(第10章) 目標：目的に応じたデータ作成ができる。	
14	質問紙調査（５）データ分析(第10章・第11章) 目標：データ分析の準備(ラベル入力など)と基礎的な集計ができる。 目標：分析の方法を理解し、考察できるようになる。	
15	質問紙調査（６）発表(第12章) 目標：質問紙調査の結果をまとめられる。 目標：質問紙調査の分析結果を発表できると共に、他の人の発表を共有できる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシート	15	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度	観察調査研究計画書、観察シート、質問紙調査研究計画書及び調査票	20	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度
観察調査プレゼン	25	資料及び発表の完成度	質問紙調査レポート	40	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ワークシート、各種調査シート、計画書等の作成［合計30時間］ 観察調査､インタビュー調査および質問紙調査［合計30時間］	課題提出後に添削の上で返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	積極的に実地調査に取組んでください。 また、論理的思考を身につけることを意識してください。	教科書・テキスト	竹田茂生･藤木清著『知的な論文･レポートのためのリサーチ入門』くろしお出版 2013年 ISBN 978-4-87424-598-9
指定図書／参考書等	なし／学習技術研究会著『知へのステップ第5版』くろしお出版 2019年 ISBN 978-4-87424-789-1	その他・特記事項	第６回・第12回：　教室外活動

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CT220C 現代社会の基礎知識			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立的人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。	①社会学の基本的な理論・概念を、具体的な事例に当てはめて、文章化して説明することができる。 ②現代社会を様々な切り口から理解し、特に自ら問題関心を持つ領域や現象について、これまで何が議論の対象になってきたか、そして今日の社会でなにがどのように問題になっているのか、文章化して説明することができる。 ③自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。

教授方法	講義・グループディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：社会学とはどういった学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。	
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。	
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。	
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。	
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。	
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。	
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについても理解する。	
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。	
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。	
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。	
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。	
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。	
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会学的観点から理解する。	
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。	
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会学的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。	グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について、様々な具体的事例に応用して説明できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習し、文章化する練習をする。[45分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]	・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。

受講生に望むこと	・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。 ・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会学的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）
指定図書／参考書等	なし／『社会学がわかる事典　―　読みこなし使いこなし活用自在』 森下伸也　日本実業出版社　2000年＜ISBN:978-4534031730＞ 『社会学入門』盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編　ミネルヴァ書房　2017年＜ISBN:978-4623079117＞ 『社会学用語図鑑』田中正人（編著）・香月孝史　プレジデント社　2019年＜ISBN:978-4833423113＞	その他・特記事項	・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・アクティブラーニングとしてグループディスカッションの実施を予定しているが、個別あるいは全体の状況に応じて、別の課題に代える場合がある。 ・社会学科科目「社会学概論B」と合同開講である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CT110C 文献講読の基礎			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　丹午						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学生として必要な「読む力」の修得を目的とする。文系領域を中心とした学問分野におけるクリティカルリーディングの技術を習得し、批評的な思考や姿勢を自身の中に取り入んでいく。文学、美術、心理学、社会学などさまざまのテーマに基づいた文献を読み、読んだ内容についての意見をまとめる。さらには、学生同士、あるいは教員との意見交換など、双方向的なやり取りを行いながら、授業を進めていく。	①評論やエッセイなどを正しく理解する能力を習得する。 ②内容を論理的に要約、説明する能力を身につける。 ③論理的な読解を通して、批判的な読み方を身につける。 ④四年制大学編入を視野に、文章読解力と表現力とを習得する。

教授方法	講義を中心に、レポートや討論などを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業のガイダンス　講義の進め方や成績評価について説明　大学における学問領域についての確認	
2	学術的な文章の構成についての説明　読解するための読み方を考える	
3	文学的な内容のエッセイと評論とを読み、違いを考える	
4	美術評論を読み、該当の作品を鑑賞しつつ内容を理解する	
5	哲学、心理学的な評論を理解する	
6	民俗学的なエッセイ、評論を読み、内容を理解する	
7	社会学的な文章を読むとともに、統計表の読み取り方を身につける	
8	歴史的なエッセイ、評論を読み、内容を理解する	
9	新聞の論説を中心に、国際情勢に関する理解を深める	
10	これまでの読解を深め、関心のある領域について自身の意見をまとめる	
11	図書館の資料等を利用しつつ、関心のある領域についての意見をまとめる	
12	それぞれの意見の中からいくつかを選出、ディスカッションを行う	
13	履修者の志望や関心に基づいた文献を紹介、理解を深める（1）	
14	履修者の志望や関心に基づいた文献を紹介、理解を深める（2）	
15	全体の総括　学術的な文章の読解とそれを表現する方法を考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内課題	60	毎回の課題の提出と完成度	授業への取り組み	30	積極的な授業参加の姿勢、発言
小テスト	10	全３回の確認テスト			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業で取り上げる内容については予告するので、それらについて事前に調べておくことが望ましい。	提出物については添削をした上で返却する。 発言や発表については、その場で質疑に応じる。

受講生に望むこと	四年制大学編入を目指す人はもちろん、読解力や理解力を高めたい学生の受講を期待します。正しく理解し、意見を持ち、さらにはそれを的確に表現できるよう、積極的に授業に参加してください。	教科書・テキスト	なし（授業内で配布）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CT210C 小論文作成法			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　丹午						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
日本語での論述の力を訓練する講義である。特に、編入学試験で課される小論文対策を主たる目的とする。小論文やレポートは、実際に書き、修正を繰り返すことで力が付く。よってこの講義では受講生にさまざまな主題について短いレポートや長めの小論文を書いてもらうことになる。	自らの議論を明快に表現する力を身に付ける。編入学試験で合格する水準の小論文の書き方を身に付ける。

教授方法	講義に加えて実際に書く機会を多くとる。受講生が書いた文章を一緒に検討して修正してゆく。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	レポート・小論文の書式とレイアウト、文体、符号の使い方	
2	質問に対して答えることを意識する。	
3	「より具体的に書く」ことを心掛ける。	
4	文章を的確に要約して意見を述べる。	
5	意見を述べる際の語尾に注意する。	
6	論述の構成を考える。	
7	論述の下書きの書き方を工夫する。	
8	筆者の意見を読み取り、それに対する自分の意見を作る。	
9	図表を読み取り、意見を述べる。	
10	様々な小論文を読んで、批評、討論（1）	
11	様々な小論文を読んで、批評・討論（2）	
12	小論文を書いてみよう（1）	
13	小論文を書いてみよう（2）	
14	受講者の小論文に対するフィードバック、討論	
15	受講者の小論文に対するフィードバック、討論、まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小論文	60	毎週の課題として小論文を書いてもらい、講義で話し合ったルールを守って書いているかという点と、論の組み立て方、内容の点で評価する。	授業への取り組み	10	積極的な授業参加の姿勢、発言
最終レポート	30	最終レポートとして、８００字～１０００字程度の小論文を制限時間内に作成する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
返却されたレポートは、添削やコメントを参考に修正を加えて完成させること。また、授業で扱う資料に関連する本や論文を、図書館やインターネットで積極的に探して読むこと。	提出されたレポートは添削し、次回以降の授業で返却する。

受講生に望むこと	普段から自分の関心に従い、またその関心を広げながら、読書することを心掛けてほしい。また、読んだ内容について振り返り、要約する習慣を身に付けてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB100C 資格簿記A			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	小嶋　純一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	全国経理教育協会簿記能力検定試験3級（全経簿記3級）				

授業の概要	授業の到達目標
全ての企業が行う会計業務を遂行するために必要となる簿記の基礎的な知識を習得する。	日本商工会議所簿記検定試験３級受験に向けて、その基礎的な知識の修得を目指す。

教授方法	講義と問題演習の併用。
履修条件	簿記検定資格取得希望者に限る

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	簿記の基礎について理解する。	
2	日常の手続について理解する。	
3	商品の購入と販売の取引について理解する。	
4	返品、諸掛り、保管費について理解する。	
5	商品有高帳について理解する。	
6	簿記上の現金と預金の意味と記帳について理解する。	
7	小口現金とクレジット売掛金の意味と記帳について理解する。	
8	手形の意味と記帳について理解する。	
9	さまざまな帳簿の関係について理解する。	
10	貸付金、借入金、有形固定資産の取引と記帳について理解する。	
11	未収入金、未払金、仮払金、仮受金の取引と記帳について理解する。	
12	給与の取引と記帳について理解する。訂正仕訳について理解する。	
13	試算表について理解する。	
14	税金及び証ひょうと伝票について理解する。	
15	総復習演習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評点により評価を行う。	提出物	30	講義内容ごとに小テスト行い、その理解度により評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[90分]	実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。

受講生に望むこと	電卓（スマホ電卓を除く）を携行すること。 分からないことは何でも、何度でも質問すること。	教科書・テキスト	合格テキスト 日商簿記3級 Ver.13.0（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版　　ISBN：978-4813299059
指定図書／参考書等	なし／合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.13.0（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版　　ISBN：978-4813299080	その他・特記事項	代替授業日には事前に配布した課題を実施する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB105C 資格簿記B			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	小嶋　純一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	日商簿記検定3級				

授業の概要	授業の到達目標
前期の講義を基礎として、簿記の知識の理解を一層深めます。特に決算についての手続を中心に講義を進め、取引の記帳から損益計算書・貸借対照表の作成まで、簿記の一連の流れを理解してもらいます。	日本商工会議所簿記検定試験３級の合格を目指します。

教授方法	講義と演習の併用による。
履修条件	資格簿記Aを履修した者または、高校において簿記を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	決算のあらましや手続きについて理解する。	
2	現金過不足、貯蔵品、当座借越について理解する。	
3	売上原価について理解する。	
4	貸倒れについて理解する。	
5	減価償却について理解する。	
6	収益・費用の見越し、繰延について理解する。	
7	決算整理後残高試算表及び精算表について理解する。	
8	帳簿の締め切りについて理解する。	
9	損益計算書と貸借対照表の形式について理解する。	
10	株式会社における資本（純資産）の概要と株式を発行するときの処理について理解する。	
11	剰余金の配当と処分について理解する。	
12	税金及び証ひょうについて理解する。	
13	伝票について理解する。	
14	日商簿記検定試験３級問題演習	
15	日商簿記検定試験３級問題演習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。	提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[180分]	実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。

受講生に望むこと	電卓（スマホ携帯を除く）を必ず携行すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。	教科書・テキスト	合格テキスト 日商簿記3級 Ver.13.0（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版　ISBN：978-4813299059
指定図書／参考書等	なし／合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.13.0（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版　ISBN：978-4813299080	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB200C 資格簿記C			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	小嶋　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	日商簿記検定2級				

授業の概要	授業の到達目標
簿記の学習は、商業簿記と工業簿記から成り立っています。資格簿記Cでは、商業簿記において株式会社における会計処理を学び、工業簿記において製造業における会計処理の概要について学びます。	製造業における記帳体系を学び、工業簿記が商業簿記とどのようにつながりを持っているのかを理解することにより、日本商工会議所簿記検定試験２級受験に向けての基礎知識を身に付けることを目指す。

教授方法	講義と演習の併用による。
履修条件	資格簿記Bを履修した者または、高校において簿記を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	簿記一巡の手続きと財務諸表について理解する。	
2	銀行勘定調整表の作成と、それに伴う記帳について理解する。	
3	有価証券の意味と記帳について理解する。	
4	商品売買の記帳方法を学ぶとともに、売上原価の意味と記帳について理解する。	
5	固定資産（有形固定資産、無形固定資産）の意味と記帳について理解する。	
6	引当金、特に貸倒引当金と賞与引当金の意味と記帳について理解する。	
7	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その１）	
8	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その２）	
9	損益計算書と貸借対照表の様式について理解する。	
10	工業簿記の概要について理解する。	
11	工業簿記特有の勘定科目と記帳体系について理解する。	
12	個別原価計算における製品現価の集計方法を理解する。	
13	商企業の財務諸表と比較しつつ、工企業の財務諸表について理解する。	
14	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その１）	
15	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その２）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。	提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[600分]	実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。

受講生に望むこと	電卓（スマホ携帯を除く）を必ず携行すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。	教科書・テキスト	合格テキスト 日商簿記2級 商業簿記 Ver.16.0（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版 ISBN：978-4813299035 合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記 Ver.9.1（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版 ISBN：978-4813299042
指定図書／参考書等	なし／合格トレーニング 日商簿記2級 商業簿記 Ver.16.0（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版 ISBN：978-4813299066 合格トレーニング 日商簿記2級 工業簿記 Ver.9.1（よくわかる簿記シリーズ） TAC出版 ISBN：978-4813299073	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB106C 資格接客ｻｰﾋﾞｽA			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	村上　こずえ						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 サービス接遇検定3級				

授業の概要	授業の到達目標
サービス接遇検定３級（実務技能検定協会）合格に向けた問題演習を行います。この検定は、宿泊業、観光業、販売業等の接客業で働くために必要なものであり、また全てのビジネス上のマナーに通ずる内容を含んでいます。試験対策に加えて、接客業に携わるための基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とします。	①サービス接遇検定３級合格を目指す。②接客業務に必要な基本的な知識・技能を習得する。③コミュニケーションマナーを身に付ける。

教授方法	講義・ロールプレイング
履修条件	サービス接遇検定試験受験希望者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：サービス接遇検定の説明。学習方法について。「サービス」とは何か、「接遇」とは何かを考える。	
2	第一印象の大切さを理解する。	
3	サービススタッフに必要とされる資質について理解する。	
4	コミュニケーションマナーの基本を理解する。	
5	接遇者としてのコミュニケーションマナーを理解する。	
6	基本的な接遇用語を理解する。	
7	接遇者としての基本となる話し方を理解できる。	
8	感じの良い言葉遣いについて理解する。	
9	商業用語・経済用語を身に付ける。	
10	一般知識（社交マナー・贈答マナー・サービス業に関連することわざ等）を理解する。	
11	気づき（観察力）に関して理解を深める。	
12	「サービス」と「ホスピタリティ」について考える。	
13	理解した接遇用語・言葉遣いを用いて会話を通じて理解を深める。	
14	接客対応の実際について理解する。	
15	接客対応のロールプレイングを行い、実践的に理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	検定試験の内容を理解しているか。	小テスト・課題	35	毎回の授業を理解できているか。
授業の参加度合	25	受講態度、及び検定試験・授業全般・ロールプレイングに対する積極性。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業で配付した資料、演習問題は必ず復習すること。[45分]　試験内容は多岐にわたるので、継続的に授業以外の自己学習が必要です。	小テスト・課題については採点して次回の授業で返却、解説する。期末試験に関しては、可能であれば後期の資格接客サービスBの授業冒頭で返却、解説する。

受講生に望むこと	資格試験対策のための授業であるので、サービス接遇検定試験を受験することを前提とします。なお、検定試験の合否は成績に反映されません。	教科書・テキスト	「サービス接遇検定実問題集３級（第46回～52回）」実務技能検定協会編　早稲田教育出版　2021年出版 ISBN:978-4-7766-1296-4
指定図書／参考書等	各出版社より様々な問題集・参考書が出版されているので、自分に合った物を使用してください。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB107C 資格接客ｻｰﾋﾞｽB			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	村上　こずえ						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 サービス接遇検定2級、準1級				

授業の概要	授業の到達目標
サービス接遇検定２級（実務技能検定協会）合格に向けた問題演習を行います。前期学習内容よりも更にレベルの高い、お客様に喜ばれる接遇接客の知識の習得を目指します。検定試験終了後は準１級取得に向けた面接試験のロールプレイングも実施します。	①サービス接遇検定２級合格を目指す。 ②接遇者としての基本となるコミュニケーションマナーや考え方が身に付いている。 ③顧客心理・顧客満足について理解し、基礎的な問題解決法を習得する。

教授方法	講義・ロールプレイング
履修条件	サービス接遇検定試験受験希望者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：サービス接遇検定の説明ー２級と３級の相違点、学習方法について。	
2	サービス知識：サービスの意義、加えて種類を理解する。	
3	一般知識：伝統文化に関する語彙、慣用的な言い回し、ことわざ等を理解する。	
4	接遇者として愛想のある言葉遣いを身に付ける。	
5	接遇者としての話し方：アナウンス文問題演習。	
6	掲示文に関する問題演習。	
7	問題解決に関するケース問題演習。	
8	顧客満足（ＣＳ）の考え方を理解する。	
9	顧客心理の基本について理解する。	
10	顧客満足（ＣＳ）についての事例研究から学び、より知識を深める。	
11	問題解決法（クレーム応対）について理解を深める。	
12	電話応対の基本について理解する。	
13	電話応対の実際について理解する。	
14	準１級に向けてのロールプレイング演習①：基本言動・接客応答。	
15	準１級に向けてのロールプレイング演習②：応用動作・接客対応。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	検定２級試験の内容が身に付いているか。授業全体を通して理解を深めているか。	小テスト・課題	30	授業の多様な内容について理解できているか、自分の考えを相手に伝えることができているか。
授業の参加度合	30	受講態度、及び検定試験・授業全般・ロールプレイングに対する積極性。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業で配付した資料、演習問題は必ず復習すること。［45分］　試験内容は多岐にわたるので、継続的に授業以外の自己学習が必要です。	小テスト・課題については、採点・添削して授業で返却し解説する。

受講生に望むこと	資格試験対策の授業であるので、サービス接遇検定試験を受験することを必須とします。なお、検定試験の合否は成績に反映されません。	教科書・テキスト	「サービス接遇検定実問題集　1・2級（第46回～52回）」　実務技能検定協会編　早稲田教育出版　2021年出版　ISBN978-4-7766-1297-1
指定図書／参考書等	各出版社より様々な問題集・参考書が出版されているので、自分に合った物を使用してください。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB116C 資格ｺﾝﾋﾟｭｰﾀA			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	ﾏｲｸﾛｿﾌﾄｵﾌｨｽ ｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ（MOS）Word、Excel				

授業の概要	授業の到達目標
コンピュータ関連資格として世界的に通用するMicrosoft Office Specialist（以下MOS）資格の取得を目指す。テキスト（問題集）に基づき、自分のペースで問題を解きながら練習する。練習問題と模擬テストはそれぞれ履歴を付け、成長を確認しながらすすめる。 模擬テストにより実力を判定した後、MOSの本試験を受け合格を目指す。 模擬テストを行なった結果、受験するだけの力を有していないと科目担当が判断した場合は、本試験受験を認めない。	MOSExcel2013の取得を到達目標とする。

教授方法	コンピュータを用いた演習による。
履修条件	MOS資格取得希望者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：MOS試験概要の説明、演習の進め方についての説明。	
2	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第1章：ワークシートやブックの作成と管理。	
3	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第2章：セルやセル範囲の作成。	
4	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第3章：テーブルの作成。	
5	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第4章：数式や関数の適用。	
6	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第5章：グラフやオブジェクトの作成。	
7	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。	
8	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。	
9	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。	
10	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。	
11	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。 模擬テストで1,000点取得を目標とする。	
12	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。	
13	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。 担当教員の指示により、MOS受験に向けた見極めを実施する。	
14	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。 見極め：本試験受験の可否判定を行なう。	
15	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施し、記録を付け担当教員へ報告する。 試験に向けた最終の準備を行なう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
MOS受験	50	MOSの受験	授業態度	30	授業への積極的取り組みに基づき判断する
MOS合格	20	MOSへの合格			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業時間外に自習室等を利用してレベルアップを図ることが望ましい。[60分]	練習問題及び模擬試験に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	無理することなく自分のレベルを上げて、合格を目指して欲しい。	教科書・テキスト	『MOS攻略問題集 第2版 Excel2013』日経BP社 2015 ISBN:978-4-8222-9764-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	MOS受験には規定された受験料が必要となる。また、試験は外部試験会場での受験となる。 テキスト添付の問題を自宅で行う場合には、学習環境が同じである必要がある。（Microsoft Office 2013/2016/2019） 見極め時には、定められた回数の模擬テスト合格をもって本試験受験の許可を行なう。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB117C 資格ｺﾝﾋﾟｭｰﾀB			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	ﾏｲｸﾛｿﾌﾄｵﾌｨｽ ｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ（MOS）Word、Excel				

授業の概要	授業の到達目標
コンピュータ関連資格として世界的に通用するMicrosoft Office Specialist（以下MOS）資格の取得を目指す。テキスト（問題集）に基づき、自分のペースで問題を解きながら練習する。練習問題と模擬テストはそれぞれ履歴を付け、成長を確認しながらすすめる。 模擬テストにより実力を判定した後、MOSの本試験を受け合格を目指す。 模擬テストを行なった結果、受験するだけの力を有していないと科目担当が判断した場合は、本試験受験を認めない。	MOSのWord2019,Excel2019どちらかの取得を到達目標とする。 特に「資格コンピュータＢ」ではMOS Word 2019の取得を推奨する。

教授方法	コンピュータを用いた演習による。
履修条件	MOS資格取得希望者に限る。「資格コンピュータA」単位の修得を前提としない。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：MOS試験概要の説明、演習の進め方についての説明。 演習：1章から順に各自のペースで実施。	
2	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第1章：文章の作成と管理。	
3	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第2章：文字、段落、セクションの書式設定。	
4	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第3章：表とリストの作成。	
5	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第4章：参考資料の適用。	
6	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第5章：オブジェクトの挿入と書式設定。	
7	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。	
8	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。	
9	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。	
10	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。	
11	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。 模擬テストで1,000点取得を目標とする。	
12	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。	
13	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。 MOS受験に向けた見極めを実施する。	
14	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。 見極め：本試験受験の可否判定を行なう。	
15	テストの振り返り：取得した得点の振り返りと、次の資格への準備を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
MOS受験	50	MOS（いずれか一つ）の受験。	授業態度	30	授業への積極的取り組みに基づき判断する。
MOS合格	20	MOS（いずれか一つ）への合格。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業時間外に自習室等を利用してレベルアップを図ることが望ましい。[60分]	練習問題及び模擬試験に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	無理することなく自分のレベルを上げて、合格を目指して欲しい。	教科書・テキスト	受験する資格に応じて選択し購入する。 『MOS攻略問題集Word 365&2019』日経BP社 2020 Word ISBN:978-4-8222-8629-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	MOS受験には規定された受験料が必要となる。また、試験は外部試験会場での受験となる。 テキスト添付の問題を自宅で行う場合には、学習環境が同じである必要がある。（Microsoft Office 2019） 見極め時には、定められた回数の模擬テスト合格をもって本試験受験の許可を行なう。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB216C Excelﾃﾞｰﾀ分析			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
実際に利用する機会の多いExcelを用い、データ分析の能力を高める。 特に将来利用する可能性が高い販売に関するデータ分析について取り組む。 また、社会で活用されているデータ分析について学ぶ。	1.Excelを用いたデータ分析が行えるようになる。 2.社会で活用されているシンクタンクについて理解し、説明できるようになる。

教授方法	講義による説明と、その内容に基づいた演習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	データ分析とは：私たちの生活に多くのデータベースが使われている。データとは何か。データを分析することで得られるメリットとは何か、事例を挙げてデータ分析について学ぶ。	
2	データ分析：データ分析を行なう理由と、データ分析の方法を学ぶ。	
3	ビジネスデータの収集と加工①：データを効率的に集める方法について学習する。	
4	データベースの事例：社会ではデータをどのような形で集め、どのように扱っているのか、そこから何を導き出しているのか、Webを例に挙げデータ活用の事例について学ぶ。	
5	ビジネスデータの収集と加工②：データ分析で使うExcelの機能について学習する。	
6	ビジネスデータの収集と加工③：データを活用できるよう、整理する方法について学習する。	
7	ビジネスデータの収集と加工④：データをビジュアル化し、特徴を捉える方法について学習する。	
8	販売に関するデータ分析①：Zチャートを用いた分析方法について学ぶ。	
9	販売に関するデータ分析②：Zチャートから、計画と実際を比較する方法について学ぶ。	
10	販売に関するデータ分析③：ABC分析と、パレート図について学ぶ。	
11	企画に関するデータ分析①：販売実績や売上変動を織り込んだデータ分析手法を学ぶ。	
12	企画に関するデータ分析②：回帰分析・重回帰分析を用いたデータ予測手法を学ぶ。	
13	企画に関するデータ分析③：様々な要因を織り込んだ分析手法について学ぶ。	
14	顧客に関するデータ分析：顧客データを元に分析を行なう手法について学ぶ。	
15	データ分析振り返り：Excelデータ分析について振り返り課題を行なう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り課題	40	データ分析に関する振り返り課題の完成度により評価する。	提出課題	50	演習における課題提出物の完成度により評価する。
授業参加態度	10	積極的な授業参加と、授業への貢献度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次回行なわれる内容についてテキストを読み確認する。[30分] 授業で学んだ関数や手続きについて復習を行なう。[30分]	授業内に質問を受け付ける。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	インターネットやデータベースに関心を持ち、積極的な取り組みを望む。	教科書・テキスト	『Excelで学ぶ　データ分析本格入門』SB Creative 2019年 ISBN978-4-8156-0285-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB211C ﾃﾞｻﾞｲﾝｿﾌﾄ演習Ⅰ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。 デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。 演習を通してデザイソフトの操作について学び、学期末には成果課題を完成させる。	Adobe Illustratorの操作技能を習得する。 レイヤーの概念について理解し、活用できるようになる。 最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。

教授方法	Illustratorがインストールされたコンピュータを用いる演習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ドロー系ソフト、ペイント系ソフトの違い。Adobe Illustratorの概要説明を行なう。	
2	Illustratorの基本操作学習：Illustratorを扱う上で基本となる操作について学習する。（Lesson01）	
3	基本図形描画（1）：基礎的な図形を描画する。四角・円・多角形などを作成する。（Lesson02）	
4	基本図形描画(2)：基礎的な図形を描画する。図形描画の組み合わせについて学習する。（Lesson03・04）	
5	基本図形描画の振り返り：第4回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。	
6	オブジェクト操作(1)：オブジェクトの基本について学ぶ。（Lesson05）	
7	オブジェクト操作(2)：オブジェクト操作とレイヤーについて学ぶ。（Lesson06）	
8	オブジェクト操作(3)：パスと合成の概念について学ぶ。（Lesson07）	
9	色・線・文字の設定(1)：色を設定しイメージ通りの配色を行なう。（Lesson08）	
10	オブジェクト操作の振り返り：第8回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。	
11	色・線・文字の設定(2)：様々なツールを使い描線を行なう。（Lesson09）	
12	色・線・文字の設定(3)：文字を配置し、レイアウトの変更を行なう。（Lesson10）	
13	色・線・文字の設定の振り返り：第12回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。	
14	成果課題作成：前期に学習した内容を用い、成果課題を作成する。	
15	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終成果課題	40	ルーブリックを用い、学習した内容が用いられているかについて評価する。	振り返り成果課題	40	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ルーブリックを用い評価する。
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確にしておく。[60分] ②授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする。[90分]	授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。	教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 改訂3版』技術評論社　2020年 ISBN:978-4-297-11129-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修希望者が24人を超える場合は、履修制限を行なう。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB212C ﾃﾞｻﾞｲﾝｿﾌﾄ演習Ⅱ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。 デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。 前期「デザインソフト演習Ⅰ」に続き、演習を通してデザイソフトの操作について学び、学期末には最終作品を完成させる。	Adobe Illustratorの操作技能を習得する。 レイヤーの概念について理解する。 最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。

教授方法	Illustratorがインストールされたコンピュータを用いる演習。
履修条件	「デザインソフト演習Ⅰ」の単位を修得済の者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オブジェクト操作(4)：オブジェクトに対して様々な設定を加える。（Lesson11）	
2	オブジェクト操作(5)：描画モードについて学習する。（Lesson11）	
3	デザイン効果の追加(1)：3D効果、グリッドなどにより、イラストに立体感を加える。（Lesson12）	
4	デザイン効果の追加(2)：メッシュやシンボル機能を学習する。（Lesson12）	
5	表やグラフの描画：効果的な表とグラフを作成する。（Lesson13）	
6	成果課題作成(1)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『印影』『ピクトグラム』	
7	図形の変形：オブジェクトに変形を加える。（Lesson14）	
8	印刷データ作成：完成したイラストを提出するための注意点などについて学ぶ。（Lesson15）	
9	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。	
10	成果課題作成(2)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『カレンダー』	
11	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。	
12	成果課題作成(3)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『案内図』	
13	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。	
14	最終作品作成：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『招待状』	
15	最終作品相互評価：完成した作品を相互評価する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
成果課題	20	ルーブリックを用い、学習した内容が用いられているかについて評価する。	振り返り成果課題	20	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ルーブリックを用い評価する。
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する。	最終作品課題	40	ルーブリックを用い、学習した内容を網羅しているかについて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確にしておく。[60分] ②授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする。[90分]	授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。	教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 改訂3版』技術評論社　2020年 ISBN:978-4-297-11129-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修希望者が24人を超える場合は、履修制限を行なう。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB217C ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ演習			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
プレゼンテーション資料制作を通じて、「適切なタイミングで、求めている人に、正確な情報を伝える」というプレゼンテーションの基本と、「伝える・説明する・説得する」というプレゼンテーションの要素について学ぶ。 資料作成-発表-振り返りのサイクルを繰り返して、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の技術と、発表における注意点を身につけていく。 プレゼンテーションに用いられる機材のセッティング方法について、発表練習の準備を通じて身につける。 発表について相互評価することにより、他者発表の良い点・悪い点を自分の発表にフィードバックする。	・適切な構成を考え、状況に合ったプレゼンテーションを準備することができるようになる。 ・パワーポイントの様々な機能を目的に合わせて利用することができる。 ・発表するための機材準備を行うことが出来るようになる。 ・聞き手の立場に立った発表ができる。

教授方法	上手に伝えるためのプレゼンテーションテクニックについて説明し、その内容に基づいた資料作成・発表練習を反復して行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業目標と、進め方について説明を行なう。プレゼンテーションの基本：プレゼンテーションに関する要素を復習する。 演習0：プレゼンテーション「私の持っている○○を紹介します」	
2	発表資料作成の注意点：発表資料を作成する際の手順と気をつけるべきポイントについて学ぶ。PROS-CONSリストや三段論法について学習する。	
3	成功するプレゼンテーション：聞いてもらえるプレゼンテーションとは何か、人間の感覚について学ぶ。	
4	構成表作成：プレゼンテーションの骨格となる構成表を作成する。プレゼンテーション資料作成の準備を通して、手順について学ぶ。 課題：本を紹介 演習1-1：構成表を作成する	
5	発表テクニック：バーバルチャネル・ノンバーバルチャネル・パラランゲージの役割と重要性について学び、それらを活かす方法について学ぶ。 課題：本を紹介 演習1-2：1対1のプレゼンテーション	
6	プレゼンツール：PowerPointだけでなく、WordやPublisherについて紹介する。 課題：本を紹介 演習1-3：「本を紹介」をテーマとして、1枚チラシを作成する。	
7	1対多のプレゼンテーション：1対1を経験したことで話す内容がある程度暗記され、視聴者に視線を置くことができることを確認する。同時にビデオ撮影を行なう。 課題：本を紹介 演習1-4：1対多による発表と振り返りを行なう。	
8	資料作成とビデオ視聴：与えられた課題に基づき資料を作成する。作成時間中に前回撮影したビデオを視聴し、自分のクセを知る。 課題：1分ニュース 演習2-1：指示書を用いたチームプレゼンテーションに取り組む。自分の意図が伝えられるような指示書を作成する。	
9	指示書作成：自分以外の者に発表を任せるための指示書を作成する。 課題：1分ニュース 演習2-2：他者が読むことを想定して指示書を作成する。作成した内容について相互にリハーサルを行なう。	
10	PCセッティングと指示書を用いたプレゼンテーション：PCのセッティング方法について学習する。他者が作成した指示書に基づき発表する。 課題：1分ニュース　演習2-3：作成されたプレゼンテーションを用いて、チームごとのプレゼンテーションを行なう。指示書を用いたことで、自分が意図した内容を相手に伝えられたかについて確認する。	
11	資料作成：テーマに基づき資料を作成する。 課題：私の住む町、育った街 演習3-1：構成表とプレゼンテーション資料を作る。	
12	1対多のプレゼンテーション：発表を行なう。 課題：私の住む町、育った街 演習3-2：発表と振り返りを行なう。	
13	プレゼンテーションテクニック：表とグラフを用いる際の技術を紹介する。 課題：表とグラフを用いたプレゼンテーション 演習4-1：効果的にグラフを用いる方法について、演習を通じて学ぶ。	
14	資料作成：最終のプレゼンテーション資料を作成する。 課題：表とグラフを用いたプレゼンテーション 演習4-2：表やグラフを用いたプレゼンテーション資料制作を行なう。	
15	1対多のプレゼンテーション：最終発表を行なう。 課題：表とグラフを用いたプレゼンテーション 演習4-3：表やグラフを用いたプレゼンテーション発表と振り返りを行なう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション発表	70	発表において、聞き手を意識できているか、独り善がりな発表になっていないかを重視して評価する。	発表資料提出物	20	発表に用いる配布資料がプレゼンテーションとリンクしてわかりやすいものとなっているかを重視して評価する。
授業への取り組み	10	振り返り等において、積極的な取り組みを行っているかによって評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の指示に従い発表に向けた資料作成、自己リハーサルを行うこと。発表後の振り返りに基づいた発表原稿・資料の改善をおこなうこと。[30分] 発表テーマに合わせ、事前に調査するなどの準備を怠らないこと。[90分]	発表時それぞれの発表にコメントと共に指示をする。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	「伝えたい」という気持ちを持ち、どうしたら上手に伝わるかを考えて参加して欲しい。	教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第1版 noa出版　2019年出版（1年次「情報機器演習A・B」で使用）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修希望者数が15名を上回った場合には、履修制限を行う。

実務経験を活かした授業の概要

取引先との折衝などを通じて自ら体験した事例を紹介し、プレゼンテーション資料作成に反映している。

授業科目名	CB111C 情報科学			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会で必要不可欠なツールとなっているコンピュータや情報通信機器などについて学び、道具として活用できるための基礎的能力を身につけることを目的とする。テキストを通して日常利用しているコンピュータの成り立ち、基本的な構造を知る。高度情報化社会の中で、情報がどのように我々に関わるのか、正しく情報を扱う上で必要となるマナーやモラルとは何かについて学習する。 ※SDGsターゲット9.1関連科目	情報とはなにかについて、説明することができるようになる。 電気で動いているコンピュータが、どのように計算処理を行っているかについて理解する。 スマートフォンを初めとするコンピュータが、どのように成長してきたかを理解する。 携帯電話ネットワークやインターネットなど、情報通信網の概要を理解する。 情報を適切に管理するための知識を身につける。

教授方法	対面講義実施におけるPowerPointを用いた講義視聴と、その後のGoogle Formsによる課題振り返り。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	情報とは・情報社会とICT：身の回りに普通に存在する情報。しかし気づいていないケースや、特に意識せず扱っていることも多い。「情報とはなにか」「私たちとどのように関わっているのか」について社会の流れとともに学ぶ。	
2	メディア・情報伝達技術：情報を伝えるメディア（媒体）とはどんなものか。メディアを用いるとはどういう状態なのか。私たちはどのようにしてメディアを利用するようになってきたのかなどについて、人類の歴史をひもときながら学ぶ。	
3	インターネットの活用：インターネットでのサービスには様々なものがある。代表的なものを紹介し、そこで気をつけるべき点について学ぶ。	
4	情報倫理とセキュリティ：情報を扱う際に気をつけなければならない「倫理」問題について学ぶ。様々な権利や法律を通してルールとマナーについて理解する。	
5	わたし達が生きる情報化社会：便利で良いことだけが存在するわけではないインターネットの世界で、どのようにして自分とその周りの権利や財産を守っていくか。代表的な対処方法について学ぶ。	
6	情報やメディアに関する技術-1-：情報伝達に使われる技術を紹介する。特にコンピュータに関わる部分では、どのような技術が使われているのかについて学ぶ。	
7	情報やメディアに関する技術-2-：情報伝達に使われる技術を紹介する。特にコンピュータに関わる部分では、どのような技術が使われているのかについて学ぶ。	
8	ネットワークやインターネットに関わる技術-1-：現在ではインターネット無しの生活は考えづらくなってきている。インターネットはどのように始まったのか。また、どうして「探したいモノがそこにある」ようになったのか。歴史とそこで用いられている技術について学ぶ。	
9	ネットワークやインターネットに関わる技術-2-：現在ではインターネット無しの生活は考えづらくなってきている。インターネットはどのように始まったのか。また、どうして「探したいモノがそこにある」ようになったのか。歴史とそこで用いられている技術について学ぶ。	
10	ハードウェアに関わる技術：コンピュータを構成するハードウェアはブラックボックスとして捉えられることが多い。このハードウェアの最新トレンドも含め、使われている技術と今後の方向性について学ぶ。	
11	ソフトウェアに関わる技術：コンピュータソフトウェアにはどのようなものがあるか、また、それぞれの役割は何か、身近なものを例に挙げ、これからの社会で必要となるソフトウェア技術について学ぶ。	
12	ビデオ視聴とディスカッション：人工知能（AI)に関連するビデオを視聴し、ディスカッションを行う。ディスカッションを通じて新しい考え方に触れる。	
13	コンピュータの歴史と現代のIT業界：身近すぎて存在するのが当たり前になってきた携帯電話（ケータイ）やコンピュータ。その始まりはどのような姿だったのか。どのように進化して現在見られる姿になってきたのか。どのような考え方が根底にあるのかについて学ぶ。またGAFAなどについて学ぶ。	
14	情報分類の技術：膨大な量になる情報をどのように扱うことが望ましいか。事例と共に分類の技術、判断基準について学ぶ。	
15	メディアリテラシー：情報リテラシーと同時に情報化社会を生きる上で必要になるメディアリテラシーについて学ぶ。具体的にどのような注意点があるかを元に学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	期末試験による理解度を元に評価する。	Google Formsなどによる授業振り	20	授業振り返りとして、ミニッツペーパーやクリッカー、Google Forms等を用いる。振り返りにおける積極性と正答割合を参考にする。
ビデオ視聴レポート	20	ビデオの内容に則したレポートを課す。別途示すルーブリックに基づき評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回次回の予告をするので、事前に該当するテキスト個所を読み、疑問点をまとめておくこと。[30分] 授業終了後はレジュメとメモの整理を行うこと。[60分]	振り返りで質問などを募り翌週回答を行なう。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	次回授業テキスト箇所について指示するので、事前に熟読し疑問点をまとめておく。 授業中は適宜メモを取り、聞き漏らさないこと。 疑問点はそのままにしておかないこと。 ディスカッションでは積極的な発言を望む。	教科書・テキスト	『キーワードで学ぶ、最新情報トピックス2022』日経BP社 2022年 ISBN:978-4-296-07022-0
指定図書／参考書等	なし／『コンピュータは私たちをどう進化させるのか』ポプラ新書　2016年 ISBN:978-4-591-15285-0 『コンピュータ、どうやってつくったんですか？』東京書籍2018年　ISBN:978-4-487-81189-2 『実物でたどるコンピュータの歴史』東京書籍　2012年　ISBN:978-4-487-80692-8	その他・特記事項	対面授業においても、Classroomを用いた課題提出等を行なう。

実務経験を活かした授業の概要

ハードウェア構築、ネットワーク構築などの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。

授業科目名	CB121C 経営学入門			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。 身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。	①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。

教授方法	講義。
履修条件	短期大学部生のみ履修可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション－生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみよう－	
2	会社の一生：会社の誕生から成長、衰退、倒産までを考える	
3	会社はだれのものか：「株式会社」の仕組みについて学ぶ	
4	会社の仕組み：会社はどのような組織があるのか、その構造がどうなっているかを学ぶ	
5	会社で働くこと：労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する	
6	会社を動かす（経営戦略１）　：会社のミッション（経営理念）や経営戦略の３つのレベルについて学ぶ	
7	会社を動かす（経営戦略２）　：経営戦略のうち「競争戦略」について理解する	
8	【事例】（ＤＶＤ）コンビニを作った素人たち	
9	ものが売れる仕組み　：身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ	
10	【事例】（ＤＶＤ）ヤマト宅急便の歴史	
11	経済社会の動きと企業経営　：日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ	
12	企業の社会的責任（ＣＳＲ）と企業倫理　：企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える	
13	新しい企業と経営のあり方　：ＮＰＯや近年注目されている社会的企業について学ぶ	
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方　：企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ	
15	まとめと理解度確認	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと。［30分］ ②毎回授業後には、配布資料の内容をもう一度復習しておくこと。[60分]	小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。

受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社や商店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。	教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)
指定図書／参考書等	なし／『はじめの一歩　経営学（第２版）』守屋貴司・近藤宏一編著 ミネルヴァ書房　2012年　ISBN978-4-623-06331-4	その他・特記事項	社会学科科目「経営学入門」と合同開講である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB126C 財務諸表の読み方			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
財務諸表は会社の成績表である。本授業では財務諸表のうち、主に損益計算書、貸借対照表の意味と基本的な読み方を中心に学ぶ。また簡単な事例から、会社の経営状況について見るポイントを理解する。	①損益計算書、貸借対照表の意味を知る。 ②損益計算書、貸借対象表の簡単な読み方を理解する。 ③簡略化された財務諸表の事例から、企業の経営状況が推測できる。 ④キャッシュフロー計算書の概要を理解する。

教授方法	講義　（毎回資料を配布し、「書き込み」をしながら理解を深める）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　（財務諸表とは何か？）	
2	財務諸表　基礎の基礎　　身近な事例で具体的なイメージをつかむ	
3	損益計算書（１）　売上高と「５つの利益」について大まかに把握する	
4	損益計算書（２）　営業利益、経常利益、純利益について理解する	
5	貸借対照表（１）　資金の運用方法を示す「資産の部」を理解する	
6	貸借対照表（２）　資金の調達方法を示す「負債・純資産の部」を理解する①	
7	貸借対照表（３）　資金の調達方法を示す「負債・純資産の部」を理解する②	
8	キャッシュフロー計算書　キャッシュフロー計算書の概要を把握する	
9	財務三表のまとめ	
10	経営分析の基礎（１）　企業の収益性を見るポイントを学ぶ	
11	経営分析の基礎（２）　企業の成長性を見るポイントを学ぶ	
12	経営分析の基礎（３）　企業の安全性を見るポイントを学ぶ	
13	実際の企業事例を見てみよう（１）　簡略化した財務諸表から企業の状況を知る	
14	実際の企業事例を見てみよう（２）　簡略化した財務諸表から企業の状況を知る	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業の理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと［30分］ ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語と財務諸表のルールを理解し覚えること［60分］	小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。

受講生に望むこと	苦手意識を持たず授業に参加してほしい。基本的なルールと読み方さえ頭にいれれば理解しやすい科目である。毎回の授業をしっかり受講して、疑問はそのままにせず、その回のうちにしっかり理解すること。	教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）
指定図書／参考書等	なし／『［新会計基準対応版］決算書がおもしろいほどわかる本』石島洋一著　ＰＨＰ文庫　2009年　ISBN978-4-569-67252-6	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB221C ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
マーケティングとは簡単に言えば、「売れる仕組みづくり」である。そして、そのマーケティングの基本理念が「CS（Customer Satisfaction）＝顧客満足」である。現代の企業経営においては、CSの創造を通して新規顧客の獲得とその維持が図られる必要がある。本授業では、わかりやすい事例をもとに、マーケティングの概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。	①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。

教授方法	講義。
履修条件	短期大学部生のみ履修可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ＣＳ（顧客満足）とは何か・・マーケティングとの関係について知る	
2	ＳＴＰ（マーケティングの第一歩）と４Ｐについて学ぶ	
3	製品のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、製品（Product ）に関するマネジメントついて学ぶ	
4	価格のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、価格（Price）に関するマネジメントを学ぶ	
5	広告のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、広告（Promotion）に関するマネジメントを学ぶ	
6	流通のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、流通（Place）に関するマネジメントを学ぶ	
7	サプライチェーンのマネジメント：在庫とサプライチェーンのマネジメントについて学ぶ	
8	営業のマネジメント：マーケティングにおける営業部門の活動について知る	
9	顧客関係のマネジメント：顧客との「関係性マーケティング」の基礎について理解する	
10	ビジネスモデルのマネジメント：ビジネスモデルの開発とマーケティングとの関係について学ぶ	
11	顧客理解のマネジメント：マーケティングリサーチについて学ぶ	
12	ブランド構築のマネジメント：ブランドをどのように創り上げるか、ブランド構築のマネジメントを学ぶ	
13	動画視聴　USJの戦略とマーケティング	
14	社会責任のマネジメント：CSR、CSVについて学ぶ	
15	まとめと理解度確認	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度を評価する。（2回予定）
授業態度	10	授業態度を評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること。[60分]	課題の結果は、次回の授業で紹介と解説を行う。

受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、製品やサービスのマーケティングについて興味・関心を持つことを期待する。	教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)
指定図書／参考書等	なし／『１からのマーケティング（第４版）』石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著　碩学舎　中央経済社　2019年　ISBN：978-4-502-32771-1	その他・特記事項	社会学科科目「マーケティング論」と合同開講である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB222C 経営戦略			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
企業は経営理念に基づき、経営戦略を策定し実践している。本講義では、わかりやすい事例をもとに、経営戦略の概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。	①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション－戦略とは何か－	
2	業界の構造　：業界全体をとらえる方法を考える【事例】シャープと液晶テレビ業	
3	取り巻く環境　：自社の視点から経営環境をとらえる方法を学ぶ【事例】トヨタ自動車	
4	基本戦略　：戦略の定石について学ぶ【事例】しまむら	
5	製品ライフサイクル戦略　：製品ライフサイクルについて考え、それに応じた戦略を学ぶ【事例】富士ゼロックス	
6	市場地位別戦略　：市場の順位に応じた戦略の定石を学ぶ【事例】アサヒビール	
7	リソース・ベースド・ビュー　：企業内に蓄積される知識やノウハウに着目する【事例】富士フイルム	
8	事業システム　：企業が持つビジネスの仕組みについて考える【事例】アスクル	
9	事業領域　：自社の事業を行う領域の決定について考える【事例】ふくや	
10	成長戦略　：自社の成長を計画的に実施する方針について学ぶ【事例】ニコン	
11	資源展開　：自社の資源をどのように展開していくかを考える【事例】サントリー	
12	戦略の社会的側面　：企業はどのように社会との関係を構築しながら戦略を策定するか【事例】パタゴニア	
13	組織構造　：戦略と組織について考える【事例】パナソニック	
14	組織文化　：組織文化の役割を考え、どのように戦略と関係づけられるかを知る【事例】資生堂	
15	企業変革　：企業変革の重要性とそのプロセス、変革へのマネジメントについて学ぶ【事例】コマツ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	経営戦略に関するテーマを出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に該当の教科書の章を読み、予習しておくこと［30分］ ②授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること［60分］	小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。

受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営やその戦略について興味・関心を持つことを期待する。	教科書・テキスト	『１からの戦略論（第2版）』嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著　碩学舎　中央経済社　2016年　ISBN978-4-502-16741-6
指定図書／参考書等	なし／『経営戦略　論理性・創造性・社会性の追求（第3版）』、大滝精一・ 金井一頼・ 山田英夫・岩田 智、有斐閣、2016年、ISBN: 978-4641220652	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB250C 医学一般			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				

授業の概要	授業の到達目標
医療を理解するには，人の体の構造と機能をある程度理解し記憶していることが重要になります．この構造と機能を理解するときには，病気を例にして講義することが役立つことがありますので，少数の病気にも言及することも行います．将来，皆さんが自分で病気などを調べる時の基礎知識と考えを講義では示したいと思います．	人体の構造と機能の基礎知識を身につける．それをもとに，病気をどのように捉えるかの考え方を身につける．

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション	
2	解剖（皮膚　からだの構造　骨格系　筋系）について	
3	解剖（循環器系）について	
4	解剖（呼吸器系）について	
5	解剖（消化器系１）について	
6	解剖（消化器系２）について	
7	解剖（泌尿器系　生殖器系）について	
8	解剖（内分泌系　神経系　感覚器系）について	
9	緩和ケアと終末期医療について	
10	薬の基礎知識について	
11	検査概論、医療用語について	
12	リハビリテーションについて	
13	感染症について	
14	栄養について	
15	試験対策	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストに目を通しておき，疑問点などがあれば自身で問いを立てておく．講義で自分でその解答を見つける．［90分］分からなければ，講師にその場で質問するか，時間がなければ，質問を用紙に書いて講師に渡すか，講師へメールで質問を送る．	試験後は答案用紙を返却し，解答を開示する． 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう．

受講生に望むこと	テキストは最初から最後まで読むこと．人体の色々な部位の構造と機能は関連しあっているので，最初は理解が難しくても，他の部位の内容を読むことで，理解ができることがあるので，諦めないこと．	教科書・テキスト	『医学一般』一般社団法人　医療教育協会　2018年 ISBN:なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	人間総合学部社会学科と合同開講である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CB251C 医療管理学			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	石原　俊彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、①日本の医療・保健・福祉の現状を理解し、事務管理業務に従事する人材の育成に資する②高齢化社会における医療と介護の仕組みを考える。③医療と社会の接点（医療関連法規、医療保険制度）を理解する④病院組織と経営（患者中心の医療）を理解する⑤ＩＴ時代の病院情報管理を理解するという５点です。実際に医療機関で働いている医師・看護師・事務 等スタッフの仕事の内容や思いを資料を使いながら紹介し、ワークも取り入れながら医療の現場で求められるホスピタリティを理解できるようになることを目指します。	①医療・保健・福祉の現場で求められるホスピタリティを体感し、身につける。 ②医療・保健・福祉の仕事に従事するにあたって、必要となる基本的な知識を身につける。 ③「医療管理秘書士」能力試験に合格できる知識を得る。 ④就職活動や社会に出てから求められる基本的な力を身につける。

教授方法	資料、パワーポイント、ＤＶＤ等を使った講義とグループワーク等複合的に行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	医療機関倫理と医療職員倫理	
2	医療職員に求められる要件　医療機関の接遇マナー　コミュニケーション能力について	
3	コミュニケーション能力について	
4	医療機関組織の説明	
5	医療機関における組織の役割と運営	
6	医療機関事務管理の専門性と必要な基本知識　医療と情報	
7	医事関連法規	
8	医師・医師法　保健師助産師看護師法	
9	薬剤師法　臨床検査技師等に関する法律	
10	理学療法士及び作業療法士法　言語聴覚士法	
11	診療放射線技師法　あん摩マッサージ指圧師等の法律	
12	医療保険の概要及び種類	
13	介護保険制度の基本構成	
14	医療と介護の連携	
15	まとめ　「医療管理秘書士」能力試験の対応	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	医療・保険・福祉の仕事に従事するにあたって必要となる基本的な知識を身につけたか確認する。	学習態度	30	社会人となるための専門講義であるため、時間の厳守と講義・ワーク・ディスカッション時の態度を重視する。
レポート	20	認知症の患者さんに対応する時、どの様な点に注意すべきかまとめる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
医療・福祉で求められるホスピタリティとは、相手の持つ力に寄り添い最大に発揮できるように手助けすることであり、その為にはまず自分の力を見つけ出し最大に発揮できるようにする事。自分を認め、自分を褒め、自分の良い所を見つけることがホスピタリティの基礎となるので、講義の中で深めていく。日常の生活の中でも意識し実践していくことが大切である。☆自分の長所を初回授業迄に考え書きだしておく。［30分］☆授業で配布された資料は、授業終了後に必ず一度読み返す。［30分］	講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容を復習して講義を始める。「医療管理秘書士」能力試験に合格できるよう過去の問題を講義の中で説明していく。

受講生に望むこと	講義では馴染みのない用語や複雑な仕組みの説明が多くなると思うが、講義時間にはワークや体験も入れて、理解を深めていく。社会に出る前に知っておくべき知識や身につけておくべき資質の一部を一緒に共有していきたいと考える。	教科書・テキスト	「メディカル・システム論」一般社団法人　医療教育協会 ※履修人数が確定次第発注します。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療業務での経験をもとに医療現場の現状と課題について事例紹介を行い、ディスカッションによって学びを深めている。

授業科目名	CB252C 診療報酬実務			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	中村　洋子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				

授業の概要	授業の到達目標
全国の医療機関には多様なスペシャリストが活躍しています。その中の一員である医療事務者は、医療機関で受付、会計、診療報酬請求などの業務を行います。診療報酬とは診察や治療など診療行為ごとに定められた点数をもとに計算する費用のことです。本講座では医療事務の入門から認定試験の受験資格取得までを、講義と演習で繰り返し学んでいきます。受講後は医療事務や医療秘書への活躍のみならず、医療機関受診時においての医療費費用の理解力が身に付きます。	①診療報酬を通して医療の現場を知ることができるようになる。 ②診療報酬に関する業務の仕組みを理解する。 ③診療録（カルテ）を読み取り診療報酬算定の技術を習得する。 ④診療報酬明細書（レセプト）作成技術を習得する。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	医療事務とは何か。どのような仕事内容があるかを学ぶ。医療機関の種類を理解する。	
2	診療報酬のしくみ。診療報酬点数について学ぶ。診療録（カルテ）診療報酬明細書（レセプト）を理解する。	
3	基本診療料①：初診料、再診料、入院料を理解する。	
4	基本診療料②：初診料、再診料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。	
5	医学管理料：医学管理料の種類と算定法、診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。	
6	在宅医療料：在宅医療料の種類を理解し、主に往診料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。	
7	投薬料①内服薬、屯服薬、外用薬区分の分類、薬剤料算定の実際を学ぶ。	
8	投薬料②投薬料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載演習に取り組む。	
9	注射料①：注射の種類とそれぞれの算定の違いを学ぶ。	
10	注射料②：注射料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載演習に取り組む。	
11	検査料：検体検査、生体検査区分、検査料算定と診療報酬明細書（レセプト）記載 演習に取り組む。病理診断料について理解する。	
12	画像診断料：画像診断料の算定と診療報酬明細書（レセプト）記載を学ぶ。	
13	その他の診療料：処置料、手術料、リハビリテーション料、放射線治療料、精神科専門療法料等の概要を学ぶ。	
14	総合演習①：カルテ１　算定と診療報酬明細書（レセプト）作成する。	
15	総合演習②：カルテ２　算定と診療報酬明細書（レセプト）作成する。授業のまとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容理解と診療報酬明細書作成を総合して評価。	授業参加態度	20	授業態度を評価対象とする。
課題	10	提出の状況と内容を評価。	小テスト	20	授業の理解度を評価。小テスト範囲は授業内で指定。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回のテキストを事前に読み進めておいて下さい。（２０分） ②追加する配布資料の整理と各回授業の復習をして下さい（３０分）	提出課題及び小テストは次回の授業時に添削して返却し解説をします。

受講生に望むこと	講義では日常で馴染みのない医療用語や医療事務ならではの算定などを取り入れ、講義と演習を繰り返しながら実務を身に付けます。質問にはその都度対応します。積極的に参加して下さい。	教科書・テキスト	「医科診療報酬点数表」「診療報酬請求の実務・診療報酬演習」一般社団法人　医療教育協会
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	各回、電卓持参（携帯電話の電卓機能使用禁止）

実務経験を活かした授業の概要

実務に沿い、具体的な診療報酬実務の注意点などについて講義し、演習形式でカルテの読解、算定、レセプト作成をさせている。

授業科目名	CE243C 観光英語			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
政府は訪日外国人観光客数を2030年には6000万人を目標としている。インバウンドという言葉も普通に使われるようになった現在、金沢を訪れる外国人観光客も増加している。本講義では観光英語を活用し、金沢市内でのガイド業務体験を通してより実践的にその知識とスキルを身につけることを目的とする。	・英語で金沢の主な観光地について説明できる。 ・フィールドワークに参加し、ガイド業務を体験学習する。 ・観光プランの提案と作成が出来る。 ・ガイディング(案内)の基礎を理解し、実行できる。

教授方法	講義、演習、フィールドワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、フィールドワーク、評価の説明	
2	ガイド基礎知識：ガイドとしてのマナー、道案内、金沢観光の基礎知識	
3	英語で伝える金沢： ガイドテキスト作成を学ぶ	
4	英語で伝える金沢： 金沢城と兼六園について　テキスト作成	
5	英語で伝える金沢： 近江町市場について　テキスト作成	
6	英語で伝える金沢： ３つの茶屋街～ひがし～主計～にし　について	
7	英語で伝える金沢： 21世紀美術館　他について	
8	英語で伝える金沢： Foods　Experience　食体験について	
9	英語で伝える金沢：Culture Experience　文化体験について　テキスト作成	
10	フィールドワーク①通訳案内士に学ぶ　ひがし茶屋街と兼六園ガイド演習　レポート作成と提出	
11	フィールドワーク②通訳案内士に学ぶ　ひがし茶屋街と兼六園ガイド演習　レポート作成と提出	
12	英語で伝える金沢近郊：白山～世界遺産・白川郷、五箇山について学ぶ　テキスト作成	
13	観光プラン作成　「私のお勧めする金沢」　モデルコース作成を学ぶ	
14	フィールドワーク③作成した観光プランとガイド動画作成①	
15	フィールドワーク④作成した観光プランとガイド動画作成②	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終課題	25	作成した観光プランを現地でガイドする。ガイド力を総合的に評価する。(動画提出の場合あり)	フィールドワーク	25	通訳案内士からガイド業務を学び、レポートを作成する。その内容を評価する。
テキスト作成	40	各項目ごとにガイドテキストを作成する(提出物となる)。その内容を評価する。	ガイドプラン作成	10	外国人観光客に勧めたい観光プランを作成する。観光ポイント、時間配分、金沢らしさを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
金沢について英語で伝えることができるようになるためには金沢について基礎知識が必要となる。事前に金沢の観光関連知識を予習すること［30分］授業後はそれらについて英語で伝えられるよう繰り返し練習すること［60分］	各自作成テキストについては原則、提出翌週に添削したものを返却する。各自作成したテキスト以外の提出物は希望があれば返却する。

受講生に望むこと	学外での活動(ガイド演習など)を予定しているので、実践経験型授業に積極的に参加する姿勢を望む。	教科書・テキスト	適宜、プリントなどを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	フィールドワークは土・日祝などになる可能性有り。市内施設入場料がかかる場合は各自負担となる。授業にはノートパソコン持参を推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

着地型観光ガイドとしてインバウンド対応した経験から現場で通じる英会話表現例を紹介している

授業科目名	CE232C 接遇英語			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
コロナ禍においても政府は2030年の訪日外国人観光客数6,000万人と、さらに訪日外国人旅行消費額15兆円という目標は変えていない。彼らの「日本で困ること」の上位にはこの10年近く常に「日本人とコミュニケーションが取れない」が挙げられている。本講義ではサービス業・接客・飲食店などの場面を通して自国の文化への関心を深め、実践的な英会話力を身につけ、ホスピタリティマインドを学ぶことを目的とする。	・観光業関連に関わる重要な語彙を英語で表現できる。 ・指定されたトピックについて知識を深め、それらについて英語で説明できる。 ・外国人観光客が日本滞在中に必要となる知識・情報についてホスピタリティマインドを持って英語で説明できる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、評価の説明、他。	
2	Unit 1 Ramen, 外国人視点から日本食を見ることを学ぶ。	
3	Unit 2 Animal Café, 日本から発信されるカフェカルチャーを知る。	
4	Unit 3 Stand-up Eatery,　立ち食いそばから日本文化を考える。	
5	Unit 4 Convenience Store　日本のコンビニは外国人から高評価な理由を考える。	
6	Unit 5 Japanese Fast Food Gyudon,　日本のファストフードについて知る。	
7	Unit 6 Japanese Spa　日本の銭湯文化は外国人に理解されない理由を知る。	
8	Unit 7 Flour Dishes, 各地方の食文化について知る。	
9	Unit 8 Karaoke,　カラオケの楽しみ方を説明できるようになる。	
10	Unit 9 Seating Charges at Japanese Restaurants, 居酒屋について説明できるようになる。	
11	Unit 13 Bento,　日本と世界のお弁当違いや世界のランチ事情を知る。	
12	Unit 14 Shrine,　神社の参拝マナーを説明できる。	
13	Unit 15 Onsen,　日本の温泉について説明できる。	
14	Explanation of the Final Task①最終課題説明と作成	
15	最終課題発表	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業中のすべての会話の30%以上を英語で行うことを評価する。	最終課題	30	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
ロールプレイング	20	コミュニケーションを取るための創意工夫や努力を評価する。	提出物	20	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習として各章におけるReading and Listeningを各自CDでリスニングし、単語の意味を調べておくこと。［20分］ 学んだ内容を説明できるよう自分で話せる英語表現に置き換える復習が必要である［30～60分］	教科書問題に関するフィードバックは授業内にて行う。

受講生に望むこと	授業内に英語でのコミュニケーションを積極的に取る姿勢で参加することを望む。また自学が約半分を占めるため、自律して学習を進めることと授業時には積極的な参加態度を望む。	教科書・テキスト	「Glance of Japan 日本文化とおもてなし英語」 坂部俊行/岡島徳昭/Howard Tarnoff 著 南雲堂 2020年 ISBN:978-4-523-17898-9
指定図書／参考書等	「1,2,3ツーリズム法則の接客英語」ルース・マリー・ジャーマン 著 Jリサーチ出版 2020年　ISBN:978-4-86392-469-7／なし	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

ツアーコンダクターまたインバウンド対応ガイドの経験から現場での応用力の高い英語表現例などを紹介している。

授業科目名	CE141C 観光学入門			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、コミュニティ文化学科で観光関連科目を学ぶ学生が、観光の基本的な知識を修得することを目的としている。具体的には、観光の歴史と現代観光の仕組み・役割・影響を学ぶ。成長産業として期待されている観光であるが、オーバーツーリズム（観光公害）などの負の影響をもたらすこともある。また、感染症や災害などにより観光客が減少するリスクもある。現代観光のあり方について問題意識を持ち、自分の意見が言えるように、講義とグループディスカッションにより進める。 ※SDGsターゲット8.9関連科目	①観光の基本的なキーワードを理解する。 ②現代社会における観光現象を理解する。 ②現代観光のあり方について問題意識を持つ。

教授方法	講義、グループディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の説明。「観光」とは何か、観光に関連する言葉の意味を理解する。	
2	観光の諸政策：観光振興を図るための観光政策について、その変遷と近年の自治体の具体例を学ぶ。	
3	観光の歴史と現代の観光形態：世界と日本の観光史を学び、現代の多様化する観光形態を理解する。	
4	観光と地域振興：観光による地域振興に成功した事例を学び、その成功要因について考える。	
5	観光と持続可能性：観光開発の考え方について学び、持続可能な観光資源の利用について考える。	
6	現代観光のあり方（１）：オーバーツーリズムなどの観光の負の影響に対し解決策を考える。	
7	観光行動と心理：観光行動が成立する仕組みを理解する。観光者心理の一般的特徴について学ぶ。	
8	観光と旅行業：旅行業の業務内容を理解し、現代観光における旅行業の特徴と役割について学ぶ。	
9	観光と宿泊業：宿泊施設の歴史的変遷を理解する。ホテル・旅館の特徴と役割を学び、現代の宿泊業が直面している課題について考える。	
10	観光と運輸業：航空・鉄道・バス・船舶・その他の観光の交通手段について、歴史・種類・仕組み・観光事業について学ぶ。	
11	観光資源（１）：観光資源の類型を学び、人文観光資源と自然観光資源の代表的なものを把握する。	
12	観光資源（２）：その他の観光資源の種類と役割について学ぶ。世界遺産と観光の関係について考える。	
13	観光と情報：観光におけるICTの活用事例について学び、新しい観光情報システムについて考える。	
14	現代観光のあり方（２）：現代観光の課題に対し、ICTを活用した解決策を考える。	
15	観光統計：日本における代表的な観光統計について学び、統計データから現状を把握する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	ディスカッションなど授業への取り組み姿勢	小テスト	30	講義の内容を理解しているか 自分の考察を加えて記入しているか
期末テスト	50	講義の内容を理解しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業中に取り上げたキーワードについてまとめる。[60分]	小テストはGoogleFormsで実施し、採点結果を返却する。次回の講義の冒頭で全体へのフィードバックを行う。

受講生に望むこと	オーバーツーリズムなど授業で紹介する現代観光の課題は、金沢でも考えていかなければならいことです。身近な現象に興味を持ち、積極的に授業に取り組んで欲しいと思います。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『新しい時代の観光学概論』 島川崇著 ミネルヴァ書房 2020年 ISBN:978-4-623-08673-3. 『観光情報学入門』観光情報学会編 近代科学社 2015年 ISBN:978-4-7649-0482-8. 『新現代観光総論』〈第3版〉前田勇編著 学文社 2019年 ISBN:978-4-7620-2917-2.	その他・特記事項	ディスカッションでは、Chormebook（ノートPC可）を使用します。受講する場合は、持参できるように準備してください。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE131C ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙｻｰﾋﾞｽ論			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
ホスピタリティ産業で大きな役割を果たすブライダル業は晩婚化、非婚化が進んだといわれる現在も関連市場規模は2.5兆円といわれる一大産業である。本講義ではそれらの基礎知識の学習とウェディング会場などの施設見学を行い、現場で役立つホスピタリティマインドを備えた人材の育成を目的とする。	・ブライダルの歴史、用語など基礎知識について説明できる。 ・ブライダル業に携わる人材に求められるホスピタリティマインドを理解し、現場で実践するための思考とスキルを身につける。

教授方法	講義、体験型フィールドワーク、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、成績評価の説明、諸注意	
2	ブライダル基礎①　ウェディングの歴史を知る	
3	ブライダル基礎②　挙式・披露宴・慣習を学ぶ	
4	ブライダル基礎③　北陸の婚礼文化の特徴を知る	
5	日本のブライダル産業の歴史を学ぶ	
6	挙式会場見学①　実施回変更有　2コマ使用	
7	挙式会場見学①　実施回変更有　2コマ使用	
8	ブライダル基礎④　衣裳・その他について理解する	
9	衣装サロン見学①　花嫁衣裳試着体験　実施回変更有　2コマ使用	
10	衣装サロン見学①　花嫁衣裳試着体験　実施回変更有　2コマ使用	
11	特別講義「海外ウェディングのパイオニアカンパニーの軌跡」ワタベウェディングを事例として	
12	ブライダル基礎⑤　これからのブライダル産業　少子晩婚化、非婚化の現実について学ぶ	
13	ブライダル基礎⑥　ホスピタリティマインドとは何かを考える	
14	最終課題について・小テスト	
15	最終課題提出と共有	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	40	各施設等の見学、特別講義ごとの課題レポートの作成とその内容を評価する。	最終課題	40	学習した内容から自身でテーマを決め、レポートを作成し、発表する。その内容とプレゼンテーションを評価する
小テスト	10	ブライダル基礎用語の習得度を評価する。	授業参加態度	10	授業・施設見学時の積極的な姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ブライダルには専門用語が多くあるので、正しく理解するためにも、基礎知識については復習が必要。［30分］ また特別講義の際には事前にその企業や施設についての予習が望ましい。［30分］	提出物は次回授業時にフィードバックを行い、希望者には返却する。

受講生に望むこと	基礎知識では情報量が多いので、講義内容をしっかり復習するように望む。 特別講義、施設見学はとくに積極的な姿勢を望む。 マナーに厳しい業界について学ぶ授業でもあるので受講態度についても一定以上のマナーを求める。	教科書・テキスト	「ブライダルビジネス入門」 (株)ジェイティービー能力開発 2008年
指定図書／参考書等	指定図書「ブライダル ホスピタリティ マネジメント」 徳江順一郎 編著 創成社 2014年 ISBN：978-4-7944-2444-0	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します

実務経験を活かした授業の概要

ウエディングプランナーの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。

授業科目名	CE231C ﾎﾃﾙｻｰﾋﾞｽ論			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
北陸新幹線の開通以降、金沢市には259施設12000室以上のホテル客室が稼働している。これらホテルは多様な顧客に対応しており個性にあふれている。老舗と呼ばれる日本旅館から最新型の宿泊特化型ホテルまで顧客に提供している様々なサービスから今後のホテルサービスの在り方を考える。	日本旅館・大型ホテル・シティホテルなどそれぞれの特徴について述べることが出来る。 ホテル業に携わる人材に求められるホスピタリティについて理解する。またそれを現場で実践するためのスキルを身につける。

教授方法	講義、フィールドワークなど
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、フィールドワーク、評価の説明、	
2	ホテルについて基礎知識を得る：種類　ホテルという場所　ホスピタリティ　その他	
3	シティホテル・ビジネスホテルについて学ぶ	
4	リフレクション：小レポート作成と共有	
5	日本の旅館について学ぶ	
6	リフレクション：小レポート作成と共有	
7	民泊・ゲストハウスについて学ぶ	
8	リフレクション：小レポート作成と共有	
9	ホテルに求められるホスピタリティについて理解する	
10	リフレクション：小レポート作成と共有	
11	コロナ禍におけるホテルの在り方について考える	
12	リフレクション：小レポート作成と共有	
13	今後求められるホテルの在り方について考える	
14	最終課題作成	
15	最終課題提出と共有	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	35	授業内容の理解度とレポート内容についてを評価する。	最終課題提出	35	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
授業参加態度	30	学習態度、授業への積極性や貢献度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ホテル業界には専門用語が多くあるので、正しく理解するためにも、基礎知識については復習が必要。［30分］　授業前には各種ホテルなどについての予習が望ましい。［30分］	小レポートについては提出後、次回の授業内にて振り返りを行う。

受講生に望むこと	基礎知識では情報量が多いので、講義内容をしっかり復習するように望む。 マナーに厳しい業界について学ぶ授業でもあるので受講態度についてもマナーを求める。	教科書・テキスト	「新ホテル総論」一般社団法人　日本ホテル教育センター　2015年改訂
指定図書／参考書等	なし／「ホスピタリティのプロを目指すあなたへ お客様の”気持ち”を読み解く仕事 コンシェルジュ」 安部 佳 著 株式会社　秀和システム　2015年 ISBN978-4-7980-4433-0	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

ツアーコンダクターの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。

授業科目名	CE241C 地域と観光（概論）			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。この授業は、金沢市経済局営業戦略部観光政策課と連携して行う。観光政策課から与えられた課題解決のため、金沢市内で受講者の案内によるフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する（「地域と観光（フィールドワーク）」との連動）。そして、金沢観光プランをグループで作成し、プレゼンテーションを行う。 ※SDGsターゲット8.9関連科目	①観光の概念、観光資源、観光の影響について理解する。 ②金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。 ③ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。 ④地域資源を活用した金沢観光プランの企画ができる。 ⑤パワーポイントで発表資料を作成し、観光プランのプレゼンテーションができる。

教授方法	講義、ディスカッション、グループワーク
履修条件	「地域と観光（フィールドワーク）」を履修中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方・グループ分け・成績評価の説明。観光と地域社会の関係について考える。	
2	観光とは：観光の概念、観光資源、観光の影響について理解する。	
3	金沢の観光：金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。	
4	グループディスカッション①：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークAにおける気づきを話し合う。 事後レポートに、新たな学びを追記する。	
5	グループディスカッション②：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークBにおける気づきを話し合う。 事後レポートに、新たな学びを追記する。	
6	グループディスカッション③：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークCにおける気づきを話し合う。 事後レポートに、新たな学びを追記する。	
7	グループディスカッション④：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークDにおける気づきを話し合う。 事後レポートに、新たな学びを追記する。	
8	グループディスカッション⑤：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークEにおける気づきを話し合う。 事後レポートに、新たな学びを追記する。	
9	観光プラン①：既存の観光プラン例を理解する。	
10	観光プラン②：グループで観光プランのテーマ・ターゲットを決定する。	
11	観光プラン③：グループで観光プランを作成する。	
12	観光プラン④：グループごとの観光プランのプレゼンテーションのリハーサルを行う。	
13	観光プラン⑤：グループごとの観光プランのプレゼンテーションを行う。	
14	レポート作成①：各自最終的な観光プランをレポートとして作成する。	
15	レポート作成②：レポートを推敲し、提出する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	講義・ディスカッション・グループワークへの取り組み姿勢。	グループごとの観光プランのプレゼン	40	観光プランが、魅力的であるか、独自性があるか、実現が可能であるか、ターゲットが明確であるか。観光プランを分かりやすく、魅力的にプレゼンできたか。
期末レポート	30	所定の書式にしたがって作成している。自分の考察を加えて記入している。決められた字数を満たしている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①魅力的で独創的な観光プラン作成を目指して、以下について行う。 ・日頃から積極的に金沢の街歩きを行い、観光資源となりそうなものをリストアップしておく。[15分] ・友人や家族などに、金沢の魅力的な場所・物・人物など観光資源となりそうなものについて聞き取り調査する。[60分] ・地域資源を活用した観光プラン例について、インターネットなどで調べておく。[60分以上] ②13回で、各グループの観光プランのプレゼンテーションを行う。グループ内で発表の準備（発表者の決定、発表用パワーポイント作成）を行う。[90分以上]	適宜行う。

受講生に望むこと	グループワークやディスカッションが中心のため、積極的に参加することが重要である。	教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修希望者が25名を超える場合には受講人数を制限することがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE242C 地域と観光（ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ）			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。この授業は、金沢市経済局営業戦略部観光政策課と連携して行う。観光政策課から与えられた課題解決のため、金沢市内で受講者の案内によるフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する。そして、金沢観光プランをグループで作成し、プレゼンテーションを行う（「地域と観光（概論）」との連動）。 ※SDGsターゲット8.9関連科目	①フィールドワークに参加し、金沢の地域資源を理解する。 ②ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。 ③インターネットなどを利用して対象となる資源を決定し、フィールドワークプランの作成ができる。 ④現地で、対象資源について概要の説明ができる。

教授方法	フィールドワークとディスカッション
履修条件	「地域と観光（概論）」を履修中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	金沢市経済局営業戦略部観光政策課から、金沢市の観光の現状と学生への課題の提示。	
2	フィールドワークA①：東山・卯辰山周辺で地域資源調査を行う。	
3	フィールドワークA②：東山・卯辰山周辺で地域資源調査を行う。	
4	フィールドワークBのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。	
5	フィールドワークB①：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢城・兼六園周辺で地域資源調査を行う。	
6	フィールドワークB②：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢城・兼六園周辺で地域資源調査を行う。	
7	フィールドワークCのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。	
8	フィールドワークC①：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、香林坊・長町周辺周辺で地域資源調査を行う。	
9	フィールドワークC②：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、香林坊・長町周辺周辺で地域資源調査を行う。	
10	フィールドワークDのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。	
11	フィールドワークD①：グループで作成したフィールワークのプランに基づき、武蔵ヶ辻・尾張町周辺で地域資源調査を行う。	
12	フィールドワークD②：グループで作成したフィールワークのプランに基づき、武蔵ヶ辻・尾張町周辺で地域資源調査を行う。	
13	フィールドワークEのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。	
14	フィールドワークE①：グループで作成したフィールワークのプランに基づき、湯涌温泉周辺で地域資源調査を行う。	
15	フィールドワークE②：グループで作成したフィールワークのプランに基づき、湯涌温泉周辺で地域資源調査を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	フィールドワークおよびディスカッションへの取り組み姿勢。	小レポート	30	所定の書式にしたがって作成している。自分の考察を加えて記入している。
フィールドワークの企画・実施	40	対象となる地域資源について、決められた時間内で効率の良い調査が可能であったか。対象となる地域資源について、現地で概要の説明が的確にできたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回のフィールドワーク実施後に、現地でのメモを用いてレポート作成を行う[50分]。レポートは「地域と観光（概論）」でのディスカッションに使用する。 ②各グループが企画したフィールドワークプランはそれぞれ1回実施する。グループで役割分担し、実施までに効率の良いルートを決定し、概要の説明ができるように準備する[90分以上]。	①フィールドワークのレポートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 ②フィールドワークの企画案は、実施前にチェックし修正点を口頭で伝える。

受講生に望むこと	15回中10回が現地調査である。体調を整え、歩きやすい靴で参加すること。	教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／『金沢・町物語』　高室信一 著　屋敷道明 補筆　能登印刷出版部　2013年　ISBN978-4890106196 『金沢、まちの記憶 五感の記憶』　小林忠雄 著　能登印刷出版部　2009年　ISBN978-4890104970	その他・特記事項	①履修希望者が25名を超える場合には受講人数を制限することがある。 ②入場料などが必要な場合は、各自負担となる。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE251C 医療事務英語			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村　ゆかり						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
医療事務スタッフに必要な基礎英会話や使用頻度の高い医療用語と、それらを使用し外国人患者の不安を取り除くために必要な英語力を講義と演習で学ぶ。 アクティビティやロールプレイによって積極的なコミュニケーション活動に取り組みながら、スピーキング、リスニング、ライティングのスキルを向上させる。	医療現場で必要となる専門用語などの幅広い語彙を習得する。 医療用語を用いた基本的表現を理解し、使用できるようになる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明）	
2	Unit 1 Asking Basic Questions（「be動詞」や「一般動詞」のYes/No疑問文、疑問詞を使った疑問文を使って、自分についての基本的な情報を述べることができ、相手の情報を尋ねることができる）	
3	Unit 2 A Patient's First Visit（初めて病院を訪れた患者とのやり取りをさまざまな疑問文を用いて学ぶ）	
4	Unit 3 Where's Internal Medicine?（院内案内の表現を命令形を用いて学ぶ）	
5	Unit 4 Admission to the Hospital（入院する際の注意事項を前置詞や動詞を用いて学ぶ）	
6	Unit 5 Giving Information（入院時の持ち物など必要情報の伝え方を可算名詞と不可算名詞を用いて学ぶ）	
7	Unit 6 Symptoms（様々な症状の表現を形容詞を用いて学ぶ）	
8	Review Units 1-6（復習テスト）	
9	Unit 7 Injuries and Emergencies（ケガと緊急時に必要な表現を過去形を用いて学ぶ）	
10	Unit 8 How Are you Feeling?（入院患者との日常的なやり取りに必要な表現を現在形を用いて学ぶ）	
11	Unit 9 A Patient's Medical History（患者の病歴について尋ねる際の表現を過去形を用いて学ぶ）	
12	Unit 10 Medicine（薬の種類と服用する際の表現などを副詞を用いて学ぶ）	
13	Unit 11 I'm Going to Give You an　IV（入院患者とのやり取りに必要な表現を未来形を用いて学ぶ）	
14	Unit 12 Congratulations! you're Having a Baby Girl（出産の場面に使用する表現を現在進行形を用いて学ぶ）	
15	Review Units 7-12（復習テスト）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業や演習へ積極的に参加しているか	復習テスト	30	各単元の復習テストで学習した内容の理解度を評価する
課題	30	提出期限までに正しく提出されているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習は授業ごとに指示する[30分] ②復習は授業ごとに指示する[30分]	①提出課題は次回の授業時に添削して返却する。 ②疑問・質問は随時受付および回答する。

受講生に望むこと	医療用語が多く、単語の予習は必須であることと、現場でのコミュニケーション力を身に付けることに注力した授業となるので、積極的な授業参加を望む。	教科書・テキスト	『Speaking of Nursing 看護系学生のための英語コミュニケーション』Peter Vincent／Alan Meadows（著） 南雲堂 2017年 ISBN: 9784523178507
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE101C 英語検定対策A	開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村　ゆかり・茶谷　丹午　（代表教員　木村　ゆかり）				
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
国際化が進む現代において、ビジネスの場面において外国語あるいは第二言語として英語を運用し、物事をやり遂げる能力が求められてきている。検定試験により自己の英語力を知り、継続的に向上していく姿勢は重要である。本授業では、さまざまな言語活動に必要な英語力を養成し、英語検定を取得する準備を行うことを目的とする。	さまざまな言語活動に必要な英語力（上位レベルではCEFRのA2～B1程度）を養い、各種英語検定を取得する力をつける。

教授方法	ペアワーク、グループワーク、ICTを用いた双方向型授業
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション、実力診断テスト： 授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、診断テストを行う。	
2	共通テキスト：第１章－第２章　文型（１）（２） ［Aクラス］Unit 1② Home Appliances <Part 1,2,5>［Bクラス］Introduction - Speakingに必要な表現・ルール／動詞の活用形や曜日・単位など、基礎事項のまとめ（100語）	
3	共通テキスト：第３章－第４章　時を表す表現（１）（２） ［Aクラス］Unit 1②Home Appliances <Part 1,2,5>［Bクラス］Starting Stage①（30語）	
4	共通テキスト：第５章　完了形（１） ［Aクラス］Unit 2①Recreation <Part 3,6>［Bクラス］Starting Stage②（30語）	
5	共通テキスト：第６章　完了形（２） ［Aクラス］Unit 2②Recreation <Part 3,6>［Bクラス］Starting Stage③（30語）	
6	共通テキスト：第７章－第８章　助動詞（１）（２） ［Aクラス］Unit ３①Restaurants <Part 4,7>［Bクラス］Starting Stage④（30語）	
7	共通テキスト：第９章　助動詞（３） ［Aクラス］Unit ３②Restaurants <Part 4,7>［Bクラス］Starting Stage⑤（30語）	
8	第１回から第７回までの振り返り	
9	共通テキスト：第10章－第11章　受動態（１）（２） ［Aクラス］Unit ４①Supermarket Shopping <Part 1,2,5>［Bクラス］Starting Stage⑥（30語）	
10	共通テキスト：第12章　不定詞（１） ［Aクラス］Unit ４②Supermarket Shopping <Part 1,2,5>［Bクラス］Starting Stage⑦（30語）	
11	共通テキスト：第13章　不定詞（２） ［Aクラス］Unit ５①Housing <Part 3,6>［Bクラス］Starting Stage⑧（30語）	
12	共通テキスト：第14章　不定詞（３） ［Aクラス］Unit ５②Housing <Part 3,6>［Bクラス］Starting Stage⑨（60語）	
13	共通テキスト：第15章　動名詞（１） ［Aクラス］Unit ６①Business <Part 4,7>［Bクラス］Starting Stage⑩（50語）	
14	共通テキスト：第16章　動名詞（２） ［Aクラス］Unit ６②Business <Part 4,7>［Bクラス］Review of Starting Stage	
15	全体の振り返りとまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力などがついているか。	授業取組状況・単元テスト	50	①　毎回の授業に積極的に参加しているか ②　提出物は期日までに正しく提出されているか
共通テスト	10	目標のレベルに達しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習・復習は授業ごとに指示する。[30分]	随時行う

受講生に望むこと	①　オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること ②　課題提出は期日を守ること ③　授業に積極的に参加すること。特に、ペアワークやグループワークでは主体性をもって協力的に参加すること ④　授業には辞書（電子辞書も可）を持参すること	教科書・テキスト	①［共通］『総合英語 FACT BOOK English GrammarCore 』　桐原書店編集部（編）桐原書店 2018年　ISBN：978-4-342-20576-7 ②［Aクラス］『AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST』　蘰 寛美 / Eleanor Smith / 福井 美奈子 / 中井 達也 / 倉田　誠　（著）　成美堂 2019年　ISBN9784791971886 ③［Bクラス］『システム英単語Basic<5訂版>Pocket（システム英単語シリーズ）』霜 康司 ／刀祢 雅彦（著）　駿台文庫　2020年　ISBN 978-4-7961-1142-3
指定図書／参考書等	なし／『改訂版　キクタン TOEIC TEST SCORE 600』　一杉武史（編著）　アルク　2016年　ISBN:978-4-757-42816-4 『システム英単語Basic〈5訂版対応〉チェック問題集』　霜康司　刀祢雅彦（著）駿台文庫　2020年　ISBN 978-4-7961-1143-0	その他・特記事項	・目的の英語検定に応じてクラス分けを行う ・①のテキストは履修者が全員購入する ・②と③は各自のクラスに応じてどちらかを購入する

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE102C 英語検定対策B	開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村　ゆかり・茶谷　丹午　（代表教員　木村　ゆかり）				
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
外国語あるいは第二言語として英語を運用するにあたって、検定試験により自己の能力を知り、継続的に向上していく姿勢は重要である。この授業では、検定取得に必要なListeningおよびReadingの問題演習を中心とした活動により、基礎力の向上を目指す。	さまざまな言語活動に必要な英語力（CEFRのA2〜B1程度）を養成し、各種英語検定を取得することを目的とする。

教授方法	ペアワーク、グループワーク、ICTを用いた双方向型授業
履修条件	「英語検定対策A」を受講済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション、実力診断テスト： 授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、診断テストを行う。	
2	共通テキスト：第17章　分詞（１） ［Aクラス］Unit 7①Bank & Post Office <Part 1,2,5>［Bクラス］Fundamental Stage①（60語）	
3	共通テキスト：第18章　分詞（２） ［Aクラス］Unit 7②Bank & Post Office <Part 1,2,5>［Bクラス］Fundamental Stage②（60語）	
4	共通テキスト：第19章　比較（１） ［Aクラス］Unit 8①Job Hunting <Part 3,6>［Bクラス］Fundamental Stage③（60語）	
5	共通テキスト：第20章　比較（２） ［Aクラス］Unit 8②Job Hunting <Part 3,6>［Bクラス］Fundamental Stage④（60語）	
6	共通テキスト：第21章　関係詞（１） ［Aクラス］Unit 9①Health <Part 4,7>［Bクラス］Fundamental Stage⑤（60語）	
7	共通テキスト：第22章　関係詞（２） ［Aクラス］Unit 9①Health <Part 4,7>［Bクラス］Fundamental Stage⑥（60語）	
8	第１回から第７回までの振り返り	
9	共通テキスト：第23章　関係詞（３） ［Aクラス］Unit 10①Tourism: Travel by Land <Part 1,2,5>［Bクラス］Fundamental Stage⑦（60語）	
10	共通テキスト：第24章　仮定法（１） ［Aクラス］Unit 10②Tourism: Travel by Land <Part 1,2,5>［Bクラス］Fundamental Stage⑧（60語）	
11	共通テキスト：第25章　仮定法（２） ［Aクラス］Unit 11①Tourism: Travel by Air <Part 3,6>［Bクラス］Fundamental Stage⑨（60語）	
12	共通テキスト：Plus　不定詞 ［Aクラス］Unit 11②Tourism: Travel by Air <Part 3,6>［Bクラス］Fundamental Stage⑩（60語）	
13	共通テキスト：Plus　分詞 ［Aクラス］Unit 12①Tourism: Hotels <Part 4,7>［Bクラス］Review of Fundamental Stage	
14	共通テキスト：Plus　比較 ［Aクラス］Unit 12②Tourism: Hotels <Part 4,7>［Bクラス］Review of Starting and Fundamental Stages	
15	全体の振り返りとまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力などがついているか。	課題・授業取り組み状況	50	１．対面授業・課題に積極的に参加しているか ２．提出物・学習内容確認の小テスト
共通テスト	10	目標のレベルに達しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習・復習は授業ごとに指示する。[30分]	随時行う

受講生に望むこと	①　オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること ②　課題提出は期日を守ること ③　授業に積極的に参加すること。特に、ペアワークやグループワークでは主体性をもって協力的に参加すること ④　授業には辞書（電子辞書も可）を持参すること	教科書・テキスト	①［共通］『総合英語 FACT BOOK English Grammar』　桐原書店編集部（編）桐原書店 2018年　ISBN：978-4-342-20576-7 ②［Aクラス］『AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST』　蘰 寛美 / Eleanor Smith / 福井 美奈子 / 中井 達也 / 倉田　誠　（著）　成美堂 2019年　ISBN9784791971886 ③［Bクラス］『システム英単語Basic〈5訂版対応〉チェック問題集』　霜康司／刀祢　雅彦（著）駿台文庫　2020年　ISBN 978-4-7961-1143-0
指定図書／参考書等	なし／『改訂版　キクタン TOEIC TEST SCORE 600』　一杉武史（編著）　アルク　2016年　ISBN:978-4-757-42816-4 『システム英単語Basic<5訂版>Pocket（システム英単語シリーズ）』霜康司　刀祢雅彦（著）　駿台文庫　2020年　ISBN 978-4-7961-1142-3	その他・特記事項	・目的の英語検定に応じてクラス分けを行う ・①のテキストは履修者が全員購入する ・②と③は各自のクラスに応じてどちらかを購入する

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE211C Academic Writing			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　丹午						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
さまざまなトピックについて自らの意見を英文で書く。またエッセイを読み、その内容を要約しながら表現を身に付ける。議論の構成を学ぶとともに、論述的な文章に特有の語彙や表現を習得する。	英語のパラグラフの構成を知り、自ら実践できるようにする。さまざまなトピックについて意見を明快に伝える英文を書く力を身に付ける。

教授方法	英文を書く際に注意するべきさまざまな問題に着目して講義を行う。また、受講者に英作文の課題を提出してもらい、添削をして返却する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション、学術的な英文についての説明	
2	パラグラフの構成	
3	接続詞、副詞などの繋ぎ言葉	
4	形容詞と副詞	
5	不定詞と動名詞	
6	分詞構文	
7	関係詞節	
8	比較表現	
9	具体例を提示する表現	
10	意見を述べる時の動詞	
11	エッセイの要約と引用	
12	要約した英文に対する同意と反論	
13	自分の意見を詳細に説明するための表現	
14	ある事柄のメリット・デメリット両方を示すための表現	
15	全体の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内課題	50	1．議論が正しく構成されているか 2．授業で説明した文法事項を実践できているか	授業参加態度	20	毎回の授業に積極的に参加しているか
期末レポート	30	学習した語彙や表現、議論の構成等を理解し、運用できているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前、事前に配布した資料を読み、英作文の課題の答案を作成しておくこと。［60分］ ②授業後、毎回復習を行うこと。［30分］	随時行う。

受講生に望むこと	①辞書や文法書を丁寧に調べて書くこと ②授業には辞書を持参すること	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE212C English Presentation			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　丹午						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、英語の４技能である「読む、書く、聞く、話す」をさらに磨くだけでなく、自分の考えを英語でまとめながら、効果的で印象的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。	・英語プレゼンテーションの基礎知識、準備の仕方、実行の方法を習得することができる。 ・テーマや目的によって必要な英語とプレゼンテーションのスキルを高めることができる。 ・「リサーチ力」「パワーポイントの使い方」「スライドの作り方」などのスキルを習得できる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、授業の内容、進め方、評価基準について説明する	
2	英語プレゼンテーションの基礎を学ぶ	
3	自己紹介をする（1）	
4	自己紹介をする（2）	
5	観光地やおすすめの場所を紹介する（1）	
6	観光地やおすすめの場所を紹介する（2）	
7	将来の計画について話す（1）	
8	将来の計画について話す（2）	
9	日本の社会問題を議論する（1）	
10	日本の社会問題を議論する（2）	
11	質疑応答の練習（1）	
12	質疑応答の練習（2）	
13	自ら選んだテーマで発表する（1）	
14	自ら選んだテーマで発表する（2）	
15	全体の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業やグループワークに積極的に参加している。	プレゼンテーション	50	学んだことを生かして効果的で印相的なプレゼンテーションを行っている。
課題	20	課題を正しく理解し、期日までに提出できている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前、発表用資料や原稿の作成、発表練習等を行うこと。[60分] ②授業後、毎回復習を行うこと。[30分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE121C 異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　丹午						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
異文化コミュニケーションには他者理解が必要である。自己の視点に依存することなく、他者の視点や考えを理解することで、ものの見方と捉え方の多様性を知ることができる。普遍的真実を求めることと平行して、個別に対する理解をいかに深めるか、またその理解の困難がどこにあるかを考えるのがこの授業の目的である。	・異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解する ・言葉のさまざまな側面を深く理解することにより、異文化と自文化の共通性と差異を再考する。 ・文化的背景の異なる人々の共生を身近な問題として考えることができる。

教授方法	講義、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：異文化コミュニケーションをいかに学ぶか	
2	ことばによるコミュニケーション①：言語と文化の関係について基礎知識を身につける	
3	ことばによるコミュニケーション②：ことばの含み、コミュニケーション・スタイルについて理解を深める	
4	ことばによるコミュニケーション③：ポライトネスについての理解を深める	
5	ことばのないメッセージ①：ノンバーバル・コミュニケーションについての理解を深める	
6	ことばのないメッセージ②：身体動作、ジェスチャー、アイコンタクトについての理解を深める	
7	ことばのないメッセージ③：アサーティブ・コミュニケーションについての理解を深める	
8	常識と固定観念①：美徳、価値観に関する知識を習得する	
9	常識と固定観念②：ステレオ・タイプ、クリティカル・シンキングについての理解を深める	
10	常識と固定観念③：差別について考えるための知識を身につける	
11	異文化受容①：カルチャーショック、異文化受容における５つの段階についての知識を得る	
12	異文化受容②：メタ認知、自己開示についての理解を深める	
13	異文化受容③：国際化、グローバル化についてディスカッションを行うことで異文化理解についての理解を深める	
14	発表（プレゼンテーション）と総評　①	
15	発表（プレゼンテーション）と総評　②	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、締め切り等は授業で指示する。	プレゼンテーション	30	異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。
授業取組状況	20	授業内に行う課題やディスカッションに積極的に取り組んでいるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に配布した資料を読み予習をしておくこと。[30分] ②授業後、毎回復習を行うこと。[30分]	提出されたレポートは、次回以降の授業で返却する。

受講生に望むこと	異文化に対する自らの関心に従って積極的に研究・調査をしてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE244C ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞﾂｰﾘｽﾞﾑ入門			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
世界と日本の観光地を比較し、その特徴を知る。訪日外国人の動向から海外からみたデスティネーションとしての日本の魅力を理解する。同時に日本国内の観光地のあり方についても理解を深める。また観光によって引き起こされる様々な問題の現状や解決方法について理解すると同時に、今後のインバウンド観光の方向性を考える。	・世界の人気観光国と地域について理解する。 ・日本の観光特性について説明できる。 ・北陸地域の観光の特徴を説明できる。 ・ウィズコロナ、アフターコロナの観光のあり方を考える。

教授方法	講義、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、成績評価の説明、諸注意、インバウンドの基礎知識を理解する	
2	世界の観光地について①基礎データ・観光地について学ぶ	
3	世界の観光地について②魅力と問題点を理解する	
4	インバウンド視点を知る：外国人から見た日本の魅力と問題点を理解する	
5	日本の観光地と基本情報について学ぶ	
6	世界から見る日本の魅力①日本には何がある？　ゴールデンルートについて理解する	
7	世界から見る日本の魅力②日本には何がある？　広域連携について理解する	
8	世界から見る日本の魅力③金沢には何がある？　金沢の観光コンテンツについて調べる	
9	世界から見る日本の魅力④金沢には何がある？　金沢の観光コンテンツについて理解を深める	
10	世界から見る日本の魅力⑤金沢には何がある？　外国人から見た金沢の魅力を知る	
11	世界から見る日本の魅力⑥北陸・能登には何がある？　地域の観光コンテンツについて知る	
12	世界から見る日本の魅力⑦北陸・能登には何がある？　地域の観光コンテンツについて調べる	
13	世界から見る日本の魅力⑧北陸・能登には何がある？　地域の観光コンテンツについて理解を深める	
14	世界から見る日本の魅力⑨インバウンドツーリズムの可能性について考える	
15	世界から見る日本の魅力⑩インバウンドツーリズムの可能性について理解を深める	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	各回の項目についてリサーチし、作成したレポートの内容を評価する	プレゼンテーション	30	課題についてのプレゼンテーションについて内容、態度を評価する。また学生がお互いの発表についてコメントを書き、他者のプランのポイントを理解したシート作成も評価する。
最終課題	30	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。	授業参加態度	10	授業でのの発言・質問等、積極的参加姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
観光関係のニュースなどを日ごろからチェックし、常に新しい情報を仕入れるようにすること。［30分］	プレゼンテーションについては授業中、または次回の授業でフィードバックを行う。提出物については希望者にはコメントと共に返却する。

受講生に望むこと	小レポート作成とそのプレゼンテーションと共有のための自学が評価の約半分を占めるため、自律して学習を進めることと、積極的な授業参加態度を望む。	教科書・テキスト	「新・観光立国論」デービッド・アトキンソン 著 東洋経済新報社 2019年 ISBN：978-4-492-50275-4
指定図書／参考書等	なし／「観光立国革命　インバウンド3.0の衝撃」中村好明 著 カナリアコミュニケーションズ 2015年 ISBN：978-4-7782-0317-7	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します

実務経験を活かした授業の概要

着地型観光商品の造成、営業販売、ガイドの経験から総合的に地域にとってのインバウンドツーリズムを捉える視点を取り入れている。

授業科目名	CE122C ﾜｰﾙﾄﾞﾄﾋﾟｯｸｽ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
世界には多種多様な人種、国家、文化や価値観が存在する。日常的に私達が目にするニュースや情報は日本人目線である。本講義では世界のSDGｓの視点から様々なニュースや時事トピックスなどを取り上げ、多角的な視点からリサーチ、分析することによって視野を広げ、多様な価値観への理解を深めることを目的とする。	・SDGsに取り上げられている項目について説明できる。 ・世界各地域の取り組みやその現状と背景について理解を深める。 ・上記と日本の取り組みの現状との比較から、価値観、慣習の違いなどを理解する。

教授方法	講義、プレゼンテーション、グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、成績評価の説明、諸注意　SDGsとは何かを理解する。	
2	SDGs17のゴールについて理解する。	
3	SDGs17のゴールについて理解する①環境について知る	
4	SDGs17のゴールについて理解する①環境 ゴール 6,13,14,15 について調査・小レポート作成	
5	SDGs17のゴールについて理解する②社会について知る	
6	SDGs17のゴールについて理解する②社会　ゴール 1,2,3,4,5,7,11,16について調査・小レポート作成	
7	SDGs17のゴールについて理解する③経済について知る	
8	SDGs17のゴールについて理解する③経済　ゴール8,9,10,12,17について調査・小レポート作成	
9	SDGsから見えてくる私たちの課題について共有する	
10	課題解決取り組み事例（海外）について調査・小レポート作成	
11	取り組み事例の発表と共有	
12	課題解決取り組み事例（日本）について調査・小レポート作成	
13	取り組み事例の発表と共有・最終課題について	
14	最終課題作成	
15	最終課題提出と共有	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。	最終課題	30	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
発表(プレゼン)	20	リサーチした項目について発表するプレゼン内容、態度を評価する	コメントシート	20	学生がお互いの発表ついてコメントを書き、他者のプランのポイントを理解したシート作成と内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
世界のニュースなどを日ごろからチェックし、常に新しい情報を得るように努めること。［60分］	提出物については希望者にコメントと共に返却する。

受講生に望むこと	個人またはグループ単位での学習やプレゼンテーションとなるため、お互いに協力して作業を進め、積極的な授業参加態度を望む。	教科書・テキスト	「60分でわかる！SDGs超入門」 バウンド著 株式会社技術評論社 2020年 ISBN：978-4-297-10969-1
指定図書／参考書等	なし／適時講義の中で紹介する	その他・特記事項	授業にはノートパソコン持参を推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

海外添乗員業務で得た日本との常識の違いなどを多様な価値観を学ぶ事例として取り入れている。

授業科目名	CE205C 英語特別ｸﾗｽⅠ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村　ゆかり						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、TOEIC® Listening & Reading Testを題材とした、英語によるコミュニケーションとビジネス能力の向上を目的とする。また、演習を通してTOEICの各パートの問題形式に慣れることで、スコアアップを目指す。	・日常生活や実際のビジネスシーンで使われる会話や文書を理解できるようになる。 ・円滑な英語によるコミュニケーションに必要な語彙力、速読力、リスニング力を身に付けることができる。

教授方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ICTを用いた双方向型授業
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Unit 1 Listening Test Part 1 Photographs: Using the picture to predict what you will hear	
2	Unit 1 Listening Test Part 1 Photographs: Describing movement	
3	Unit 2 Listening Test Part 2 Question-Response: Thinking about meaning and avoiding common distractors	
4	Unit 2 Listening Test Part 2 Question-Response: Tag questions	
5	Unit 3 Listening Test Part 3 Conversations: Using content words to predict what you will hear	
6	Unit 3 Listening Test Part 3 Conversations: Paraphrasing	
7	Unit 4 Listening Test Part 4 Talks: Using content words to predict what you will hear	
8	Unit 4 Listening Test Part 4 Talks: Who and where questions	
9	Unit 5 Reading Test Part 5: Managing your time effectively with the 2-poass method	
10	Unit 5 Reading Test Part 5: Talking about the past	
11	Unit 6 Reading Test Part 6 Text Completion: Using your time wisely	
12	Unit 6 Reading Test Part 6 Text Completion: Identifying the correct part of speech	
13	Unit 7 Reading Test Part 7 Reading Comprehension: Answering specific information questions	
14	Unit 7 Reading Test Part 7 Reading Comprehension: Using context to answer vocabulary questions	
15	Review Test of Unit 1-7	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。	小テスト	20	学習した語彙の定着度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	30	語法の確認など、授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習では、指定された語彙や文法について調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[30分] ②復習では、指定された応用問題に取り組み、英語の運用能力を高めること。[30分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。	教科書・テキスト	『Tactics for the TOEIC® Test, Reading and Listening Test, Introductory Course Student's Book』Grant Trew（著）Oxford University Press 2013年　ISBN: 978-0-19-452976-1 『改訂版　キクタン TOEIC TEST SCORE 600』　一杉武史編著　アルク　2020年　ISBN: 9784757436008
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE206C 英語特別ｸﾗｽⅡ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村　ゆかり						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、TOEIC® Listening & Reading Testを題材とした、英語によるコミュニケーションとビジネス能力の向上を目的とする。また、演習を通してTOEICの各パートの問題形式に慣れることで、スコアアップを目指す。	・TOEIC® Listening & Reading Testで500点程度の英語力を身に付ける。

教授方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ICTを用いた双方向型授業
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Unit 8 Listening Test Part 1 Photographs: Avoiding common distractors	
2	Unit 8 Listening Test Part 1 Photographs: Prepositions of place	
3	Unit 9 Listening Test Part 2 Question-Response: Listening for question words and past/present/future time	
4	Unit 9 Listening Test Part 2 Question-Response: Answering yes/no questions where the answer isn’t yes or no	
5	Unit 10 Listening Test Part 3 Conversations: Using the 40-second rule to answer question quickly	
6	Unit 10 Listening Test Part 3 Conversations: Answering what questions	
7	Unit 11 Listening Test Part 4 Talks: Tactics review; listening for specific details	
8	Unit 11 Listening Test Part 4 Talks: When, why, and how questions	
9	Unit 12 Reading Test Part 5: Using prefixes to guess meaning	
10	Unit 12 Reading Test Part 5: Dependent prepositions	
11	Unit 13 Reading Test Part 6 Text Completion: Answering connecting content questions	
12	Unit 13 Reading Test Part 6 Text Completion: Pronouns and possessive forms	
13	Unit 14 Reading Test Part 7 Reading Comprehension: Answering connecting information questions	
14	Unit 14 Reading Test Part 7 Reading Comprehension: Answering NOT questions	
15	Review Test of Unit 8-14	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。	小テスト	20	学習した語彙の定着度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	30	語法の確認など、授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習では、指定された語彙や文法について調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[30分] ②復習では、指定された応用問題に取り組み、英語の運用能力を高めること。[30分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。	教科書・テキスト	『Tactics for the TOEIC® Test, Reading and Listening Test, Introductory Course Student’s Book』Grant Trew（著）Oxford University Press 2013年　ISBN: 978-0-19-452976-1 『改訂版　キクタン TOEIC TEST SCORE 600』　一杉武史編著　アルク　2020年　ISBN: 9784757436008
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE207C 英語特別ｸﾗｽⅢ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	木村　ゆかり						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
TED Talks のコンテンツを使い、コミュニケーションを重視しながら4 技能を高める。図やグラフでの補助情報やインタビューを使った演習を進めていくことで、TED Talksの内容理解を深め、自信をもって力強く流暢に英語を使うスキルを習得する。	・４技能を高め、TED Talksならではのプレゼンテーションを模範に演習を積み上げることで、英語でのプレゼンテーションスキルを身に付けることができる。 ・4C ― Communication、Collaboration、Creativity、Critical Thinkingを養い、英語の運用能力を向上させることができる。

教授方法	演習（発表、グループ・ワーク、ディスカッション）を中心に行う。
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Class Orientation: 授業の進め方、成績評価の説明、診断テスト	
2	Unit 1 Passions: Talking about likes and interests (Simple present)	
3	Unit 1 Passions: Introducing yourself & Writing an email to introduce you	
4	Unit 2 Spending Habits: Talking about habits and routines (Simple present with adverbs of frequency)	
5	Unit 2 Spending Habits: Using effective body language & Writing a social media post	
6	Unit 3: Career Paths: Asking about and describing jobs (like vs. would like)	
7	Unit 3: Career Paths: Thanking the audience & Writing about a dream job	
8	Presentation 1: Introducing someone you know	
9	Unit 4: Talents: Describing abilities and talents (can/can’t)	
10	Unit 4: Talents: Introducing a topic & Writing about someone with an unusual ability	
11	Unit 5: Technology: Describing things and how they work (Quantifiers)	
12	Unit 5: Technology: Using gestures effectively & Writing a review of a piece of technology	
13	Unit 6: Challenges: Describing sequence (Time clauses)	
14	Unit 6: Challenges: Involving your audience & Wiring about a person who overcame a challenge	
15	Presentation 2: Presenting a favorite piece of technology	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	30	ペアワークやグループワーク、ディスカッション、英作文の作成など、授業への積極的な参加を評価する。	プレゼンテーション	30	理解しやすく、熱意の伝わるプレゼンテーションを行っている（話し方・資料・姿勢）。
期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。	共通テスト	10	目標のレベルに達しているか

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ②復習ではリーディングやワークブックなど指定の内容に取り組むこと。[20分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。	教科書・テキスト	『Keynote Combo Split 1A with Online Workbook』 David Bohlke著 2016年 Cengage Learning ISBN:978-1-337-10892-8
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE208C 英語特別ｸﾗｽⅣ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
このクラスでは、実生活の場面を想定して、発音、スピーキング、リスニングの演習を行う。ペアワークで相手の意見を尋ねたり、ディスカッションで自分の考えを述べたり、旅行中や日常生活で他の国出身の人々とコミュニケーションを取る場合を想定したロールプレイを実演したりする。期末には、授業で学んだことを基にしてロールプレイのシナリオを作成し、実演する。	英語の発音、スピーキング、リスニングのスキルを向上させる。 実生活の場面での英語の利用になれる。 英語で自分の考えや意見を述べることができる。

教授方法	演習、ペアワーク、ロールプレイ、ディスカッション
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Class Introduction. Unit 1) Speaking About Yourself: Yes/No questions with 'be' and 'do'	
2	Unit 2) What Do You Do?: Present Simple Tense (with 'WH' questions and answers)	
3	Unit 3) What Does He Look Like?: Describing People	
4	Review Units 1 - 3 & TOEIC Practice	
5	Unit 4) Where Are You From?: Questions and Answers in the Present Tense	
6	Unit 5) Likes And Dislikes: Agreeing and Disagreeing / Gerunds and Infinitives	
7	Unit 6) What's She Like?: Comparatives	
8	Review Units 4 - 6 & TOEIC Practice	
9	Unit 7) Tell Me About Your Family: There is & There are / Modal Verbs	
10	Unit 8) Communication: Adverbs of Frequency	
11	Unit 9) How Are You Feeling?: Asking About and Expressing Feelings / Yes and No Feelings	
12	Review Units 7 - 9 & TOEIC Practice	
13	Unit 10) Memories: Past Tense / Present Perfect	
14	Unit 11) How Healthy Are You?: Modal Verbs	
15	Unit 12) You Can Fly: Gerunds and Infinitives	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	語彙・文法の定着度	クラスワーク	30	演習への真摯な取り組みを評価
ホームワーク	30	課題への適切な対応を評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
予習として、各Unitの語彙とGrammarセクションを学習してくる。［40分］ 事後学習として、ホームワークシートに解答してくる。［20分］ 指定した内容について小テストを実施する。	提出された小テスト、ホームワークは、授業中に返却とフィードバックをする。

受講生に望むこと	ペアワーク、ロールプレイ、ディスカッションなどグループ活動が中心となる。積極的な授業参加が求められる。	教科書・テキスト	『Speaking of People』 Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows著 南雲堂 2019年 ISBN：978-4-523-17909-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE111C ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	マシュー　ボッシュ・エリック　モーニン　（代表教員　マシュー　ボッシュ）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will learn everyday English communication through short dialogues and basic question & answer activities. 2. We will practice English communication through role plays.	The goals of this course are as follows: 1. Learn a series of adaptable everyday conversations and practice interacting in English. 2. Gain confidence in everyday communication in English through role plays.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	none

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction and greetings	
2	Hospitality and table manners	
3	Hospitality and food	
4	Talking about food	
5	More talk about food	
6	Going out to eat	
7	Going out to eat continued	
8	Table talk	
9	Getting directions	
10	Conversations around town	
11	Another conversation around town	
12	Everyday conversation 1	
13	Everyday conversation 2	
14	Conversation at home	
15	Conversation at work	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly assignments	60	Dialogue assignments and related tasks	Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following assignments.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	none
指定図書／参考書等	This will be made known in class	その他・特記事項	none

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE112C ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	マシュー　ボッシュ・ヴィンセント・レイカー　（代表教員　マシュー　ボッシュ）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will learn English communication through practical conversations and basic question & answer. 2. We will practice English communication through role plays of practical situations.	The goals of this course are as follows: 1. Learn a series of adaptable practical conversations and practice interacting in English. 2. Gain confidence in English communication through role plays.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	none

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction & shoe shopping	
2	Buying ice cream	
3	Clothes shopping	
4	Exchanging an item at a store	
5	At the repair shop	
6	Travel English	
7	Travel English continued	
8	Transportation	
9	Conversation about commuting	
10	Getting things done at work	
11	Conversation at the office	
12	Buying a gift	
13	Giving a gift	
14	Making change (money)	
15	Getting the wrong change (money)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly assignments	60	Dialogue assignments and related tasks	Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following pair work assignments.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	none
指定図書／参考書等	This will be made known in class	その他・特記事項	none

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE213C ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、教科書前半(Getting Started...Search & Explain) 電話応対、ビジネスレター、e-mail文、受付、製品仕様などビジネスの場で用いられる英語表現を習得する。情報社会における発信力を養っていくために英語で伝えることを意識することに加え発話力を身につけていく。TOEIC対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し基礎的な対応力を習得する。 ③英語でスピーチ及びプレゼンテーションのコツをつかむ。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス: 教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 1 Telephone 1: 電話を受ける、取次、不在対応についての表現を学ぶ。(英日大きな桁の数字を聞き取り書く練習をする)	
3	Chapter 2 Business Email: Eメール文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(簡単なe-mail文を書く)	
4	Chapter 3 Telephone 2: 電話メッセージの正確な聞き取りを行う。(聞き取り確認のためのスペリングを練習する)	
5	Chapter 4 Business Letter: ビジネスレター文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(レター文書を書く)	
6	Chapter 5 At the Reception Desk: 社内受付での応対についての表現を学ぶ。(場面想定練習をする)	
7	Chapter 6 Corporate Website: 企業の顔であるウェブサイトの情報分類について知る。(R&Dなど分類例を確認する)	
8	発表①: 場面を設定しロールプレイを行う。(前半のまとめ) TOEIC対策練習: リスニング(Pre-Testで集中力を養う)	
9	Chapter 7 Company Profile: 企業概要についての英語表現を学ぶ。(アクセントに留意し発話練習を行う)	
10	Chapter 8 Product Advertisements: 企業の広告文(キャッチコピー) を読む。(キャッチコピーをリサーチし比較表現を用いて製品を紹介する)	
11	Chapter 9 Your Job: 自分が関わる業務内容を英語で説明する。(英語版名刺を作成し初対面の挨拶を練習する)	
12	Chapter 10 Product Specification: 製品の仕様書についての表現を学ぶ。(頭文字、略語、単位の表し方を確認する)	
13	Chapter 11 Business Plan: 企業の組織、事業計画、企業戦略についての語いを学ぶ。(音の連結に留意しながら聞き取る)	
14	発表②: プレゼンテーション(自社製品の販売促進製品や企画開発など発表する)。TOEIC対策練習：リーディング(Pre-Testで読解練習を行う)	
15	Chapter 12 Operating Instructions 機器の操作方法についての英語表現を学ぶ。(ビジネス英語についてのまとめを行う)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②聞き取りの力をつけるために教科書音声ファイルを利用しリスニングを強化する(20分) ③発表の企画案をたて準備する(20分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめ配布する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い、積極的にクラス内外で情報を得るよう心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるよう学習する。 ③自分の目標を設定し語学関係の検定にチャレンジ自己研鑽を積む。	教科書・テキスト	『Getting Global ! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子著 金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE214C ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、教科書後半(Read and Explore, Research and Presentation)時事英語、英字新聞、標識、論文、会議などの多岐にわたるビジネス英語に関する事柄を学び、英語力を強化していく。TOEIC対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し、基礎から応用へと対応力を習得する。 ③英語でのスピーチやプレゼンテーションを通して発話力をつける。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 13 Talking about the News：時事的な話題をとりあげる。(意見を述べる際同意や反対を表する話し方を学ぶ)	
3	Chapter 14 Science News：英字新聞の記事の構成を知り英文の話法や表現の特徴を読みとる。(英字新聞の記事を読む)	
4	Chapter 15 Tourist Information：クライアントを観光地へ同行案内する場面を練習する。(案内したい観光地と行程を作成する)	
5	Chapter 16 Safety Signs：英語標識についての表現を学ぶ。(いろいろな標識事例による表現を知る)	
6	Chapter 17 Dinner Talk：レストランでの会食とメニューの選択についての語を学ぶ。(和食メニューを英語で紹介する)	
7	発表①：場面を設定しロールプレイを行う。(前半のまとめ) TOEIC対策練習:語の選択(Part5形式の問題練習をする)	
8	Chapter 18 Abstracts：英語論文抄録について学ぶ。(アブストラクトについて知る)	
9	Chapter 19 Preparation for Meetings：会議を円滑に進める基本的な英語表現を学ぶ。(ゲストスピーカーとの事前打ち合わせについて練習する)	
10	Chapter 20 Data and Graphs：データーやグラフについての基本語いを学ぶ。(グラフの解説文を読む)	
11	Chapter 21 Presentation 1：プレゼンテーションの際に役立つ表現を学ぶ。(スピーチ原稿を作成する)	
12	Chapter 22 Presentation 2：プレゼンテーションで用いるスライドの説明を練習する。(特許出願のスライド例を参照する)	
13	発表②：プレゼンテーション(新入社員リクルートのための英語スピーチを行う)。TOEIC対策練習：Part5～Part7形式の読解問題練習を行う)	
14	Chapter 23 Various Requests：依頼に対応する英語表現を学ぶ。(英文shadowing発声練習をする)	
15	Chapter 24 Patent Description：特許申請の流れを知る。(後期のまとめを行う)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②聞き取りの力をつけるために教科書音声ファイルを利用しリスニングを強化する(20分) ③発表の企画案をたて準備する(20分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめ配布する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い、積極的にクラス内外で情報を得るよう心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるよう学習する。 ③自分の目標を設定し語学関係の検定にチャレンジ自己研鑽を積む。	教科書・テキスト	『Getting Global ! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子著 金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE201C 英語（上級）Ⅰ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	キャサリン　シュリーヴズ						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、コミュニティ文化学科の専門教育科目に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディスコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Cell phonesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
3	Unit 1 (2)　Cell phonesをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行う。	
4	Unit 2 (1) 'Freeters'をテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
5	Unit 2 (2) 'Freeters'をテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行う。	
6	Unit 3 (1) The Olympic Gamesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
7	Unit 3 (2) The Olympic Gamesをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行う。	
8	Unit 4 (1) Marriageをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
9	Unit 4 (2) Marriageをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
10	Unit 5 (1) Smoking and drinkingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする	
11	Unit 5 (2) Smoking and drinkingをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
12	外部テスト　(特記事項参照)	
13	Unit 6　Englishをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 7　Exerciseをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。 Unit 1～Unit 7の復習、振り返り。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。[50分]	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition. 2017. Gillian Flaherty. 成美堂. ISBN: 978-4791960286
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①本科目の単位が未取得の場合、原則として後期に「英語(上級)II」の授業を履修し、翌年本科目を再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE202C 英語（上級）Ⅱ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	キャサリン　シュリーヴズ						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、コミュニティ文化学科の専門教育教育科目に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディスコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語（上級）Ⅰ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Divorceをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
2	Unit 8 (2) Divorceをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9 (1) Traffic in city centersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
4	Unit 9 (2) Traffic in city centersをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
5	Unit 10 (1) Working parentsをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
6	Unit 10 (2) Working parentsをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
7	Unit 11 (1) Computersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
8	Unit 11 (2) Computersをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
9	Unit 12 (1) Televisionをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
10	Unit 12 (2) Televisionをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
11	Unit 13 Gamblingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
12	外部テスト　（特記事項参照）	
13	Unit 14 Gender gapをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 15 Cloningをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 8～Unit 15　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。 Unit 8～Unit 15の復習、振り返り。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク･リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition. 2017. Gillian Flaherty.成美堂. ISBN: 978-4791960286
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①「英語(上級)I」の単位が未取得の場合、原則として後期に本科目を履修し、翌年「英語(上級)I」を再履修する。②外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE203C 英語（上級）Ⅲ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	アンソニー　ダガン						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、コミュニティ文化学科の専門教育科目に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1レベルに近い言語運用力を身につける。

教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。
履修条件	「英語（上級）Ⅱ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Artificial Intelligenceをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
3	Unit 1 (2) Artificial Intelligenceについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる	
4	Unit 2 (1) Business:The Sharing Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
5	Unit 2 (2) Business:The Sharing Economyについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる	
6	Unit 3 (1) Food Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
7	Unit 3 (2) Food Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する	
8	Unit 4 (1) Plastic Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
9	Unit 4 (2) Plastic Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する	
10	Unit 5 (1) The Japaese Mentalityをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションを行う	
11	Unit 5 (2) The Japaese Mentalityについてディスカッションを振り返り、自分の意見をまとめ発表する Unit 1 ～ Unit 5の復習、振り返り	
12	外部テスト　（特記事項参照）	
13	Unit 6 (1) Space Explorationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションを行う	
14	Unit 6 (2) Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する Unit 7 (1) Immigrationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションを行う	
15	Unit 7 (2) Immigrationについて自分の意見をまとめ発表する Unit 6 ～ Unit 7の復習、前期の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	CLIL Discuss the Changing World. Miyako Nakaya et al.2020. 成美堂. ISBN:978-4791972081
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE204C 英語（上級）Ⅳ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	アンソニー　ダガン						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、コミュニティ文化学科の専門教育科目に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1レベルに近い言語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語（上級）Ⅲ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、 Unit 8（1）Education: Online Learningをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、ディスカッションを行う	
2	Unit 8（2）Online Learningについて自分の意見をまとめ発表する	
3	Unit 9（1）Entertainmentをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
4	Unit 9（2）Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する	
5	Unit 10（1）The Agricultural Revolutionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
6	Unit 10（2）The Agricultural Revolutionについて自分の意見をまとめ発表する Unit 11（1）The Aging Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
7	Unit 11（2） The Aging Societyについて自分の意見をまとめ発表する Unit 12（1） DNA Technologyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
8	Unit 12（2） DNA Technologyについて自分の意見をまとめ発表する Unit 8～Unit 12の復習、振り返り	
9	Unit 13（1） Trade Warをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
10	Unit 13（2）Trade Warについて自分の意見をまとめ発表する Unit 14（1）Religionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
11	Unit 14（2）Religionについて自分の意見をまとめ発表する	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	Unit 15（1）Privacy and Freedom of Expressionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
14	Unit 15（2）Privacy and Freedom of Expressionについて自分の意見をまとめ発表する Unit 13～Unit 15の復習、振り返り	
15	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う Unit 8～Unit 15の復習、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	CLIL Discuss the Changing World. Miyako Nakaya et al.2020. 成美堂. ISBN:978-4791972081
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE221C 中国語入門Ⅰ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、学生同士でのロールプレイの練習やペアワークも行います。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、単母音の発音と声調（音の高低）を習得する。	
2	単母音と声調の復習 複母音・子音の発音を練習し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。	
3	子音と母音の組み合わせ練習 鼻音・軽声・声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。	
4	発音の総復習 挨拶等の簡単な日常会話ができるようになる。	
5	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)	
6	第1課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得する。)	
7	第2課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第3課「食べたいものを尋ねる」(相手の希望の尋ね方や質問を返す表現を身につける。)	
8	第3課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)	
9	第4課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして他己紹介ができるようになる。	
10	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、時間詞を用いた表現を身につける。)	
11	第5課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方、行きたい場所の尋ね方を習得する。)	
12	第6課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)	
13	第7課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)	
14	第8課「値段の交渉をする」の復習後、第5課から第8課をまとめた文章で文法知識の定着を図る。 前期に学んだ学習内容を総復習し、自己紹介文を作成する。	
15	自己紹介文を完成させる。 期末試験に備えて、模擬発表をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動	20	授業内で行われる質疑応答やペアワーク、ロールプレイングの表現練習などに積極的に参加する姿勢、またその完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。
自己紹介文の完成度	20	第15回授業で自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（口頭発表）	30	期末試験では各自作成した自己紹介文を発表する。発音の正確さや表現力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[60分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[20分]	①小テストは添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第15回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著　白水社　2019年出版 ISBN:978-4-560-06935-6
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年出版　ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年出版　ISBN:978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子著　同学社　2016年出版　ISBN:978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE222C 中国語入門Ⅱ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、学生同士でのロールプレイの練習やペアワークも行います。
履修条件	「中国語入門Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の復習 復習文を参考にして、今後の予定を説明できるようになる。	
2	第9課「出来事を尋ねる①」（完了形の言い方、「～しに行く、しに来る」という連動文の表現を身につける。）	
3	第9課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第10課「出来事を尋ねる②」（「～するのが…だ」という様態補語の表現を習得する。）	
4	第10課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第11課「希望を尋ねる」（相手の希望の尋ね方、前置詞を用いて「どこで～する」の表現を身につける。）	
5	第11課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第12課「行き方を尋ねる」（道の尋ね方、選択疑問文を習得する。）	
6	第12課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第13課「経験を尋ねる」（経験の有無の言い方を習得する。）	
7	第13課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第9課から第13課の復習文を参考にして長期休暇に何をしたのかを説明できるようになる。	
8	第14課「相手の都合を尋ねる」（相手の都合の尋ね方、中国語の可能表現を身につける。）	
9	第14課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第15課「比較する」（比較表現、新たな疑問文の表現である反復疑問文を習得する。）	
10	第15課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第16課「条件・情報を尋ねる」（２点間の隔たりを表す表現、比較文の否定形を習得する。）	
11	第16課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第17課「進行状況を尋ねる」（進行表現、結果補語を習得する。）	
12	第17課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第18課「別れを告げる」（義務・当為をあらわす助動詞、変化を表す表現を身につける。）	
13	第18課の復習と練習問題を通して、文法の理解をさらに深める。	
14	第14課から第18課の復習文を参考にして今後の夢を説明できるようになる。 1年間の学習内容を総復習し、期末課題の自由テーマ文を作成する。	
15	1年間の学習内容を総復習し、期末課題の自由テーマ文を完成させる。 期末試験に備えて、模擬発表をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動	20	授業内で行われる質疑応答やペアワーク、ロールプレイングの表現練習などに積極的に参加する姿勢、またその完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。
自由テーマ文の完成度	20	第15回授業で自由なテーマで文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（口頭発表）	30	期末試験では各自作成した自由テーマ文を発表する。発音の正確さや表現力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[60分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[20分]	①小テストは添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第15回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には自由なテーマで文章を作成してもらいます。あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著　白水社　2019年出版 ISBN:978-4-560-06935-6
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年出版　ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年出版　ISBN:978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子著　同学社　2016年出版　ISBN:978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE225C ﾌﾗﾝｽ語入門Ⅰ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	濱西　和子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目はフランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説する。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化ついて、様々な角度から知り、体験していく。言葉としてのフランス語を通してフランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拡がることであり、フランス語という言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école de Jean.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　　je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『SALUT（サリュ！）』田口啓子・末永朱胤他著,駿河台出版社,2004年,ISBN978-4-411-00815-2　C1085
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	CE226C ﾌﾗﾝｽ語入門Ⅱ			開講学科	コミ	必修・選択	選択
担当教員名	濱西　和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　　Il est en face de la maison.　　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　　命令形／il faut… Allez tout droit.　　Il faut travailler.　　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu.	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quan ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『SALUT（サリュ！）』田口啓子・末永朱胤他著,駿河台出版社,2004年,ISBN978-4-411-00815-2　C1085
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL100U 図書館概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。 また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。	①図書館の意義・役割について理解する。 ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する。 ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する。 ④図書館類縁機関，図書館関係団体について理解する。 ⑤今日の図書館の課題と今後の展望ついて主体的に考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代社会と図書館（1）図書館とは何か	
2	現代社会と図書館（2）図書館の種類と図書館の役割	
3	現代社会と図書館（3）司書の役割とは何か	
4	図書館の理念（1）図書館の自由	
5	図書館の理念（2）図書館員の倫理綱領	
6	図書館関係法規について	
7	公共図書館の制度と機能（1）図書館法	
8	公共図書館の制度と機能（2）公共図書館の機能	
9	公共図書館の制度と機能（3）管理運営	
10	学校図書館の制度と機能	
11	大学図書館の制度と機能	
12	専門図書館の制度と機能	
13	国立国会図書館の制度と機能	
14	外国の図書館について	
15	図書館関係団体について	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	50	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。図書館に関する基礎的な知識が身についている必要がある。	レポート課題	20	各回授業内容に合わせた小レポートの課題などを行う。授業内容に応じた記述がなされているか評価する。
授業への参加態度	30	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。 図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目である。ただし，図書館に興味がある学生の履修も歓迎する。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館概論　五訂版』塩見昇編著．日本図書館協会，2018．(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3;1) ISBN:978-4-8204-1813-9
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL220U 情報技術論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。	図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識を習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	情報と情報技術　授業の進め方，情報とは何かを考える	
2	情報の表現方法と蓄積媒体	
3	情報技術と情報メディア　その種類と歴史	
4	図書館と記録技術　視聴覚メディアと電子メディア	
5	情報処理技術とコンピュータ	
6	コンピュータの歴史	
7	現代のコンピュータ	
8	コンピュータとソフトウェア	
9	携帯情報端末	
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍	
11	データベースとは	
12	コンピュータネットワークとは	
13	インターネットの仕組み	
14	インターネットと検索エンジン	
15	図書館と情報技術 まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	40	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。情報技術に関する基礎的な知識が身についている必要がある。	レポート課題	30	授業内容に合わせた小レポートを出題する。適切に授業内容を理解しまとめているか評価する。
授業参加度	30	授業への参加度，発言などの積極性を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。 基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。 配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目であるが、情報技術一般について興味がある学生の履修も歓迎する。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をすること。	教科書・テキスト	なし（授業内で資料配布）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP316U 知覚・認知心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・司書・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の「心理と社会」科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。知覚・認知心理学は、人が自分自身や自分をとりまく環境について、どのように知覚し処理しているのかを探る学問である。知覚・認知心理学の代表的な理論を学ぶことにより、「人間とはどのような生き物であるか」を知るための、はじめの1歩となることが期待される。	①知覚心理学および認知心理学の基礎知識を習得する。 ②人の感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解できる。 ③人の認知・思考のメカニズムとその障害について理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：知覚心理学、認知心理学とは何を明らかにする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	感覚の基礎：人はどのように周囲の環境から情報を取り入れているのか、感覚の種類と構造について学ぶ。	
3	知覚の基礎：閾や順応など、知覚の基本的特性について学ぶ。	
4	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ。	
5	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完などについて学ぶ。	
6	様々な感覚：体性感覚や自己受容感覚について、基本的なはたらきを学ぶ。	
7	対象認知：人の知覚、認知の対象は様々であり、物体や顔、絵画、さらには時間まで、様々な対象の知覚、認知を学ぶ。	
8	感覚・知覚の障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ。	
9	認知の基本特性：情報処理システムとしての人間像を学び、その処理の二方向性を理解する。	
10	記憶（１）：基本的な記憶のメカニズムや知識の構造について学ぶ。	
11	記憶（２）：日常生活の中で経験する出来事の記憶に焦点を絞り、人の記憶が正確であるかを考える。	
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ。	
13	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ。	
14	認知・思考の障害：認知や思考の障害にはどのようなものがあるのか、神経心理学の知見から学習する。	
15	まとめ：講義全体を振り返るとともに、授業内容と日常生活との接点を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験と照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	知覚・認知心理学が扱う内容は、日ごろの生活では意識されずに「当たり前」に行われる心のはたらきである。この「当たり前」がなぜ、どのように成立するのか、本当に「当たり前」なのか、それが成立しなくなるとどうなるのかを意識しながら、講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	使用しない。資料を配布する。
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB100U 生涯学習概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	高橋　律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
生涯学習及び社会教育施設の本質と意義の理解を図り、学ぶことの楽しさを理解することから始めます。自分自身の学びを振り返りながら、今後の生涯学習社会の在り方について理解を深めます。	①生涯学習を通して「学ぶ」意味について理解する。 ②社会教育施設の役割について理解を図る。 ③社会教育施設の見学を通して現在の生涯学習の在り方について理解を図る。 ④今後の生涯学習社会の在り方について考察する。

教授方法	基本的に講義形式となりますが、ディスカッションやグループワークも併用し、積極的な参加を求めます。校外学習があります。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価について説明した後、「生涯学習」とは何かについて考えます。	
2	学習について：自分自身のこれまでの学びを振り返りながら、「学習」についての理解を深めます。	
3	芸術文化と生涯学習Ⅰ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
4	芸術文化と生涯学習Ⅱ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
5	学習の内容Ⅰ：生涯学習において何を学ぶべきか考えます。	
6	学習の内容Ⅱ：生涯学習社会において何を学ぶべきか考えます。	
7	芸術文化と生涯学習Ⅲ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
8	芸術文化と生涯学習Ⅳ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
9	生涯学習施設を知るⅠ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。	
10	生涯学習施設を知るⅡ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
11	生涯学習施設を知るⅢ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
12	生涯学習施設を知るⅣ：生涯学習施設を見学し、考えたことを共有し、学びを深めます。	
13	生涯学習プログラムについてⅠ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
14	生涯学習プログラムについてⅡ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
15	生涯学習についての総括：生涯学習について学んだことを総括し、最終レポートにまとめます。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への積極的な参加	50	出席だけでなく、ディスカッションやグループワークなどでの積極的な発言を評価します。	小レポート	20	授業内で数回実施する課題について、理解できているかどうか評価します。
最終レポート	30	最終授業で総括としてレポート提出を求めます。自分自身の課題として生涯学習をとらえることができているか評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」(学校内、学校外とも)してきたか、振り返っておいてください。[30分]	授業内でフィードバックを行います。

受講生に望むこと	集中講義のため1日の欠席が４回の欠席扱いとなります。体調管理にも留意してください。	教科書・テキスト	特に用いません。
指定図書／参考書等	リンダ・グラットン『ライフ・シフト』東洋経済新報社、2016、ISBN13：978-4492533871	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。

授業科目名	SB200U 図書館ｻｰﾋﾞｽ概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを目指す。	①図書館サービスの意義・構造について理解する。 ②資料提供サービスの基本について理解する。 ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する。 ④図書館ネットワークについて理解する。 ⑤障碍者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する。 ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館サービスの意義（1）図書館の構成要素とサービスの役割	
2	図書館サービスの意義（2）図書館サービスの類型化	
3	図書館サービスとマネージメント（1）計画の立案と評価	
4	図書館サービスとマネージメント（2）図書館の「新・望ましい基準」	
5	来館者へのサービス	
6	利用空間の整備	
7	貸出サービスの構造	
8	資料提供の展開（1）リクエストサービス	
9	資料提供の展開（2）資料収集の方針	
10	情報提供サービス	
11	利用対象に応じたサービス（1）障碍者サービス、高齢者サービス	
12	利用対象に応じたサービス（2）児童サービス	
13	利用対象に応じたサービス・利用者とのコミュニケーション	
14	図書館サービスの課題：情報提供と著作権	
15	これからの図書館サービスのあり方について（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	授業内で小テストを実施する。	授業内課題	20	授業内での作業・コメントなどの成果を評価する。
レポート	40	①授業で指定した内容をまとめ，②同一内容を扱う別の文献を探し，内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ，④期限までに指定書式にて提出する。	授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的(できれば週1回以上)に活用することを心がける。 また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館サービス概論　改訂版』高山 正也，村上篤太郎編著．樹村房，2019．(現代図書館情報学シリーズ4) ISBN:978-4-88367-294-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB205U 情報ｻｰﾋﾞｽ論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。	①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する。 ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する。 ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する。 ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける。

教授方法	講義，スライドを使用した形式で実施
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する	
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか	
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか	
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方	
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは	
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価	
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動	
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解	
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには	
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能	
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力	
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容	
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方	
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方	
15	情報サービスを行う意義：まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。	授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。 図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著．日本図書館協会，2012．（JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB300U 児童ｻｰﾋﾞｽ論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
児童サービスは全ての図書館サービスの中でも大変重要なサービスの一つである。サービスの対象者である児童は人として尊ばれ社会の一員として尊重されなければならず、よい文化環境（図書館）が必要だからである。その図書館を運営するのは子どもを知り、本を知り、子どもと本を結ぶことに使命感を持つ図書館職員である。そのような児童図書館員を養成するための授業を講義および実践を取り入れて実施する。	①児童サービスに必要な資料（絵本、児童文学、知識の本他）を知り、子どもを楽しく豊かな本の世界に導き、子どもが求める知識や情報を手に入れる方法を理解する。 ②子どもの発達段階および子どもを取り巻く環境を知り、最適な時に最適な本を提供することができることをめざす。 ③子どもと本をつなぐ手段を学び図書館および関連機関で実践できる基礎力を身につける。

教授方法	基本的に講義による授業および実践。レポート作成。
履修条件	「図書館概論」「図書館サービス論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	児童サービスの意義・目的および歴史を説明する。（児童サービスの重要性・必要性を理解する。）	
2	子どもの発達および子どもを取り巻く社会・環境を説明する。（子どもを知ることができる。）	
3	児童資料の種類と特色①類型および絵本について学ぶ。（絵本を知り選書の力を付ける。）	
4	児童資料の種類と特色②児童文学について学ぶ。（子どもがよい物語を持つ意味について知る。）	
5	児童資料の種類と特色③ノンフィクション他の資料およびレファレンスについて学ぶ。（子どもが図書館で情報処理能力を高める重要性を理解する）	
6	児童資料の選択および整理について説明する。（子どもが利用しやすい児童室づくりが出来るようになる。）	
7	児童サービスの諸活動を説明する。（資料提供、フロアーワーク、集会行事、展示など実際に行われるサービスを知り実践に役立つ力を付ける。）	
8	児童サービスの運営について学ぶ。（運営計画および評価、市民との協働について理解し組織的にサービスを展開できる基礎力を養う。）	
9	子どもと本をつなぐ①読み聞かせ、ストーリーテリングを学び基礎力をつける。	
10	子どもと本をつなぐ②ブックトークを学び基礎力をつける。	
11	乳幼児サービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
12	ヤングアダルトサービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
13	特別支援の必要な子どもたちへのサービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を習得する。）	
14	学校図書館への支援と連携・協力および関係機関との連携について学ぶ。（子どもにとって本と出合う一番身近な学校図書館について理解し、どんな支援・連携・協力が必要かを知る。）	
15	児童サービス担当者の役割を学ぶ。（これまでの講義のまとめとして子どもと本をむすぶ仕事の重要性を再認識し、キャリアアップする手立てを取得し今後に生かす。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢等	期末試験	40	筆記試験
実践・レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・身近な図書館を利用し児童室を配架・展示などに気をつけ見学する。利用案内、ブックリストなどを入手しおはなし会などのサービスを実際に見学する。（事前に開催日時を確認し図書館の了解を得ること）［30分］ ・指定図書、参考図書には目を通し、紹介されている本、講義中におすすめする本はできるだけ読むこと。［40分］ ・子どもと本を結ぶ技法（絵本の読み聞かせ、おはなし、わらべうた、ブックトークなど）をひとつでも習得し実践できるようにする。［60分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	本と子どもを知るためにできるだけ本を読み、本の楽しさを味わうとともに、身近な子どもを観察する。子どもと本を結ぶための技法を身につけるために自己研鑽をしてほしい。	教科書・テキスト	『児童サービス論　新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ６ 堀川照代編著 日本図書館協会 2020年 ISBN 978-4-8204-1909-9
指定図書／参考書等	なし／『子どもと本の世界に生きて』E.コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 2018年 ISBN4-7721-9017-6『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年 ISBN978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中公新書 1980年 ISBN 978-4121005632『児童文学論』ﾘﾘｱﾝ・H・ｽﾐｽ著 岩波現代文庫 2016年 ISBN 978-4-00-602282-2『新編子どもの図書館』『児童文学の旅』『エッセイ集』（石井桃子ｺﾚｸｼｮﾝⅢⅣⅤ）岩波現代文庫 2015年 ISBN Ⅲ978-4-00-602254-9 Ⅳ978-4-00-602255-6 Ⅴ978-4-00-602256-3	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。

授業科目名	SB210U 情報資源組織論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解することを目的とする。	①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する。 ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する。 ③主題分析・分類法・索引法について理解する。 ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	資料組織化の意義について	
2	書誌コントロール（1）書誌とは何か	
3	書誌コントロール（2）全国書誌・OPACとは	
4	書誌情報の作成・流通・管理	
5	記述目録法の基礎―概要と記述の範囲	
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号	
7	記述目録法作成の実際（1）タイトルと責任表示、版表示に関する事項	
8	記述目録法作成の実際（2）出版頒布・形態に関する事項	
9	記述目録法作成の実際（3）シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項	
10	記述目録法作成の実際（4）標目と排列	
11	主題分析と分類法・索引法	
12	分類法の実際（1）分類総論	
13	分類法の実際（2）日本十進分類法	
14	分類法の実際（3）その他の分類法	
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。目録の基礎知識及び基本的な技術を習得している必要がある。	授業内課題	20	目録の知識を確認するため記述式などの形式で課題を授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか，教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『情報資源組織論　3訂版』柴田正美著．日本図書館協会，2020．(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；9) ISBN:978-4-8204-1915-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて説明し、図書館の意義や社会的役割を理解させる。図書館の組織および施設、サービス計画を実例を参考に説明し、図書館経営に必要な知識を習得させる。	①図書館に関連する法律、条例等を学び図書館の法的根拠を把握し、図書館の意義と社会に果たす役割を理解する。 ②図書館の組織・職員について学び運営方法を習得しサービス計画を立てる力を養う。 ③図書館の管理運営形態について学び、これからの図書館の在り方を考察する。

教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成
履修条件	「図書館概論」「図書館サービス論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館をめぐる法体系を学ぶ。（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法を理解し図書館の法的位置づけを把握する。）	
2	図書館法について考える。①（図書館法第１条から９条までを学び図書館の目的・図書館奉仕などを理解する。）	
3	図書館法について考える。②（図書館法第１０条から２９条までを学び公立図書館の設置・職員・図書館協議会および無料の原則を習得する。）	
4	地方自治体の図書館関連条例などを知る。（地方自治法、条例・規則・内規・要項・マニュアルを学び図書館運営の法的根拠を理解する。）	
5	他館種の図書館に関する法律などを知る。（学校図書館・国立国会図書館・大学図書館などの法的根拠を理解し、他館種との連携、協力方法を考察する。）	
6	図書館サービス関連法規を知る。（子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法、著作権、個人情報の保護に関する法律などを学び図書館サービスの法的根拠を理解する。	
7	国、地方自治体の図書館政策を学ぶ。（国の政策、各自治体の政策の具体例を考察する。）	
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営を学ぶ。（公立図書館経営の理念と運営および危機管理について理解する。）	
9	図書館の組織・職員について学ぶ①（図書館の組織、館長の役割、図書館職員の在り方を理解し、求められる職員像を認識する。）	
10	図書館の組織・職員について学ぶ②（図書館協議会や図書館を支える団体、ボランティアについて考察し図書館運営への関わり方を理解する。）	
11	図書館の施設・設備について学ぶ。（図書館建築のあり方を理解し、建築計画書の実例に基づき図書館施設のあるべき姿を認識する。）	
12	図書館サービス計画と予算の確保について学ぶ。（サービス計画の実例を考察し実際に立案・策定できる能力を習得する。）	
13	図書館業務/サービスの調査と評価について知る。（評価の実例を考察し、効率的・効果的な図書館運営を学ぶ。）	
14	図書館の管理形態の多様化について知る。（業務委託、指定管理者制度、PFIの問題点について学び望ましい図書館の管理運営について考察する。）	
15	公立図書館の課題と今後の展望について考える。（複本購入批判、貸出猶予問題、予約・リクエストの在り方などの課題を検討し今後の図書館経営を考察する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢・発言等	期末試験	40	筆記試験
レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・国内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等の利用・見学をし、できれば条例・サービス計画の説明を聞く機会を持つ。［40分］ ・事前にテキストの章に目を通しておく。［30分］ ・参考図書および講義中に紹介する図書に目を通し講義内容を深める。［30分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	図書館関係の雑誌や新聞の記事に関心を持ち最新の情報を得るように心掛ける。図書館情報学関係のウェブサイトにアクセスして情報の閲覧、理解に努める。	教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第２版』ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望５　手島孝典編著　学文社　2017年 ISBN 978-4-7620-2701-7
指定図書／参考書等	なし／『生きるための図書館』竹内 悊著 岩波新書 2019年 ISBN 978-4-00-431783-8/『読書からはじまる』長田弘著 日本放送出版協会 2004年 ISBN4-14-080564-1『つながる図書館』猪谷千香著 ちくま新書 2014年 ISBN 978-4-480-06756-2『新図書館法と現代の図書館』塩見昇他編著 日本図書館協会 2009年 ISBN 978-4820409151『図書館制度・経営論』糸賀雅児・薬袋秀樹編著 樹村房 2013 ISBN 978-4-88367-202-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を実例を挙げてより具体的に説明している。

授業科目名	SB310U 情報ｻｰﾋﾞｽ演習Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。 情報サービス演習Ⅰでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。	①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得する。 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上。 ③情報の評価能力 （情報内容の判断）の習得と向上。 ④情報発信能力 （回答の作成・提供） の習得と向上。

教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報サービス論」を履修した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容	
2	ネットワーク、 ディジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識	
3	情報検索システムの基礎知識 （データベース構成／論理演算　等）	
4	ウェブ情報源の検索 （1） サーチエンジンの使い方とブール演算	
5	ウェブ情報源の検索 （2） サーチエンジンによるウェブ情報の検索	
6	ウェブ情報源の検索 （3） 検索結果と情報源の評価	
7	図書情報の検索 （1） 目録と書誌	
8	図書情報の検索 （2） 主題とアクセスポイント	
9	図書情報の検索 （3） 各図書館OPAC、 総合目録等	
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、 ニュースサイト等	
11	雑誌記事の検索 （1） 雑誌記事データベース、 索引類	
12	雑誌記事の検索 （2） 引用の活用	
13	雑誌記事の検索 （3） 主題検索	
14	総合演習 （1） レファレンス質問を想定した実践演習　質問の分析と戦略立案	
15	総合演習 （2） レファレンス質問を想定した実践演習　検索と回答作成	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。	小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみること。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみること。 また、情報検索には幅広い知識が求められるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。 課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜Classroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB315U 情報ｻｰﾋﾞｽ演習Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。	①レファレンスサービスのプロセスを理解する。 ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する。 ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う。 ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める。 ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する。

教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	レファレンスサービスの基礎・復習	
2	レファレンスブック評価の仕方	
3	情報源の評価（1）目録・書誌・索引	
4	情報源の評価（2）辞書・事典	
5	情報源の評価（3）便覧・年鑑類	
6	情報源の評価（4）地名・人名	
7	情報源の評価（5）各種の専門領域	
8	情報の探索（1）ことばの情報	
9	情報の探索（2）事柄・事物・現象の情報	
10	情報の探索（3）人物・団体の情報	
11	情報の探索（4）地名・地理の情報	
12	情報の探索（5）歴史・時事の情報	
13	情報の探索（6）統計の情報	
14	情報の探索（7）書誌情報	
15	情報の探索　まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていること。	演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に応えることができること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。 日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際，ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。 各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。

受講生に望むこと	課題が多く与えられるので，図書館情報資源を用いて課題作成に取り組むこと。授業では作成した課題を発表する機会があり，他の履修者や教員に分かりやすく説明することも求められる。	教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。	①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。

教授方法	演習、主にコンピュータを使用する
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報資源組織論」を履修した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。	
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。	
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。	
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（基礎的な資料）	
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。	
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。	
12	メタデータ記述方法を解説する	
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（Webサイトなど）	
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（データベースなど）	
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関しを持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。	課題の提出について随時添削を行い返却もしくは，直接説明を行う。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。 返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB325U 情報資源組織演習Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。	①主題分析について、演習を通じて理解する。 ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する。 ③分類の規則について、演習を通じて理解を深める。

教授方法	演習
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。	
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。	
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）	
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）	
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
8	演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
9	演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。	課題発表を行い、その場で教員がコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『日本十進分類法新訂10版　簡易版』もりきよし原編，日本図書館協会分類委員会改訂　日本図書館協会 2018年　ISBN:9784820418078
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質，生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。	①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、自然科学、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館情報資源とは	
2	印刷資料について（1）印刷術の誕生と印刷の歴史	
3	印刷資料について（2）様々な印刷資料	
4	非印刷資料について	
5	灰色文献について	
6	政府刊行物・地域資料について	
7	映像資料・音声資料について	
8	電子資料・ネットワーク情報源について	
9	電子コンテンツと電子出版について	
10	出版と流通について（1）出版とはなにか・出版の意義	
11	出版と流通について（2）出版流通の経路・出版制度	
12	資料の収集と選択について	
13	人文科学分野の情報資源とその特性	
14	社会科学分野の情報資源とその特性	
15	自然科学分野の情報資源とその特性	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	50	筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館で取り扱う各種の情報資源について理解できている必要がある。	レポート	30	レポート課題について、課題の要件を満たしており十分な内容があること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館情報資源概論　新訂版』馬場俊明著. 日本図書館協会, 2018.（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 8） ISBN:978-4-8204-1808-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB335U 図書・図書館史			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。	①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	メディアと図書館の歴史とは	
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア	
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史，印刷の発明	
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類，大量印刷の時代	
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史，近代のマスメディア	
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化，新しいメディアの出現	
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命	
8	図書館史（世界）2：中世の図書館，近世の図書館の歩み	
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立	
10	図書館史（世界）4：近代の図書館	
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館，近代図書館の誕生	
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館，戦争と図書館	
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義	
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策，住民と図書館の関係	
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	授業内課題	30	授業中・授業後に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
期末テスト	50	記述式の筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解ができている必要がある。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチである。歴史的な事柄にも注意を払うようにすること。	教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著．日本図書館協会，2013．（JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100C 生涯ｽﾎﾟｰﾂA（ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ）			開講学科	食栄	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・宮本　勝裕　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状				

授業の概要	授業の到達目標
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「バドミントン」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「バドミントン」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① バドミントンの競技特性を理解する。 ② バドミントンの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス、種目選択、グルーピング、用具の説明	宮本
2	バドミントンの楽しみ方1 ：ラケット競技の特性を理解し、楽しむための基本的な知識を得る。 ラケットワーク(グリップ、操作方法など)を習得する。	宮本
3	バドミントンの楽しみ方2 ：バックハンド、フォアハンドなどの技術を理解し、基本ストローク(サーブ)が打てるようになる。	宮本
4	バドミントンの基礎（基本ストローク）1 ：下から上への基本ストローク(ロブ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
5	バドミントンの基礎（基本ストローク）2 ：下から上への基本ストローク(ヘアピン)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
6	バドミントンの基礎（基本ストローク）3 ：上からの基本ストローク(ハイクリアー)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
7	バドミントンの基礎（基本ストローク）4 ：上から下への基本ストローク(スマッシュ、カット、ドロップ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
8	バドミントンの基礎（基本ストローク）5 ：横からの基本ストローク(ドライヴ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
9	バドミントンの基礎（基本ストローク）6 ：その他の基本ストローク(プッシュ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
10	講義：ダブルス・シングルスのルール及び審判方法を学習し、ゲームができるようになる。	宮本
11	中間レベル確認：これまでに学習した基本ストローク技術の習得度合いを確認する。	宮本
12	ゲーム 1 ：学習したルールに則り、ダブルスゲームを楽しめるようになる。	宮本
13	ゲーム 2 ：ダブルスゲームのリーグ戦を行う。	宮本
14	ゲーム 3 ：ダブルスゲームのリーグ戦の続きを行う。まとめ	宮本
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	宮本

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
課題レポート	20	生涯スポーツとしてのバドミントン競技の意義をどの程度理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。　その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

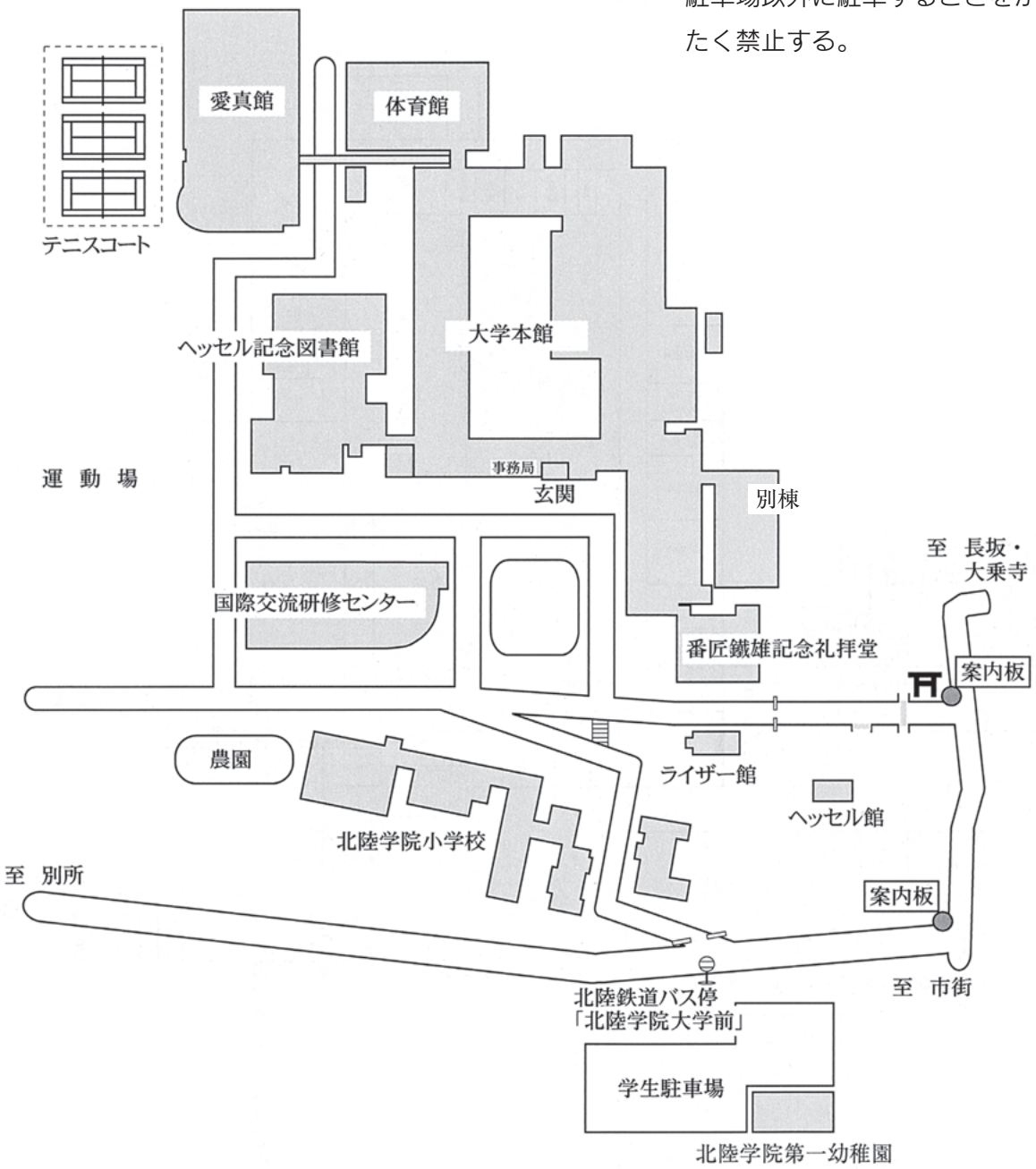
実務経験を活かした授業の概要

なし

キャンパス案内図

北陸学院三小牛キャンパス案内図

学生に関しては決められた学生駐車場以外に駐車することをかたく禁止する。



校舎案内
INFORMATION

1階

校舎案内
INFORMATION

２階

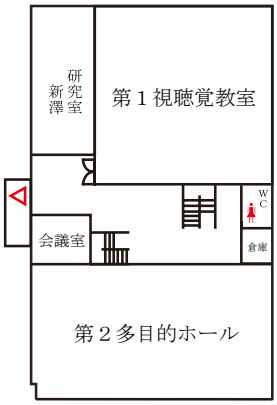
凡例

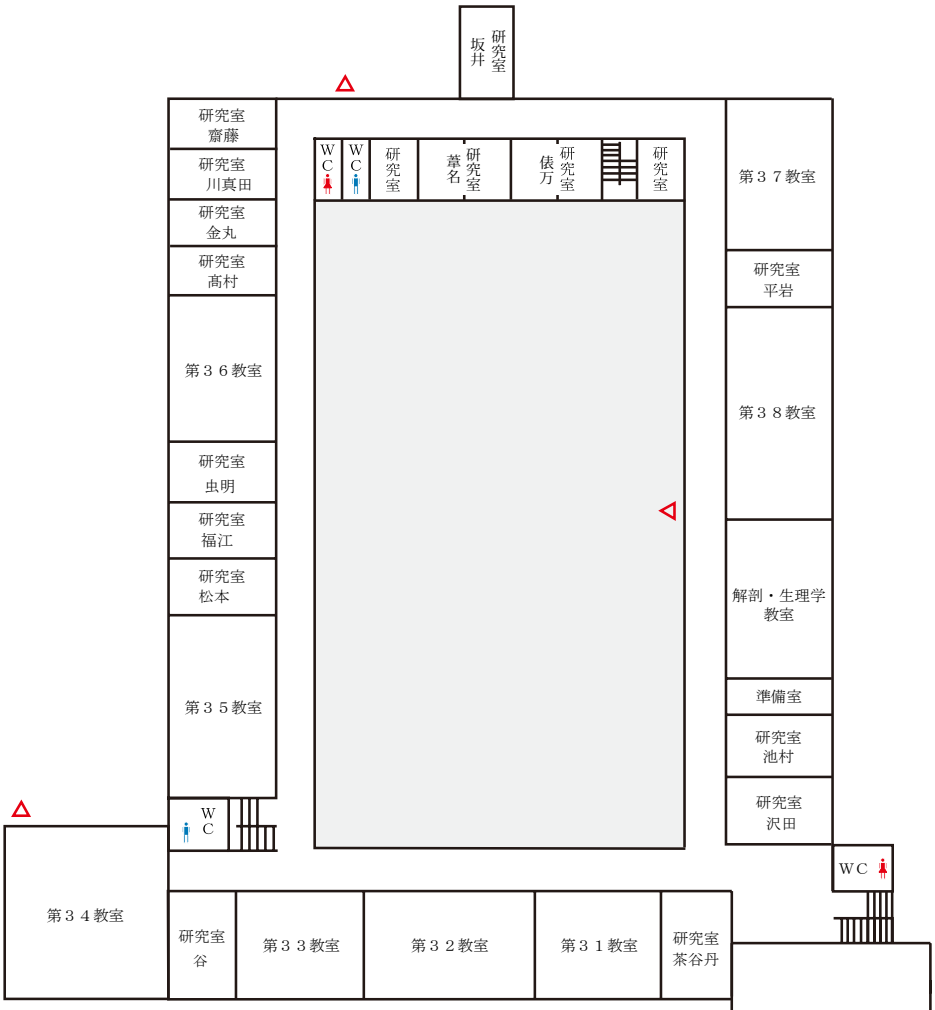
- 避　難　口
- 避難はしご

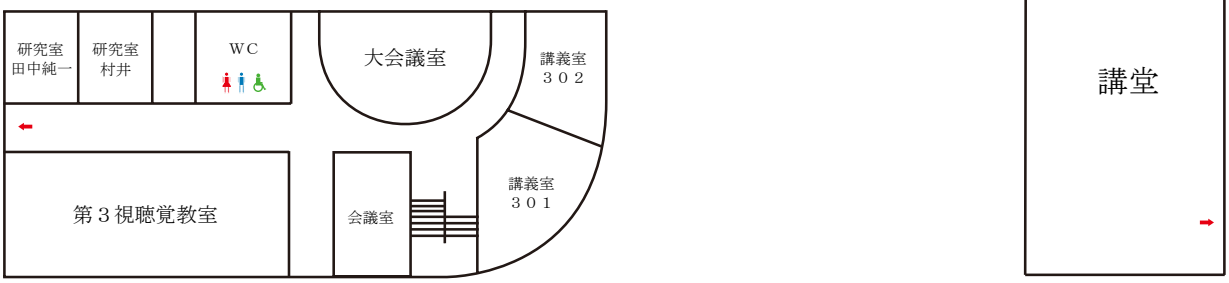
校舎案内
INFORMATION

３階

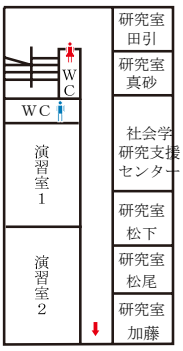
愛真館







別棟



国際交流研修センター

凡例
避　難　口
避難はしご

HOKURIKU GAKUIN Univ. & J.C.

hgu

KANAZAWA JAPAN